

東宮遺跡(5)・三ツ堂岩陰

八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第74集

2021

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

東宮遺跡(5)・三ッ堂岩陰

八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第74集

2021

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



調査区遠景(東より)



V区全景(上空より)

口絵 2



V区5号列石(東より)



V区29号配石(東より)



V区3号列石、配石(東より)



V区1号配石土坑(東より)



V区173号土坑遺物出土状態(南西より)

序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、四半世紀となります。

東宮遺跡は、平成7・9・19～21・26～28年度の発掘調査により、天明3（1783）年の浅間山噴火に伴う泥流（天明泥流）で被災した村が、極めて良好な状態で発見されており、それらの調査成果はすでに報告書として刊行されています。

本報告書は、平成28・29・30年度の発掘調査成果のうち縄文時代中期と後期の集落を構成する竪穴建物・列石・配石、及び平成29・30年度の発掘調査成果から、天明泥流で被災した村を構成する屋敷・石垣・畠・道等を報告します。合わせて、平成28年度に発掘調査された三ツ堂岩陰の調査成果を報告します。

これらの調査成果は、縄文時代の集落や近世の村落の様子を明らかにし、八ッ場地域、ひいては群馬県の歴史を考える上で重要な資料となるものです。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　言

1. 本書は、ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成28・29・30年に実施された実施された「東宮遺跡」「三ツ堂岩陰」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。東宮遺跡については、平成7・9・19・20・21・26～30年度に発掘調査され、発掘調査報告書『ハッ場ダム発掘調査集成（1）』、『東宮遺跡（1）』～『東宮遺跡（4）』が刊行されている。本報告書は平成28年度に発掘調査された範囲のうち縄文時代および平成29・30年度に発掘調査された範囲の報告で『東宮遺跡（5）』にあたる。

2. 遺跡の呼称及び所在地

東宮遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠地内に所在する。

地番は、104-3、104-5、104-6、105-3、105-4、甲368、乙368、369、370、371、374、375-1、375-4、乙375、376、377-1、377-2、377-3、377-4、377-5、甲378、乙378、丙378-1、丙378-2、乙381、381-1、381-3、382-1、382-2、382-3、382-4、382-5、382-6、383-1、383-2、383-3、383-4、383-5、384-1、384-2、384-3、384-5、384-6、385-1、385-4、乙385、丙385、甲386、乙386、丙386、386、甲386、乙392、392-1、392-3、392-4、392-5、393-1、甲393-2、乙393-2、甲393-3、乙393-3、393-6、乙394、394-1、394-3、394-4、394-5、394-6、395-1、395-2、395-3、395-4、395-5、395-6、396-1、396-3、396-4、甲396、397、397-1、甲397-2、甲397-2乙、甲397-2丙、397-6、乙397、398、甲398、乙398、丙398、399-1、399-2、400-1、400-2、400-3、400-4、400-5、400-6、401-1、401-2、401-3、402、甲403、乙403、418、419、420、421-1、421-2、422、423、甲424、乙424、425、426-1、426-2、426-3、427、428、429-2、429-4、430-1、431、432、433-1、433-2、434-1、434-2、434-3、434-4、434-5、434-6、434-7、434-8、434-9、435-1、435-2、436-1、436-2、437-1、438、439、440-1、441-1、441-3、441-4、442-1、442-2、乙444、444-4、444-5、444-7、445-1、445-4、447、251-2、251-3、251-6、251-7他である。

三ツ堂岩陰は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠地内に所在する。

地番は、251-2、251-4、251-6、251-7、253-1、253-2、253-3、254、255、256、260-1、325、341、342、343、344、347、348、甲349、350他である。

3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘事業及び整理事業の期間

（1）発掘事業

【東宮遺跡（平成28年度）】

履行期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

調査期間 平成28年4月1日～平成28年12月31日

調査担当 石坂聰（主任調査研究員）、飛田野正佳（専門調査役）

調査期間 平成29年1月1日～平成29年1月31日

調査担当 桜岡正信（副事業局長・ハッ場ダム調査事務所長）

調査面積 13,053m²

遺跡掘削工事請負 株式会社測研・技研コンサル株式会社・瑞穂建設株式会社・吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経営共同企業体

【東宮遺跡（平成29年度）】

履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

調査期間 平成29年4月1日～平成29年12月31日

調査担当 小野和之（専門調査役）、唐沢友之（主任調査研究員）、山本直哉（調査研究員）

調査面積 11,347（10,447）m²（平成28年度と一部重複）

遺跡掘削工事請負 歴史の杜・吉澤建設・南波建設・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経営共同企業体

【東宮遺跡（平成30年度）】

履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

調査期間 平成30年4月1日～平成30年9月30日

調査担当 小野和之（専門調査役）、新井 仁（上席調査研究員）、山本直哉（調査研究員）

調査面積 9,205 (5,921) m² (平成28・29年度と一部重複)

遺跡掘削工事請負 歴史の杜・吉澤建設・南波建設・吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

【ツッ堂岩陰】

履行期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

調査期間 平成28年10月6日～平成28年11月30日

調査担当 石坂 晃（主任調査研究員）、飛田野正佳（専門調査役）

調査面積 1,504m²

遺跡掘削工事請負 株式会社測研・技研コンサル株式会社・瑞穂建設株式会社 吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体

(2) 整理事業

【平成29年度】

履行期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理担当 田村 博（主任調査研究員）

【平成30年度】

履行期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

整理期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

整理担当 都木直人（主任調査研究員・資料統括）、新井 仁（上席調査研究員）、小野和之（専門調査役）

【平成31年度】

履行期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

整理期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

整理担当 小野和之（専門調査役）、都木直人（主任調査研究員・資料統括）

6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集 小野和之（専門調査役）・都木直人（主任調査研究員・資料統括）・田村 博（主任調査研究員）

本文執筆 第1章：田村 博・都木直人、第2章 第1節、第2節2・第3節1、2：都木直人、3：小野和之

第2章 第2節1：田村 博・都木直人、第3章、第4章：小野和之 第5章：田村 博

デジタル編集 齊田智彦（主任調査研究員・資料統括）

遺構写真 発掘調査担当

遺物写真 石器・石製品：津島秀章（資料2課長（総括））・都木直人、縄文土器：都木直人・小野和之

土師器・須恵器・土製品：都木直人、陶磁器：都木直人、金属器：都木直人・板垣泰之（専門員）

遺物観察 石器・石製品：小野和之・田村 博、縄文土器：小野和之・土師器・須恵器：小野和之

金属器：板垣泰之（専門員）

保存処理 板垣泰之・閔 邦一（専門調査役）

7. 発掘調査および整理事業での委託

地上測量委託 株式会社測研

空中写真撮影委託 技研コンサル株式会社

剥片石器類実測・トレース 株式会社測研

8. 石材の同定は、飯島静男氏（群馬地質研究会）に依頼した。

9. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、長野原町教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。

10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡　例

1. 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第Ⅷ系を用い、座標北で示した。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 本報告書における遺構等の略称は以下の通り。

豎…豎穴建物、坑…土坑、烟…烟、復…復旧溝群、道…道路、積…石積遺構（一部石垣を含む）、垣…石垣、溝…溝、集…集石遺構、井…井戸、P…ピット、焼…焼土、風木…風倒木、外…遺構外、敷豎…敷石豎穴建物、列…列石（石列）、配…配石、配土…配石土坑、埋…埋葬、トレ…トレーンチ
4. 遺構図・遺物図については原則下記の縮尺で掲載した。但し、遺構・遺物によってはこの限りではない。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。

遺構図：全体図1/200、1/400、1/500、1/800 建物1/80、窯炉裏・竈1/30 石垣・烟・復1/80・1/100 道・溝1/80・1/100
豎穴建物1/60、炉1/30 土坑・配石・配石土坑・焼土1/40 ピット1/40

遺物図：土器・陶磁器1/4、1/3 石器・石製品1/1、1/3、1/4、1/6 銭貨1/1
5. 遺構番号は、調査時の番号を用いた。第1面（天明泥流面）の遺構番号については、過年度調査時の番号の続きとし、振替えを行っている。遺物番号は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
6. 本書の遺構図に使用したスクリーントーン表現は、次のことを示す。

平面図 焼土…■ 木製品…■ 煤・炭・灰・配石…■ 壁材…□
断面図 攪乱…▨ 木製品…■
7. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

●…土器・陶磁器 ○…土製品 ▲…石器・石製品 ■…金属製品
8. 遺構の計測単位は基本mで標記した、全容が計測できない遺構について残存値（　）で表記してある。なお、烟の計測では、畝間から隣の畝間までの間を畝サク間隔として計測した。
9. 本遺跡で検出された烟の畝間を埋めている浅間A軽石(As-A)は、天明3（1783）年の浅間山噴出軽石の略である。また、「天明3年泥流」あるいは「天明泥流」は、天明3年7月8日（新暦8月5日）の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の略称である。
10. 遺物観察表での表現および記載法は、以下の通りである。
 - ・遺物観察表は遺構毎とした。
 - ・遺物計測位置の表現は、土器・陶磁器類は口径：口、底径・高台径：底、器高：高と略記し、他の遺物についても長さ：長、幅、厚さ：厚、高さ：高、外径：径、孔径：孔、重さ：重と略記した。また、銭貨の外径は、径と略記した。
 - ・計測値の単位はcmとし、重量はgで表記している。また、欠損した遺物の計測値には、（　）で現存値を記した。

目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方針・方法・経過	2
1 調査の方針	2
2 発掘調査の方法	2
3 調査の経過	2
第3節 調査区の概要	5
1 調査区の設定	5
2 調査前の状況	5
3 基本土層	7

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	11
1 周辺の遺跡	11
2 川原畠村の概要・変遷	12
3 川原畠村と交通	12

第3章 東宮遺跡の調査

第1節 V・VI区第3・4面から	
発見された遺構と遺物	17
1 V区から発見された遺構と遺物	17
2 VI区から発見された遺構と遺物	393
3 V・VI区遺構外出土遺物	394
第2節 V・VII区第2面から	
発見された遺構と遺物	525
1 VI区から発見された遺構と遺物	525
2 VII区から発見された遺構と遺物	552

第3節 V・VII・IX区第1面から

発見された遺構と遺物	565
1 V区から発見された遺構と遺物	565
2 VII区から発見された遺構と遺物	566
3 IX区から発見された遺構と遺物	599

第4章 調査成果とまとめ

第1節 江戸時代の調査成果とまとめ	604
1 第1面の調査成果とまとめ	604
2 第2面の調査成果とまとめ	605
第2節 繩文時代の調査成果とまとめ	606
1 繩文時代の遺構検出の経緯	606
2 列石	606
3 配石	609
4 穴穴建物	611

第5章 三ッ堂岩陰の調査

第1節 調査の経緯	617
第2節 発見された遺物	617
第3節 調査成果とまとめ	621

写真図版

報告書抄録

付図2

挿図目次

第1図	調査区設定図	6	第64図	V区11号整穴建物出土遺物（5）	77
第2図	基本土層	8	第65図	V区11号整穴建物出土遺物（6）	78
第3図	遺跡位置図	10	第66図	V区12号整穴建物（1）	79
第4図	周辺道路網	13	第67図	V区12号整穴建物（2）	80
第5図	V区堅穴建物・卵石全体制図	16	第68図	V区12号整穴建物出土遺物（1）	80
第6図	V区1号整穴建物	18	第69図	V区12号整穴建物出土遺物（2）	81
第7図	V区1号整穴建物出土遺物（1）	19	第70図	V区13号整穴建物	82
第8図	V区1号整穴建物出土遺物（2）	20	第71図	V区13号整穴建物出土遺物	82
第9図	V区2号整穴建物（1）	21	第72図	V区14号整穴建物（1）	84
第10図	V区2号整穴建物（2）	22	第73図	V区14号整穴建物（2）	85
第11図	V区2号整穴建物出土遺物（1）	22	第74図	V区14号整穴建物出土遺物（1）	86
第12図	V区2号整穴建物出土遺物（2）	23	第75図	V区14号整穴建物出土遺物（2）	87
第13図	V区2号整穴建物出土遺物（3）	24	第76図	V区14号整穴建物出土遺物（3）	88
第14図	V区2号整穴建物出土遺物（4）	25	第77図	V区15号整穴建物	89
第15図	V区3号整穴建物（1）	26	第78図	V区15号整穴建物出土遺物（1）	90
第16図	V区3号整穴建物（2）	27	第79図	V区15号整穴建物出土遺物（2）	91
第17図	V区3号整穴建物（3）	28	第80図	V区16号整穴建物	92
第18図	V区3号整穴建物（4）	29	第81図	V区16号整穴建物出土遺物	92
第19図	V区3号整穴建物（5）	30	第82図	V区17号整穴建物	93
第20図	V区3号整穴建物出土遺物（1）	31	第83図	V区17号整穴建物出土遺物	93
第21図	V区3号整穴建物出土遺物（2）	32	第84図	V区18号整穴建物	95
第22図	V区3号整穴建物出土遺物（3）	33	第85図	V区18号整穴建物出土遺物	96
第23図	V区3号整穴建物出土遺物（4）	34	第86図	V区19号整穴建物	97
第24図	V区3号整穴建物出土遺物（5）	35	第87図	V区19号整穴建物出土遺物（1）	98
第25図	V区3号整穴建物出土遺物（6）	36	第88図	V区19号整穴建物出土遺物（2）	99
第26図	V区3号整穴建物出土遺物（7）	37	第89図	V区20号整穴建物	101
第27図	V区3号整穴建物出土遺物（8）	38	第90図	V区20号整穴建物出土遺物	102
第28図	V区3号整穴建物出土遺物（9）	39	第91図	V区21号整穴建物（1）	103
第29図	V区4号整穴建物（1）	40	第92図	V区21号整穴建物（2）	104
第30図	V区4号整穴建物（2）	41	第93図	V区21号整穴建物（3）	105
第31図	V区4号整穴建物（3）	42	第94図	V区21号整穴建物出土遺物（1）	106
第32図	V区4号整穴建物出土遺物（1）	43	第95図	V区21号整穴建物出土遺物（2）	107
第33図	V区4号整穴建物出土遺物（2）	44	第96図	V区21号整穴建物出土遺物（3）	108
第34図	V区4号整穴建物出土遺物（3）	45	第97図	V区21号整穴建物出土遺物（4）	109
第35図	V区4号整穴建物出土遺物（4）	46	第98図	V区22号整穴建物（1）	111
第36図	V区4号整穴建物出土遺物（5）	47	第99図	V区22号整穴建物（2）	112
第37図	V区4号整穴建物出土遺物（6）	48	第100図	V区22号整穴建物出土遺物（1）	112
第38図	V区5号整穴建物（1）	49	第101図	V区22号整穴建物出土遺物（2）	113
第39図	V区5号整穴建物（2）	50	第102図	V区22号整穴建物出土遺物（3）	114
第40図	V区5号整穴建物出土遺物（1）	51	第103図	V区22号整穴建物出土遺物（4）	115
第41図	V区5号整穴建物出土遺物（2）	52	第104図	V区22号整穴建物出土遺物（5）	116
第42図	V区5号整穴建物出土遺物（3）	53	第105図	V区22号整穴建物出土遺物（6）	117
第43図	V区5号整穴建物出土遺物（4）	54	第106図	V区22号整穴建物出土遺物（7）	118
第44図	V区5号整穴建物出土遺物（5）	55	第107図	V区23号整穴建物	119
第45図	V区6号整穴建物（1）	56	第108図	V区23号整穴建物出土遺物（1）	120
第46図	V区6号整穴建物（2）	57	第109図	V区23号整穴建物出土遺物（2）	121
第47図	V区6号整穴建物出土遺物	58	第110図	V区25号整穴建物	122
第48図	V区7号整穴建物	60	第111図	V区25号整穴建物出土遺物	123
第49図	V区7号整穴建物出土遺物	61	第112図	V区26号整穴建物	124
第50図	V区8号整穴建物	63	第113図	V区26号整穴建物出土遺物	125
第51図	V区8号整穴建物出土遺物	64	第114図	V区27号整穴建物	127
第52図	V区9号整穴建物	65	第115図	V区27号整穴建物出土遺物	128
第53図	V区9号整穴建物出土遺物（1）	66	第116図	V区28号整穴建物（1）	129
第54図	V区9号整穴建物出土遺物（2）	67	第117図	V区28号整穴建物（2）	130
第55図	V区10号整穴建物	68	第118図	V区28号整穴建物出土遺物（1）	131
第56図	V区10号整穴建物出土遺物	69	第119図	V区28号整穴建物出土遺物（2）	132
第57図	V区11号整穴建物（1）	70	第120図	V区28号整穴建物出土遺物（3）	133
第58図	V区11号整穴建物（2）	71	第121図	V区28号整穴建物出土遺物（4）	134
第59図	V区11号整穴建物（3）	72	第122図	V区29号整穴建物	135
第60図	V区11号整穴建物出土遺物（1）	73	第123図	V区29号整穴建物出土遺物	135
第61図	V区11号整穴建物出土遺物（2）	74	第124図	V区30号整穴建物（1）	137
第62図	V区11号整穴建物出土遺物（3）	75	第125図	V区30号整穴建物（2）	138
第63図	V区11号整穴建物出土遺物（4）	76	第126図	V区30号整穴建物出土遺物（1）	138

第127图	V区30号竖穴建物出土遗物（2）	139	第193图	V区61号竖穴建物出土遗物（1）	203
第128图	V区30号竖穴建物出土遗物（3）	140	第194图	V区61号竖穴建物出土遗物（2）	204
第129图	V区30号竖穴建物出土遗物（4）	141	第195图	V区62号竖穴建物	205
第130图	V区31号竖穴建物	142	第196图	V区62号竖穴建物出土遗物	206
第131图	V区31号竖穴建物出土遗物	143	第197图	V区63号竖穴建物	208
第132图	V区32号竖穴建物	144	第198图	V区63号竖穴建物出土遗物	208
第133图	V区32号竖穴建物出土遗物	145	第199图	V区64号竖穴建物	209
第134图	V区33号竖穴建物	146	第200图	V区64号竖穴建物出土遗物（1）	210
第135图	V区33号竖穴建物出土遗物（1）	147	第201图	V区64号竖穴建物出土遗物（2）	211
第136图	V区33号竖穴建物出土遗物（2）	148	第202图	V区66号竖穴建物	213
第137图	V区34号竖穴建物	149	第203图	V区66号竖穴建物出土遗物	214
第138图	V区34号竖穴建物出土遗物	150	第204图	V区67号竖穴建物	215
第139图	V区35号竖穴建物	151	第205图	V区67号竖穴建物出土遗物	216
第140图	V区35号竖穴建物出土遗物	151	第206图	V区68号竖穴建物	218
第141图	V区36号竖穴建物	152	第207图	V区68号竖穴建物出土遗物	219
第142图	V区36号竖穴建物出土遗物	153	第208图	V区69号竖穴建物	220
第143图	V区37号竖穴建物	155	第209图	V区69号竖穴建物出土遗物	220
第144图	V区37号竖穴建物出土遗物	155	第210图	V区70号竖穴建物	221
第145图	V区38号竖穴建物	157	第211图	V区70号竖穴建物出土遗物	222
第146图	V区38号竖穴建物出土遗物	157	第212图	V区71号竖穴建物（1）	223
第147图	V区39号竖穴建物	159	第213图	V区71号竖穴建物（2）	224
第148图	V区39号竖穴建物出土遗物	159	第214图	V区71号竖穴建物出土遗物（1）	225
第149图	V区40号竖穴建物	161	第215图	V区71号竖穴建物出土遗物（2）	226
第150图	V区40号竖穴建物出土遗物	162	第216图	V区73号竖穴建物	227
第151图	V区42号竖穴建物	163	第217图	V区73号竖穴建物出土遗物	228
第152图	V区42号竖穴建物出土遗物	164	第218图	V区74号竖穴建物	230
第153图	V区44号竖穴建物	165	第219图	V区74号竖穴建物出土遗物（1）	230
第154图	V区44号竖穴建物出土遗物	166	第220图	V区74号竖穴建物出土遗物（2）	231
第155图	V区45号竖穴建物	167	第221图	V区75号竖穴建物	232
第156图	V区45号竖穴建物出土遗物	168	第222图	V区75号竖穴建物出土遗物	233
第157图	V区46号竖穴建物	169	第223图	V区76号竖穴建物	235
第158图	V区46号竖穴建物出土遗物（1）	170	第224图	V区76号竖穴建物出土遗物	235
第159图	V区46号竖穴建物出土遗物（2）	171	第225图	V区77号竖穴建物	236
第160图	V区47号竖穴建物	172	第226图	V区77号竖穴建物出土遗物（1）	237
第161图	V区47号竖穴建物出土遗物	173	第227图	V区77号竖穴建物出土遗物（2）	238
第162图	V区48号竖穴建物	174	第228图	V区77号竖穴建物出土遗物（3）	239
第163图	V区48号竖穴建物（出土遗物）	175	第229图	V区78号竖穴建物	240
第164图	V区49号竖穴建物	177	第230图	V区78号竖穴建物出土遗物（1）	241
第165图	V区49号竖穴建物出土遗物	177	第231图	V区78号竖穴建物出土遗物（2）	242
第166图	V区50号竖穴建物	178	第232图	V区79号竖穴建物	244
第167图	V区50号竖穴建物出土遗物	179	第233图	V区79号竖穴建物出土遗物	244
第168图	V区51号竖穴建物	181	第234图	V区80号竖穴建物（1）	245
第169图	V区51号竖穴建物出土遗物	181	第235图	V区80号竖穴建物（2）	246
第170图	V区52号竖穴建物	182	第236图	V区80号竖穴建物出土遗物（1）	247
第171图	V区52号竖穴建物出土遗物	183	第237图	V区80号竖穴建物出土遗物（2）	248
第172图	V区53号竖穴建物	184	第238图	V区81号竖穴建物	249
第173图	V区53号竖穴建物出土遗物	185	第239图	V区81号竖穴建物出土遗物	249
第174图	V区54号竖穴建物	186	第240图	V区82号竖穴建物（1）	250
第175图	V区54号竖穴建物出土遗物	187	第241图	V区82号竖穴建物（2）	251
第176图	V区55号竖穴建物	189	第242图	V区82号竖穴建物（3）	252
第177图	V区55号竖穴建物出土遗物	189	第243图	V区82号竖穴建物出土遗物（1）	253
第178图	V区56号竖穴建物	190	第244图	V区82号竖穴建物出土遗物（2）	254
第179图	V区56号竖穴建物出土遗物	190	第245图	V区83号竖穴建物	256
第180图	V区57号竖穴建物（1）	191	第246图	V区83号竖穴建物出土遗物	257
第181图	V区57号竖穴建物（2）	192	第247图	V区84号竖穴建物	258
第182图	V区57号竖穴建物出土遗物（1）	193	第248图	V区84号竖穴建物出土遗物	258
第183图	V区57号竖穴建物出土遗物（2）	194	第249图	V区85号竖穴建物	259
第184图	V区57号竖穴建物出土遗物（3）	195	第250图	V区85号竖穴建物出土遗物（1）	260
第185图	V区58号竖穴建物（1）	196	第251图	V区85号竖穴建物出土遗物（2）	261
第186图	V区58号竖穴建物（2）	197	第252图	V区86号竖穴建物	262
第187图	V区58号竖穴建物出土遗物	198	第253图	V区86号竖穴建物出土遗物	262
第188图	V区59号竖穴建物	199	第254图	V区87号竖穴建物	263
第189图	V区59号竖穴建物出土遗物	199	第255图	V区87号竖穴建物出土遗物	263
第190图	V区60号竖穴建物	201	第256图	V区88号竖穴建物	264
第191图	V区60号竖穴建物出土遗物	201	第257图	V区88号竖穴建物出土遗物	265
第192图	V区61号竖穴建物	202	第258图	V区89号竖穴建物（1）	267

第259图	V区89号竖穴建物（2）	268	第325图	V区上坑出土遗物（31）	347
第260图	V区89号竖穴建物出土遗物（1）	268	第326图	V区上坑出土遗物（32）	348
第261图	V区89号竖穴建物出土遗物（2）	269	第327图	V区列石·配石全体图 折り达み	349
第262图	V区90号竖穴建物·	270	第328图	V区3～5号列石·配石（1）	354
第263图	V区90号竖穴建物出土遗物·	270	第329图	V区3～5号列石·配石（2）	355
第264图	V区91号竖穴建物·	271	第330图	V区3～5号列石·配石（3）	356
第265图	V区91号竖穴建物出土遗物·	272	第331图	V区3～5号列石·配石（4）	357
第266图	V区92号竖穴建物·	273	第332图	V区6号列石 配石（1）	358
第267图	V区92号竖穴建物出土遗物·	274	第333图	V区6号列石 配石（2）	359
第268图	V区土坑全体图·	275	第334图	V区1·2·8号列石	360
第269图	V区上坑（1）·	277	第335图	V区列石·配石立面·断面图·	361
第270图	V区土坑（2）·	278	第336图	V区配石（1）	363
第271图	V区土坑（3）·	281	第337图	V区配石（2）	365
第272图	V区上坑（4）·	282	第338图	V区配石（3）	366
第273图	V区上坑（5）·	283	第339图	V区配石（4）	367
第274图	V区土坑（6）·	284	第340图	V区配石（5）	370
第275图	V区上坑（7）·	287	第341图	V区配石（6）	371
第276图	V区土坑（8）·	288	第342图	V区配石（7）	372
第277图	V区土坑（9）·	289	第343图	V区配石（8）	373
第278图	V区上坑（10）·	290	第344图	V区配石（9）	376
第279图	V区土坑（11）·	293	第345图	V区配石（10）	377
第280图	V区土坑（12）·	294	第346图	V区配石（11）	378
第281图	V区上坑（13）·	297	第347图	V区配石（12）	379
第282图	V区土坑（14）·	297	第348图	V区配石（13）	380
第283图	V区土坑（15）·	299	第349图	V区配石（14）	383
第284图	V区土坑（16）·	300	第350图	V区配石（15）	384
第285图	V区土坑（17）·	303	第351图	V区配石出土遗物·	385
第286图	V区土坑（18）·	304	第352图	V区1号配石上坑·	387
第287图	V区土坑（19）·	305	第353图	V区1号配石土坑出土遗物	388
第288图	V区土坑（20）·	306	第354图	V区2号配石上坑·	388
第289图	V区土坑（21）·	309	第355图	V区2号配石土坑出土遗物	388
第290图	V区土坑（22）·	310	第356图	V区1号理耙·	389
第291图	V区土坑（23）·	313	第357图	V区1号理耙出土遗物·	389
第292图	V区土坑（24）·	314	第358图	V区烧土·	391
第293图	V区土坑（25）·	315	第359图	V区烧土出土遗物·	392
第294图	V区土坑（26）·	316	第360图	V区トレンチ设置图·	393
第295图	V区土坑出土遗物（1）	317	第361图	V区出土石器复原图·	395
第296图	V区土坑出土遗物（2）	318	第362图	V区道構外出土遗物（1）	396
第297图	V区土坑出土遗物（3）	319	第363图	V区道構外出土遗物（2）	397
第298图	V区土坑出土遗物（4）	320	第364图	V区道構外出土遗物（3）	398
第299图	V区土坑出土遗物（5）	321	第365图	V区道構外出土遗物（4）	399
第300图	V区土坑出土遗物（6）	322	第366图	V区道構外出土遗物（5）	400
第301图	V区土坑出土遗物（7）	323	第367图	V区道構外出土遗物（6）	401
第302图	V区土坑出土遗物（8）	324	第368图	V区道構外出土遗物（7）	402
第303图	V区土坑出土遗物（9）	325	第369图	V区道構外出土遗物（8）	403
第304图	V区土坑出土遗物（10）	326	第370图	V区道構外出土遗物（9）	404
第305图	V区土坑出土遗物（11）	327	第371图	V区道構外出土遗物（10）	405
第306图	V区土坑出土遗物（12）	328	第372图	V区道構外出土遗物（11）	406
第307图	V区土坑出土遗物（13）	329	第373图	V区道構外出土遗物（12）	407
第308图	V区土坑出土遗物（14）	330	第374图	V区道構外出土遗物（13）	408
第309图	V区土坑出土遗物（15）	331	第375图	V区道構外出土遗物（14）	409
第310图	V区土坑出土遗物（16）	332	第376图	V区道構外出土遗物（15）	410
第311图	V区土坑出土遗物（17）	333	第377图	V区道構外出土遗物（16）	411
第312图	V区土坑出土遗物（18）	334	第378图	V区道構外出土遗物（17）	412
第313图	V区土坑出土遗物（19）	335	第379图	V区道構外出土遗物（18）	413
第314图	V区土坑出土遗物（20）	336	第380图	V区道構外出土遗物（19）	414
第315图	V区土坑出土遗物（21）	337	第381图	V区道構外出土遗物（20）	415
第316图	V区土坑出土遗物（22）	338	第382图	V区道構外出土遗物（21）	416
第317图	V区土坑出土遗物（23）	339	第383图	V区道構外出土遗物（22）	417
第318图	V区土坑出土遗物（24）	340	第384图	V区道構外出土遗物（23）	418
第319图	V区土坑出土遗物（25）	341	第385图	V区道構外出土遗物（24）	419
第320图	V区土坑出土遗物（26）	342	第386图	V区道構外出土遗物（25）	420
第321图	V区土坑出土遗物（27）	343	第387图	V区道構外出土遗物（26）	421
第322图	V区土坑出土遗物（28）	344	第388图	V区道構外出土遗物（27）	422
第323图	V区土坑出土遗物（29）	345	第389图	V区道構外出土遗物（28）	423
第324图	V区土坑出土遗物（30）	346	第390图	V区道構外出土遗物（29）	424

第391図	V区道横外出土遺物	424	第436図	V区烟・溝	565
第392図	V区道横外出土遺物 (30)	425	第437図	V区道横外出土遺物	565
第393図	V区道横外出土遺物 (31)	426	第438図	V区第1面全体図 折込み	567
第394図	V区道横外出土遺物 (32)	427	第439図	V区32号建物 (1)	570
第395図	V区道横外出土遺物 (33)	428	第440図	V区32号建物 (2)	571
第396図	V区道横外出土遺物 (34)	429	第441図	V区32号建物 (3)	572
第397図	V区道横外出土遺物 (35)	430	第442図	V区32号建物 (4)	573
第398図	V区道横外出土遺物 (36)	431	第443図	V区33号建物	575
第399図	V区道横外出土遺物 (37)	432	第444図	V区34号建物	576
第400図	V・Ⅳ区第2面全体図 折り込み	523	第445図	V区35号建物	577
第401図	V区11・25・31号溝	526	第446図	V区36号建物 (1)	578
第402図	V区土坑・ピット (1)	528	第447図	V区36号建物 (2)	579
第403図	V区土坑・ピット (2)	529	第448図	V区37号建物	580
第404図	V区土坑・ピット (3)	530	第449図	V区32号建物出土遺物 (1)	581
第405図	V区土坑・ピット (4)	531	第450図	V区32号建物出土遺物 (2)	582
第406図	V区ピット (1)	532	第451図	V区32号建物出土遺物 (3)	583
第407図	V区ピット (2)	533	第452図	V区33号建物出土遺物 (1)	583
第408図	V区ピット (3)	534	第453図	V区33号建物出土遺物 (2)	584
第409図	V区ピット (4)	535	第454図	V区34号建物出土遺物	584
第410図	V区ピット (5)	536	第455図	V区36号建物出土遺物	584
第411図	V区ピット (6)	537	第456図	V区37号建物出土遺物	584
第412図	V区ピット (7)	538	第457図	V区1号切り石組道構・1号道	585
第413図	V区ピット (8)	539	第458図	V区35号石組	587
第414図	V区ピット (9)	540	第459図	V区36号石組	588
第415図	V区ピット (10)	541	第460図	V区37・38号石組	589
第416図	V区ピット (11)	542	第461図	V区39号石組 (1)	590
第417図	V区ピット (12)	543	第462図	V区39号石組 (2)	591
第418図	V区ピット (13)	544	第463図	V区石組出土遺物	592
第419図	V区ピット (14)	545	第464図	V区土坑・出土遺物	595
第420図	V区11・25号溝出土遺物	550	第465図	V区道横外出土遺物 (1)	595
第421図	V区土坑・ピット出土遺物	550	第466図	V区道横外出土遺物 (2)	596
第422図	V区道横外出土遺物	550	第467図	IX区全体図	600
第423図	V区1・2号煙	552	第468図	IX区トレンチ (1)	601
第424図	V区土坑 (1)	554	第469図	IX区トレンチ (2)	602
第425図	V区土坑 (2)	556	第470図	IX区トレンチ (3)	603
第426図	V区土坑 (3) 24号土坑出土遺物	558	第471図	V区道横外出土遺物	603
第427図	V区土坑 (4)	559	第472図	V区豎穴建物時割別分布図 (I期)	613
第428図	V区土坑 (5)	560	第473図	V区豎穴建物時割別分布図 (II期)	614
第429図	V区ピット	560	第474図	V区豎穴建物時割別分布図 (III期)	615
第430図	V区堆土 (1)	561	第475図	V区豎穴建物時割別分布図 (IV・V期)	616
第431図	V区堆土 (2)	562	第476図	三ツ堂岩陰全図	617
第432図	V区3号焼土出土遺物	562	第477図	三ツ堂岩陰出土遺物 (1)	618
第433図	V区1号暗渠・1号水堀道構	563	第478図	三ツ堂岩陰出土遺物 (2)	619
第434図	V区道横外出土遺物 (1)	563	第479図	三ツ堂岩陰出土遺物 (3)	620
第435図	V区道横外出土遺物 (2)	564			

表 目 次

第1表	発掘調査工程表	3	第10表	2面 錦区遺物観察表 (3)	564
第2表	周辺道路一覧表	14	第11表	1面 V区遺物観察表	565
第3表	第3・4面 V区 遺物観察表	431	第12表	1面 東窓道跡建物一覧表	566
第4表	第3・4面 V区 道横一覧表	517	第13表	1面 锦区遺物観察表	596
第5表	第2面 V区ピット一覧表	546	第14表	1面 IX区遺物観察表	603
第6表	第2面 V区遺物観察表	551	第15表	三ツ堂岩陰遺物観察表	621
第7表	第2面 锦区遺物観察表 (1)	560	第16表	三ツ堂岩陰石造物年輪一覧	621
第8表	第2面 锦区ピット一覧表	561	第17表	三ツ堂岩陰石造物年輪集計表	622
第9表	第2面 锦区遺物観察表 (2)	562			

写真図版目次

東宮遺跡		
PL. 1	1 道跡遺景（東上空より） 2 道跡遺景（東より）	2 V区15号竖穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区15号竖穴建物埋蔵セクション（南より） 4 V区15号竖穴建物埋蔵出土状況（東より） 5 V区15号竖穴建物埋蔵全景（南より）
PL. 2	1 道跡遺景（南東上空より） 2 道跡遺景（西上空より）	PL. 16 1 V区16号竖穴建物全景（東より） 2 V区16号竖穴建物全景（東より） 3 V区17号竖穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区17号竖穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区18号竖穴建物遺物出土状態（東より）
PL. 3	1 道跡全景（上空より） 2 道跡全景（東上空より）	PL. 17 1 V区18号竖穴建物全景（東より） 2 V区18号竖穴建物石いね構造および砾石（東より） 3 V区18号竖穴建物埋蔵出し部立石および24号配石（東より） 4 V区18号竖穴建物炉全景（東より） 5 V区18号竖穴建物埋蔵全景（東より）
PL. 4	1 道跡全景（上空より） 2 道跡全景（東より） 3 道跡全景（東より） 4 道跡全景（北東より） 5 道跡全景（南東より）	PL. 18 1 V区19号竖穴建物全景（南東より） 2 V区19号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 3 V区19号竖穴建物全景（南東より） 4 V区19号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 5 V区19号竖穴建物埋蔵全景（南東より）
PL. 5	1 V区1号竖穴建物全景（東より） 2 V区1号竖穴建物全景（東より） 3 V区1号竖穴建物炉セクション（東より） 4 V区1号竖穴建物炉全景（東より） 5 V区1号竖穴建物炉体上部（南より）	PL. 19 1 V区20号竖穴建物全景（南東より） 2 V区20号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 3 V区20号竖穴建物の構造状況（南より） 4 V区20号竖穴建物炉セクション（南より） 5 V区20号竖穴建物炉セクション（東より）
PL. 6	1 V区2号竖穴建物全景（南東より） 2 V区2号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 3 V区2号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 4 V区2号竖穴建物炉全景（南東より） 5 V区2号竖穴建物埋蔵断面（南より）	PL. 20 1 V区21号竖穴建物全景（東より） 2 V区21号竖穴建物セクション（東より） 3 V区21号竖穴建物炉セクション（北より） 4 V区21号竖穴建物全景（東より） 5 V区21号竖穴建物主体部全景（東より）
PL. 7	1 V区3号竖穴建物全景（南東より） 2 V区3号竖穴建物全景（南東より） 3 V区3号竖穴建物遺物出土状態（南より） 4 V区3号竖穴建物炉全景（南より） 5 V区3号竖穴建物掘方全景（南東より）	PL. 21 1 V区21号竖穴建物全景（上空より） 2 V区21号竖穴建物主体部搬方（東より）
PL. 8	1 V区4号竖穴建物全景（東より） 2 V区4号竖穴建物全景（上空より）	PL. 22 1 V区22号竖穴建物全景（東より） 2 V区22号竖穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区22号竖穴建物遺物出土状態（南より） 4 V区22号竖穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区22号竖穴建物遺物出土状態（南東より）
PL. 9	1 V区5号竖穴建物全景（東より） 2 V区5号竖穴建物遺物出土状態（南より） 3 V区5号竖穴建物遺物出土状態（南より） 4 V区5号竖穴建物遺物出土状態（南より） 5 V区5号竖穴建物炉全景（南より）	PL. 23 1 V区22号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 2 V区22号竖穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区22号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 4 V区22号竖穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区22号竖穴建物全景（東より） 6 V区22号竖穴建物埋蔵出土状態（東より） 7 V区22号竖穴建物埋蔵セクション（東より） 8 V区22号竖穴建物埋蔵全景（北東より）
PL. 10	1 V区6号竖穴建物全景（南東より） 2 V区6号竖穴建物炉全景（南東より） 3 V区7号竖穴建物全景（南東より） 4 V区7号竖穴建物遺物出土状態（南より） 5 V区7号竖穴建物全景（南東より）	PL. 24 1 V区23号竖穴建物全景（東より） 2 V区23号竖穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区23号竖穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区23号竖穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区23号竖穴建物遺物出土状態（東より）
PL. 11	1 V区8号竖穴建物全景（東より） 2 V区8号竖穴建物遺物出土状態（南より） 3 V区8号竖穴建物炉セクション（南より） 4 V区8号竖穴建物炉上部搬出状況（南東より） 5 V区8号竖穴建物炉搬出状況（南東より）	PL. 25 1 V区25号竖穴建物遺物出土状態（南より） 2 V区25号竖穴建物遺物出土状態（南より） 3 V区26号竖穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区26号竖穴建物全景（東より） 5 V区27号竖穴建物全景（南東より）
PL. 12	1 V区9号竖穴建物遺物出土状態（南より） 2 V区10号竖穴建物断面（南より） 3 V区11号竖穴建物全景（南東より） 4 V区11号竖穴建物立石椚出状態（南東より） 5 V区11号竖穴建物石碑出土状態（南東より）	PL. 26 1 V区27号竖穴建物全景（北西より） 2 V区27号竖穴建物埋蔵搬出状態（南東より） 3 V区27号竖穴建物埋蔵搬出状態（北より） 4 V区27号竖穴建物炉遺物出土状態（東より） 5 V区27号竖穴建物炉全景（東より）
PL. 13	1 V区11号竖穴建物炉全景（南東より） 2 V区11号竖穴建物全景（東より） 3 V区12号竖穴建物全景（東より） 4 V区12号竖穴建物炉搬出状況（南より） 5 V区12号竖穴建物全景（東より）	PL. 27 1 V区28号竖穴建物全景（東より） 2 V区28号竖穴建物北側全景（南より） 3 V区28号竖穴建物南側全景（北西より） 4 V区28号竖穴建物遺物出土状態（東より）
PL. 14	1 V区13号竖穴建物セクション（東より） 2 V区13号竖穴建物全景（東より） 3 V区14号竖穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区14号竖穴建物遺物出土状態（南東より） 5 V区14号竖穴建物石碑出土状態（北より） 6 V区14号竖穴建物炉セクション（南東より） 7 V区14号竖穴建物炉体上部搬出状況（東より） 8 V区14号竖穴建物炉体上器（東より）	
PL. 15	1 V区15号竖穴建物全景（東より）	

PL.28	5 V区28号豊穴建物遺物出土状態（東より） 1 V区28号豊穴建物全貌（東より） 2 V区28号豊穴建物散石検出状況（南より） 3 V区28号豊穴建物石積み状況（南より） 4 V区28号豊穴建物遺物出土状態（南西より） 5 V区28号豊穴建物炉全貌（南より）	PL.40	5 V区40号豊穴建物遺物出土状態（東より） 6 V区40号豊穴建物炉セクション（北より） 7 V区40号豊穴建物埋理費セクション（南より） 8 V区40号豊穴建物炉北側（南より）
PL.29	1 V区29号豊穴建物遺物出土状態（東より） 2 V区29号豊穴建物全貌（東より） 3 V区29号豊穴建物炉セクション（南より） 4 V区29号豊穴建物炉全貌（東より） 5 V区30号豊穴建物全貌（東より）	PL.41	1 V区42号豊穴建物全貌（東より） 2 V区42号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区42号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区42号豊穴建物炉セクション（南より） 5 V区42号豊穴建物全貌（東より）
PL.30	1 V区30号豊穴建物遺物出土状態（東より） 2 V区30号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区30号豊穴建物遺物出土状態（北より） 4 V区30号豊穴建物遺物全貌（東より） 5 V区30号豊穴建物遺物出土状態（東より） 6 V区30号豊穴建物ピット11号遺物出土状態（東より） 7 V区30号豊穴建物炉遺物出土状態（東より） 8 V区30号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.42	1 V区44号豊穴建物全貌（東より） 2 V区44号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区44号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区44号豊穴建物炉セクション（南より） 5 V区44号豊穴建物遺物出土状態（東より）
PL.31	1 V区31号豊穴建物全貌（東より） 2 V区31号豊穴建物全貌（北東より）	PL.43	1 V区46号豊穴建物全貌（東より） 2 V区46号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区46号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区46号豊穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区46号豊穴建物遺物出土状態（東より） 6 V区46号豊穴建物遺物出土状態（東より） 7 V区46号豊穴建物炉全貌（東より） 8 V区46号豊穴建物炉セクション（東より）
PL.32	1 V区31号豊穴建物セクション（北東より） 2 V区31号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区31号豊穴建物張り出し部（東より） 4 V区31号豊穴建物張り出し部（北西より） 5 V区31号豊穴建物石碑・通構セクション（東より） 6 V区31号豊穴建物炉および通い道構（南西より） 7 V区31号豊穴建物炉セクション（北より） 8 V区31号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.44	1 V区47号豊穴建物遺物出土状態（東より） 2 V区47号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区47号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区47号豊穴建物遺物出土状態（東より） 5 V区47号豊穴建物北側遺物出土状態（南より） 6 V区47号豊穴建物北側遺物出土状態（西より） 7 V区47号豊穴建物炉全貌（東より） 8 V区47号豊穴建物炉セクション（東より）
PL.33	1 V区32号豊穴建物遺物出土状態（東より） 2 V区32号豊穴建物全貌（東より） 3 V区33号豊穴建物全貌（南東より） 4 V区33号豊穴建物搬入全貌（南東より） 5 V区33号豊穴建物遺物出土状態（東より）	PL.45	1 V区48号豊穴建物全貌（東より） 2 V区48号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区48号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区48号豊穴建物散石検出状況（東より） 5 V区48号豊穴建物炉セクション（東より）
PL.34	1 V区33号豊穴建物埋理費セクション（南東より） 2 V区33号豊穴建物埋理費セクション（東より） 3 V区34号豊穴建物全貌（東より） 4 V区34号豊穴建物セクション（南西より） 5 V区34号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.46	1 V区49号豊穴建物全貌（北東より） 2 V区49号豊穴建物炉（東より） 3 V区50号豊穴建物全貌（東より） 4 V区50号豊穴建物セクション（東より） 5 V区50号豊穴建物散石検出状況（東より）
PL.35	1 V区35号豊穴建物全貌（東より） 2 V区35号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区35号豊穴建物炉セクション（北より） 4 V区35号豊穴建物全貌（東より） 5 V区35号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.47	1 V区50号豊穴建物全貌（東より） 2 V区50号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区50号豊穴建物炉セクション（東より） 4 V区50号豊穴建物全貌（東より） 5 V区50号豊穴建物炉セクション（東より）
PL.36	1 V区37号豊穴建物全貌（東より） 2 V区37号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区37号豊穴建物炉全貌（東より） 4 V区37号豊穴建物炉セクション（南より） 5 V区37号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.48	1 V区51号豊穴建物全貌（東より） 2 V区51号豊穴建物炉セクション（南より） 3 V区51号豊穴建物炉セクション（南より） 4 V区51号豊穴建物炉炉体土器セクション（南より） 5 V区51号豊穴建物炉全貌（東より）
PL.37	1 V区38号豊穴建物全貌（東より） 2 V区38号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区38号豊穴建物炉全貌（東より） 4 V区38号豊穴建物埋理費炉セクション（南より） 5 V区38号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.49	1 V区52号豊穴建物全貌（東より） 2 V区52号豊穴建物全貌（東より） 3 V区52号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区52号豊穴建物炉セクション（東より） 5 V区52号豊穴建物炉全貌（東より）
PL.38	1 V区39号豊穴建物全貌（東より） 2 V区39号豊穴建物セクション（南より） 3 V区39号豊穴建物埋理費出土状態（東より） 4 V区39号豊穴建物埋理費セクション（東より） 5 V区39号豊穴建物遺物出土状態（東より）	PL.50	1 V区53号豊穴建物全貌（東より） 2 V区53号豊穴建物遺物出土状態（東より） 3 V区53号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区53号豊穴建物炉全貌（東より） 5 V区53号豊穴建物炉全貌（東より）
PL.39	1 V区40号豊穴建物全貌（東より） 2 V区40号豊穴建物遺物出土状態（南より） 3 V区40号豊穴建物遺物出土状態（東より） 4 V区40号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.51	1 V区54号豊穴建物全貌（東より）

	2	V区54号豎穴建物遺物出土状態（東より）	2	V区67号豎穴建物遺物出土状態（東より）	
	3	V区54号豎穴建物遺物出土状態（東より）	3	V区67号豎穴建物遺物出土状態（東より）	
	4	V区54号豎穴建物遺物出土状態（東より）	4	V区67号豎穴建物遺物出土状態（東より）	
	5	V区54号豎穴建物セクション（南より）	5	V区67号豎穴建物セクション（東より）	
PL.52	1	V区55号豎穴建物全景（東より）	PL.64	1	V区68号豎穴建物全景（東より）
	2	V区55号豎穴建物セクション（東より）		2	V区68号豎穴建物全景（南より）
	3	V区55号豎穴建物遺物出土状態（東より）		3	V区68号豎穴建物主体部全景（東より）
	4	V区55号豎穴建物炉全景（東より）		4	V区68号豎穴建物結合部（東より）
	5	V区56号豎穴建物全景（東より）		5	V区68号豎穴建物炉全景（東より）
	6	V区56号豎穴建物遺物出土状態（東より）	PL.65	1	V区69号豎穴建物全景（東より）
	7	V区56号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区69号豎穴建物炉全景（東より）
	8	V区56号豎穴建物セクション（南より）		3	V区70号豎穴建物全景（東より）
PL.53	1	V区57号豎穴建物全景（東より）		4	V区70号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	2	V区57号豎穴建物遺物出土状態（東より）		5	V区70号豎穴建物全景（東より）
	3	V区57号豎穴建物遺物出土状態（東より）		6	V区70号豎穴建物炉機出状況（東より）
	4	V区57号豎穴建物炉全景（東より）		7	V区70号豎穴建物炉全景（東より）
	5	V区57号豎穴建物炉体上部土状態（北東より）		8	V区70号豎穴建物爐壠全景（東より）
PL.54	1	V区58号豎穴建物全景（東より）	PL.66	1	V区71号豎穴建物全景（東より）
	2	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区71号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	3	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		3	V区71号豎穴建物炉全景（東より）
	4	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		4	V区71号豎穴建物セクション（東より）
	5	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		5	V区71号豎穴建物炉面セクション（南より）
PL.55	1	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）	PL.67	1	V区71号豎穴建物炉面遺物出土状態（北より）
	2	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区71号豎穴建物炉面セクション（南より）
	3	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		3	V区71号豎穴建物炉面遺物出土状態（北より）
	4	V区58号豎穴建物遺物出土状態（東より）		4	V区71号豎穴建物炉面全景（北より）
	5	V区58号豎穴建物炉全景（東より）		5	V区71号豎穴建物埋査出状況（東より）
	6	V区58号豎穴建物埋査出状況（東より）		6	V区71号豎穴建物埋査セクション（東より）
	7	V区58号豎穴建物埋査出状況（東より）		7	V区71号豎穴建物埋査全景（東より）
	8	V区58号豎穴建物埋査セクション（南より）		8	V区71号豎穴建物埋査全景（東より）
PL.56	1	V区59号豎穴建物全景（東より）	PL.68	1	V区73号豎穴建物全景（東より）
	2	V区59号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区73号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	3	V区59号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）		3	V区73号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	4	V区59号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）		4	V区73号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）
	5	V区59号豎穴建物炉全景（南より）		5	V区73号豎穴建物炉全景（東より）
PL.57	1	V区60号豎穴建物全景（東より）	PL.69	1	V区74号豎穴建物全景（東より）
	2	V区60号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区74号豎穴建物セクション（南より）
	3	V区60号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）		3	V区74号豎穴建物遺物出土状態（南より）
	4	V区60号豎穴建物炉セクション（南より）		4	V区74号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	5	V区60号豎穴建物炉全景（南より）		5	V区74号豎穴建物遺物出土状態（東より）
PL.58	1	V区61号豎穴建物遺物出土状態（東より）	PL.70	1	V区75号豎穴建物全景（東より）
	2	V区61号豎穴建物セクション（南より）		2	V区75号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	3	V区61号豎穴建物炉セクション（東より）		3	V区75号豎穴建物全景（北より）
	4	V区61号豎穴建物炉西より		4	V区75号豎穴建物埋査セクション（東より）
	5	V区61号豎穴建物炉東方（西より）		5	V区75号豎穴建物埋査（東より）
PL.59	1	V区62号豎穴建物全景（東より）	PL.71	1	V区76号豎穴建物全景（東より）
	2	V区62号豎穴建物遺物出土状態（東より）		2	V区76号豎穴建物埋査セクション（南より）
	3	V区62号豎穴建物散石（東より）		3	V区76号豎穴建物炉セクション（西より）
	4	V区62号豎穴建物炉全景（東より）		4	V区76号豎穴建物炉（東より）
	5	V区62号豎穴建物炉セクション（南東より）		5	V区76号豎穴建物全景（東より）
PL.60	1	V区63号豎穴建物全景（東より）	PL.72	1	V区77号豎穴建物全景（東より）
	2	V区63号豎穴建物セクション（東より）		2	V区77号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	3	V区63号豎穴建物遺物出土状態（東より）		3	V区77号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	4	V区63号豎穴建物炉セクション（東より）		4	V区77号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	5	V区63号豎穴建物炉全景（東より）		5	V区77号豎穴建物遺物出土状態（東より）
PL.61	1	V区64号豎穴建物全景（東より）	PL.73	1	V区77号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	2	V区64号豎穴建物炉全景（東より）		2	V区77号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）
	3	V区64号豎穴建物炉概方セクション（東より）		3	V区77号豎穴建物1号埋査出状況（東より）
	4	V区64号豎穴建物1号埋査（東より）		4	V区77号豎穴建物1号・2号埋査出上状況（北東より）
	5	V区64号豎穴建物2号埋査（東より）		5	V区77号豎穴建物1号埋査セクション（北より）
PL.62	1	V区66号豎穴建物全景（東より）		6	V区77号豎穴建物1号埋査出土状態（東より）
	2	V区66号豎穴建物遺物出土状態（東より）		7	V区77号豎穴建物2号埋査出状況（東より）
	3	V区66号豎穴建物遺物出土状態（東より）		8	V区77号豎穴建物2号埋査セクション（北東より）
	4	V区66号豎穴建物炉セクション（南より）		1	V区78号豎穴建物遺物出土状態（東より）
	5	V区66号豎穴建物炉全景（東より）		2	V区78号豎穴建物全景（東より）
PL.63	1	V区67号豎穴建物全景（東より）		3	V区78号豎穴建物炉遺物出土状態（東より）

PL.75	4 V1区78号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.88	5 126号土坑遺物出土状態（南より）
	5 V1区79号豊穴建物全貌（東より）		6 128号土坑全貌（南より）
	1 V1区79号豊穴建物擁方全貌（東より）		7 131号土坑遺物出土状態（東より）
	2 V1区79号豊穴建物擁方全貌（東より）		8 132号土坑遺物出土状態（東より）
	3 V1区79号豊穴建物セクション（北東より）		1 132号土坑全貌（東より）
PL.76	4 V1区79号豊穴建物炉セクション（北東より）	PL.88	2 133号土坑遺物出土状態（東より）
	5 V1区79号豊穴建物炉全貌（東より）		3 134号土坑セクション（東より）
	1 V1区80号豊穴建物全貌（東より）		4 134号土坑セクション（東より）
	2 V1区80号豊穴建物擁方全貌（東より）		5 135号土坑遺物出土状態（東より）
	3 V1区80号豊穴建物擁方全貌（東より）		6 135号土坑全貌（東より）
PL.77	4 V1区80号豊穴建物遺物出土状態（東より）	PL.89	7 136号土坑セクション（東より）
	5 V1区80号豊穴建物遺物出土状態（東より）		8 137号土坑セクション（南より）
	1 V1区81号豊穴建物全貌（北東より）		1 138号土坑遺物出土状態（東より）
	2 V1区81号豊穴建物全貌（南より）		2 139号土坑全貌（西より）
	3 V1区82号豊穴建物全貌（北東より）		3 140号土坑遺物出土状態（東より）
PL.78	4 V1区82号豊穴建物全貌（北東より）	PL.89	4 141号土坑全貌（南より）
	5 V1区82号豊穴建物全貌（南東より）		5 141号土坑遺物出土状態（南より）
	1 V1区82号豊穴建物全貌（東より）		6 142号土坑全貌（北より）
	2 V1区82号豊穴建物主体部全貌（東より）		7 142号土坑遺物出土状態（北より）
	3 V1区82号豊穴建物炉検出状況（東より）		8 143号土坑遺物出土状態（東より）
PL.79	4 V1区82号豊穴建物石門型（遺物検出状況（南より）	PL.90	1 143号土坑遺物出土状態（東より）
	5 V1区82号豊穴建物炉全貌（南西より）		2 143号土坑全貌（南より）
	1 V1区83号豊穴建物遺物出土状態（東より）		3 144号土坑遺物出土状態（南より）
	2 V1区83号豊穴建物全貌（東より）		4 144号土坑全貌（東より）
	1 V1区83号豊穴建物遺物出土状態（東より）		5 145号土坑全貌（東より）
PL.80	2 V1区83号豊穴建物主体部全貌（東より）	PL.90	6 146号土坑遺物出土状態（南より）
	3 V1区83号豊穴建物炉全貌（東より）		7 146号土坑遺物出土状態（南より）
	4 V1区83号豊穴建物炉石門型（遺物検出状況（東より）		8 146号土坑全貌（南より）
	5 V1区83号豊穴建物炉搬り出し部理鑿検出状況（東より）		PL.91 1 147号土坑全貌（東より）
	6 V1区83号豊穴建物炉搬り出し部理鑿出土状態（東より）		2 148号土坑全貌（東より）
PL.81	7 V1区83号豊穴建物炉搬り出し部理鑿セクション（東より）	PL.91	3 149号土坑遺物出土状態（東より）
	8 V1区83号豊穴建物炉全貌（東より）		4 150号土坑全貌（南より）
	1 V1区84号豊穴建物全貌（東より）		5 151号土坑全貌（東より）
	2 V1区84号豊穴建物セクション（北より）		6 151号土坑遺物出土状態（東より）
	3 V1区84号豊穴建物炉セクション（北より）		7 151号土坑遺物出土状態（東より）
PL.82	4 V1区84号豊穴建物炉全貌（東より）	PL.92	8 151号土坑遺物出土状態（東より）
	5 V1区84号豊穴建物搬り出し部全貌（東より）		PL.92 1 152号土坑セクション（南より）
	1 V1区85号豊穴建物全貌（南より）		2 153号土坑全貌（東より）
	2 V1区85号豊穴建物遺物出土状態（東より）		3 154号土坑遺物出土状態（南より）
	3 V1区85号豊穴建物搬り出し部全貌（北東より）		4 155号土坑全貌（南より）
PL.83	4 V1区85号豊穴建物黒曜石石門型（東より）		5 156号土坑全貌（東より）
	5 V1区85号豊穴建物搬り出し部全貌（北より）		6 157号土坑全貌（東より）
	1 V1区86号豊穴建物全貌（南東より）		7 158号土坑全貌（東より）
	2 V1区86号豊穴建物全貌（北東より）		8 159号土坑全貌（東より）
	3 V1区87号豊穴建物（東より）	PL.93	PL.93 1 160号土坑セクション（東より）
PL.84	4 V1区87号豊穴建物ピット内物遺物出土状態（東より）		2 160号土坑全貌（東より）
	5 V1区88号豊穴建物遺物出土状態（東より）		3 161号土坑全貌（東より）
	6 V1区88号豊穴建物全貌（東より）		4 162号土坑全貌（東より）
	7 V1区88号豊穴建物遺物出土状態（東より）		5 163号土坑遺物出土状態（東より）
	8 V1区88号豊穴建物炉セクション（東より）		6 164号土坑遺物出土状態（東より）
PL.85	1 V1区89号豊穴建物全貌（南東より）	PL.94	7 165号土坑セクション（東より）
	2 V1区89号豊穴建物炉全貌（東より）		8 165号土坑遺物出土状態（東より）
	1 V1区89号豊穴建物炉全貌（東より）		PL.94 1 166号土坑セクション（南より）
	2 V1区89号豊穴建物搬り出し部全貌（南東より）		2 166号土坑全貌（西より）
	3 V1区89号豊穴建物搬り出し部全貌（南より）		3 167号土坑遺物出土状態（南より）
PL.86	4 V1区89号豊穴建物搬り出し部全貌（南東より）		4 167号土坑遺物出土状態（南より）
	5 V1区89号豊穴建物搬り出し部全貌（南より）		5 168号土坑全貌（東より）
	1 V1区90号豊穴建物搬り出し部全貌（東より）		6 169号土坑遺物出土状態（北より）
	2 V1区90号豊穴建物搬り出し部全貌（東より）		7 169号土坑遺物出土状態（南より）
	3 V1区90号豊穴建物搬り出し部全貌（東より）		8 169号土坑全貌（南より）
PL.87	4 V1区92号豊穴建物搬り出し部全貌（西より）	PL.95	PL.95 1 170号土坑遺物出土状態（東より）
	5 V1区92号豊穴建物搬り出し部全貌（南より）		2 170号土坑全貌（東より）
	1 90号土坑全貌（東より）		3 171号土坑遺物出土状態（北より）
	2 92号土坑全貌（東より）		4 171号土坑遺物出土状態（北より）
	3 94号土坑全貌（東より）		5 171号土坑遺物出土状態（北より）
	4 121号土坑全貌（東より）		6 171号土坑全貌（北より）

PL.115	5 5号列石張り出し部（上空より） 1 5号列石部分（南東より） 2 5号列石部分（東より） 3 5号列石張り出し部セクション（南より） 4 5号列石張り出し部（東より） 5 5号列石南端部（南より） 6 5号列石張り出し部大石状況（南東より） 7 5号列石張り出し部大石下築石出土状態（東より） 8 5号列石掘方面、大型礫塊状況（南東より）	PL.124	8 24号配石下埋設セクション（東より） 1 25号配石全景（東より） 2 25号配石セクション（東より） 3 26号配石全景（南東より） 4 26号配石全景（東より） 5 26号配石全景（南東より）
PL.116	1 6号列石（手前）全景（東より） 2 6号列石全景（北より） 3 6号列石、29号配石全景（東より） 4 8号列石全景（東より） 5 8号列石全景（南より）	PL.125	1 26号配石セクション（南東より） 2 26号配石全景（東より） 3 26号配石部分（東より） 4 26号配石立石1セクション（東より） 5 26号配石立石2セクション（東より） 6 26号配石埋設物出土状況（東より） 7 26号配石埋設セクション（東より） 8 26号配石埋設出土状態（東より）
PL.117	1 3号列石と配石（東より） 2 1号配石、3号列石（東より） 3 1号配石全景（東より） 4 2号配石全景（東より） 5 2号配石全景（東より）	PL.126	1 27号配石全景（東より） 2 27号配石セクション（東より） 3 27号配石全景（東より） 4 28号配石セクション（東より） 5 28号配石全景（東より）
PL.118	1 3号配石全景（東より） 2 3号配石全景（東より） 3 4号配石全景（東より） 4 4号配石全景（東より） 5 5号配石全景（東より） 6 5号配石全景（東より） 7 6号配石全景（東より） 8 6号配石全景（東より）	PL.127	1 29号配石全景（東より） 2 29号配石全景（南東より） 3 29号配石セクション（南より） 4 29号配石、VI区80号竪穴建物張り出し部（南東より） 5 31号配石全景（南東より）
PL.119	1 7号配石全景（東より） 2 7号配石全景（東より） 3 7号配石全景（東より） 4 7号配石セクション（南より） 5 8号配石全景（東より） 6 8号配石セクション（東より） 7 9号配石全景（南より） 8 9号配石セクション（南より）	PL.128	1 1号配石土坑全景（南東より） 2 1号配石土坑全景（南東より） 3 1号配石土坑全景（南東より） 4 1号配石土坑全景（南西より）
PL.120	1 10号配石全景（南より） 2 9・10号配石全景（南より） 3 11号配石全景（南東より） 4 11号配石方セクション（南東より） 5 11号配石全景（南より） 6 11号配石掘方（南より） 7 13号配石全景（南東より） 8 13号配石全景（東より）	PL.129	1 2号配石土坑遺物出土状態（東より） 2 2号配石土坑全景（東より） 3 1号埋設物出土状況（東より） 4 1号埋設セクション（東より） 5 15号竪土セクション（東より） 6 15号竪土全景（南より） 7 17号竪土全景（南より） 8 18号竪土セクション（南より）
PL.121	1 14号配石全景（東より） 2 14号配石全景（東より） 3 14号配石全景（東より） 4 14号配石全景（東より） 5 15号配石全景（東より） 6 15号配石全景（東より） 7 16号配石全景（東より） 8 16号配石全景（東より）	PL.130	1 18号竪土全景（南より） 2 19号竪土遺物出土状態（東より） 3 20号竪土遺物出土状態（東より） 4 20号竪土セクション（東より） 5 遺構外遺物出土状態（北より） 6 遺構外遺物出土状態（北より） 7 VII区トレーナー（西より） 8 VII区トレーナー埋入状態（西北より）
PL.122	1 17号配石全景（東より） 2 17号配石全景（南より） 3 18号配石セクション（東より） 4 18号配石セクション（南より） 5 19号配石全景（東より） 6 19号配石部分（東より） 7 20号配石全景（東より） 8 20号配石全景（東より）	PL.131	V区1・2号竪穴建物出土遺物
PL.123	1 21号配石全景（東より） 2 21号配石セクション（南より） 3 22号配石全景（南東より） 4 23号配石全景（東より） 5 24号配石全景（東より） 6 24号配石埋設物出土状況（東より） 7 24号配石下埋設物出土状況（東より）	PL.132	V区2号竪穴建物出土遺物
		PL.133	V区2・3号竪穴建物出土遺物
		PL.134	V区3号竪穴建物出土遺物
		PL.135	V区3号竪穴建物出土遺物
		PL.136	V区3号竪穴建物出土遺物
		PL.137	V区3・4号竪穴建物出土遺物
		PL.138	V区4号竪穴建物出土遺物
		PL.139	V区4号竪穴建物出土遺物
		PL.140	V区4・5号竪穴建物出土遺物
		PL.141	V区5号竪穴建物出土遺物
		PL.142	V区5号竪穴建物出土遺物
		PL.143	V区5・6号竪穴建物出土遺物
		PL.144	V区7・8号竪穴建物出土遺物
		PL.145	V区9・10号竪穴建物出土遺物
		PL.146	V区11号竪穴建物出土遺物
		PL.147	V区11号竪穴建物出土遺物
		PL.148	V区11号竪穴建物出土遺物
		PL.149	V区11号竪穴建物出土遺物
		PL.150	V区12~14号竪穴建物出土遺物
		PL.151	V区14号竪穴建物出土遺物
		PL.152	V区15~17号竪穴建物出土遺物

PL_	153	V区18・19号竪穴建物出土遺物	PL_	219	V区道構外出土遺物 (12)
PL_	154	V区19・20号竪穴建物出土遺物	PL_	220	V区道構外出土遺物 (13)
PL_	155	V区21号竪穴建物出土遺物	PL_	221	V区道構外出土遺物 (14)
PL_	156	V区21号竪穴建物出土遺物	PL_	222	V区道構外出土遺物 (15)
PL_	157	V区22号竪穴建物出土遺物	PL_	223	V区道構外出土遺物 (16)
PL_	158	V区22号竪穴建物出土遺物	PL_	224	V区道構外出土遺物 (17)
PL_	159	V区22号竪穴建物出土遺物	PL_	225	V区道構外出土遺物 (18)
PL_	160	V区22号竪穴建物出土遺物	PL_	226	V区道構外出土遺物 (19)
PL_	161	V区22・23号竪穴建物出土遺物	PL_	227	V区道構外出土遺物 (20)
PL_	162	V区23・25号竪穴建物出土遺物	PL_	228	V区道構外出土遺物 (21)・VI区道構外出土遺物
PL_	163	V区26・28号竪穴建物出土遺物	PL_	229	V区道構外出土遺物 (22)
PL_	164	V区28号竪穴建物出土遺物	PL_	230	V区道構外出土遺物 (23)
PL_	165	V区29・30号竪穴建物出土遺物	PL_	231	V区道構外出土遺物 (24)
PL_	166	V区30・31号竪穴建物出土遺物	PL_	232	V区道構外出土遺物 (25)
PL_	167	V区32・35号竪穴建物出土遺物	PL_	233	1 V区25・31号溝柵出土状況 (東より) 2 V区25号溝全景 (南東より) 3 V区31号溝全景 (西より) 4 V区31号溝柵出土状態 (東より) 5 V区31号溝セクション (北より) 6 V区31号溝全景 (北より) 7 V区89号土坑全景 (南より) 8 V区91号土坑全景 (西より)
PL_	168	V区36・39号竪穴建物出土遺物	PL_	234	1 95号土坑全景 (西より) 2 111号土坑全景 (東より) 3 120号土坑全景 (東より) 4 123号土坑全景 (南より) 5 127号土坑出土状態 (南より) 6 129号土坑セクション (北西より) 7 129号土坑柵出土状態 (北より) 8 130号土坑柵出土状態 (東より)
PL_	169	V区40・42・44号竪穴建物出土遺物	PL_	235	1 2面ピット群 (南より) 2 2面ピット群 (南より) 3 723号ピットセクション (南東より) 4 961号ピット全景 (南より) 5 983号ピット全景 (南より) 6 983号ピットセクション (南より) 7 987号ピット全景 (南より) 8 988号ピット全景 (南より) 9 992号ピット全景 (南より) 10 998・999号ピット全景 (南より) 11 1000号ピットセクション (南より) 12 1003号ピット全景 (北東より) 13 1004号ピットセクション (西より) 14 1004・1022・1026号ピット全景 (南より) 15 41V-10グリッドピット群 (東より)
PL_	170	V区44・45号竪穴建物出土遺物	PL_	236	1 3号土坑セクション (南より) 2 3号土坑全景 (南より) 3 4号土坑セクション (南より) 4 4号土坑全景 (南より) 5 5号土坑全景 (南より) 6 6号土坑セクション (南より) 7 6号土坑全景 (南より) 8 7号土坑全景 (東より) 9 8号土坑全景 (南より) 10 9号土坑セクション (南より) 11 10号土坑全景 (南より) 12 11号土坑全景 (南より) 13 12号土坑セクション (西より) 14 12号土坑全景 (南東より) 15 13号土坑全景 (西より)
PL_	171	V区46・47号竪穴建物出土遺物	PL_	237	1 14号土坑全景 (西より) 2 15号土坑全景 (南より) 3 16号土坑全景 (南より) 4 17号土坑全景 (西より) 5 18号土坑全景 (西より) 6 19号土坑全景 (北より)
PL_	172	V区48・50号竪穴建物出土遺物			
PL_	173	V区51・53号竪穴建物出土遺物			
PL_	174	V区54・57号竪穴建物出土遺物			
PL_	175	V区57号竪穴建物出土遺物			
PL_	176	V区58・60号竪穴建物出土遺物			
PL_	177	V区61・62号竪穴建物出土遺物			
PL_	178	V区62・64号竪穴建物出土遺物			
PL_	179	V区66・69号竪穴建物出土遺物			
PL_	180	V区70・71号竪穴建物出土遺物			
PL_	181	V区71・73号竪穴建物出土遺物			
PL_	182	V区74・75号竪穴建物出土遺物			
PL_	183	V区75・77号竪穴建物出土遺物			
PL_	184	V区77・78号竪穴建物出土遺物			
PL_	185	V区78・80号竪穴建物出土遺物			
PL_	186	V区80・82号竪穴建物出土遺物			
PL_	187	V区82・83号竪穴建物出土遺物			
PL_	188	V区83・86号竪穴建物出土遺物			
PL_	189	V区87・89号竪穴建物出土遺物			
PL_	190	V区89・91号竪穴建物出土遺物			
PL_	191	V区91号竪穴建物・90・94・126・128・131号土坑出土遺物			
PL_	192	V区132・135号土坑出土遺物			
PL_	193	V区136・144号土坑出土遺物			
PL_	194	V区145・150号土坑出土遺物			
PL_	195	V区151・153・155号土坑出土遺物			
PL_	196	V区156・158・160・166号土坑出土遺物			
PL_	197	V区166・170号土坑出土遺物			
PL_	198	V区171・177号土坑出土遺物			
PL_	199	V区177・179号土坑出土遺物			
PL_	200	V区180・191号土坑出土遺物			
PL_	201	V区192・198号土坑出土遺物			
PL_	202	V区199・209号土坑出土遺物			
PL_	203	V区209・213号土坑出土遺物			
PL_	204	V区214・218・220・227号土坑出土遺物			
PL_	205	V区228・230・231・233号土坑出土遺物			
PL_	206	V区234・240号土坑出土遺物			
PL_	207	V区240・245号土坑・配石・配石土坑出土遺物			
PL_	208	V区配石土坑・埋甕・焼土出土遺物・道構外出土遺物 (1)			
PL_	209	V区道構外出土遺物 (2)			
PL_	210	V区道構外出土遺物 (3)			
PL_	211	V区道構外出土遺物 (4)			
PL_	212	V区道構外出土遺物 (5)			
PL_	213	V区道構外出土遺物 (6)			
PL_	214	V区道構外出土遺物 (7)			
PL_	215	V区道構外出土遺物 (8)			
PL_	216	V区道構外出土遺物 (9)			
PL_	217	V区道構外出土遺物 (10)			
PL_	218	V区道構外出土遺物 (11)			

	7	20号土坑全景（北より）	7	36号建物全景（南西より）
	8	21号土坑全景（南西より）	8	36号建物建築材出土状態（北東より）
	9	22号土坑全景（南より）	PL. 245	1 33・37号建物全景北（東より）
	10	23号土坑全景（南より）		2 37号建物全景北（東より）
	11	25号土坑全景（南東より）		3 1号切石石組道構全景（東より）
	12	26号土坑セクション（西より）		4 1号切石石組道構全景（東より）
	13	26号土坑全景（西より）		5 35号石垣全景（南より）
	14	27号土坑全景（南より）		6 36号石垣全景（北より）
	15	28号土坑全景（南より）		7 33・37号建物・39号石垣出土状況（上空より）
PL. 238	1	1号棟上セクション（南より）		8 39号石垣出土状況（北東より）
	2	2号棟上セクション（西より）	PL. 246	1 39号石垣出土状況（東より）
	3	3号棟上セクション（南より）		2 39号石垣全景（東より）
	4	3号棟上全景（南より）		3 39号石垣全景（東より）
	5	1号水槽構全景（東より）		4 39号石垣全景（東より）
	6	1号水槽構全景（北西より）		5 煙・復旧坑全景（上空より）
	7	1号水槽構板材検出状態（南より）	PL. 247	1 1・2・3号復旧坑・38号石垣全景（南西より）
	8	1号水槽構全景（北西より）		2 2号復旧坑全景（東より）
PL. 239	1	24号溝・煙全景（南東より）		3 45号煙全景（西より）
	2	24号溝・煙および5号列石（北西より）		4 47・48号煙全景（東より）
PL. 240	1	V区（4面）・Ⅷ区（1面）全景（上空より）		5 53号煙全景（南より）
	2	32号建物全景（上空より）		6 53・54号煙全景（北東より）
PL. 241	1	32号建物全景（南東より）		7 2面確認1号トレンド（南より）
	2	32号建物廊下裏・窓（東より）		8 2面確認2号トレンド（西より）
	3	32号建物廊下裏・窓全景（東より）	PL. 248	1 IX区4号トレンド裏煙確認状況（西より）
	4	32号建物廊下全景（東より）		2 IX区4号トレンド裏煙確認状況（北より）
	5	32号建物北側全景（南東より）		3 IX区5号トレンド全景（北西より）
	6	32号建物廊下裏全景（南東より）		4 IX区6号トレンド裏煙確認状況（東より）
	7	32号建物廊下裏セクション（南より）		5 IX区4号トレンド裏全景（南より）
	8	32号建物窓全景（南より）		6 IX区4号トレンド裏全景（西より）
PL. 242	1	32号建物窓全景（東より）		7 IX区8号トレンド裏煙確認状況（東より）
	2	32号建物窓断ち割り状況（東より）		8 IX区9号トレンド裏煙確認状況（東より）
	3	32号建物窓構築材状況（東より）	PL. 249	V区2面溝・土坑、ピット、焼上、V・Ⅷ区道構外出土遺物
	4	32号建物遺物出土状態（西より）	PL. 250	Ⅷ区1面32号建物出土遺物
	5	32号建物遺物出土状態（北より）	PL. 251	Ⅷ区1面32～34・36号建物出土遺物
	6	32号建物遺物出土状態（南より）	PL. 252	Ⅷ区1面37号建物、石垣、Ⅷ区・IX区道構外出土遺物
	7	32号建物遺物出土状態（南より）		
	8	32号道構出土状況（南より）		
PL. 243	1	33号建物全景（上空より）		
	2	33号建物全景（南より）		
	3	33号建物全景（北より）		
	4	33号建物全景（南より）	PL. 1	1 道路遠景（東より）
	5	33号建物全景（北より）		2 岩陰遠景（東より）
PL. 244	1	34号建物全景（北より）	PL. 2	1 岩陰近景（東より）
	2	34号建物全景（南より）		2 1号トレンド（北より）
	3	35号建物全景（上空より）		3 2号トレンド（南東より）
	4	35号建物全景（南より）		4 3号トレンド（南西より）
	5	36号建物全景（上空より）		5 4号トレンド（東より）
	6	36号建物全景（南より）	PL. 3	出土遺物（1）
			PL. 4	出土遺物（2）

第1章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯

吾妻川は、その源を群馬・長野県境の鳥居峠に発し、浅間山・草津白根山の中間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支流を合わせ、途中、吾妻峠と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支流を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する全長76.2kmの一級河川である。

八ッ場ダムは、その吾妻川の中流に建設され、①洪水調節、②流水の正常な機能維持、③水道及び工業用水の新たな確保、④発電を目的とする多目的ダムで、天端標高586m、堤高116m、湛水面積約3.0km²、総貯水容量1,075億m³の規模を測る重力式コンクリートダムである。ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠字八ッ場、右岸が大字川原湯字金花山にあり、名勝「吾妻峠」の入口部付近にある。

八ッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として、昭和27（1952）年5月に調査着手後、平成4（1992）年7月、「八ッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施については、平成6（1994）年3月18日に建設省（現国土交通省）関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより、委託者である建設省関東地方建設局長と受託者である群馬県教育委員会教育長とが年度区分ごとに発掘調査受託契約を締結のうえ、以後発掘調査が実施されることが決定したのである。

この協定を踏まえて、平成6年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財團法人（現公益財團法人）群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受託契約を締結し、八ッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が

開始された。

平成11（1999）年4月1日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間で、「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書（第1回変更）」が締結され、発掘調査受託契約についての変更が行われた。これにより、受託者が群馬県教育委員会教育長から財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長となり、その後の数度の変更を経て現在の体制に至っている。

東宮遺跡は長野原町大字川原畠字東宮に所在する。平成7（1995）年度（12月4日～12月22日、平成8（1996）年2月22日～3月7日）及び平成9（1997）年度（8月18日～8月29日）の2ヵ年度にわたって、工事用進入路（川原畠進入路）建設及び町道付け替えに伴い、発掘調査が実施されてきた。調査の結果、天明3（1783）年の浅間山噴火に伴う泥流堆積物（以下、「天明泥流」と略す）に埋没した烟跡が3地点において検出され、新発見の遺跡となった。この発掘調査の成果は、『八ッ場ダム発掘調査集成（1）』（2002、群理文303集）により、既に報告済みである。

その後、八ッ場ダム建設工事の進展に伴い、これまで実施されてこなかったダム水没予定地域の埋蔵文化財調査が着手されることになり、東宮遺跡は、その先がけとして、発掘調査対象遺跡に選定された。

まず、平成18（2006）年5月12日、群馬県教育委員会文化財保護課により、東宮遺跡東部分について試掘・確認調査が実施され、結果、事業地内の一部で、天明泥流に埋没した烟跡の分布が確認された。次に、同年9月21・22日、同課により、遺跡西部分についても、試掘・確認調査が実施され、天明泥流に埋没した屋敷跡及び烟跡の分布が各2地点で確認された。どちらの試掘・確認調査の結果からも、本格的な発掘調査の必要があるとの判断に至った。

第2節 調査の方針・方法・経過

1 調査の方針

東宮遺跡では、平成18（2006）年9月に実施された群馬県教育委員会文化財保護課の試掘・確認調査の結果から、天明泥流に埋没した屋敷跡の存在が2地点において確認されていた（I区1号・IV区8号屋敷跡）。屋敷跡は、平面距離で約50mの範囲内で確認されたことから、八ッ場ダム建設に関わる長野原町大字5地区においては、これまでに発掘調査例のない、近世集落主体部（当時の川原畠村）に関わる調査となることが予想された。

また、調査原因がダム水没予定地域の発掘調査であることから、以後、調査範囲が、遺跡全体或いは新発見の遺跡を含めて、川原畠地区全体へ広範囲に拡大していくことも予想された。

そこで、以上の経験を踏まえた上で、調査方針は、「集落の構成要素である遺構（屋敷・畑・溝・石垣・井戸・道など）を精査し、記録保存を実施するとともに、集落の全体像（景観）を明らかにすること」とした。

さらに、調査を進めると、V・VII区における近世集落の下層より縄文時代の遺構や遺物が確認された。調査の状況から広範囲に及ぶ遺構の存在が予想された。そこからは、縄文時代の集落を想定した調査に焦点をあてて調査方針が決められた。検出された主な遺構は竪穴建物、土坑、埋甕、配石、配石土坑、列石、焼土等であり、縄文時代の集落を構成する要素を示していた。掘り進めるにしたがって遺構の範囲は広がり、縄文時代の密集した集落の全容が明らかとなっていました。

2 発掘調査の方法

東宮遺跡は、主に吾妻川中位河岸段丘面上に立地し、天明泥流に被覆されている。

調査は、まず、バックホーを使用することにより、天明泥流の除去作業から始めた。その後、発掘作業員を導入し、ジョレンや移植ゴテ等による遺構の検出作業、並びにトレンチ掘削や截ち割り作業等により、遺構調査を実施した。

遺物取り上げについては、遺構別地点別取り上げを基本とし、遺物の所属が明らかでない遺物に関しては、遺

構外遺物として通番で取り上げ、整理段階で想定できた遺構の遺物として報告した。遺構平面測量にあたっては、測量業者委託によるデジタル測量を基本として、縮率1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。

遺構断面測量も平面測量に準じた。

遺構写真については、委託業者による航空写真撮影（ラジコンヘリコプター使用）、現場担当者による地上写真、並びに高所作業車及びドローン使用による高所写真撮影を行った。現場担当者による撮影には、デジタルカメラ（Canon EOS Kiss Digital N）と6×7版モノクロネガフィルムを使用した。

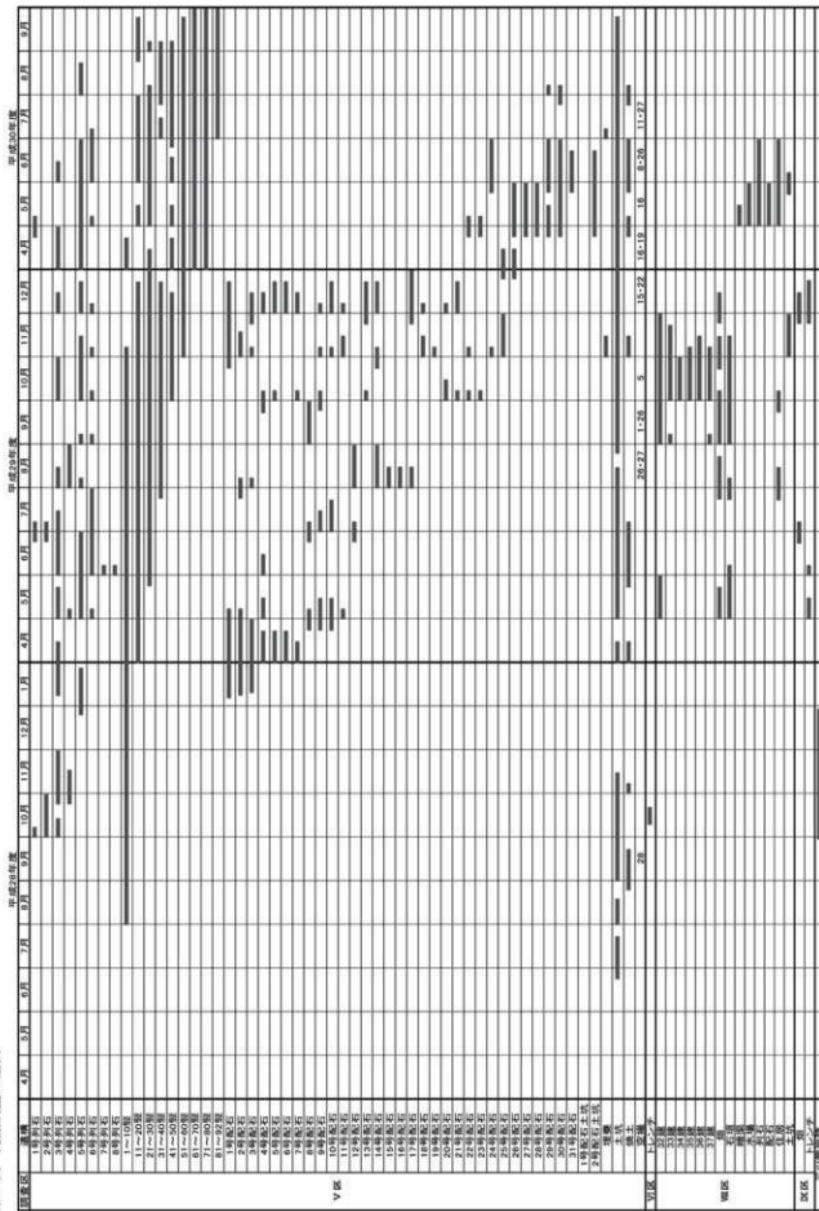
3 調査の経過

（1）発掘調査の経過

東宮遺跡の発掘調査は、前記の平成7（1995）・9（1997）年度の後、平成19（2007）年度に再開され、平成19年度（11月1日～12月26日）、平成20（2008）年度（4月1日～12月26日）、平成21（2009）年度（7月1日～12月26日、8月と11月に一時中断）、平成26（2014）年度（7月1日～12月25日）、平成27（2015）年度（6月1日～6月30日）、平成28（2016）年度（4月1日～1月31日、三ツ堂岩陰を含む）、平成29（2017）年度（4月1日～12月31日）、平成30（2018）年度（4月1日～9月30日）に実施された。これらの発掘調査の成果は、平成27年度までの成果および平成28年度の第1・2面（後述）の成果が『東宮遺跡（1）』（2011、群理文514集）、『東宮遺跡（2）』（2012、群理文536集）、『東宮遺跡（3）』（2017、群理文628集）、『東宮遺跡（4）』（2018、群理文633集）として調査報告書に纏められている。

平成28年度の発掘調査は、現況道路を区境として、平成27年度A区北西側の旧JR吾妻線までの区画を5区、5区の東側を6区、平成26年度以前に調査されたI・II・IV区北側の斜面を7区として、調査区を設定した。各区から第1面（近世、天明泥流下）、5・6区から第2面（中近世）、5区からはさらに第3面（縄文時代後期）と第4面（縄文時代中期）が確認された。第3面以下は平成29年度に継続調査となった。なお、調査区名については、整理事業においてA・5区をV区、6区をVI区、7区をVII区と改めた。

第1表 発掘調査工程表



第1章 調査の方法と経過

【東宮遺跡平成28年度日誌抄】

4月1日（金） 調査準備
4月5日（火） V区西側第1面調査開始
5月23日（月） V区西側第1面調査終了、第2面調査開始
6月6日（月） V区西側で縄文包含層（第3面以下）確認
7月6日（水） V区東側第1面調査開始
8月2日（火） V区西側第2面調査終了、第3面調査開始
8月4日（木） VI区第1面調査開始
8月10日（水） V区東側第1面調査終了、第2面調査開始
9月26日（月） V区東側第2面調査終了、第3面調査開始
10月7日（金） VI区第1面調査終了
10月11日（月） VI区第2面調査開始
11月16日（水） VI区第2面調査終了、VII区調査開始
12月21日（水） VII区調査終了
12月28日（水） 調査一時終了
1月4日（水） 調査再開
1月31日（金） 平成28年度調査終了

平成29年度の発掘調査は、前年度から引き続き5区（V区）第3面（縄文時代後期）以下の調査を行うとともに、旧J R吾妻線とI・IV区および平成7（1995）・9（1997）年度調査区に挟まれた区画を8区、旧J R吾妻線とII・IV区および平成7・9年度調査区に挟まれた平成28（2016）年度末まで未調査であった区画すべてを9区として、調査区を設定した。8・9区から第1面（近世、天明泥流下）、8区から第2面（中近世）・第3面（縄文時代後期）が確認された。5・8区第3面以下は平成30年度に継続調査となった。なお、調査区名については、整理事業において8区をVII区、9区をIX区と改めた。

【東宮遺跡平成29年度日誌抄】

4月3日（月） 調査準備
4月10日（月） V区第3面調査再開・第4面調査開始
5月18日（木） VII区第1面調査開始
5月24日（水） IX区第1面調査開始
6月6日（火） VII区第1面調査一時中断

6月22日（木） IX区第1面調査一時中断
7月10日（月） IX区第1面調査再開
7月14日（木） IX区第1面調査一時中断
8月23日（水） VII区第1面調査再開
11月13日（月） VII区第2面調査開始
11月16日（木） VII区第1面調査終了
12月7日（木） VIII区第2面調査終了
12月8日（金） VIII区第3面調査開始
12月13日（水） IX区第1面調査再開
12月26日（火） IX区第1面調査終了
12月28日（木） 平成29年度調査終了

平成30年度の発掘調査は、前年度から引き続き5・8区の3面以下の継続調査を行った。縄文時代中期、後期の遺構、遺物が確認された。なお、報告書記載時の区名については、整理事業時に、前報告書（4）に倣い、区名については5区をV区、8区をVII区と、ローマ数字に改めた。

【東宮遺跡平成30年度日誌抄】

4月2日（月） 調査準備
4月5日（木） V区3面調査開始
4月19日（木） V区3面全景写真（空撮）
5月1日（火） VII区3面調査開始
5月16日（水） V区3面全景写真（空撮） 3面調査終了
VII区3面全景写真（空撮）
6月8日（金） V区4面全景写真（空撮）
VII区3面全景写真（空撮） 3面調査終了
6月26日（火） V区4面全景写真（空撮）
VII区4面全景写真（空撮） 4面調査終了
7月27日（金） V区4面全景写真（空撮）
9月28日（金） V区4面調査終了

三ッ堂岩陰の発掘調査は、平成28年度（10月6日～11月30日）に実施された。遺構は確認されず、表土中より石製品等の遺物が出土した。

【三ッ堂岩陰平成28年度日誌抄】

10月6日（木） 調査準備
10月24日（月） 調査開始
11月30日（水） 調査終了

(2) 整理事業の経過

整理事業は、平成29（2017）年4月1日から平成30（2018）年3月31日までの12ヶ月間、平成30（2018）年4月1日から令和2（2020）年3月31日までの24ヶ月間、合計36ヶ月間実施した。

遺構については、図の修正作業の後にデジタル編集作業を行い、併せて遺構写真の選定、本文執筆を行った。遺物については、接合・復元、掲載遺物の選定、写真撮影、実測作業、これら遺物図のトレース作業を行い、各遺物の観察表の執筆を行った。なお、東宮遺跡平成27年度調査分および平成28年度調査分の第1・2面については、「東宮遺跡（4）」にて報告済みである。

一連の作業後、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者委託して発掘調査報告書を刊行した。

なお、整理作業において、遺構名称・番号等の変更が生じたが（各遺構一覧表参照）、これに伴う遺物注記についての書きかえは行っていない。

出土遺物については、接合・復元、掲載遺物の選定、写真撮影、実測作業、これら遺物図のトレース作業を行い、各遺物の観察表の執筆を行った。一連の作業後、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者委託して発掘調査報告書を刊行した。

遺物・図面・写真等の記録資料については、群馬県埋蔵文化センターに収納、保管している。

第3節 調査区の概要

1 調査区の設定

平成6（1994）年度から始まった八ッ場ダム建設に伴う発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて、「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下、本報告書でもそれに準拠し、必要部分について掲載する。

調査における遺跡番号は、八ッ場ダム建設に関わる長野原町の大字5地区（1：川原畑、2：川原湯、3：横壁、4：林、5：長野原）、東吾妻町の大字3地区（6：三島、7：大柏木、8：松谷）に番号を付し、八ッ場ダムの略

号（YD）に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡に対して調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。東宮遺跡は「YD 1-02」、三ッ堂岩陰は「YD 1-10」である。

基準座標は、国家座標（2002年4月改正以前の日本測地系）に基づく平面直角座標第IX系（日本測地系）を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点（座標値X=+58,000.0、Y=-97,000.0）とした1km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。本遺跡はこの42地区に所在する。さらに、1km方眼を南東隅から100m方眼の1～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を1とし、東から西へ連続する10位を南から北へ配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。

「区」の100m方眼は、さらに4m方眼で625区画に分割され、その4m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には1～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としグリッドを呼称する。また、遺構図や本文中の記載において、特に混乱が予想されない場合は地区番号を略して用いている（例：41区X-10）。

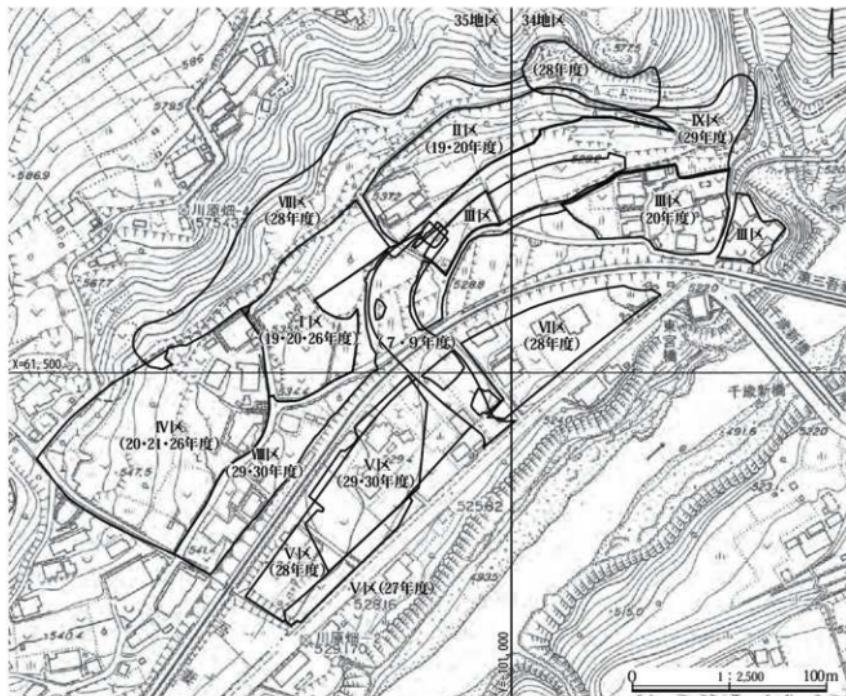
2 調査前の状況

東宮遺跡I区は、南側の町道1-5号線、西側から北側にかけての旧町道1-11号線、東側の町道1-4号線により区画された調査区を呼称する。

天明泥流の堆積状況については、80～130cmの表土及び天明泥流堆植物により被覆されていた。ただし、一部の石垣については、その上端部が泥流に埋没していない状況で現地表面に露出していた。

II区は、西側と北側は町道1-4号線（北側は旧道に相当する）と南側の1-13号線（工事用進入路、平成7・9年度調査区）に区画された調査区を呼称する。十数年前まで1軒の住宅が存在した。居住するとともに土地所有者であった野口家は、当該地域では「東の家（ヒガシンチ）」と呼ばれる東宮地区を代表する旧家のひとつで、天明泥流被災に関わるいくつかの伝承も残る家系である。また、II区の北側の境界は旧町道1-4号線を挟んで三ッ堂岩陰（旧三ッ堂）と隣接する。

III区は、西側と北側は町道1-13号線（工事用進入路、平成7（1995）・9（1997）年度調査区）、東側は松葉沢、



第1図 調査区設定図（長野原町1/2500「長野原都市計画図」 平成18年発行を使用）

南側は旧JR吾妻線に区画された調査区を呼称する。東宮地区の東部集落部（「東沢地区」と地元では俗称する）に相当するため、十数年前まで8～9軒の住宅が存在していた。

IV区は、西側は境沢（東宮地区と西宮地区との境界）、南側は旧町道1～5号線、東側は旧町道1～11号線に区画された調査区を呼称する。東宮地区の西部集落部に相当するため、十数年前まで5～6軒の住宅が存在していた。天明泥流の堆積状況については、全体的に厚さ約1mの表土及び天明泥流堆積物に被覆されていた。ただし、段丘崖へ向かって天明泥流の堆積厚が漸次薄くなる傾向が認められる。

V・VI区は、北西側は旧JR吾妻線、南東側は旧国道145号に区画された調査区を呼称する。V・VI区の境界は町道1～13号線（工事用進入路、平成7・9年度調査

区）である。十数年前まで4～5軒の住宅が存在していた。全体的に厚さ約50～180cmの表土及び天明泥流堆積物に被覆されていた。

VII区はI・II・IV区北西側の段丘崖に位置する調査区を呼称する。全体的に厚さ約30～100cmの表土及び天明泥流堆積物に被覆されていた。全調査区中でVII区が最も堆積が薄い。VII区南東端は三ッ堂岩陰（旧三ッ堂）に隣接する。

VIII区は、南東側は旧JR吾妻線、北西側はI・IV区、東側は町道1～13号線（工事用進入路、平成7・9年度調査区）に区画された調査区を呼称する。十数年前まで2～3軒の住宅が存在していた。全体的に厚さ約50～80cmの表土及び天明泥流堆積物に被覆されていた。

IX区は、西側と北側は町道1～13号線（工事用進入路、平成7・9年度調査区）、東側は松葉沢、南東側は旧JR R

吾妻線に区画された調査区のうち、平成28（2016）年度末まで未調査であった調査区すべてを呼称する。

従来はⅢ区（未調査）とされていた部分であるが、平成27（2015）年度にⅤ区以降の遺構番号が改めて各遺構1号から附番されたため、Ⅲ区における遺構番号の重複等の混乱を避けるため、改めてⅨ区とした。これにより、Ⅲ区はⅨ区により東西に分断されることとなった（第1図参照）。Ⅸ区は、主にⅡ・Ⅶ区および三ッ堂岩陰方向へと上る斜面にあたり、十数年前まで畑として利用されていた。上段部は50～70cmの表土及び天明泥流堆積物に被覆、下段部では約1mが確認された。

本書において報告する調査成果は、Ⅷ区において調査残となっていた電柱敷部分の1・2面、および3・4面（縄文面）、Ⅵ区4面（トレンチ）、Ⅶ区1・2面、Ⅸ区1面である。調査年度は平成28～30である。

三ッ堂岩陰は東宮遺跡Ⅱ・Ⅷ区に隣接する岩陰である。全体的に厚さ約30cmの表土に被覆されていた。ここには、平成20（2008）年3～4月に移転するまで、地域住民の信仰の対象であった旧三ッ堂および石造物群が存在していた。この旧三ッ堂には、「浅間押しのときは耶馬溪に水が堰き止められ上昇し、三ッ堂に上る石段（19段）の下から3段目のところまで水がのった」という伝承がある。なお、三ッ堂の名称は、明治期まで觀音堂、阿弥陀堂、毘沙門堂の3堂が存在したことに由来する（觀音堂のみ残り、移転）。

参考文献

- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『長野原一本松遺跡（1）』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『ハッカ場ダム発掘調査集成（1）』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『久々戸遺跡・中郷II遺跡・下崩遺跡・横堀中村遺跡』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『川原湯懸垂遺跡（2）』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『三平I・II遺跡』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東宮遺跡（1）』
- （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『東宮遺跡（2）』
- （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『東宮遺跡（3）』
- （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『東宮遺跡（4）』
- 関俊明2003「7月27日～29日降下As-A輕石「難解」としての位置付け－天明三年浅間災害に関する地域的研究－」『研究紀要』21（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

3 基本土層

東宮遺跡はほぼ全域が天明泥流に被覆されており、その堆積の厚さは約1.80m～0.3mである。

天明泥流は、比高約50mに及ぶ段丘崖の中腹まで一時的に達していると考えられ、漸次堆積厚は小さくなる傾向はあるが、調査により、標高542.0mまで到達点を確認した。泥流の発生日時は、天明3（1783）年7月8日（新暦8月5日）である。

泥流直下には、浅間A輕石（As-A）が約1cmの厚さで堆積している。浅間A輕石降下日時は、新暦7月27～29日と推測されている（関俊明2003）。

本遺跡に堆積する浅間A輕石の降下日時は新暦7月27～29日頃とすると、泥流発生日時との間には1週間ほどの時間差が存在したこととなる。

天明3（1783）年の遺構面の下層には、黒褐色土層（平安時代遺物包含層、V区西側のみ）、さらに、褐色・黄褐色のローム二次堆積層等が堆積しているが、調査区内には湧水（伏流水）が広範囲に多数存在するため、深層までの明確な基本土層の確認には至らなかった。

V区については、2、3面調査時に列石の一部、および散石堅穴建物の一部が検出されたことから、縄文時代の遺構の広がりが想定され、平成28年度の冬季調査により複数の列石の存在を確認、さらに29・30年度の調査により、縄文中期後半から後期中葉にかけての、列石、配石を作り大規模な集落であることが明らかになった。

基本土層（第2図）

東宮遺跡における基本土層については、天明泥流の耕作土以下は、場所により様相が大きく異なっている、ここにV区の南西側から北東に向かって傾斜が見られ、この傾斜面を覆う複数回の洪水層（山崩れ層）が認められる。さらにこれらの洪水層は極めて不均一な堆積状況を呈しており、基盤層の高いV区の南西側は薄く、逆に下がっている南東側は厚く堆積している。こうしたことから、1面とした天明泥流下面、および2面までについては、おおよそ時代的には面として確認が可能であったが、3面以下については、面としてとらえることには限界があり、縄文面とした3および4面については、平面的な分別は不可能であったため、同一面として調査を行っている。

V区南西側

I	表土 灰褐色土 大小の礫含む、砂質で泥炭主体の複合土、複合の複土	表土 灰褐色土 大小の礫含む、砂質で泥炭主体の複合土、複合の複土
II	天明後の耕作土	天明後の耕作土
III	黒褐色土	黒褐色土
V	にぶい黒褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 灰褐色土 天明泥炭土、小礫含む粗粒土	にぶい黒褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 にぶい黒褐色土 天明泥炭土、小礫含む粗粒土
VI	にぶい黒褐色土 VII	にぶい黒褐色土 VIよりやや風味あり
VII	黒褐色土 白色、褐色の砂多く含む、第2面積認面	黒褐色土 白色、褐色の砂多く含む、第2面積認面
IX	黄褐色土 炭化物、鐵、褐色砂多く含む砂層	黄褐色土 黄色粒多く含み粘性、しまりあり
X	にぶい黄褐色土 褐色、灰白色を含み小角礫多く含む、第3面積認面	黒褐色土 粘性あり、炭酸物少なく礫粒
XI	にぶい黄褐色土 Xより砂質で褐色、灰白色、小角礫は含まず	黄褐色土 明るい色調てしまりあり
XII	暗黒褐色土 黒味あり、韌性、やや粘性を持ち、第4面積認面	暗灰褐色土 黒味強く粘性あり、小角礫含む
XIII	黄褐色土 崩壊な角礫多く含む	黒褐色土 黄褐色土
XIV	褐灰色土 にぶい黄褐色土	黄褐色土 小岩砂含む含む
XV	褐色・灰褐色土 砂質で礫含む、粗粒土	褐灰色土 褐灰色土
XVI	XVII	砂質で礫含む、粗粒土 黒褐色土 黒褐色土 細粒でしまりあり

V区北東側

I	表土 灰褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 にぶい黒褐色土 VII	表土 灰褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 にぶい黒褐色土 VII
II	天明後の耕作土	天明後の耕作土
III	人小の礫含む、砂質で泥炭主体の複合土、複合の複土	人小の礫含む、砂質で泥炭主体の複合土、複合の複土
V	にぶい黒褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 にぶい黒褐色土 天明泥炭土、小礫含む粗粒土	にぶい黒褐色土 天明泥炭土、礫含む粘粒土 灰白色軽石 にぶい黒褐色土 天明泥炭土、小礫含む粗粒土
VI	にぶい黒褐色土 VIよりやや風味あり	にぶい黒褐色土 VIよりやや風味あり
VII	黒褐色土 白色、褐色の砂多く含む、第2面積認面	黒褐色土 白色、褐色の砂多く含む、第2面積認面
IX	黄褐色土 炭化物、鐵、褐色砂多く含む砂層	黄褐色土 黄色粒多く含み粘性、しまりあり
X	にぶい黄褐色土 褐色、灰白色を含み小角礫多く含む、第3面積認面	黒褐色土 粘性あり、炭酸物少なく礫粒
XI	にぶい黄褐色土 Xより砂質で褐色、灰白色、小角礫は含まず	黄褐色土 明るい色調てしまりあり
XII	暗黒褐色土 黒味あり、韌性、やや粘性を持ち、第4面積認面	暗灰褐色土 黒味強く粘性あり、小角礫含む
XIII	黄褐色土 崩壊な角礫多く含む	黒褐色土 黄褐色土
XIV	褐灰色土 にぶい黄褐色土	黄褐色土 小岩砂含む含む
XV	褐色・灰褐色土 砂質で礫含む、粗粒土	褐灰色土 褐灰色土
XVI	XVII	砂質で礫含む、粗粒土 黒褐色土 黒褐色土 細粒でしまりあり

※ 柱状図西側、東側のⅧ層以下については、同数字が必ずしも同じ層を示すものではない。

第2図 基本土層

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

東宮遺跡・三ッ堂岩陰の所在する長野原町は群馬県北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町域の北部を吾妻川が東流し、川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には、吾妻川より北側に高間山（1342m）や王城山（1123m）、南側に丸岩（1124m）や菅峰（1474m）、浅間隱山（1757m）、鼻曲山などが南北に連なる。長野原町は、その地形の特徴から、高間及び白根の両山系と菅峰に挟まれた吾妻川流域地帯の北部と浅間高原地帯の南部とに大別される。

吾妻川は、長野県境の鳥居峰（1362m）付近に水源を発して東流し、町域のほぼ中央では川幅をやや広くするものの、東端では新第三紀層を刻んで吾妻渓谷を形成している。その支流は、両岸の山地から発する河川や溪流が多く、左岸には草津白根山麓から発する万座川や赤川、遼沢川、上信越国境の白砂山麓から発する白砂川などが南流する。また右岸には、浅間山麓から発する小宿川や、鼻曲山麓から発する熊川などが北流する。流長76.2kmの吾妻川は、渋川市街地付近で、全長322kmの利根川に合流する。

長野原町は、地質構造上では那須火山帯と富士火山帯が接する付近にあるため、周囲の山地は火山活動により形成された火山性山地が多く、浅間山や白根山は現在も活動を続ける。高間山や王城山、菅峰も約100～90万年前頃活動していた火山であるが、現在は浸食が進みほとんど原形を止めている。

地下のマグマが上昇し、冷却したドーム状の地形を形成したものが「丸岩」である。丸岩は南側を除いた三方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、吾妻川方面から望むと巨大な円柱状に見える特徴的な岩峰である。それは、長野原・横壁・林・川原湯・川原畑のハッ場ダム関連の5地区どこからでも望むことができるランドマークとなっている。

吾妻川両岸には、川床からの比高を基準に、最上位・

上位・中位・下位の4段階の河岸段丘面が形成されている。現在の吾妻川からの平均的な比高は、最上位段丘で約80～90m、上位段丘で約60～65m、中位段丘で約30～50m、下位段丘で約10～15mを測る。

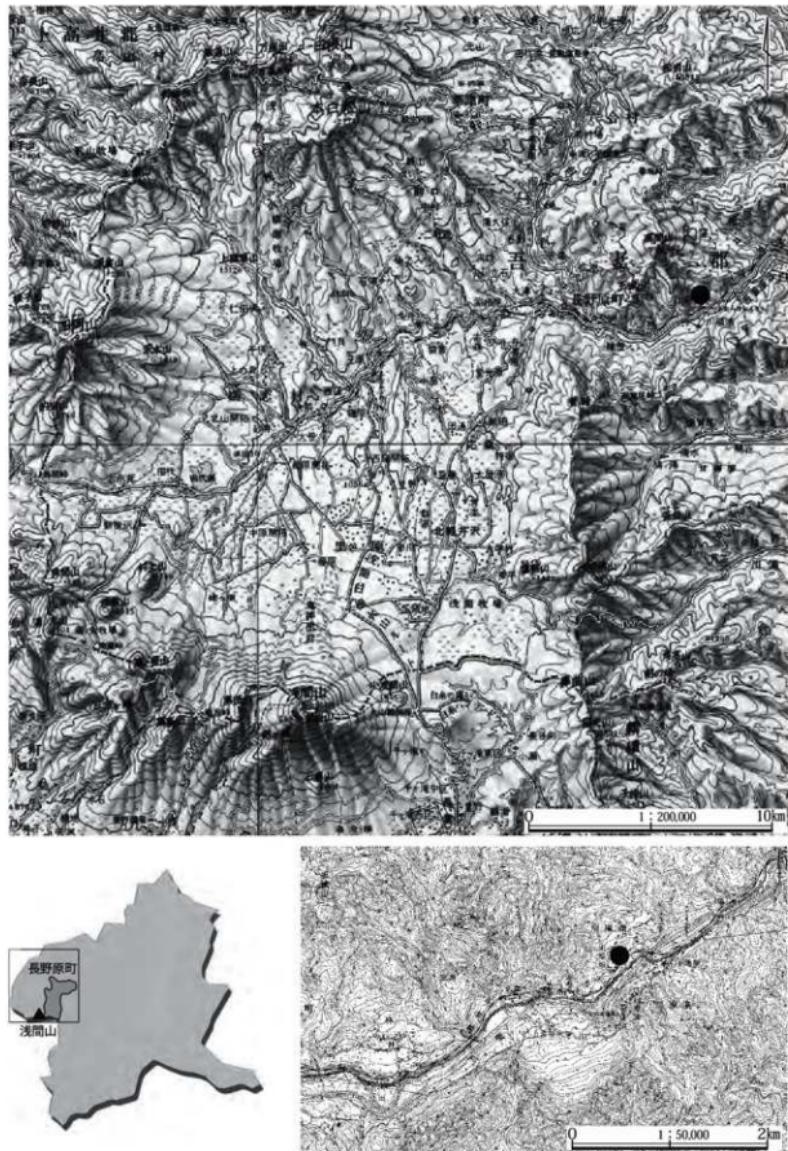
長野原町の地質形成に大きな影響を与えた火山が浅間山である。町域の南西部、長野県境に位置し、古い方から黒斑山・仏岩・前掛山・釜山の4つの火山体で構成される標高2568mの成層火山である。

約2.4万年前の黒斑火山は、山体崩壊によって「応桑泥流」が発生した。この泥流堆積物は、当時の河床を數十mの厚さで埋めており、その後の浸食によって吾妻川両岸に最上位と上位の河岸段丘面が形成されたといわれる。

浅間山はその後も多くの火山噴出物を堆積させているが、特に町域では浅間草津黄色軽石（As-YPk:1.6万年前）の堆積が顕著である。また、浅間Bテフラ（As-B:天仁元（1108）年）や浅間柏川テフラ（As-Kk:大治3（1128）年）も平安時代の黒色土中に数cmの厚さで確認できる。さらに江戸時代の天明3（1783）年の噴火により発生した泥流（天明泥流）は、下位段丘面や中位段丘面を平均約1mの厚さで覆っている。

東宮遺跡は、標高約525～540mの吾妻川左岸中位河岸段丘面上の、長野原町大字川原畑に、三ッ堂岩陰は、標高約550～570mの中位～上位河岸段丘面上の長野原町大字川原畑に所在する。両遺跡共に、高間山の南東麓に位置する。高間山頂から吾妻川左岸に露出する川原湯岩脈（国指定天然記念物）の方向へは、南に延びる細長い尾根が張り出しており、尾根の東、川原畑地区内を流れる戸倉沢・ミョウガ沢・境沢・松葉沢・八ッ場沢・穴山沢、その支流の鈴沢と温井沢等の溪流は、すべて高間山及びこの尾根に源を発している。従って、川原畑地区内の溪流は、源流付近では東流し、中・下流から吾妻川へ流れ込む付近にかけて、次第に南流する傾向がある。

本遺跡は、西側の境沢、東側の松葉沢に区画された中位河岸段丘上の平坦地に主として立地している。



第3図 遺跡位置図(国土地理院1/200000地勢図「長野」平成18年11月1日発行・1/50000地形図「草津」平成11年1月1日発行を使用)

第2節 歴史的環境

1 周辺の遺跡

東宮遺跡周辺において多くの調査が行われている。本節では主な遺跡について概観しておきたい。遺跡の（数字）は第4図中の遺跡番号を示す。

旧石器時代

現在のところ、長野原町域においては、旧石器時代の遺跡は確認されていない。

縄文時代

吾妻川およびその支流沿岸の段丘面、特に中・上・最上位河岸段丘、丘陵部に遺跡が多く分布し、集落が展開する。八ヶ場ダム建設関連の発掘調査により、草創期から後・晚期にかけて多くの遺跡が調査されている。

草創期・早期の遺跡は吾妻川左岸の、上位段丘面に広く存在が見られる。榎木II遺跡、立馬I・II遺跡（15・16）、上原I遺跡（22）、三平I遺跡（5）があげられる。また、段丘下段部の遺跡として石畠I岩陰（8）があり、表裏縄文土器が出土している。

前期の遺跡としては三平I・立馬I・II遺跡、榎木II遺跡（36）において初頭から末にかけての遺構、遺物が確認されている。

中期になると遺跡数・遺構量とも大幅に増加する。拠点的な集落遺跡として上ノ平I遺跡（3）・林中原II遺跡（28）・長野原一本松遺跡（48）・横壁中村遺跡（38）、石川原遺跡（13）等があげられ、横壁中村遺跡、石川原遺跡は晚期まで続いた集落として注目される。

東宮遺跡に関しては、確認当初は列石、配石を作り、後期を主体とした遺跡と想定されたが、調査の結果、中期から続いた大規模集落であることが判明した。

長野原地内における縄文時代中期後半期の新たな拠点的な集落として改めて認識され、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林中原II遺跡と並ぶ大集落であることが明らかになった。

後期になると、中期の遺跡に比べ遺跡数・遺構量ともやや減少するものの、中期から続く林中原II遺跡・長野原一本松遺跡・横壁中村遺跡等で遺構、遺物が確認されている。

東宮遺跡についても、後期になり竪穴建物の他複数の

列石、配石遺構等を作り、この時期としては大規模な集落であったことが明らかとなった。

晩期になると遺跡数・遺構量はさらに減少する。単発的な遺跡としては、川原湯勝沼遺跡（14）からは氷II式土器を作り土坑、再葬墓と考えられる大型の壺、壺型土器を作り土坑が確認されている。また、立馬I・II遺跡でも遺構、遺物が確認されている。さらに、晩期の集落としては、共に吾妻川右岸に所在する、横壁中村遺跡、石川原遺跡で晩期の遺構、遺物が多く発見され、特に石川原遺跡では配石墓群や水場遺構等が検出され、注目される。

弥生時代

長野原町域においては、弥生時代の遺跡は少ないものの、尾坂遺跡（46）からは前期の再葬墓や土坑、立馬I遺跡からは中期の竪穴建物と甕棺墓が確認されている。また、横壁中村、川原湯勝沼遺跡、下田遺跡（29）等などでも出土が見られる。

古墳時代

長野原町においては、古墳時代の遺跡は少なく、現在のところ、古墳は確認されていないが、上原I遺跡からは前期と推定される竪穴建物、下原遺跡・上原IV遺跡（21）からは6世紀前半代の竪穴建物が確認されている。

奈良・平安時代

長野原町においては、奈良時代の遺跡は確認されていない。平安時代の9世紀中頃になると集落が多く造られるようになる。上ノ平I遺跡からは、皇朝十二銭の1つである「貞觀永宝」や、多くの灰釉陶器等が出土している。この他、横壁中村遺跡・榎木II遺跡、尾坂遺跡等においても集落が確認されている。また鍛冶遺構を作り竪穴建物も、上原III遺跡、三平I遺跡等などで確認されている。

また、当該期の陥し穴と考えられる土坑が集中して確認されている。特に吾妻川左岸側の段丘上に営まれた集落の周囲に多く見られ、長野原一本松遺跡、上ノ平I遺跡、三平I遺跡、立馬I・II遺跡、花畠遺跡、上原III遺跡等が挙げられる。

中世

長野原町における中世城館は、金花山砦跡（30）・丸岩城跡・長野原城跡等がある。

城館以外では、横壁中村遺跡で屋敷跡、林中原I遺跡

で中世の堅穴建物や湧水を利用した池や石垣が、三平Ⅰ遺跡（7）・三平Ⅱ遺跡（8）・東原Ⅰ遺跡（21）・東原Ⅱ遺跡（22）・東原Ⅲ遺跡（23）・榆木Ⅱ遺跡では土坑・畝等が確認されている。

近世

長野原町域においては、天明3年の泥流で埋没した多くの遺跡が、ハッカダム建設工事に伴い発掘調査されている。これらの遺跡は吾妻川流域の比較的標高の低い段丘面に位置し、広大な畑が確認されている。

当時の集落は東宮遺跡のほか西宮遺跡（11）・石川原遺跡・尾坂遺跡・町遺跡・下田遺跡等で調査が行われており、当時の村落景観が極めて良好な状態で検出されている。

東宮遺跡においては、平成7年から開始された調査により、38棟もの建物が検出されており、これらに伴って多くの生活具が出土し、当時の様子を知る貴重な資料を提供している。

今回の調査において検出された建物は、旧川原畠村の東端部分の様子を知る意味でも貴重な調査資料の発見となっている。

また、生産遺構である畑に関しては、上記以外の遺跡として、久々戸遺跡・西久保Ⅰ～IV遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・川原湯勝沼遺跡・西ノ上遺跡・下湯原遺跡などで広範囲に確認されている。

2 川原畠村の概要・変遷

川原畠村（長野原町大字川原畠）は、群馬県北西部の高間山南東麓に位置し、その大部分は山林である。集落は吾妻川左岸の河岸段丘面上（中位及び最上位河岸段丘）に存在し、中位段丘面上の集落部を川原畠村下村、最上位段丘面上の集落部を上村と一般に称する。

「河原畠村」の地名は、天正12（1584）年と推定される12月25日付の真田昌幸朱印状に見える（『渡文書』『群馬県史』資料編7（中世3）所収）。天正18（1590）年より真田氏（沼田藩）領となり、天和元（1681）年の真田氏改易後、幕府領となった。

明治時代に入ると、明治5（1872）年の大小区制期には第20大区第10小区に属し、明治11（1878）年の郡区町村制に移行すると、林村、横壁村、川原畠村、川原湯村が組み合わされて林村に戸長役場が置かれた。その後、

明治17（1884）年には、戸長配置区域の改正があり、川原畠村外3カ村戸長役場として、川原畠村に連合戸長役場が置かれることとなった。さらに、明治22（1889）年の市町村制の施行により、10カ村が合併して長野原町になると、旧来の町村は大字となり、長野原町大字川原畠村と称したが、大正6（1917）年からは村の呼称がとれ、長野原町大字川原畠となった。

3 川原畠村と交通

鎌倉時代の建久4（1193）年、源頼朝の三原野狩の往路は、碓氷峠を越え、軽井沢、中軽井沢を経て六里ヶ原を通り、柳原は、狩宿村から万騎峠を越え、関屋（本宿村）に向かったと伝承されている。

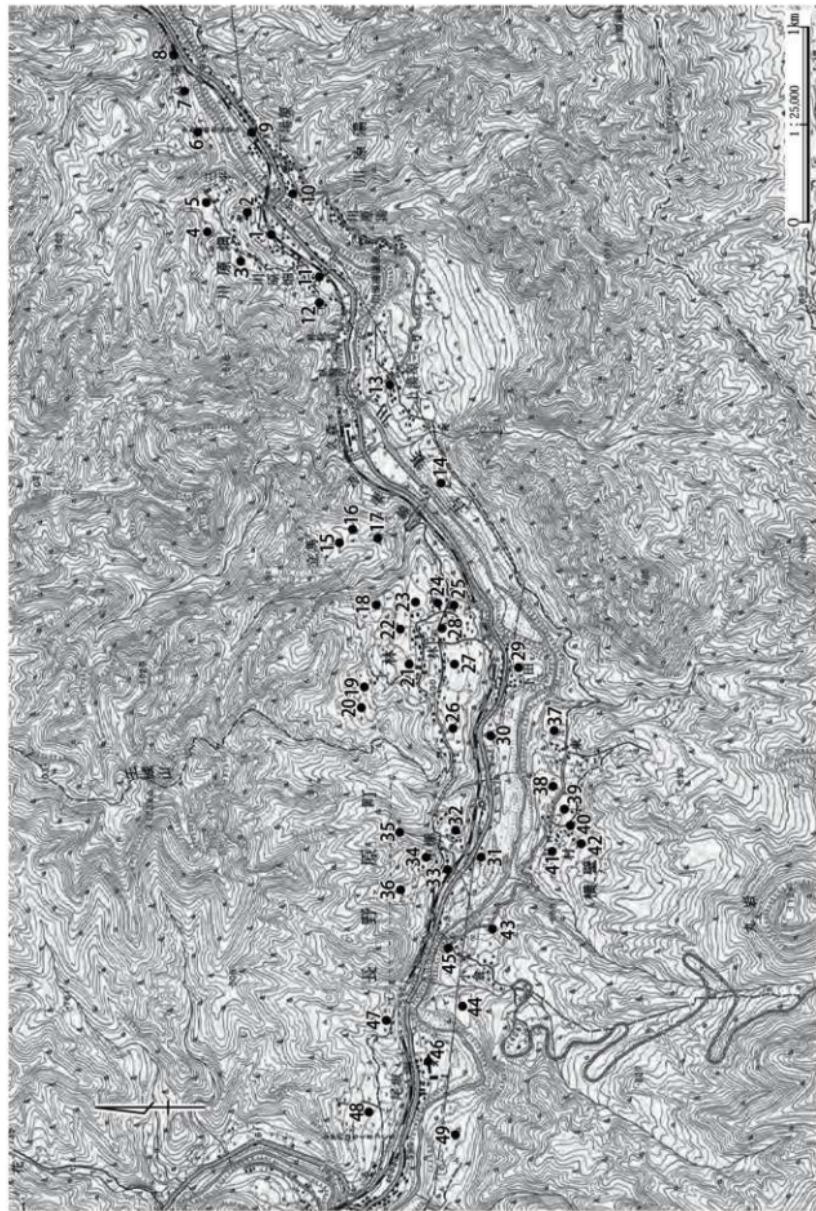
また、戦国時代になり、永禄6（1563）年、長野原合戦の際に、岩櫃軍の長野原城への攻路をみても、天險を越え大城山（王城山）へ駆け上った道や幕坂峠を越え湯窪（湯久保）へ、または火打花を経て長野原へと入る道があったとされている。

さらに、この時代からは、草津温泉への浴客の往来も始まり、江戸時代初期には川原湯温泉に浴するものも数多くなつたことから、長野原町を通過する中山道裏街道は、相当の交通量があつたものと想像できる。

川原畠村の旧道は、天保14（1843）年の絵図によれば、川原畠上村・下村を分ける段丘崖の中腹から麓に当たる部分を東西に走行し、東は旧三ツ堂（三ツ堂岩陰）の石段下を通つて吾妻渓谷（道陸神峠）へ、西は旧諏訪神社の石段下を通つて久森峠へと抜けている。当時の川原畠村の集落はこの旧道に沿つて東西に細長く形成され、その南側になだらかに広がる日当たりの良い河岸段丘平坦面は畑を中心とした耕作地として利用されていたことが推測できる。

参考文献（第2表文献以外）

- 群馬県文化事業振興会1985『上野郡村誌』II
- 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編7（中世3）
- 篠原正洋2008「天明泥流に呑まれた屋敷の謎」『理文群馬』No.47（財）群馬県理文蔵文化財調査事業団
- 上毛文化学会1987『長野原町の民俗』
- 関明俊2006「天明泥流はどう流下したか」『ぐんま史料研究』第24号 群馬県立文書館
- 萩原進1963『富豪加部安盛資記』『あがつま史稿』西毛新聞社
- 萩原進1986『浅間山天明噴火史料集成』II 群馬県文化事業振興会
- 山崎一1972『群馬県古城跡の研究』下 群馬県文化事業振興会
- 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡歴史』西毛新聞社



第4図 周辺地勢図（国土地理院1/25000地形図「長野駅」使用）

第2章 遺跡の環境

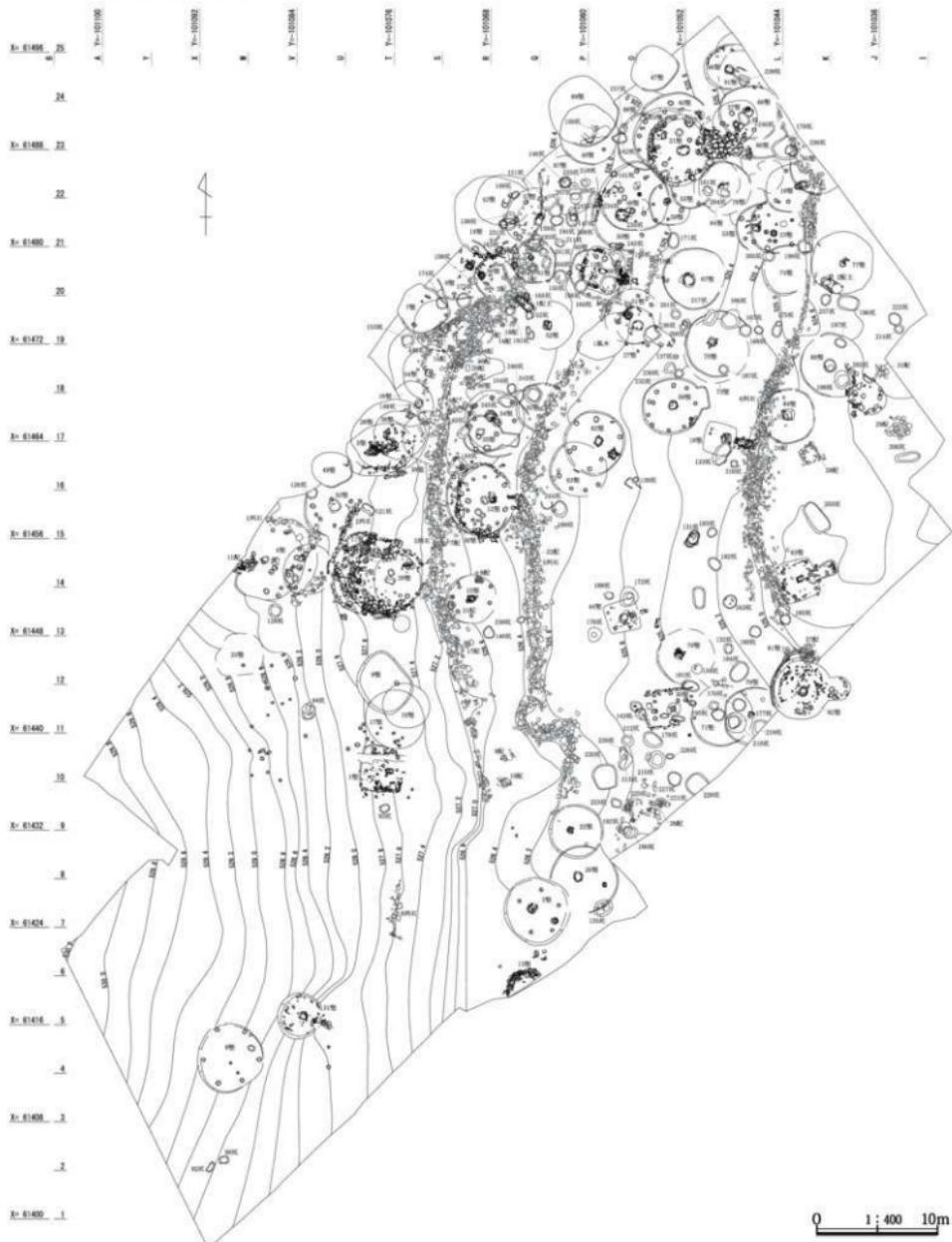
第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
1	東宮遺跡	長野原町 川原畠	近世・縄文	天明三年泥流下の屋敷跡等が検出され、当時の生活具が多量に出土。村落景観が良好な状態で残る。下面より縄文時代の列石、配石を伴う集落が検出された。	平7・9・19～21・26～31年度事業団調査	2・31・33・45・47・本書
2	三ツ堂岩陰	長野原町 川原畠	近世	大岩の前石をくり抜き、お堂や石造物を安置し、堆元の信仰の場とされていた。石造物等の移転後に調査、近世の石造物などが検出された。	平28年度事業団調査	本書
3	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町 川原畠	縄文・平安	縄文時代中期～後期の集落。平安時代の堅穴建物、陥し穴。	平18・19年度事業団調査	13・44
4	三平Ⅱ遺跡	長野原町 川原畠	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、近世掘立柱建物跡等。	平16年度事業団調査	13
5	三平Ⅰ遺跡	長野原町 川原畠 安	縄文・弥生・平安時代	縄文時代初期～前期の堅穴建物、土坑。弥生時代の土坑。平安時代の陥し穴。近世の掘立柱建物。	平16・17・24・25年度事業団調査	13・44
6	二社平遺跡	長野原町 川原畠	近世	天明泥流下の烟。		2
7	石畳遺跡	長野原町 川原畠	縄文	天明泥流下の烟。	平9・10年度事業団調査	2
8	石畳Ⅰ岩陰	長野原町 川原畠	縄文・弥生・古墳・近世	天明泥流下の烟。縄文草創期～後期、弥生時代、古墳時代の土器群、複数の灰居に伴い土器片、獸骨片出土。	平63年度県教委・29・30年度事業団調査	
9	下湯原遺跡	長野原町 川原畠	縄文・弥生・平安・中世・近世	天明三年泥流下の烟。平安時代の堅穴建物、陥し穴、弥生時代の土坑等。	平27～30年度事業団調査	52・61
10	西ノ上遺跡	長野原町 川原畠	近世	天明三年泥流下の烟。平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14年度事業団調査	4・56
11	西宮遺跡	長野原町 川原畠	平安・近世	天明三年泥流下の建物跡複数、酒蔵跡、道、石垣、井戸、煙等。	平20・26年度事業団調査	48
12	川原畠の宝鏡印塔	長野原町 川原畠	近世	建て替え前の宝鏡印塔。	平30年度事業団調査	
13	石川原遺跡	長野原町 川原畠	縄文・平安・近世	天明三年泥流下の建物複数、水路を伴う道および堀。縄文時代中期から廟跡の堅穴建物、配石墓、水場遺構、列石、配石、平安時代の堅穴建物。	平20・25・26～31年度事業団調査	51
14	川原湯勝沼遺跡	長野原町 川原畠	縄文・平安・近世	縄文時代後期の理設土器、古墳時代の遺物、平安時代の堅穴建物。天明三年泥流下の烟。	平15・16年度事業団調査	2・6・58
15	立馬Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代早期・飛翔期の堅穴建物。弥生時代中期後半の土器相窓。	平13・14・17年度事業団調査	11
16	立馬Ⅱ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器、石器。中期初頭～前半の堅穴建物跡、中期後半の堅穴建物1棟。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度事業団調査	8
17	立馬Ⅲ遺跡	長野原町 林	縄文・平安	縄文時代早期の集落、前期、中期の堅穴建物。平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	23
18	花畠遺跡	長野原町 林	縄文・平安	平安時代の堅穴建物、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	2
19	上原Ⅱ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代中期の堅穴建物。	平16年度事業団調査	
20	上原Ⅲ遺跡	長野原町 林	縄文	平安時代の堅穴建物、鍛冶遺構、陥し穴群。	平25年度事業団調査	40
21	上原Ⅳ遺跡	長野原町 林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石堅穴建物、配石遺構。	平15・21年度事業団調査	16・34
22	上原Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代前期の堅穴建物、中期の堅穴建物。平安時代の堅穴建物、陥し穴等。	平15年度町教委・24年度事業団調査	40
23	東原Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代土器群。陥し穴。	平6・9・20・21年度事業団調査	30
24	東原Ⅱ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代後期土器群、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	30
25	東原Ⅲ遺跡	長野原町 林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層、中・近世の掘立柱建物群。内耳鉢、古瀬戸等出土。江戸時代の礎石建物跡。	平20・21年度事業団調査	30
26	林宮原遺跡	長野原町 林	古墳・平安	古墳時代の堅穴建物1、平安時代の堅穴建物6、土坑6。	平15年度町教委・24年度事業団調査	40・62
27	林中原Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代初期～中期の堅穴建物、配石等。中・近世の掘立柱建物跡。	平19～21年度事業団調査	38・62
28	林中原Ⅱ遺跡	長野原町 林	縄文・弥生・中世・近世	縄文時代中期・後期の集落跡。敷石堅穴建物、飛翔期の土器片、弥生時代中期の堅穴建物、土坑。中・近世の掘立柱建物跡。	平15・20・21年度町教委調査	41・53・55
29	下田遺跡	長野原町 林	平安・近世	天明三年泥流下の烟、江戸・中世の建物跡、平安時代の堅穴建物、陥し穴。縄文時代の掘立柱建物跡。	平25・26年度事業団調査	2・46・60
30	下原遺跡	長野原町 林	古墳・近世	天明三年泥流下の烟、中世の烟、古墳時代の堅穴建物、弥生時代の酒器等。	平12・15・16年度事業団調査	3・12・54
31	中棚Ⅱ遺跡	長野原町 林	近世	天明三年泥流下の烟、および安永9年と考えられる埋没煙等。	平11～13・15年度事業団調査	3・4・62
32	中棚Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文・平安	縄文時代早期の遺物、平安時代の堅穴建物。		
33	榎木Ⅲ遺跡	長野原町 林	縄文・弥生	縄文時代中期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	2
34	榎木Ⅰ遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代の土坑、散布地。	平10・21年度事業団調査	34
35	二反沢遺跡	長野原町 林	中世・近世	中世の石垣を作り造成跡、近世水路、烟跡、(註)大乗院跡	平12年度事業団調査	9

No	道路名	所在地	主な時代	概要	備考	報告書等
36	榎木II遺跡	長野原町 林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の堅穴建物。平安時代の堅穴建物。	平11～13・16～17年度事業団調査	17・24
37	横壁勝沼遺跡	長野原町 横壁	縄文	縄文時代中期～後期の上器部、楢生形尖頭器出土。	平6・7年度事業団調査	2
38	横壁中村遺跡	長野原町 横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期半を中心とする集落跡、縄文時代中期、弥生時代の土器片、土坑、配石墓。平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度事業団調査	3・5・7・10・14・19・20・26・27・28・29・36・39
39	山根I遺跡	長野原町 横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石錐、石棒などの石器類出土		
40	山根II遺跡	長野原町 横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
41	山根III遺跡	長野原町 横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の堅穴建物、土坑等。	平10・13・18年度事業団調査	2・16
42	山根IV遺跡	長野原町 横壁	縄文・近世	縄文～平安時代散布地。		
43	西久保I遺跡	長野原町 横壁	縄文	縄文時代後期の堅穴建物、水場を検出。中近世の礎石建物跡。	平6・10・12年度調査	2・57
44	西久保IV遺跡	長野原町 横壁	縄文・近世	天明泥流下の烟。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業団調査	34・57
45	西久保V遺跡	長野原町 横壁	近世・縄文	天明泥流下の烟、平安時代の堅穴建物。縄文時代の土坑等。	平23年度事業団調査	
46	尾坂道路	長野原町 長野原	縄文・弥生・平安・中・近世	天明三年泥流下の烟・建物跡。中世の掘立柱建物跡。縄文時代の堅穴建物、土坑。弥生時代の再構築、土坑。平安時代の堅穴建物、土坑等。	平6・7・11・18・19・20・21～23・25・26年度事業団調査。平23・26に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査	2・42
47	幸神遺跡	長野原町 長野原	縄文	縄文時代中期の堅穴建物・土坑。陷穴。	平8・9・14・17・18年度事業団調査	16
48	長野原一本松遺跡	長野原町 長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡。大形の掘立柱建物、散石堅穴建物などを検出。平安時代の堅穴建物、中世の掘立柱建物や多くの土坑等。	平6～17・19・20年度事業団調査	1・15・18・22・25・35・37
49	久々戸遺跡	長野原町 長野原	近世	天明三年泥流下の烟、建物跡。縄文中期の散石堅穴建物。晚期の上器部。	平7・9・10・11・15・26年度事業団調査	2・4・44

参考文献

- 1 群理文287集 2002 長野原本一松道路（1）
 2 群理文303集 2003 ハッ場ダム発掘調査集成（1）
 3 群理文319集 2003 久々戸遺跡・中郷II遺跡・下原・横壁中村遺跡
 4 群理文349集 2004 久々戸遺跡（2）・中郷II遺跡（2）・西ノ上・上
 5 群A遺跡
 6 群理文355集 2005 横壁中村遺跡（2）
 7 群理文356集 2005 原川原勝沼道路（2）
 8 群理文368集 2006 横壁中村遺跡（3）
 9 群理文375集 2006 立馬II遺跡
 10 群理文379集 2006 上野原II道路・廣石A遺跡・二反沢遺跡
 11 群理文381集 2006 横壁中村遺跡（4）
 12 群理文388集 2006 立馬I遺跡
 13 群理文389集 2007 下原道跡 II
 14 群理文401集 2007 横壁中村遺跡（5）
 15 群理文408集 2007 長野原一本松道路（2）
 16 群理文429集 2008 山根原I道路（2）・上原IV道路・幸神道路
 17 群理文432集 2008 榎木II道路（1）
 18 群理文433集 2008 長野原一本松道路（3）
 19 群理文436集 2008 横壁中村遺跡（6）
 20 群理文439集 2008 横壁中村遺跡（7）
 21 群理文440集 2008 上ノ平I道路（1）
 22 群理文441集 2008 長野原一本松道路（4）
 23 群理文457集 2009 立馬II遺跡
 24 群理文458集 2009 榎木II道路（2）
 25 群理文461集 2009 長野原一本松道路（5）
 26 群理文462集 2009 横壁中村遺跡（8）
 27 群理文466集 2009 横壁中村遺跡（9）
 28 群理文488集 2010 横壁中村遺跡（10）
 29 群理文492集 2010 横壁中村遺跡（11）
 30 群理文502集 2010 東原I道路・東原II道路・東原III道路
 31 群理文514集 2011 東宮道路（1）
 32 群理文526集 2012 横壁道路（12）
 33 群理文536集 2012 東宮道路（2）
- 34 群理文549集 2012 榎木I道路・上原IV（2）道路・西久保IV道路
 35 群理文554集 2013 長野原本一松道路（6）
 36 群理文559集 2013 横壁中村遺跡（13）
 37 群理文578集 2014 長野原一本松道路（7）
 38 群理文586集 2014 長野原城跡・林中原I遺跡
 39 群理文587集 2014 横壁中村遺跡（14）
 40 群理文594集 2016 上原I道路・上原III道路・林宮原道路
 41 群理文517集 2016 林中原II遺跡（1）
 42 群理文618集 2016 尾坂道路（2）
 43 群理文623集 2017 上ノ平I道路（2）
 44 群理文627集 2017 上原III道路（2）・久々戸道路（3）
 45 群理文628集 2017 東宮道路（3）
 46 群理文629集 2017 下田道路（2）
 47 群理文633集 2018 東宮道路（4）
 48 群理文634集 2018 西宮道路（1）・西宮別院
 49 群理文637集 2018 上ノ平I道路（3）
 50 群理文639集 2018 川原湯中原道路
 51 群理文640集 2018 石川原道路（1）
 52 群理文641集 2018 下湯原道路（1）
 53 群理文643集 2018 林中原II道路（2）
 54 群理文647集 2018 下原道路（3）
 55 群理文650集 2019 林中原II道路（3）
 56 群理文651集 2019 西ノ上道路（2）
 57 群理文655集 2019 西久保I道路（2）・西久保IV道路
 58 群理文658集 2019 川原湯勝沼道路（3）
 59 群理文664集 2020 三平I道路（2）
 60 群理文665集 2020 下田道路（3）
 61 群理文666集 2020 下湯原道路（2）
 62 群理文667集 2020 林宮原道路（2）・林中原I道路（2）・中郷II遺跡
 長野原町『長野原町誌』上巻 1976
 長野原町『長野原町の自然』1988
 群馬県史『原始・古代編I』1988



第5図 V区堅穴建物・列石全体図

第3章 東宮遺跡の調査

第1節 V・VI区第3・4面から 発見された遺構と遺物

V区の調査において、検出された列石、配石および後期に比定される竪穴建物については、当初第3面として調査を行った、さらにその下面の中間に遺構について第4面とした調査を行なった。

しかしながら、調査を進める中で、山側から流れ下つた砂礫層および黒色土層が複数層確認され、さらには複雑な傾斜地形を形成するなど、面的な調査が難しい状況であった。また、基本土層の頂でも触れている通り、調査区の西から東に傾斜が見られ、縄文時代の遺構に関しては、著しく削平を受けているとみられる西側と、埋没度が比較的深い東側では様相を大きく異にしており、複雑に重なった状況の遺構については面的な調査を行うことができなかつた。

以上のような状況から、3面については、中近世の遺構も含まれ、さらには、4面との区別も極めて困難となり、最終的には明確な面としての区別を付けずに、調査を行なった経緯がある。このため、本書では3・4面を（縄文時代面）として捉え報告を行う。

1 V区から発見された遺構と遺物

(1) 竪穴建物

1号竪穴建物（第6～8図、PL. 5・131）

位置 V区41S・T-9・10グリッド。

重複 北側部分で17号竪穴建物と重複。本遺構が新しい。また、近世の11号溝（暗渠）が北側部分を東西に走り、遺構の一部を壊している。

平面形状 主体部は隅丸方形を呈す。柱穴配置から東方向に張り出し部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定されるが、張り出し部については削平され形状は不明。

主軸方位 N-89°-W。

規模 長軸4.0m、短軸3.90m、深さ0.15m。

埋没土層 小岩片を多く含む黄褐色粗粒土で埋まる。やや大きな礫の混入も見られた。

床面 遺構上部は削平されている、特に東側の削平は顕著である。確認された敷石は部分的で、南辺部から南東コーナーに平石が見られ、川原石、鉄平石が確認された。それぞれの礫はほぼ水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、壁に沿って巡り本来の位置からそれほど移動していないものと考えられ、比較的の残りは良い。また、北辺部にも平石が点在しているがあまり良好な状態ではない。

炉 竪穴建物中央からやや東に位置する石圓い炉である。長さ66cm、幅48cm、深さ約15cmの長方形で東側がやや狹まる。中央に深鉢底部を転用した埋設土器を作り、土器や炉石は被熱している、炉石は、東側を除きコ状に配される、上部は削られた状況であった。

浅間山給源の軽石が用いられており、希有な類例である。凹石としての二次転用が見られる。

埋甕 確認されなかつた。

柱穴 20基以上を検出したが、このうち明らかに本址には伴わないと判断したものについては、記載を除外した。また、明確に掘り込みを持つものは僅かで、壁際に位置する数基が相当するものと考えられるが、確定するには至らなかつた。炉の周囲に5基のビットが配置されているが、補助的なものであるかは不明である。

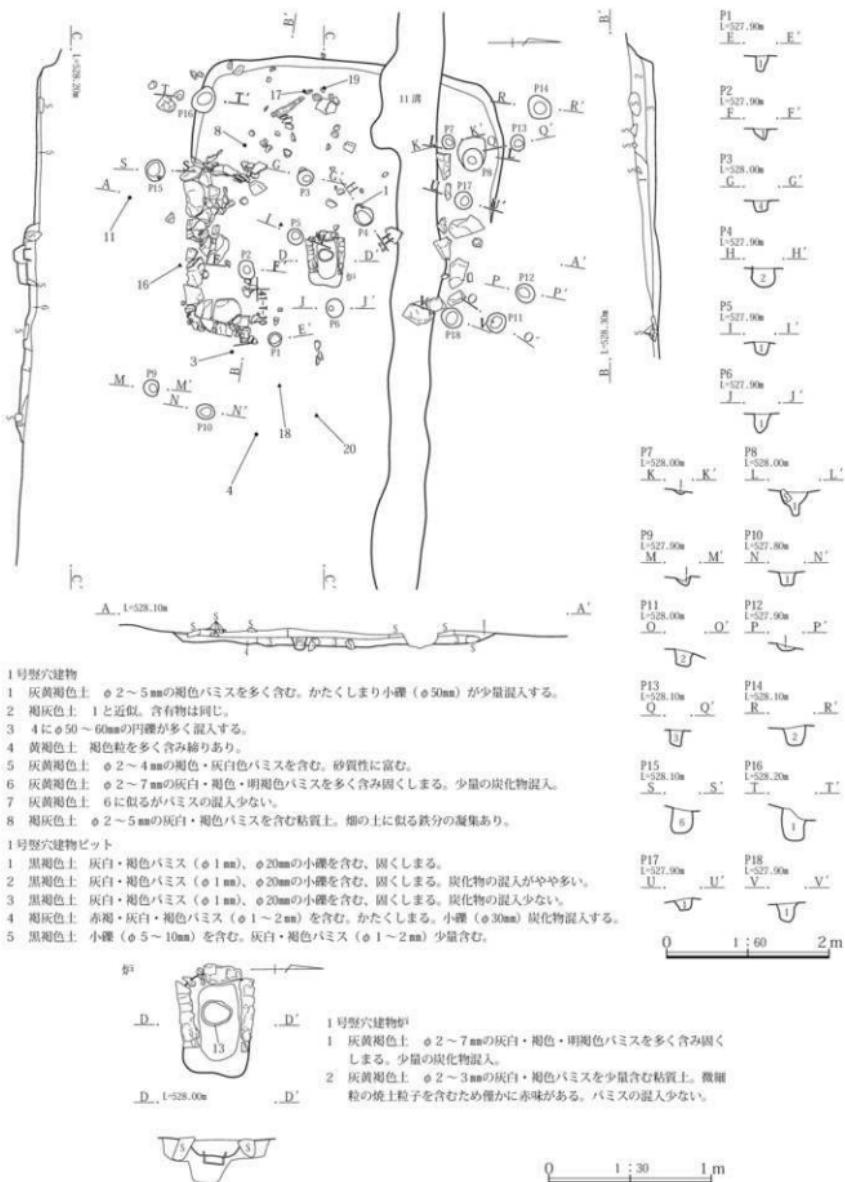
周溝 確認されなかつた。

掘方 明確な掘方方面は確認できなかつたが、図示した範囲から数10cmほど外側と推定される。

遺物 土器は総数587点が出土している。後期前半期を主体とし、中期後半のものが僅かに含まれている。

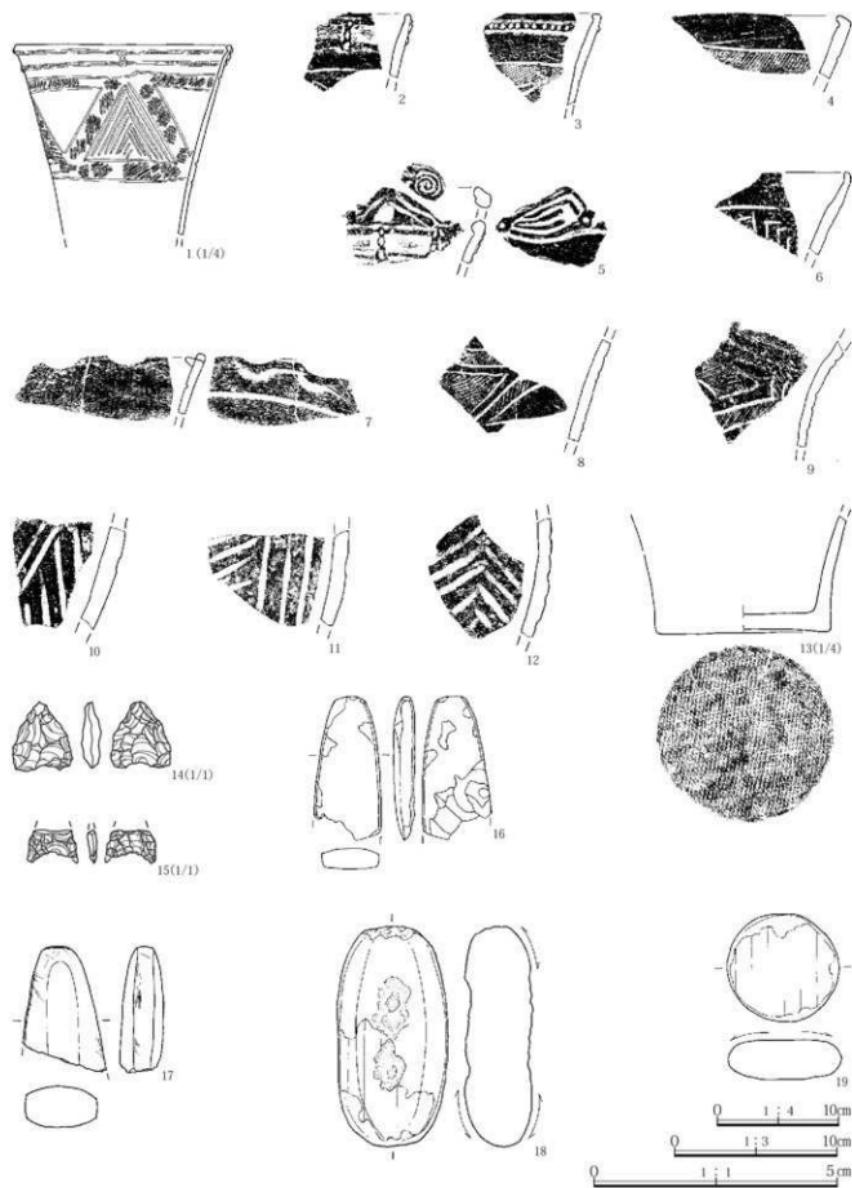
石器は9点出土している。

所見 壁際に回る平石が検出されたことから、検出に至ったものである。3号列石の南端部から西にやや離れており、南側に7mほど離れて位置する、上面はかなり削平を受けており、近世の暗渠との切りあいも見られた。ほぼ同レベルにあり、8号列石との関連も想定される。出土土器は後期前葉塚之内2式期を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

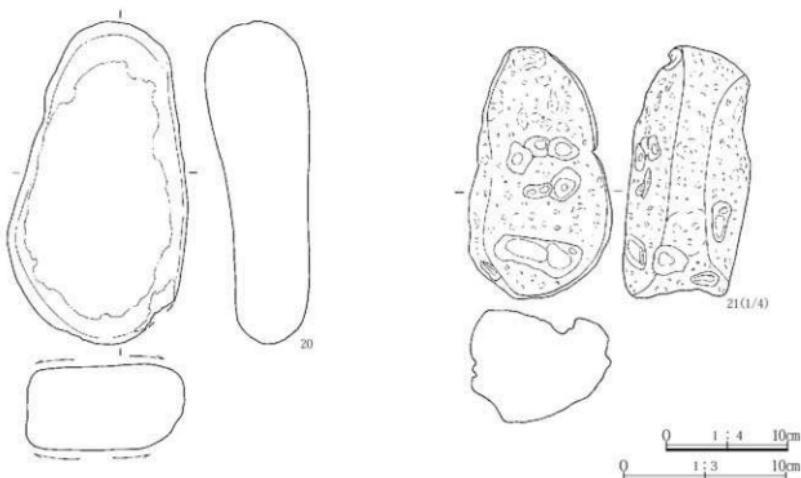


第6図 V区1号堅穴建物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第7図 V区1号竪穴建物出土遺物(1)



第8図 V区1号竪穴建物出土遺物（2）

2号竪穴建物（第9～14図、PL. 6・131～133）

位置 V区41P・Q-6・7グリッド。

重複 上面調査終了後の下面確認トレンチ掘削時に、遺物集中を確認したことから検出された。20号竪穴建物が重複、本遺構が古いと思われる。

平面形状 柱穴、埋甕配置から南東方向に出入り部を有すると想定される。平面形はほぼ円形を呈す。

主軸方位 N-57°-W。

規模 長軸5.60m、短軸5.56m、深さ0.54m。

埋没土層 小岩片を多く含む黄褐色粗粒土で埋まる。

床面 ほぼ平坦で、周縁はおよび敷石は確認されていない。床面は僅かな凹凸が見られるものの、ほぼ平坦でその高さもほぼ一致している。明確な硬化面は確認できない。

炉 長さ0.82m、幅0.66m、深さ0.26m。竪穴建物中央や奥に位置する。石圓い炉である。炉石はやや厚手で細長い縦を横向きにコ字状に据えている。北側には石が見られなかったが、元々は石があったものと思われる。内部には底部を欠く、深鉢を転用した炉体土器が置かれている。炉の底部は良く焼けており、炉石の被熱も顕著で、一部割れている。

埋甕 入り口部に検出、口縁部を下にして据えられ、底

部の欠け口部分は面取りされている。

柱穴 5基が確認された。出入り部のピットは不明である。P 1～5の5本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：楕円形—0.32—0.28—0.24。

P 2：楕円形—0.36—0.32—0.24。

P 3：円形—0.30—0.28—0.34。

P 4：円形—0.34—0.34—0.22。

P 5：円形—0.32—0.30—0.18。

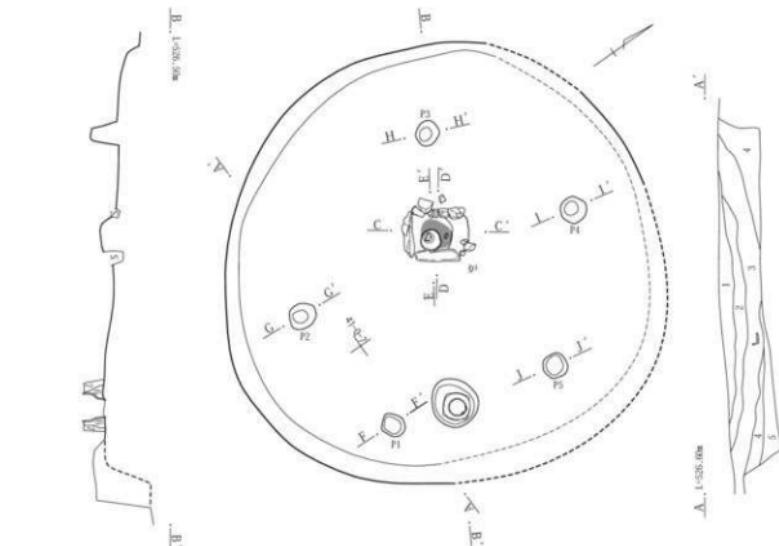
周溝 検出されていない。

掘方 明確な面は確認できなかった。

遺物 土器は中央部に集中、総点数は1000点を超え、床面よりやや浮いた状態のものが多くを占める。

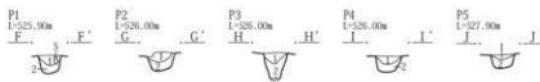
南東部に埋甕、炉体土器が出土している。石器は少なく、石礫、磨石が出土している。

所見 遺構確認トレンチ掘削時に土器集中部を確認、精査の結果竪穴建物と確認したものである。出土土器は中期後葉を主体としており、覆土上層から中央部にレンズ状の堆積を見せる、また、埋め甕が南東部に検出されている。本竪穴建物は加曾利E 3式期に比定される。



2号竖穴建物

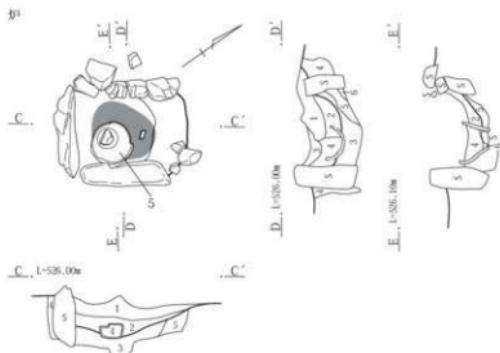
- 1 灰褐色土 灰褐色。黄褐色粒多く含む。
- 2 黄褐色土 灰褐色。黄褐色粒多く含み、細粒でしまりあり。
- 3 暗黄褐色土 灰褐色。黄褐色岩砂片粒多く含み粗粒。
- 4 暗黄褐色土 組成は3と似るが粒子はやや小さく、岩砂片はほとんど含まず。
- 5 暗黄褐色土 底下部、地山上か、4よりも細粒でやや粘性あり。
- 6 黄褐色土 黄色岩砂片多く含む。
- 7 暗褐色土 細粒でやや粘性あり。



2号竖穴建物ビット

- 1 暗黄褐色土 岩碎片若干含む。やや風味あり。
- 2 哈黄褐色土 1と同質だがやや黒味少ない。

0 1 : 60 2 m

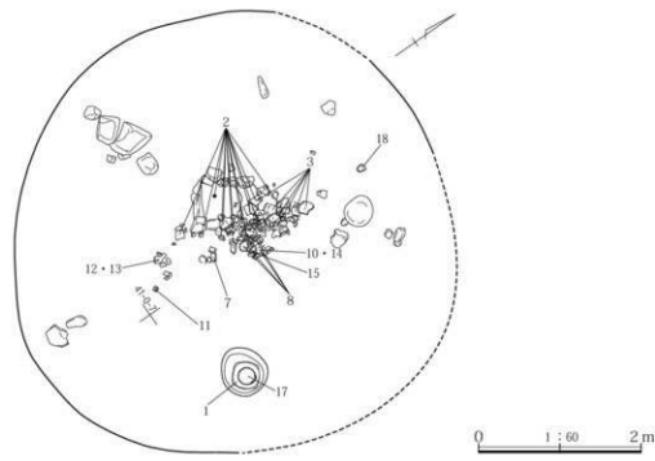


2号竖穴建物炉

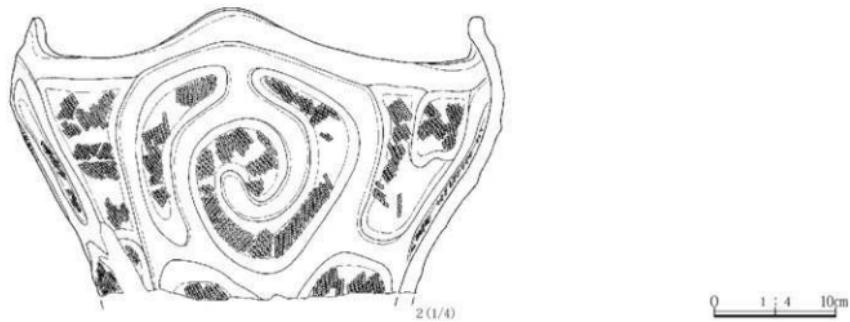
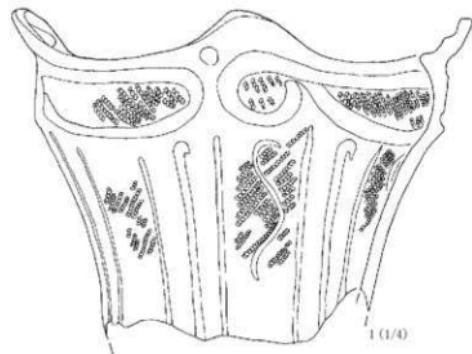
- 1 黄褐色土 砂質上で粒子均質。
- 2 暗褐色土 燃土を含む。
- 3 灰色土 炭化物含む。
- 4 暗褐色土 若干の炭化物含む。(炉体上器覆上)
- 5 暗褐色土 燃土粒含みしまりあり。
- 6 暗褐色土 若干の炭化物粒含む。

0 1 : 30 1 m

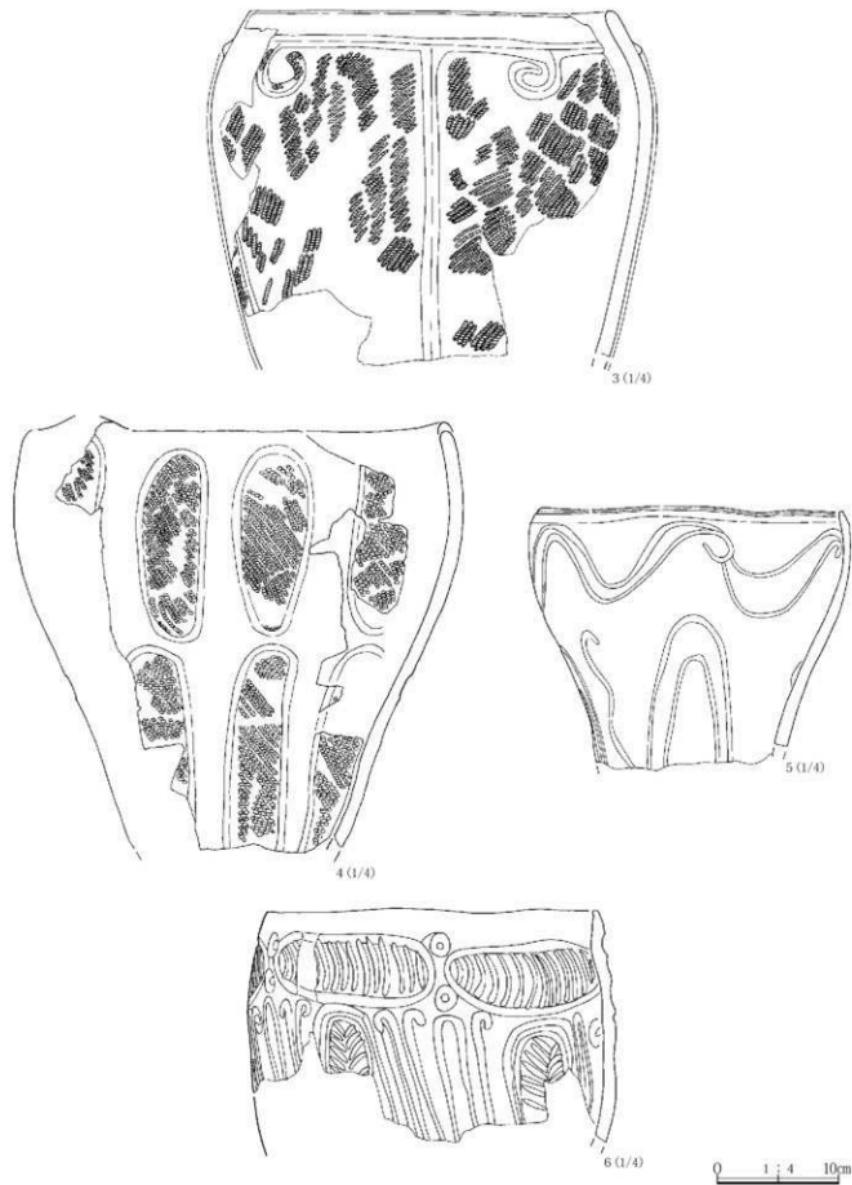
第9図 V区2号竖穴建物 (1)



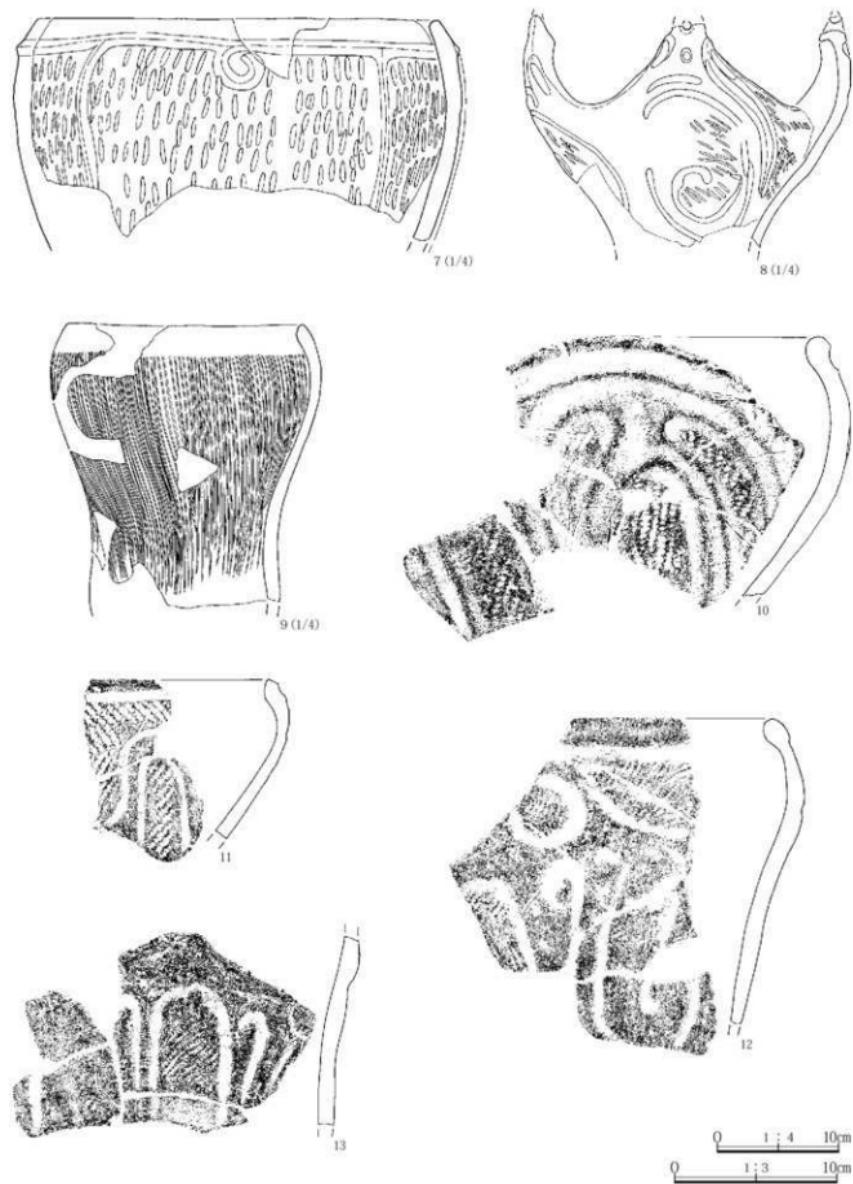
第10図 V区 2号竖穴建物 (2)



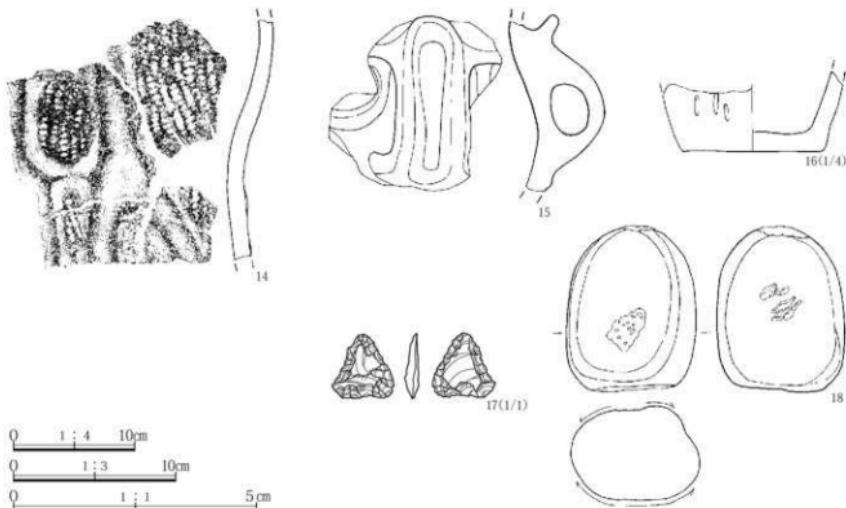
第11図 V区 2号竖穴建物出土遺物 (1)



第12図 V区 2号竪穴建物出土遺物（2）



第13図 V区 2号竪穴建物出土遺物（3）



第14図 V区2号竪穴建物出土遺物(4)

3号竪穴建物(第15~28図、PL. 7・133~137)

位置 V区41S・T-13・14グリッド。

重複 11・29号竪穴建物と重複。11・29号竪穴建物より本遺構が新しい。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する敷石竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径4.48m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直徑5.28m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-68°-W。

規模 長軸5.80m、短軸5.72m、深さ0.40m。

埋没土層 磨、岩を多く含む黒褐色土で埋まる、焼骨も多く検出されている。

床面 周礫は弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。敷石として、南西部と北部に丸石、川原石、鉄平石が確認された。それぞれの礫は水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、本来の位置からそれほど移動していないものと考えられる。

炉 ほぼ中央に作られる、長さ0.78m、幅0.48m、深さ0.25m。隅丸長方形の深い掘方を持つ、炉石は見られず、炉の奥寄りに炉体土器が据えられている。埋設土器およ

び内壁部分は良く焼けている。

埋甕 確認されなかった。

柱穴 12基が確認された。壁想定ラインの内側に廻る。

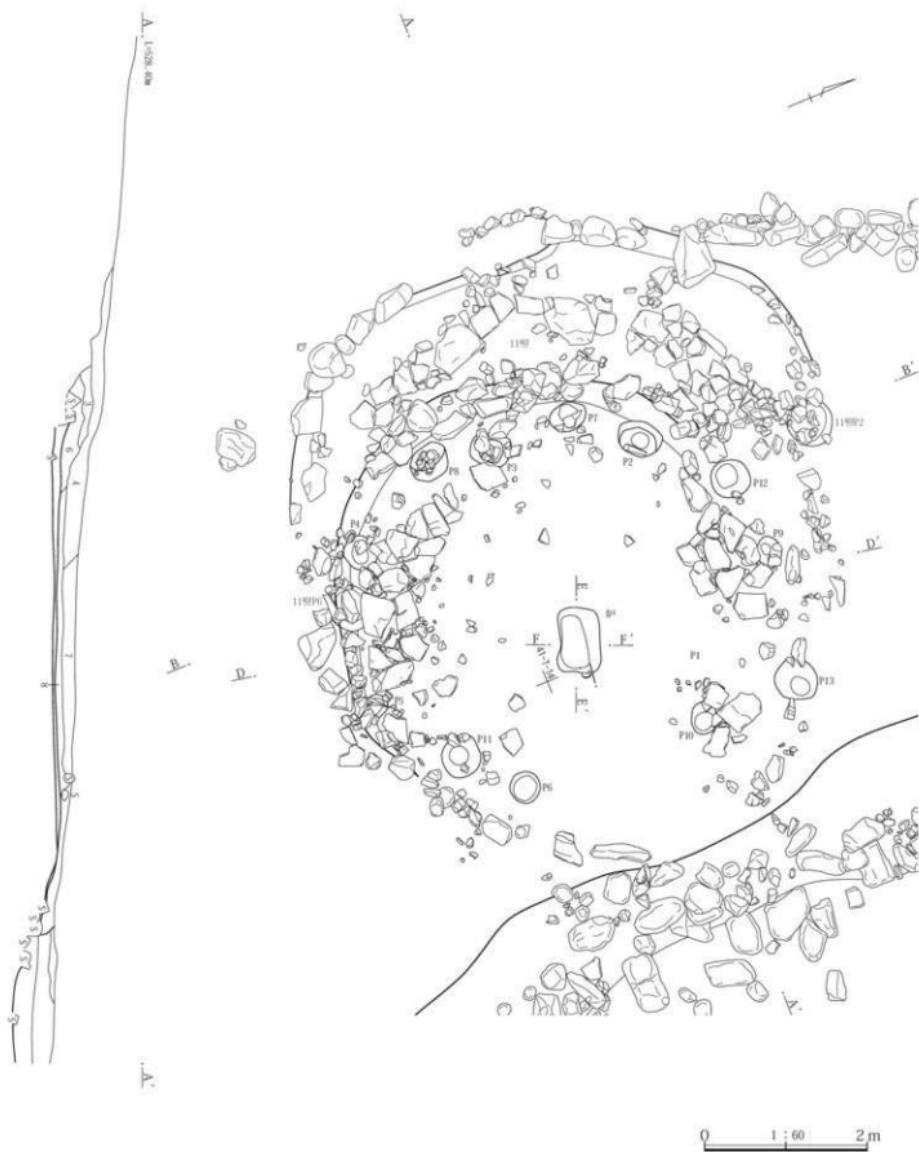
周溝 確認できなかった。

掘方 確認できなかった、本址よりもさらに古い竪穴建物が重複する。対ビットが入り口部に検出されている。

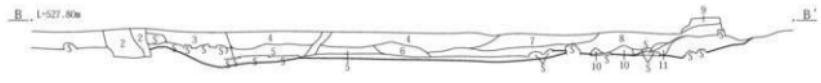
遺物 土器は多く3000点以上出土している。後期前葉を中心に、一部中葉に帰属するものも含まれている。石器は石礫、磨製石斧、多くの凹石、磨石の他、多孔石、石棒が出土している。

所見 3号列石の東側に検出された、当初列石周辺部の調査を行う中で、円形に敷かれた敷石を確認、さらには炉を検出したことから、竪穴建物と確認した。その後確認することとなった、大型の11号竪穴建物の内側に縮小する形で作られていた。

11号竪穴建物壁の内側に弧状に礫を配し、平石を部分的に敷く、11号竪穴建物に使われていた敷石を一部利用している。東側は3号列石にほぼ接しており、同時に存在していたと見られる。出土土器は後期前葉を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。(後期)



第15図 V区3号竪穴建物（1）

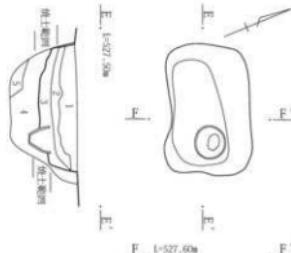


3号竪穴建物

- 1 にぶい黄褐色土 $\phi 2 \sim 4$ mmの灰白・褐色バミスを含む。 $\phi 60$ mmの角礫。 $\phi 30 \sim 50$ mmの砂岩質のもろい礫が多く充填される。
- 2 にぶい黄褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色バミスを含む。やや粘性あり。
- 3 2に近似 やや黄味が強い。
- 4 にぶい黄褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色・明褐色バミスを多く含む。 $\phi 10$ mm前後のもろい砂岩質の礫を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色・明褐色バミスを $\phi 10$ mm小礫を含む。
- 6 黒褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色・明褐色バミスを含む。
- 7 黒褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色バミスを多く含む。砂岩質の小礫($\phi 5 \sim 15$ mm) $\phi 30$ mm前後の角礫を含む。
- 8 黒褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色・明褐色バミスを少量含む。粘性あり。少量の炭化物の混入あり。
- 9 8に近似、やや黒味強い。
- 10 にぶい黄褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mmの灰白・褐色バミスを含む。ローム粒子の混入多い。
- 11 にぶい黄褐色土 もろい砂質の礫($\phi 20$ mm)小礫($\phi 20$ mm)の混入あり。

0 1 : 60 2 m

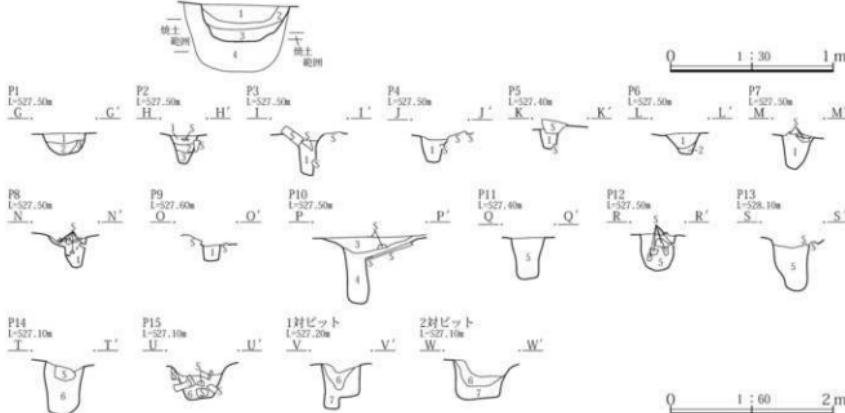
炉



3号竪穴建物炉

- 1 黒褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mm前後の褐色バミスを含む。燒土粒子を含む。
- 2 暗褐色土 $\phi 2 \sim 5$ mm前後の褐色バミス、砂岩質の小礫 ($\phi 10$ mm) を少量含む。
- 3 2に焼土粒子・炭化物・骨片が混入したもの。
- 4 暗褐色土 少量の灰白の砂粒 ($\phi 2$ mm)、燒土粒・骨片・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土ブロック $\phi 2$ mmの灰白バミスを含み、骨片・炭化物を4より多く含む。

L-527.60m F' - F



第16図 V区3号竪穴建物 (2)

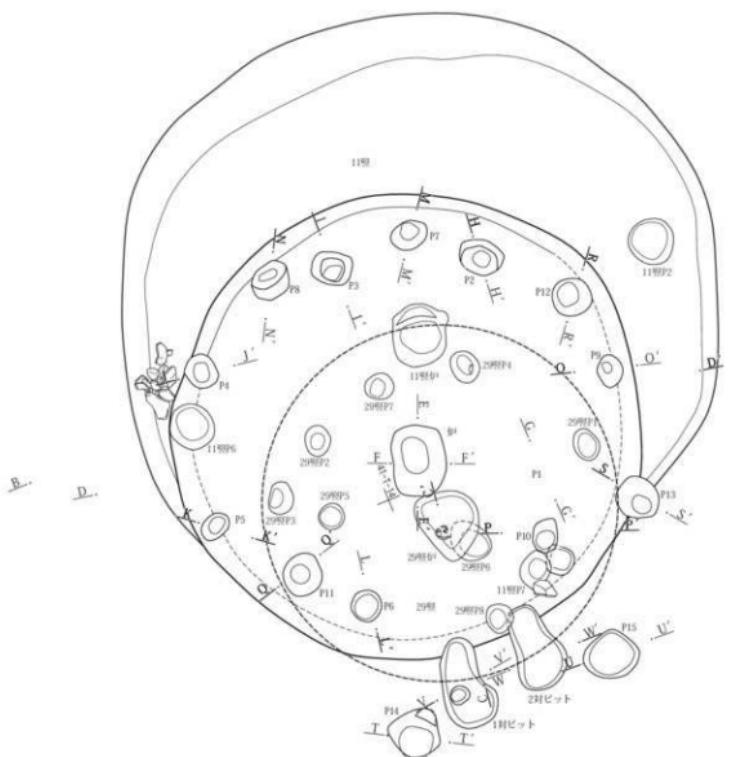


3号空穴建物ピット

- 1 暗褐色土 黄色粒多く含む。散石部材の礫等多く含む。
- 2 黄褐色土 やや明るい色調で礫多く含む。
- 3 黒褐色土 小礫、黄色粒多く含む。
- 4 暗褐色土 3と同質だが粘性ややあり。
- 5 黄褐色土 黄褐色粒、地山小礫多く含む。
- 6 黑褐色土 黄色粒、岩片が多く含みやや黒味あり。
- 7 暗褐色土 6と同質だが礫を多く含み粘性。しまりあり。

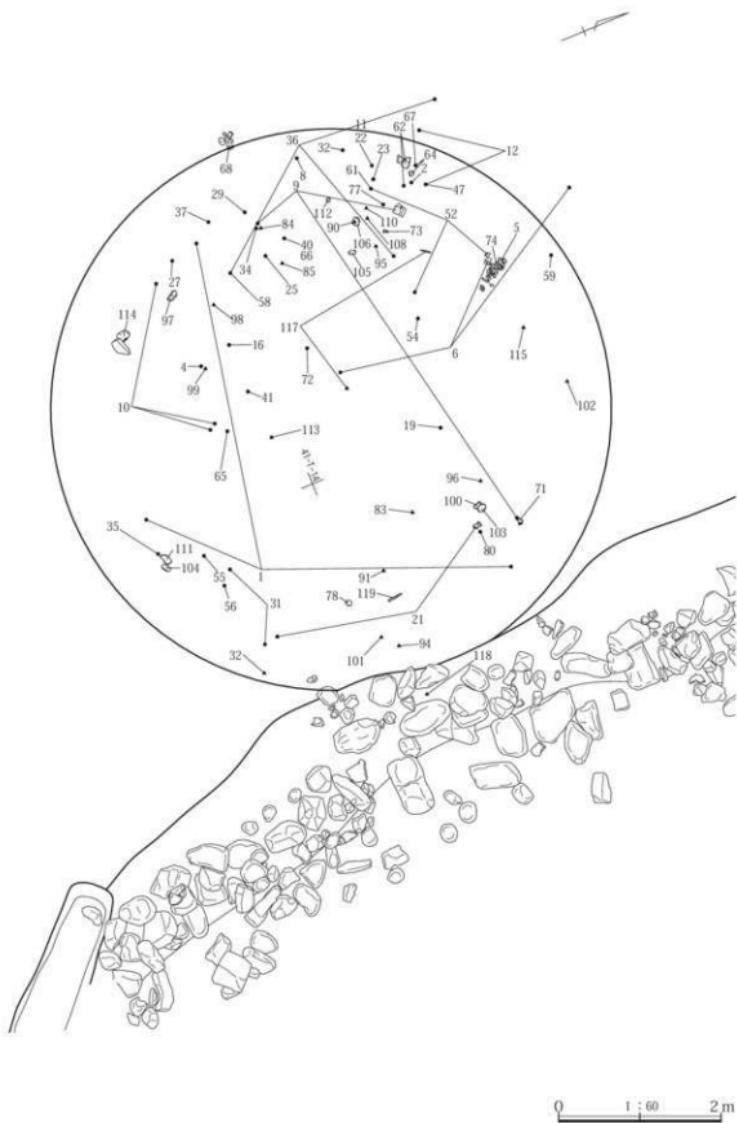
0 1 : 60 2m

第17図 V区3号空穴建物(3)



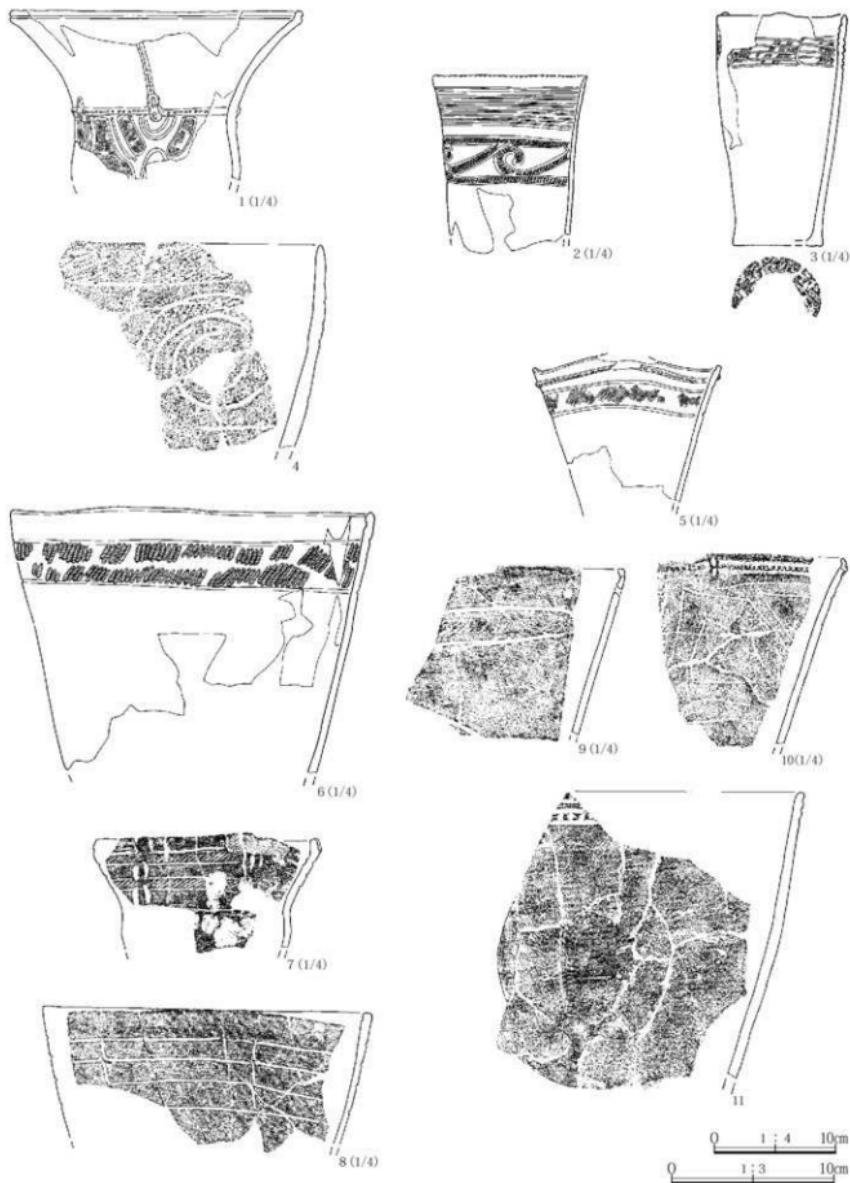
0 1 : 60 2 m

第18図 V区3号竪穴建物(4)

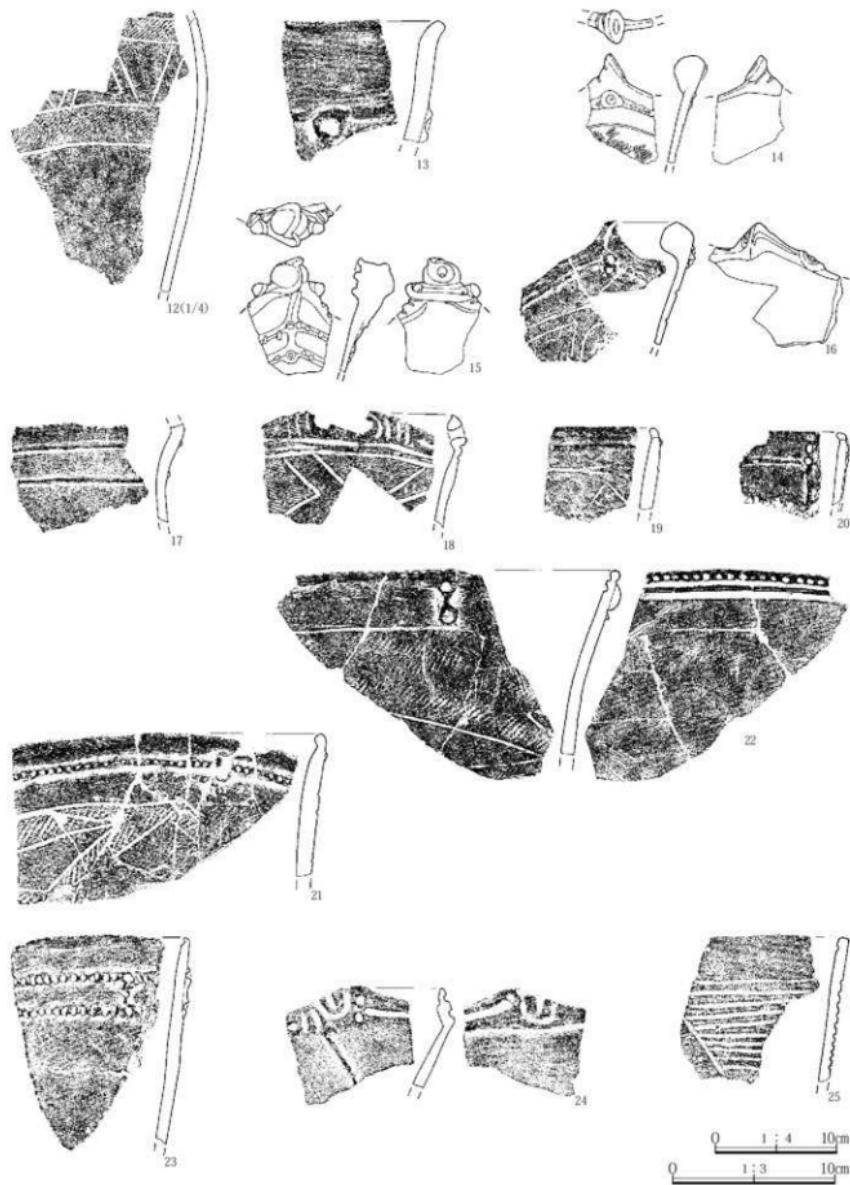


第19図 V区3号竪穴建物（5）

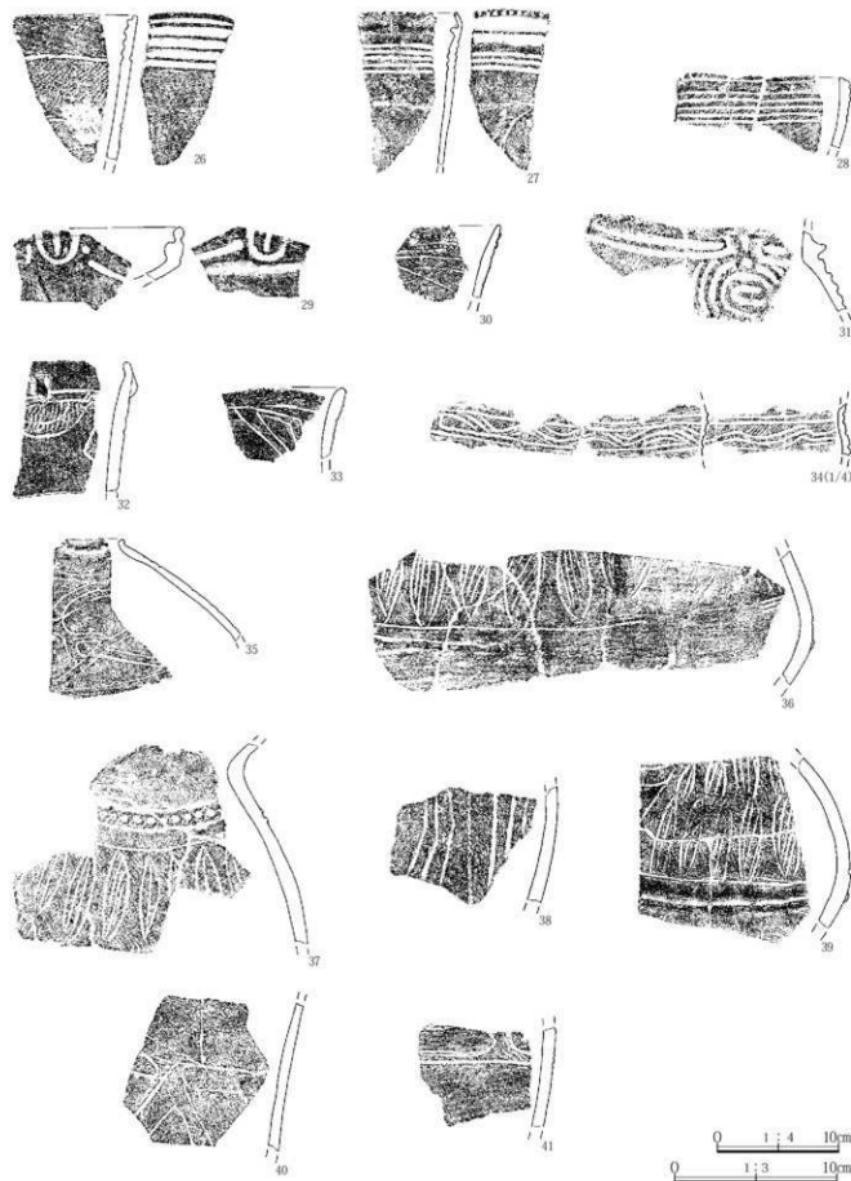
第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



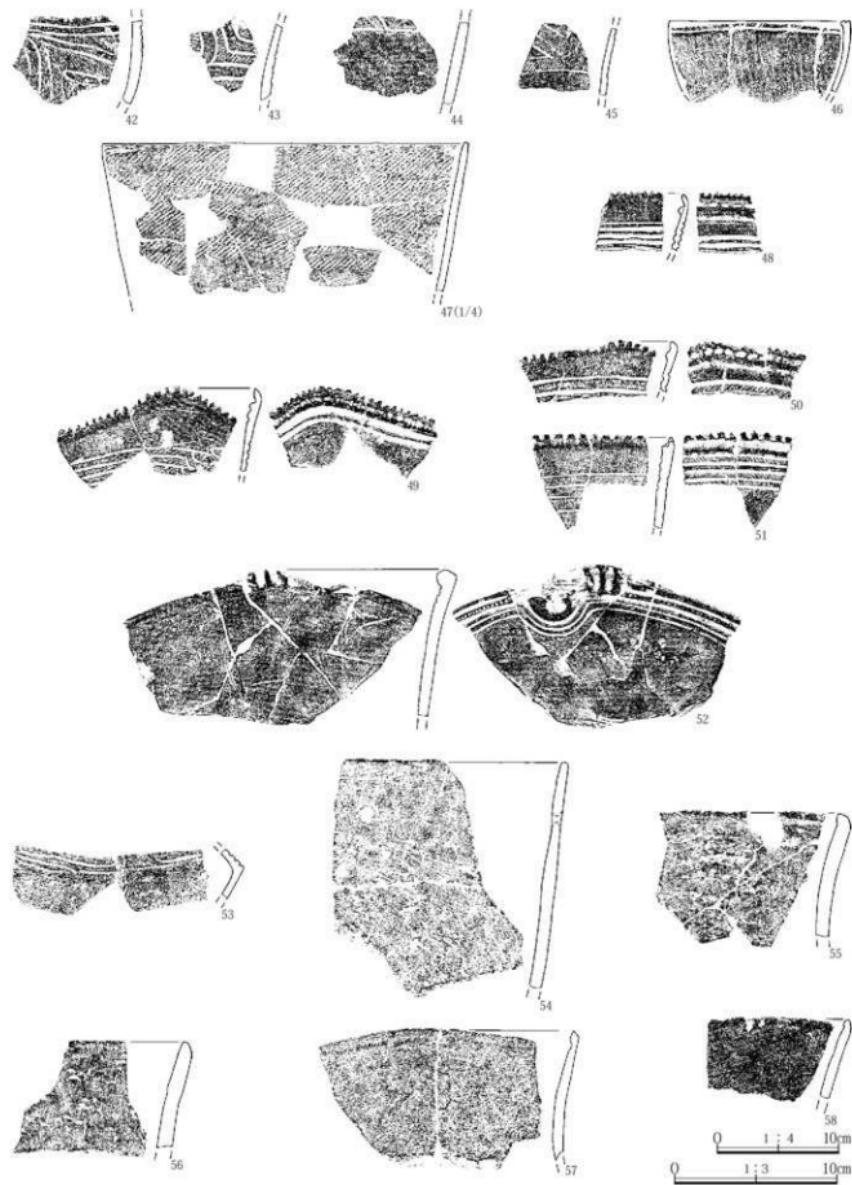
第20図 V区3号竪穴建物出土遺物（1）



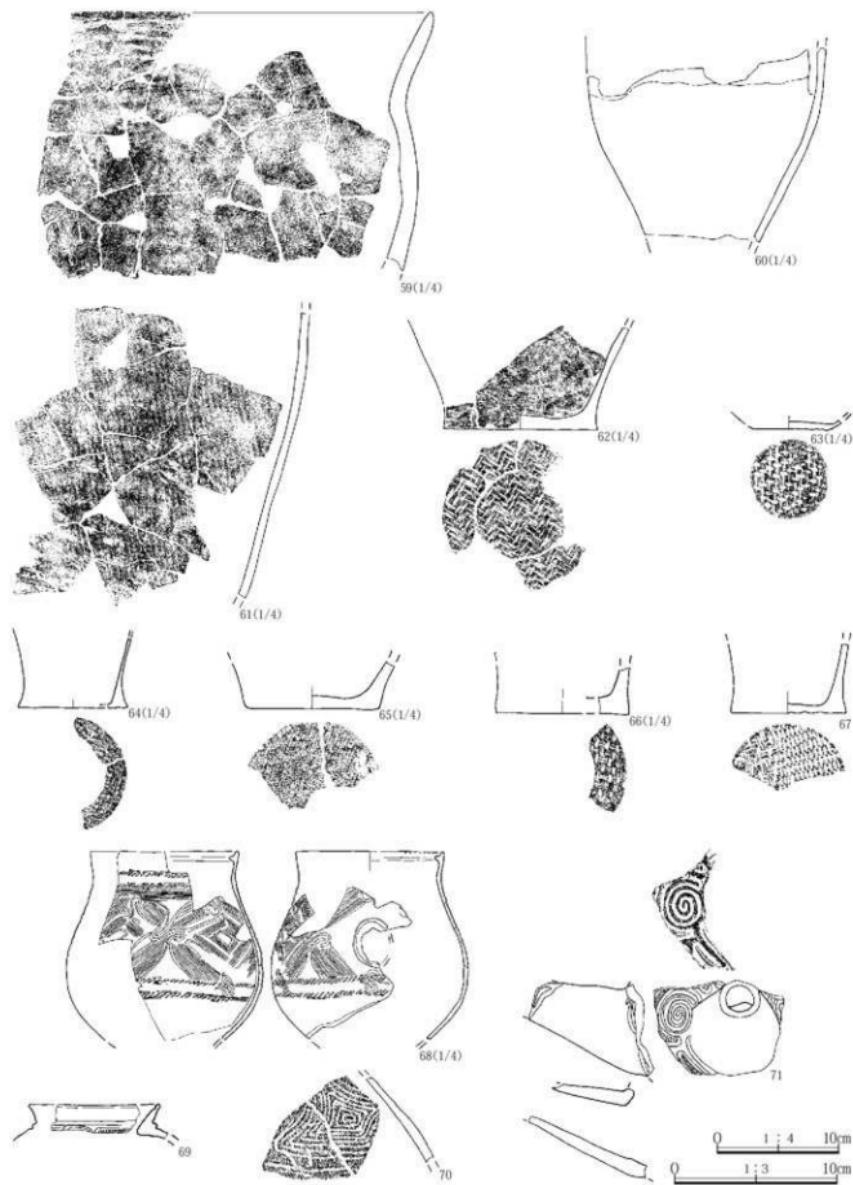
第21図 V区 3号竪穴建物出土遺物（2）



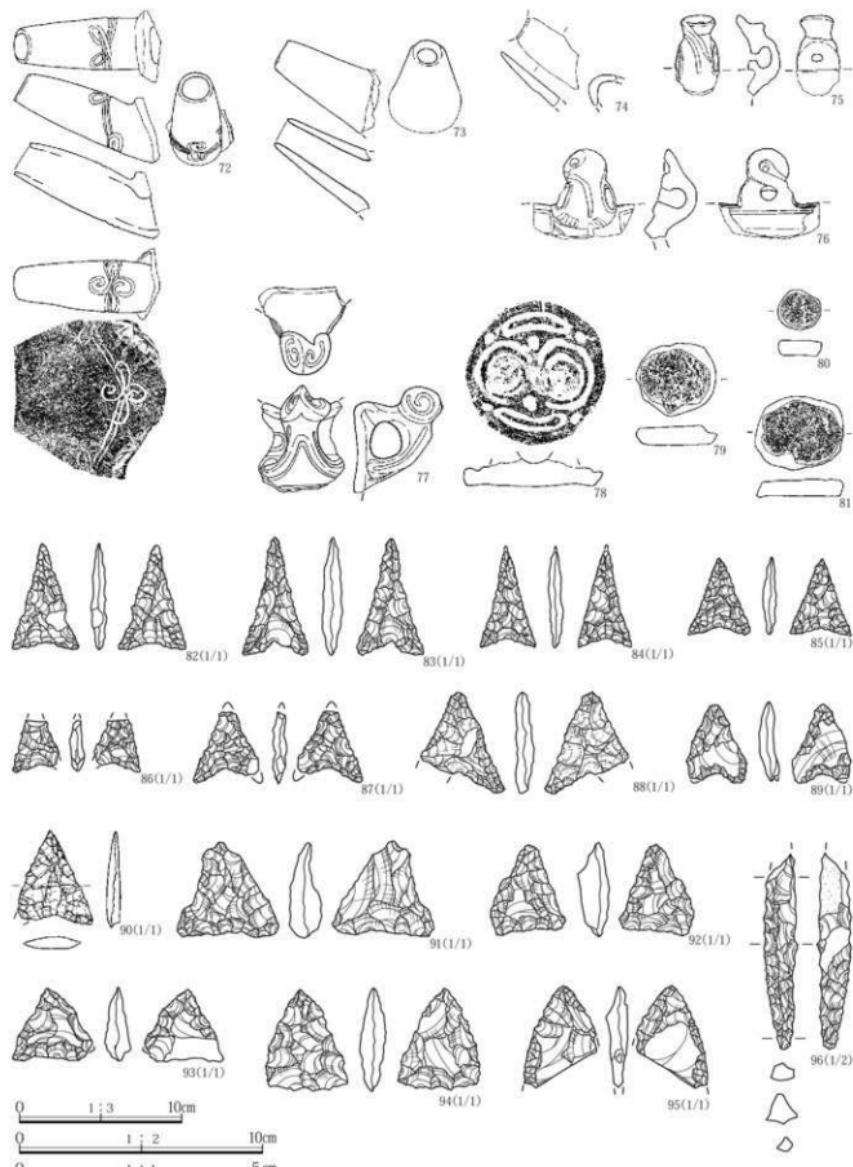
第22図 V区3号竪穴建物出土遺物（3）



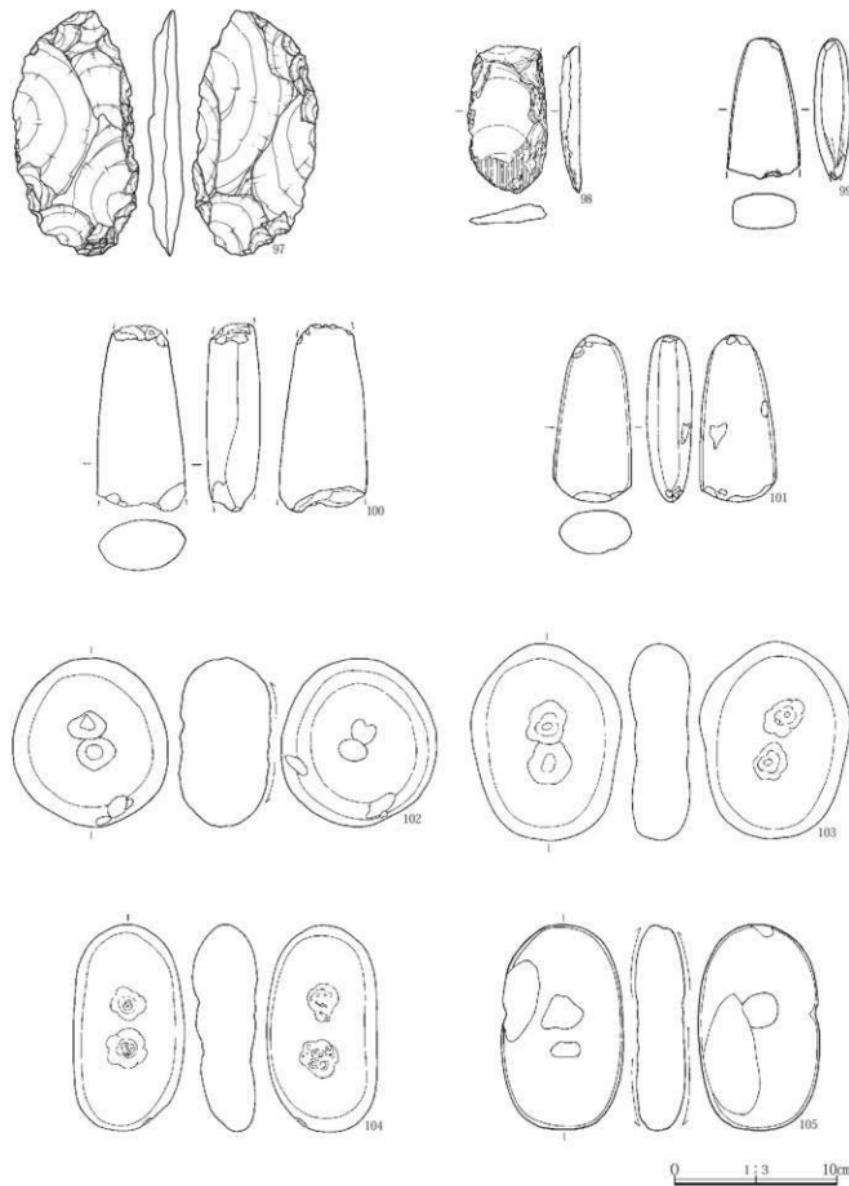
第23図 V区 3号竪穴建物出土遺物（4）



第24図 V区3号竪穴建物出土遺物（5）



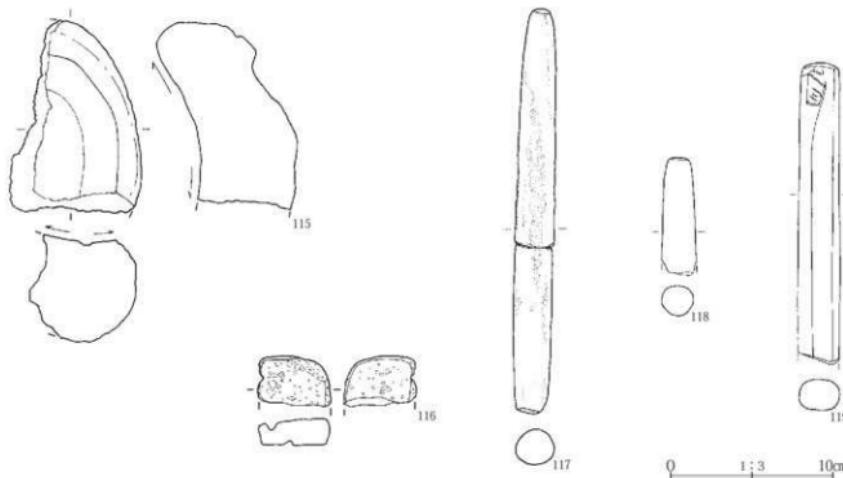
第25図 V区 3号竖穴建物出土遺物（6）



第26図 V区3号竪穴建物出土遺物(7)

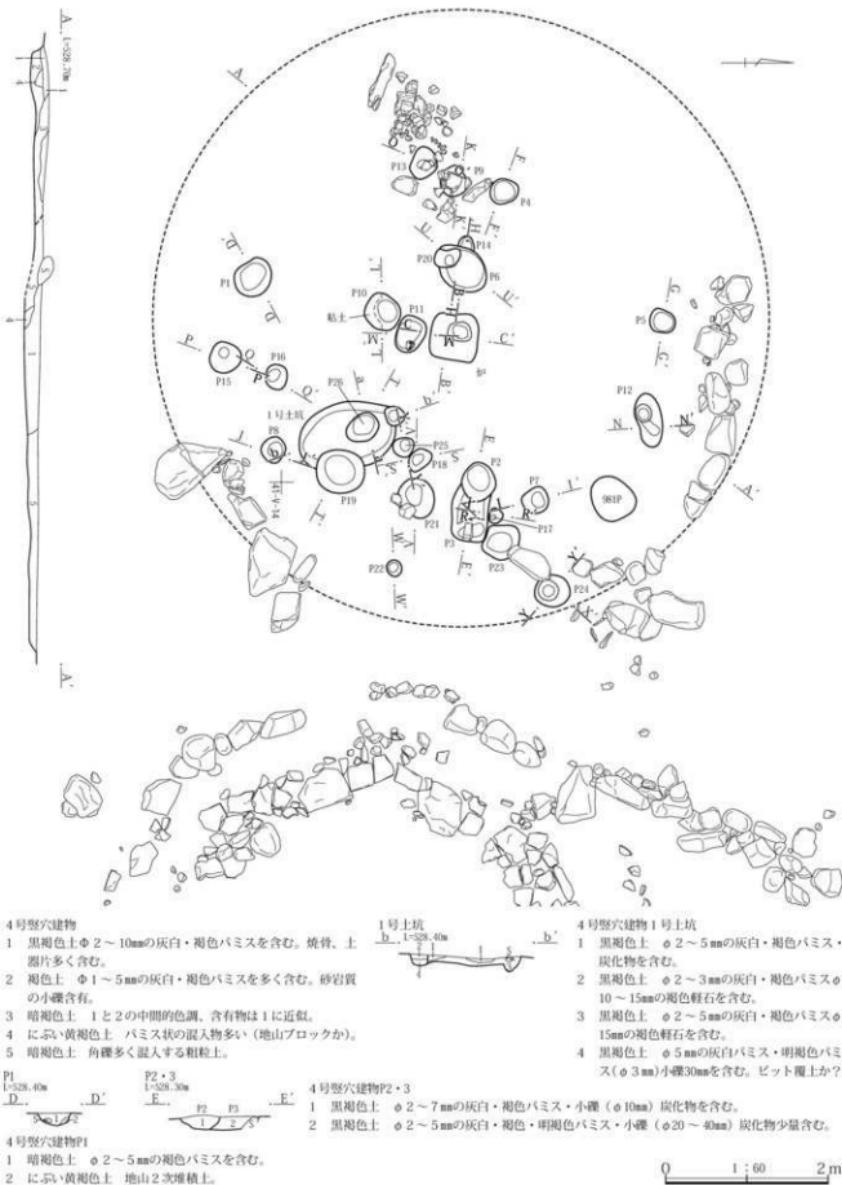


第27図 V区3号竪穴建物出土遺物（8）



第28図 V区3号竪穴建物出土遺物(9)

4号竪穴建物 (第29~37図、PL. 8・137~140)**位置** V区41V・W-13・14グリッド。**重複** 1号列石、11号配石(配石墓)が重複し、26号竪穴建物と重複。本遺構が26号竪穴建物より新しい。**平面形状** 立穴配置から東方向に出入り口を有する柄鏡形竪穴建物跡と想定される。部分的に礫の並びが確認されており、おそらく壁に沿って並べられたものと判断される。柱穴は竪穴建物の東側にやや集中して不規則に検出されている。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が一部に確認されていることから直徑7.5m前後の円形の主体部が想定される。東側には3号列石が接しており、直線的にハの字形に並んだ石列が検出されている。**主軸方位** N-81°-W。**規模** 長軸(7.5)m、短軸(7.5)m、深さ0.2m。**埋没土層** 土器、礫、炭化物、焼骨を多く含む黒色土主体の層が確認された。**床面** 掘り上げた状態では凸凹が見られ、複数の小土坑、ピットが多く確認された。竪穴内の多くのピット覆土中に炭化物、焼骨が認められた。**炉** 長さ0.54m、幅0.53mの隅丸正方形の掘方を有す、炉石、炉体土器は見られなかった。深さは0.4mで中央が深くなる。焼土、炭化物はあまり見られなかつたが、**焼骨、炭化物が混入。****埋甕** 確認されなかつた。**柱穴** 総数26基が確認された。やや内側に円形に配された一群の他は、不規則な位置にある、2回以上の建て替えあるいは重複が想定される。**周溝** 確認されなかつた。**掘方** 最終的に掘り上げた面であるが、かなり綿まつた黄褐色土面で凹凸が顕著で、明確な掘方としては確認できなかつた。**遺物** 土器は上層部より、破片を中心に2000点以上集中して出土している。後期前葉を中心としており、深鉢、注口土器が見られる。石器は石礫、石錐、磨製石斧、磨石の他に川原石を加工した大小の石錐が2点出土している。**所見** 竪穴建物と確定されるまでは、多くの土器が集中して広がり、礫、石列を伴った複雑な状況を呈していた。V区調査区内においては、最も高い位置にあり、3・11号竪穴建物の西に位置する。複数遺構の重複が想定される。本址の南西部に重複する11号配石もその一つで、おそらく配石土坑と思われ、後出の遺構である。本竪穴建物は後期前葉に比定される。



第29図 V区4号竖穴建物 (1)

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



4号型穴建物P4

- 1 暗褐色土 ϕ 2~3mmの灰白バニスを含む。少量の桃粒 (ϕ 5mm) 炭化物を含む。

4号型穴建物P5

- 1 灰黄褐色土 ϕ 2~3mmの褐色・灰白バニスを含む。

4号型穴建物P6

- 1 黒色土 ϕ 1~5mmの灰白・褐色バニスを多く含む。炭化物、骨片を含む。

4号型穴建物P7

- 1 黒褐色土 ϕ 2~5mmの褐色バニスを含む。炭化物、骨片の混入あり。

2 にぶい黄褐色土 ϕ 2~7mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 20mmの灰白砂質のもろい層あり。



4号型穴建物P8

- 1 黒褐色土 ϕ 2~5mmの褐色バニス・炭化物を多く含む。

2 にぶい黄褐色土 ϕ 30mmの小礫を含む砂質土。

4号型穴建物P9

- 1 黒褐色土 ϕ 2mmの褐色バニス・角礫炭化物を少量含む。

2 にぶい黄褐色土 ϕ 1~2mmの褐色バニス混入。

4号型穴建物P10

- 1 黒色土 ϕ 2~5mmの灰白・褐色バニスを含む。骨片 (少量) 含む。

2 明黄褐色土 ϕ 2mm前後の褐色・灰白バニスを含む砂質土。(柱を支える上砂か?)。

3 黒褐色土 ϕ 2mm前後の灰白・褐色バニスを多く含む。炭化物混入。

4号型穴建物P11

- 1 黑褐色土 ϕ 2~5mmの灰白バニスを少量含む。 ϕ 50mmの小礫が混入。



4号型穴建物P12

- 1 灰黄褐色土 ϕ 2~5mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 40mmの砂岩質の礫混入。

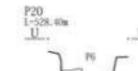
4号型穴建物P13

- 1 黑褐色土 ϕ 2mmの褐色バニスを少量含む。少量の骨片混入。

4号型穴建物P15・16・17

- 1 黑褐色土 ϕ 1~2mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 30mmの角礫、明褐色バニス (ϕ 5mm) 混入。

2 黑褐色土 1に近似。色調差のみ。



4号型穴建物P18

- 1 黑褐色土 ϕ 2~7mmの灰白・褐色・明褐色バニスを含む。炭化物あり。

4号型穴建物P19

- 1 黑褐色土 ϕ 2~5mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 10mm、40mmの小礫、炭化物混入。

4号型穴建物P20

- 1 黑褐色土 ϕ 1~2mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 30mmの角礫、明褐色バニス (ϕ 5mm) 混入。

4号型穴建物P21

- 1 黑褐色土 ϕ 2~7mmの灰白・褐色・明褐色バニスを含む。炭化物混入。



4号型穴建物P22

1 。

4号型穴建物P23

- 1 黑褐色土 ϕ 2~3mm褐色バニス。炭化物を含む。

2 暗褐色土 ϕ 2~5mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 30~40mmの角礫あり。

3 灰黄褐色土 ϕ 2mm前後の褐色バニス。 ϕ 7mmの明褐色バニスを含む。

4号型穴建物P25

- 1 黑褐色土 ϕ 2mmの灰白・褐色バニスを含む。

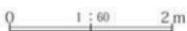
4号型穴建物P26

- 1 暗褐色土 ϕ 2~5mmの灰白・褐色バニスを含む。 ϕ 10~15mmのもろい砂岩質の小礫(同色)。 ϕ 40mm前後の角礫を含む。砂質性。

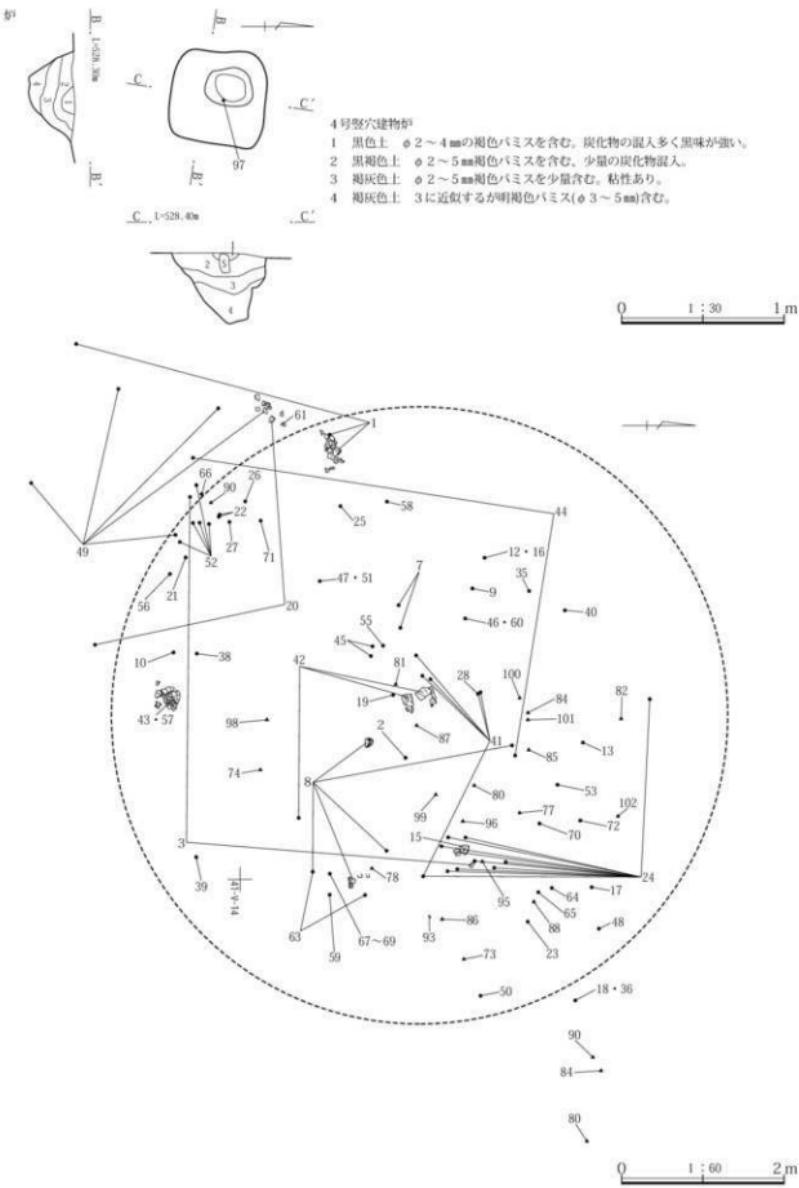
4号型穴建物P24

- 1 黑褐色土 ϕ 1~5mmの灰白・褐色バニス、 ϕ 30~50mmの角礫混入。

- 2 黑褐色土 ϕ 2~3mm灰白色バニス、少量の明赤褐色バニス (ϕ 5mm) を含む。



第30図 V区4号型穴建物 (2)



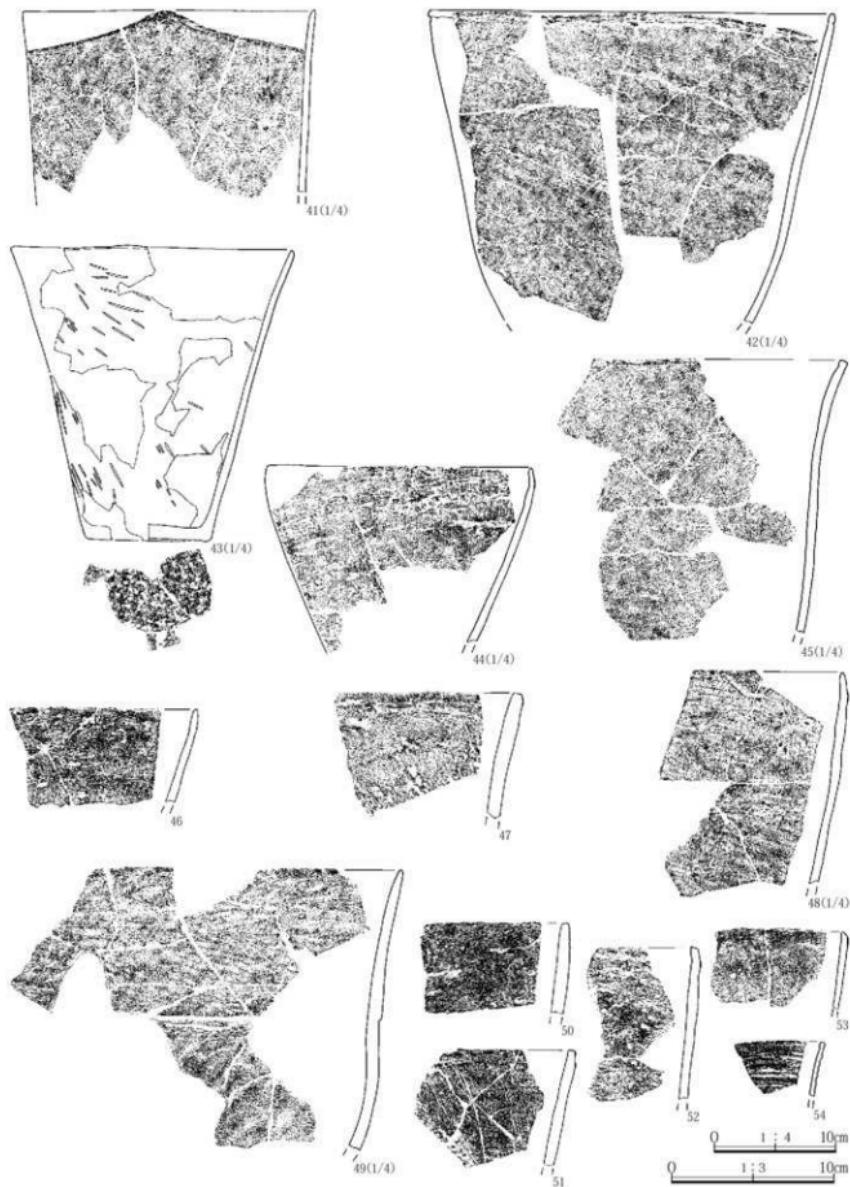
第31図 V区4号竖穴建物 (3)



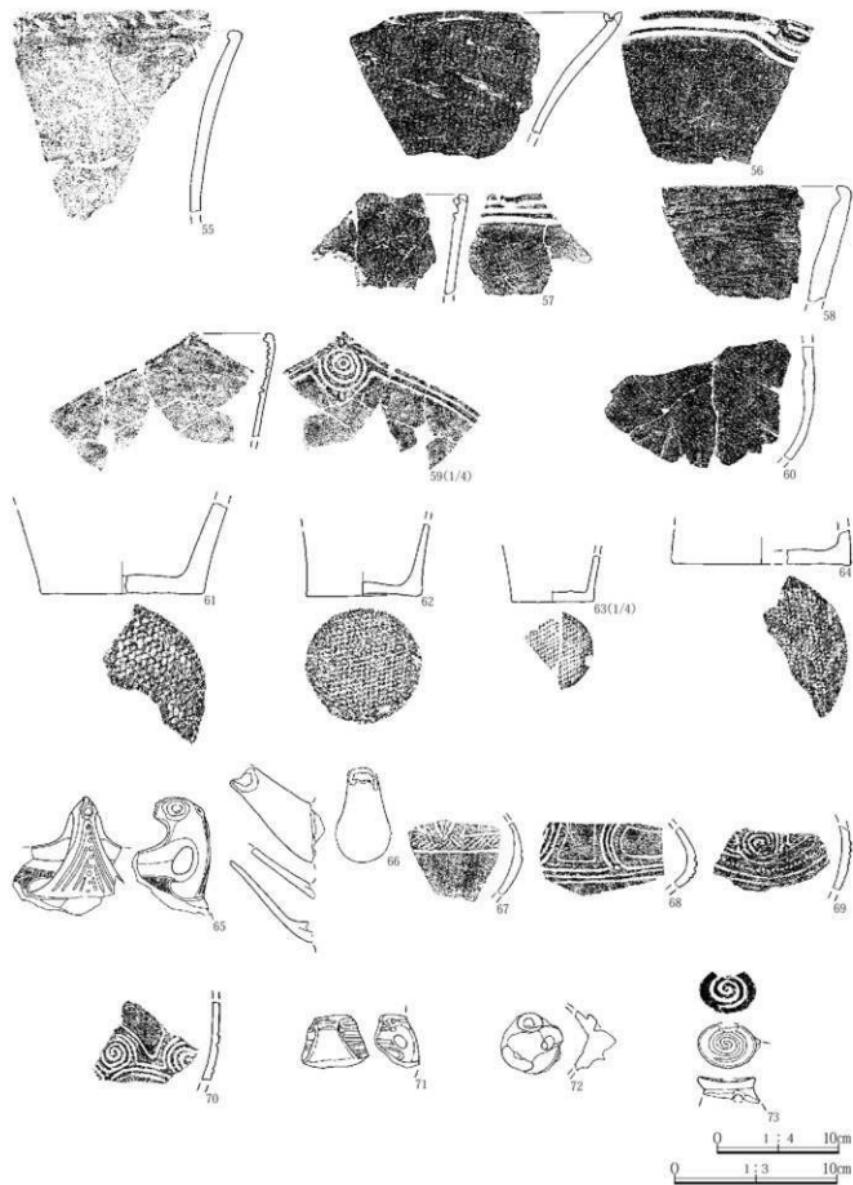
第32図 V区4号竪穴建物出土遺物（1）



第33図 V区4号竪穴建物出土遺物（2）

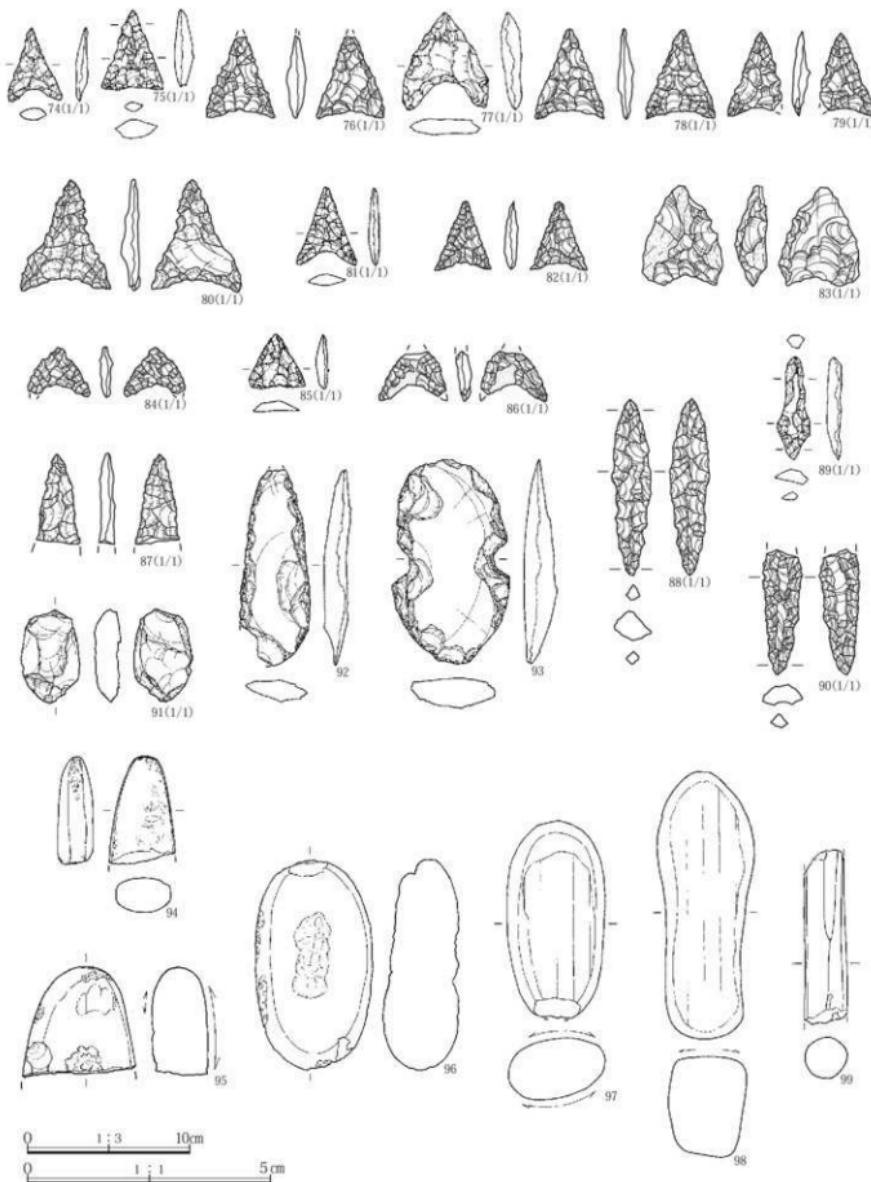


第34図 V区4号竪穴建物出土遺物（3）

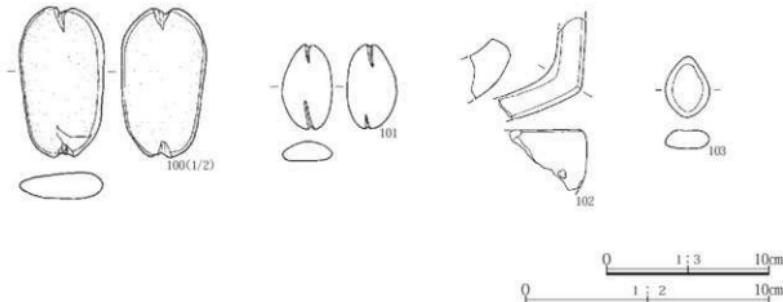


第35図 V区 4号竪穴建物出土遺物（4）

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第36図 V区4号竪穴建物出土遺物（5）



第37図 V区4号竪穴建物出土遺物（6）

5号竪穴建物（第38～44図、PL. 9・140～143）

位置 V区41S・T-16グリッド。3号列石の西に付帯して構築されたものと考えられる。調査区内においては高い位置に作られている。

重複 最終的には28・38・39号竪穴建物と重複していることが確認されており、本遺構が最も新しく位置づけられる。

北側については、一部翌年度に調査を行っている。その結果、壁の立ち上がりを確認。および土器、礫などが出土している。

平面形状 炉および東に延びた厚手の敷石を中心とした楕円形を想定しているが、平面形状については、中央の石敷き部分との関連を含め、未確定な部分が多い。

平面形に関しては推定である。また東側に部分に関しても不明確な部分が多い。

柱穴は明確なものが確認されなかった。南側の掘り込みラインが顕著であるが、下位に位置する竪穴建物のものである可能性もある。翌年度に西側を調査しており、壁の立ち上がりと思われる掘り込みを一部確認した、この部分から推定すればやや円形に近い形状になるものと思われる。

主軸方位 N-95°-W。

規模 東側が不確定なため、明確な規模は不明であるが、長軸(5.5)m、短軸4.5m、深さ0.3m。翌年調査を行った西側部分において、壁の立ち上がりを確認するが、ややずれた位置にある。

埋没土層 黒褐色土主体、礫、炭化物が多く含まれる層が確認された。角礫等のやや大型の礫が多くみられた、礫が竪穴建物の外円部に廻っているような状況も想定されたものの、最終的には確認できなかった。敷石の一部かもしれない。中央の敷石部分以外にも多くの礫が検出されているが、点在する状況であり、原位置を留めている状況ではない。

床面 炉から東に延びる幅0.5～0.6m、長さ1.7m程の帶状の敷石部分はやや浮いた状態で、周囲については多くの礫が点在していたが、面としては確認できなかった。掘りすぎてしまった可能性もある。

本来の床面はこの敷石面と考えられる。敷石部分は比較的大きな礫の平らな面をほぼ水平に据え、両側がほぼ直線となるように配し、石の間を埋めるように、小礫が詰めこまれた状況も見られた、炉から伸びたこの敷石部は明らかに様子が異なっている。

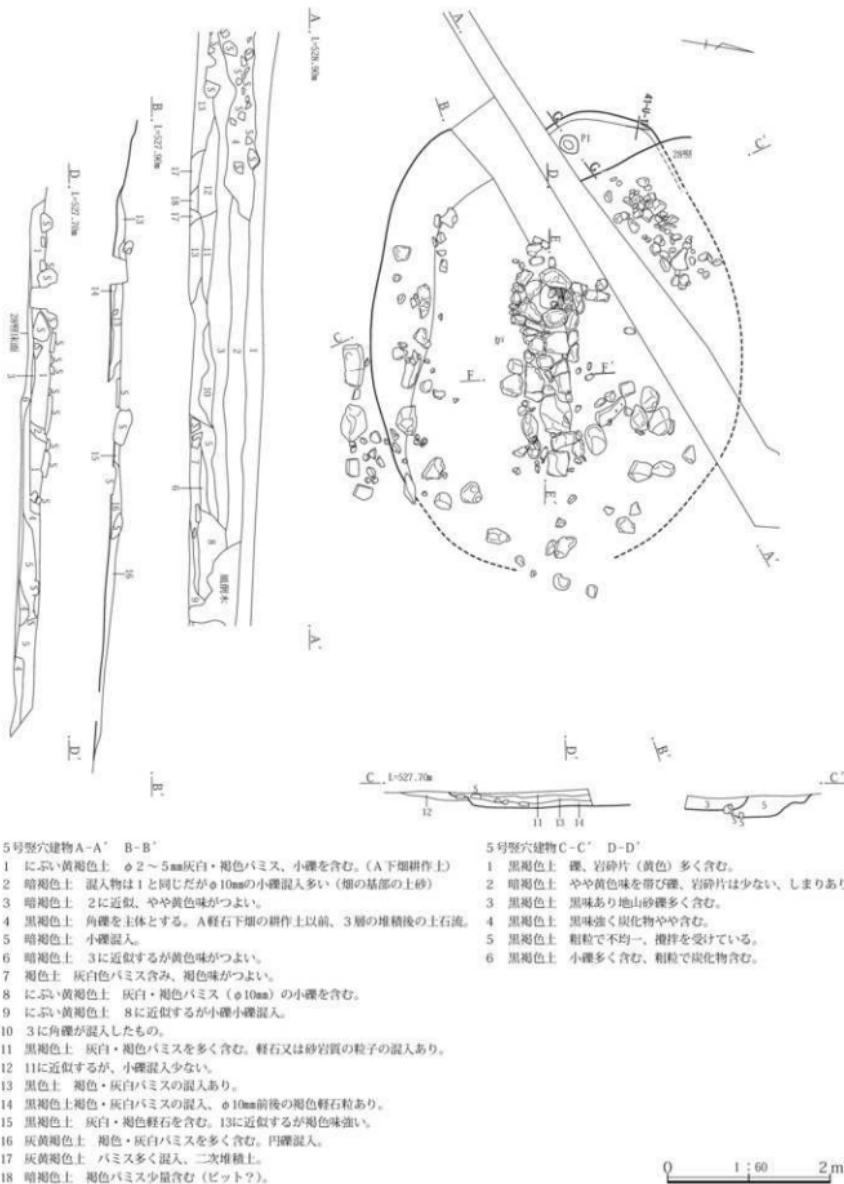
炉 推定される竪穴建物の中央やや西よりに位置する。5個の礫で囲われた石囲い炉である、長さ0.6m、幅0.55mで深さは0.25m程である。

矩形に組まれた炉からは、前述した幅50cm程の敷石が東に延びている。炉覆土内には若干の焼土が認められた。深鉢の下部を転用した炉内埋設土器を伴う。

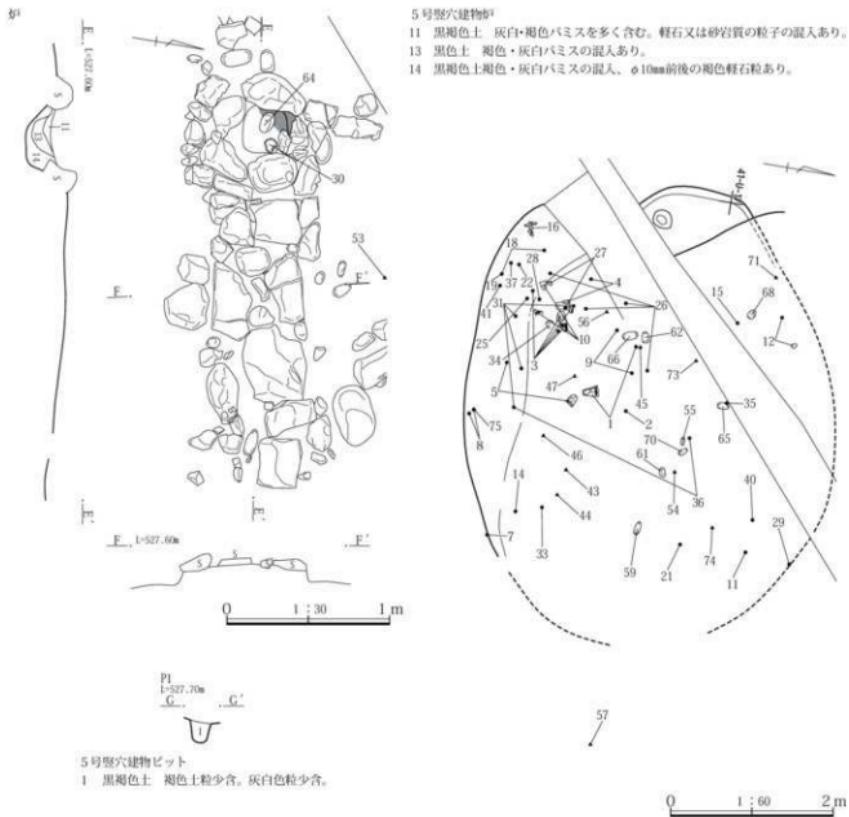
埋設土器や石組みの礫は被熱している。底部、内部には焼土が確認された。

埋甕 確認されなかった。

柱穴 明確なものは確認されなかった。



第38図 V区5号堅穴建物(1)



第39図 V区 5号竖穴建物 (2)

周溝 確認されなかった。

掘方 重複もあり本竪穴建物の明確な掘方は確認できなかった。

遺物 調査開始当初から多くの縄とともに土器類の出土が見られた、深鉢に混じり注口土器も見られる。総数2000点以上が出土している。ただし遺物の多くは敷石面よりも上面に多く見られることから、本遺構に伴うものか判断できない。時期は後期前葉から中葉期のものを主体としており、注口土器類も見られる。

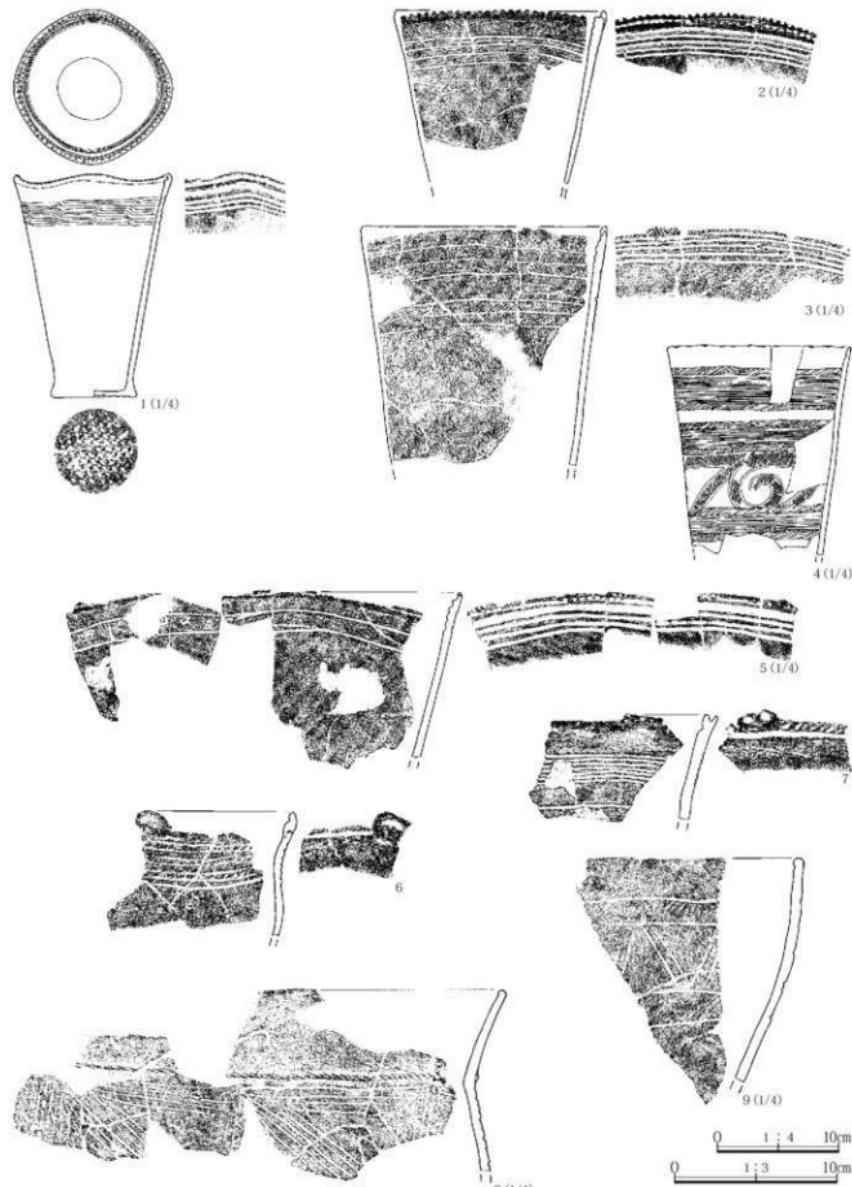
石器類は石錐、石錐、打製石斧の他、小型磨製石斧、磨石、凹石、石皿などの他、軽石製品も出土している。

所見 調査当初、本遺構の上層面には多量の土器および縄が認められ、遺構の形状を確定するまでに時間を要した。覆っていた土層中には炭化物、焼骨も多く含まれていた、この状況は4号竪穴建物に似ている。いずれの遺構についても、明確な掘方は確認できなかった。

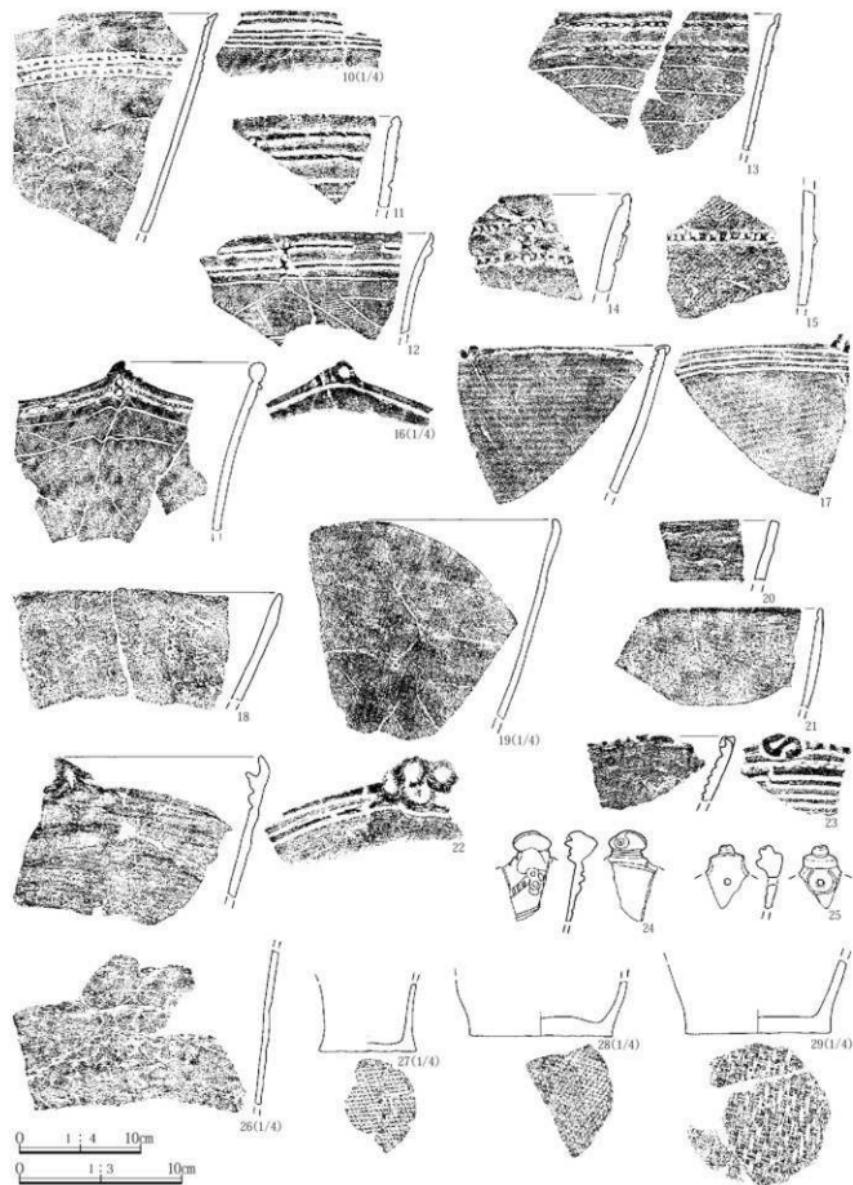
位置的には3号列石の西側に在り、敷石部分が列石方向に延びており、関連があるものと考えられる。

出土土器は後期前葉から中葉期のものを主体としているが、出土状況等から見て、中葉期に比定される可能性が高いと考えられる。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物

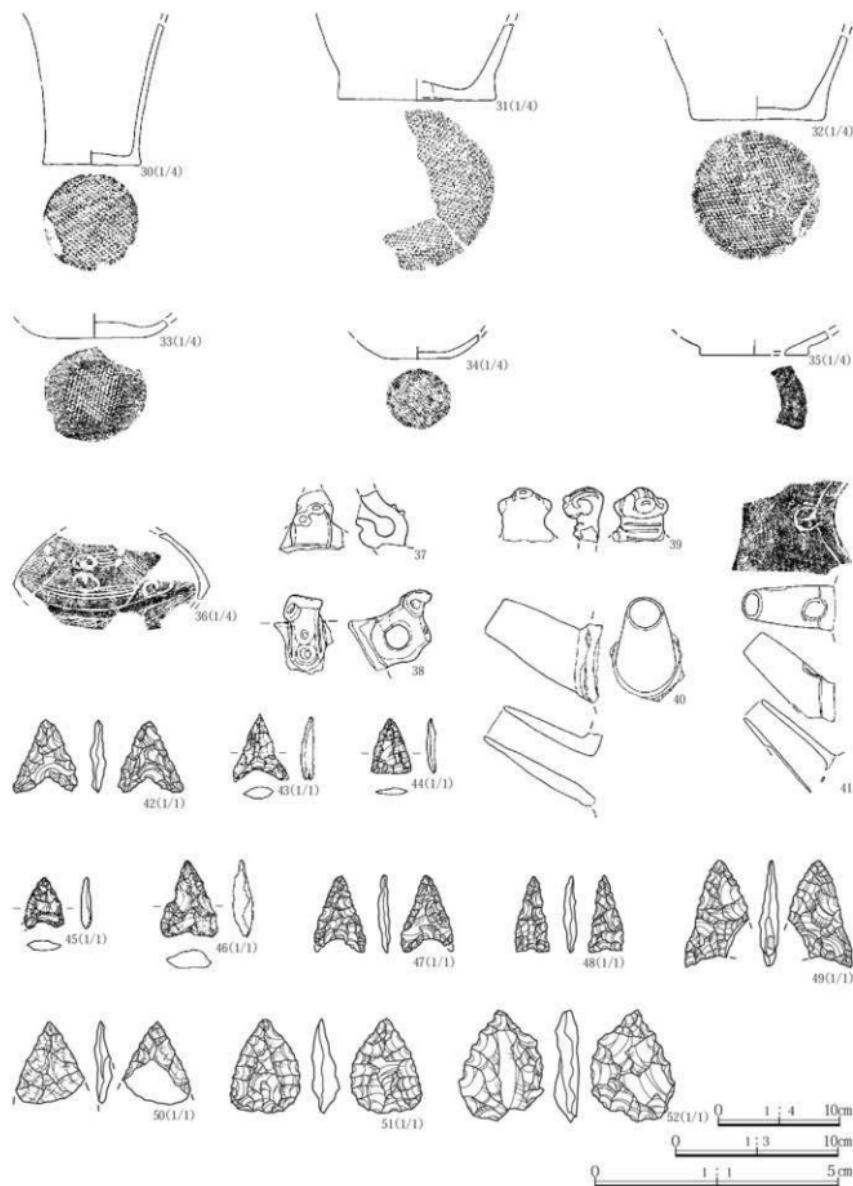


第40図 V区5号竪穴建物出土遺物(1)

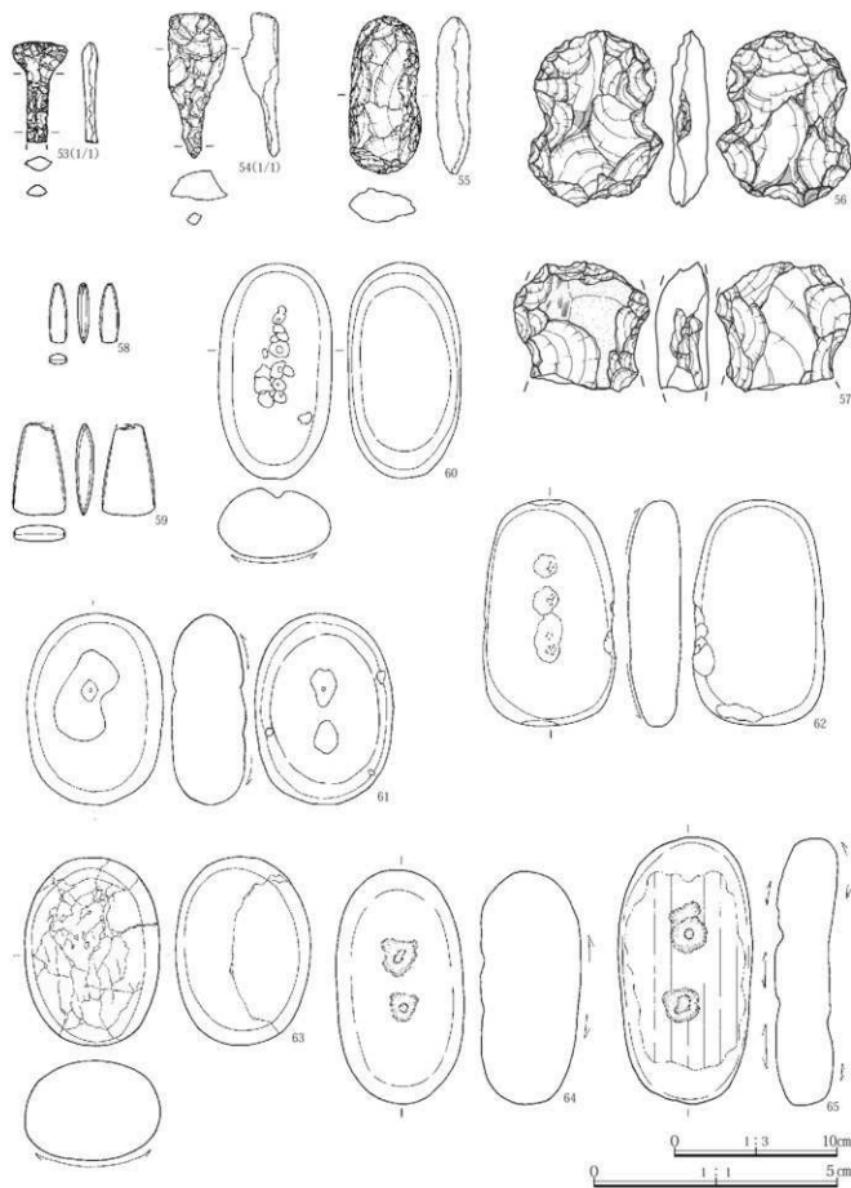


第41図 V区 5号竪穴建物出土遺物（2）

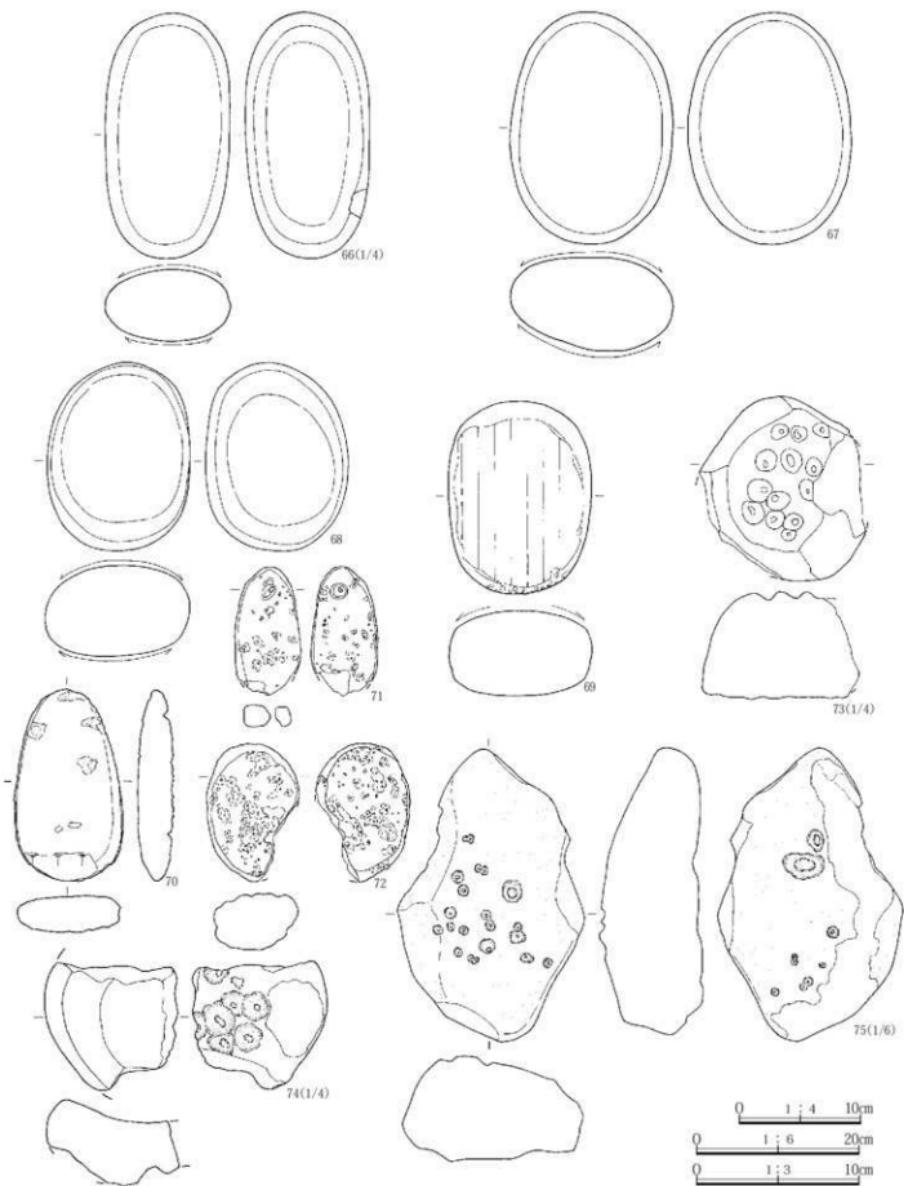
第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



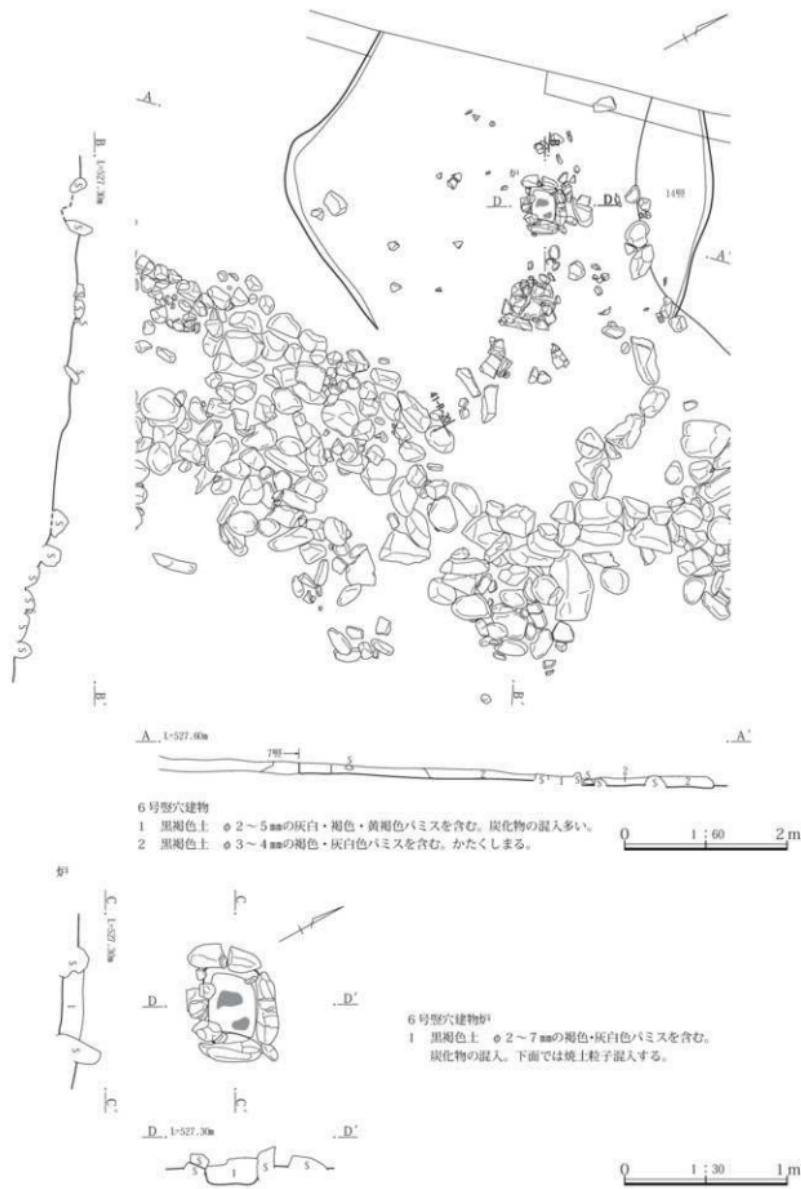
第42図 V区5号竪穴建物出土遺物（3）



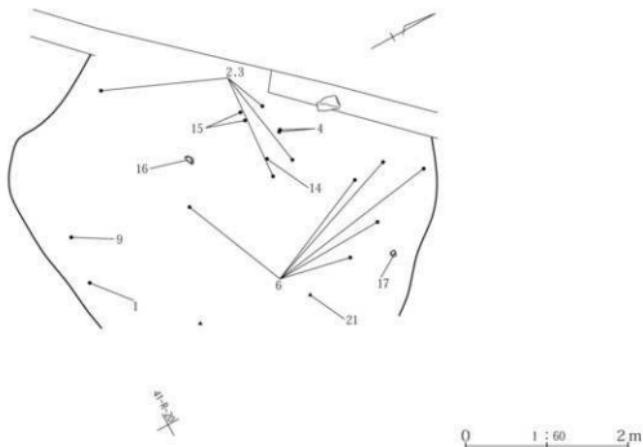
第43図 V区5号竪穴建物出土遺物（4）



第44図 V区5号竪穴建物出土遺物（5）



第45図 V区 6号型穴建物 (1)



第46図 V区6号竪穴建物(2)

6号竪穴建物 (第45~47図、PL.10・143)

位置 V区41R・S-19・20グリッド。

重複 14・56号竪穴建物と重複。下位に検出された56号竪穴建物より本遺構が新しい。

平面形状 炉を中心と想定されるが、明確な壁の立ち上がり等については確認されなかった。

西側については、当初未調査区に在り、翌年度の調査において確認したが、やはり壁の立ち上がりは確認できなかつた。

本址は東側に位置する3号列石の上段面に位置し、これに繋がった構造であると推定される。おそらく柄鏡型敷石竪穴建物と想定される。明確な立ち上がりについては極めて不明瞭である、南側の一部に掘り込み状の段差を認めたが、北側に対して非対称なラインであり不確定である。

主軸方位 N-63°-W。

規模 長軸(5.0)m、短軸4.9m、深さ0.1m。

埋没土層 黒褐色土主体で多く縮りを有し、礫、小角礫を混入、砂粒多く含み、多くの炭化材、炭化粒、焼骨を認めた。

床面 炉の東側にやや間隔を置いて、大型の礫を平らに敷き詰めた部分的な敷石を確認した。

一部ではあるが、構造は5号竪穴建物の敷石部に近似

する。周囲に点在した礫については原位置を留めているものはほとんど確認できなかったが、僅かに平らな面を上にしたものもあり、敷石の一部であった可能性もある。硬化面は特に確認できなかった。手前に列状に走る礫を認めたものの竪穴建物との関連を確定するには至らなかつた。

炉 ほぼ中央に位置する。4個の礫をやや前後に長い長方形に配置する石囲い炉である。規模は長さ0.7m、幅0.55m、深さ0.2mを測る。

検出された炉石は被熱し、割れが顕著で、煤の付着も見られた。

炉内には礫が入り込んだ状況も認められた。また埋設土器は伴わず、底部に若干の焼土、炭化物が見られた。

埋甕 確認されなかつた。

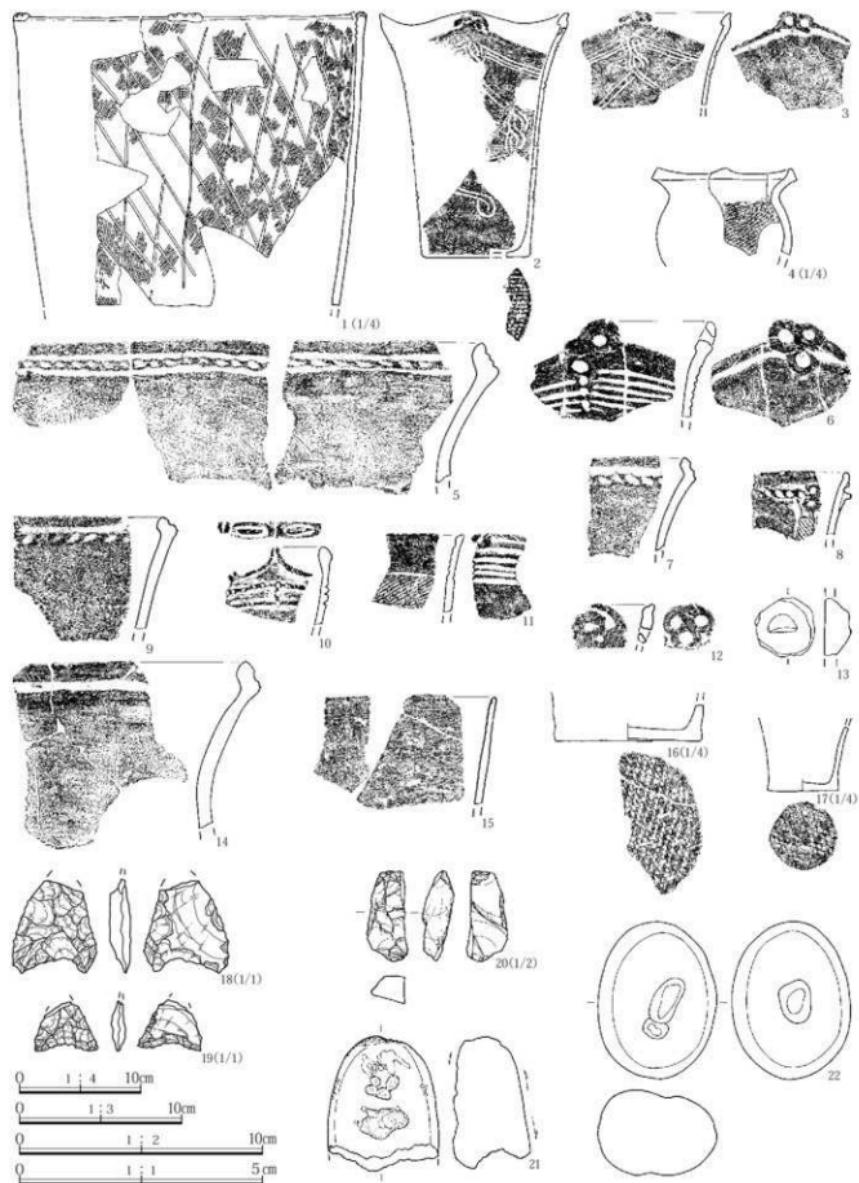
柱穴 明確なものは確認されなかつた。

周溝 検出されなかつた。

掘方 敷石除去後の面は凹凸が認められたものの、確認できなかつた。

遺物 上部が削平されていたものの、土器片を中心に分布が見られた、総数は1600点程である、いずれも掘り下げ時の覆土中のものが多い。

深鉢類を中心に出土している。石器は石鏃、磨石が認められる。



第47図 V区6号竪穴建物出土遺物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物

所見 調査段階でかとこれに伴うと思われる敷石を確認したことから、竪穴建物と認定し全体把握に努めた。

竪穴建物の外形については明確にできなかったことから、ほとんど掘り込みを持たない構造であったと推定される。また、3号列石の西側上段に作られており、近似する敷石構造を持つことが5号竪穴建物と似ていることなどから、ほぼ同時期に存在していたことが想像できる。

さらに炉、敷石から東に伸びた軸線が、東に位置する3号列石の下段部に付随する2号配石（下部に1号配石土坑が作られている）に延びていることも注目される。

出土土器は多くはないが、後期前葉から中葉に比定されるものを中心としている。比較的新しく位置づけられる。石器類の出土は少ないものの、石鏃、凹石が出土している。

7号竪穴建物（第48・49図、PL.10・144）

位置 V区の北西側、41S-19グリッド。3号列石の北西側の上段部、6号竪穴建物の南西側に近接して位置する。

重複 69号竪穴建物の上に作られる。北西部分が調査区外に延びる。南東側は3号列石に繋がり、関連がうかがわれる。

平面形状 主体部は円形ないし隅丸方形が想定される、列石につながる柄鏡型を呈すと思われる。

調査過程では20cm程の掘り込みと、下面に焼土等を確認しているが、一部平石を敷いた部分的な敷石を検出しているが、これらは掘り下げ面からはかなり浮いた位置にあることから、最終的な面は、掘方ないしは重複遺構の床面である可能性がある。柱穴は5基を検出したものの、位置、形状、規模にばらつきが見られ、いわゆる主柱穴にはならない。

翌年度に西側部分の調査を行ったが、明確な形状は掴めなかった。

主軸方位 N-47°-W。

規模 掘り込みのある部分から推定される規模は、長軸4.0m、短軸3.7m、深さ0.35m。

埋没土層 黒褐色土主体、小角礫多く含み、黄褐色粒の混入も目立ち、炭化物の混入見られる。全体に締りが強く、いわゆる竪穴建物の覆土層という感は少ない。

床面 前述したように、敷石面から下がった位置に床面

を認定しており、中央やや奥に焼土が不定形に広がる。床面として認定される面は確認できなかった。明らかな掘方は確認されなかつたが、最終面は比較的平坦で、綺りも比較的ある。

炉 床面においては、炉石や焼土を伴う掘り込みなど明確なものは確認されなかつた。長さ約1.0m、幅0.5m程の不定形な焼土が検出された。いわゆる地床炉とも考えられるが、諸要素を考慮しても、炉の痕跡である可能性は少ないので、炉石や掘り込み等も見られず、いわゆる炉の体裁は成していない。

埋甕 確認されなかつた。

柱穴 南寄りの壁寄りに比較的大型のビットが検出された他には、浅く小型のビットのみで、いわゆる主柱穴にはならない。

周溝 検出されない。

掘方 床面とした面との区別は難しい、遺構確認面より約25cmで掘方想定面となる。

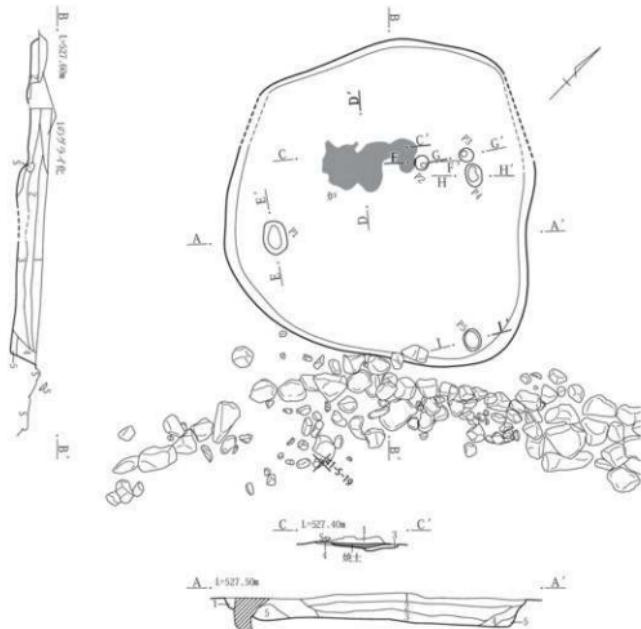
遺物 土器は总数750点が出土している。小破片を主体とするが、やや大型の注口土器や小型コップ型の手捏ね土器などが出土している。

石器は石鏃、石匙、打製石斧などが出土している。いずれも覆土中からである。

所見 3号列石の西側に枝分かれして延びた、4号列石に入り口部が接する形で、列石自体が竪穴建物の前面にある大きく開くハサウエー状の列石に比定される。竪穴建物の北西側の一部は調査区外にある。

翌年度の追加調査ではこれに続く遺構として、明確なものは確認できなかつた。

出土土器は後期前葉期を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

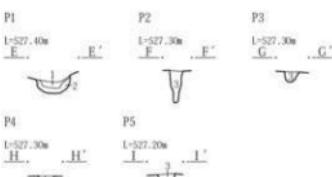


7号竖穴建物 A-A' B-B'

- 1 噴褐色土 ϕ 2~5 mmの灰白・褐色バミスを多く含む。砂岩質のもろい礫、 ϕ 30mmの小礫あり。
- 2 黒褐色土 灰白色・褐色バミスを含む。砂岩質のもろい礫、 ϕ 10mm少量含む。
- 3 黑褐色土 ϕ 2~5 mmの灰白・褐色バミスを含む。半干粘性あり。炭化物混入。
- 4 黑褐色土 褐色バミスを少量含む。 ϕ 10mm小礫あり。
- 5 噴褐色土 褐色上ブロック混入。

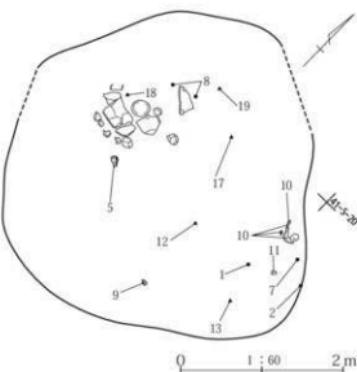
7号竖穴建物 C-C' D-D'

- 1 黑褐色土 ϕ 2~4 mmの褐色バミス・灰白バミスを含む。埴土粒・炭化物粒・骨片を含む。
- 2 灰黄褐色土 ϕ 2 mmの褐色バミスを含む。粘性あり。
- 3 地山(灰黄褐色土)
- 4 地山と埴土粒子との混上。

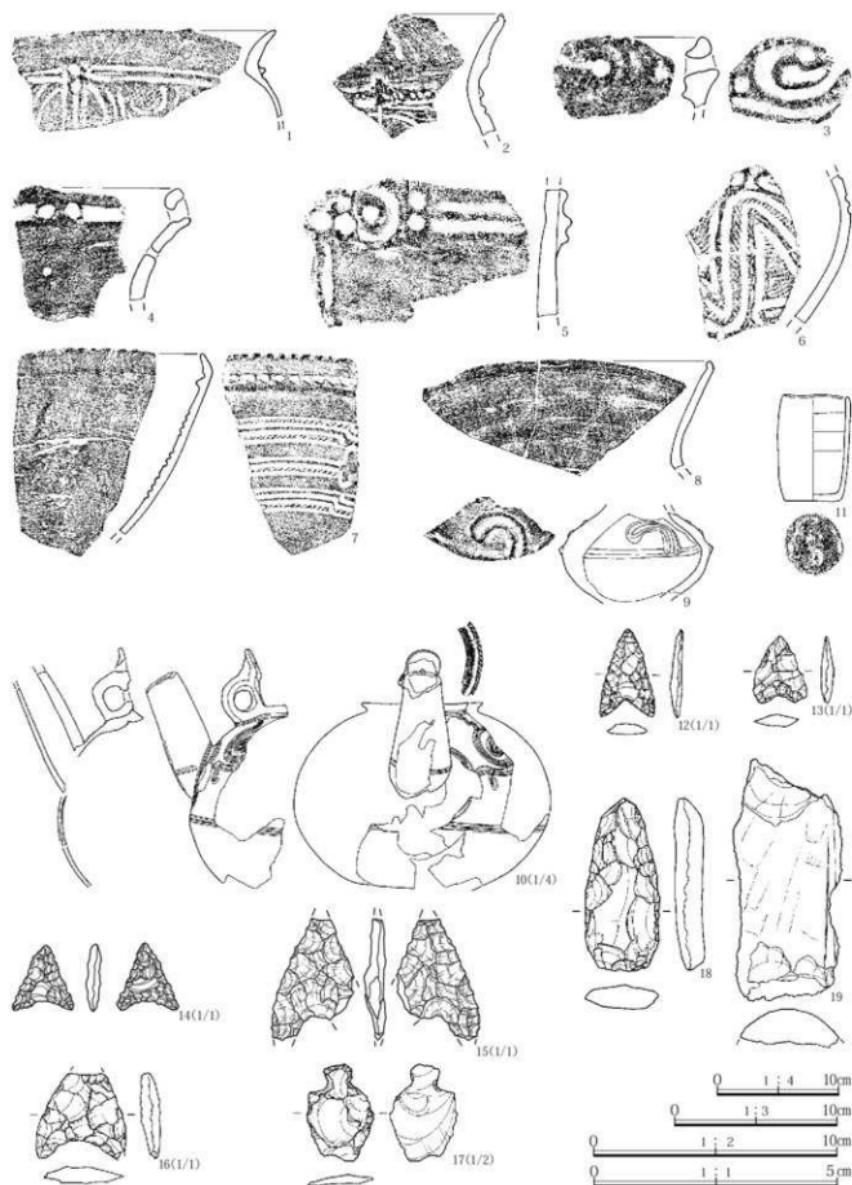


7号竖穴建物ピット

- 1 黑褐色土 ϕ 2~3 mmの灰白色バミスを含む。
- 2 灰黄褐色土 地山の2次堆積土。
- 3 黑褐色土 ϕ 1~2 mmの灰白色バミス・炭化物を含む。
- 4 黑褐色土 P2に近似。色調差のみ。 ϕ 1~2 mmの灰白色バミス・炭化物を含む。



第48図 V区 7号竖穴建物



第49図 V区7号竪穴建物出土遺物

8号竪穴建物（第50・51図、PL.11・144）

位置 V区において検出された竪穴建物としては、最も南の41V・W-3・4グリッドに位置する。レベル的にはやや高い位置に作られている。平成28年度調査において、2面遺構調査終了後の下面確認の為のグリッド掘り下げ調査時に、焼土に伴い遺物等が確認され、竪穴建物と認定したものである。

重複 調査時のトレンチ断面において、別遺構と思われる土層の変化が見られ、精査を行ったが、最終的には重複遺構は確認できなかった。本址については、遺構確認トレンチ掘削時に土器の集中と、焼土を確認し、精査を行ったところ竪穴建物と判断された経緯があり、壁の立ち上がりに関しては明確な掘り込みは確定できなかった。

平面形状 壁の立ち上がりに関しては、トレンチの断面において確認した、実際の掘り込みは部分的に確認されたのみである。形状は円形と想定される。

主軸方位 N-0°。

規模 推定される規模は、長軸5.8m、短軸5.6m、最大深さ0.15m。

埋没土層 掘削時の断面観察では、黄褐色の砂質土を主体とし、礫を多く含む粘性土を主体としている。

トレンチ掘削時には明確な覆土としての認定は困難であった。最終的に遺物、焼土の検出および、壁面の精査により竪穴建物と認定した経緯がある。

床面 焼土の分布する周囲を注意深く精査したが、床面と思われる面を確認したものの、明確な床面としては確認、認定はできず、炉の周囲についても同様であった。

炉 ほぼ中央部に長さ約2.5m、幅約1.0mの不正形な焼土範囲を確認、精査した結果、焼土の南部に深鉢型下半部を転用した埋設土器が確認されたことから炉と認定した。

いわゆる地床がで、炉石は確認されなかった。焼土は部分的には極めて厚く堆積しており発色も良い。

焼土に関しては、南西端にも小範囲に広がりが見られたが詳細は不明である。

埋甕 確認されなかった。

柱穴 壁に沿って6基が確認された。その配置から、P3・4が出入り口部のピットであり、P1・2・5・6・7が主体部柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状一

長軸-短軸-深さ（単位m）。

P1：円形-0.35-0.30-0.22。

P2：円形-0.37-0.36-0.47。

P3：円形-0.37-0.35-0.63。

P4：円形-0.35-0.35-0.58。

P5：円形-0.40-0.38-0.50。

P6：円形-0.45-0.42-0.18。

P7：橢円形-0.60-0.43-0.63。

周溝 断面において幅約20cm、深さ15cm程のものが確認されたが、やや面的に下がっていたためか、平面的には明確にし得なかった。

掘方 床面とした部分の一部は、掘方面に達している部分もあったとみられる。確定されない部分が多く明確にし得なかった。

遺物 土器は総数約100点が出土している。時期は後期初頭が主体となる。図示したものはいずれも破片で、炉体土器については無文である。

土製品は腕輪と思われるものが1点見られる。石器はほとんど出土していない、僅かに磨石1点のみで、扁平な川原石を利用、両面使用痕顯著である。

所見 本址は遺構確認トレンチの掘削時に検出された経緯がある。掘り込み面は不明で床面のレベルはトレンチ掘り下げ面より50cmほど下がった位置にあるものと考えられる、明確な遺構としては確認できなかったものの、土器の集中範囲や、炉体土器を伴う焼土の確認面などから想定している。

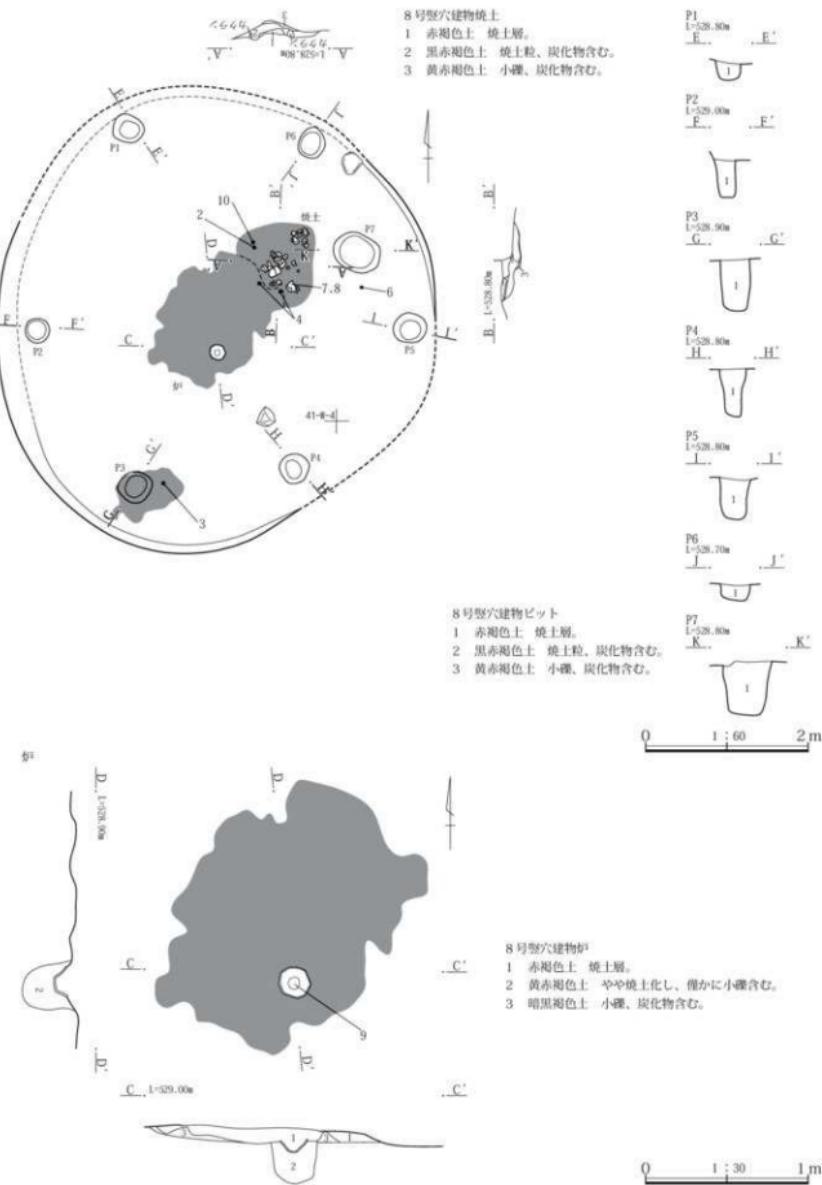
周囲の土層は砂礫混じりの土で、かなり流動性の高い砂礫土であり、水流の影響が多分に認められる。北西側の山地から流れ出したいわゆる洪水層に埋まったものと想定される。遺構周辺部にも土器片を多く含む砂礫層が認められたものの、本址以外には同時期の遺構は確認できなかった。

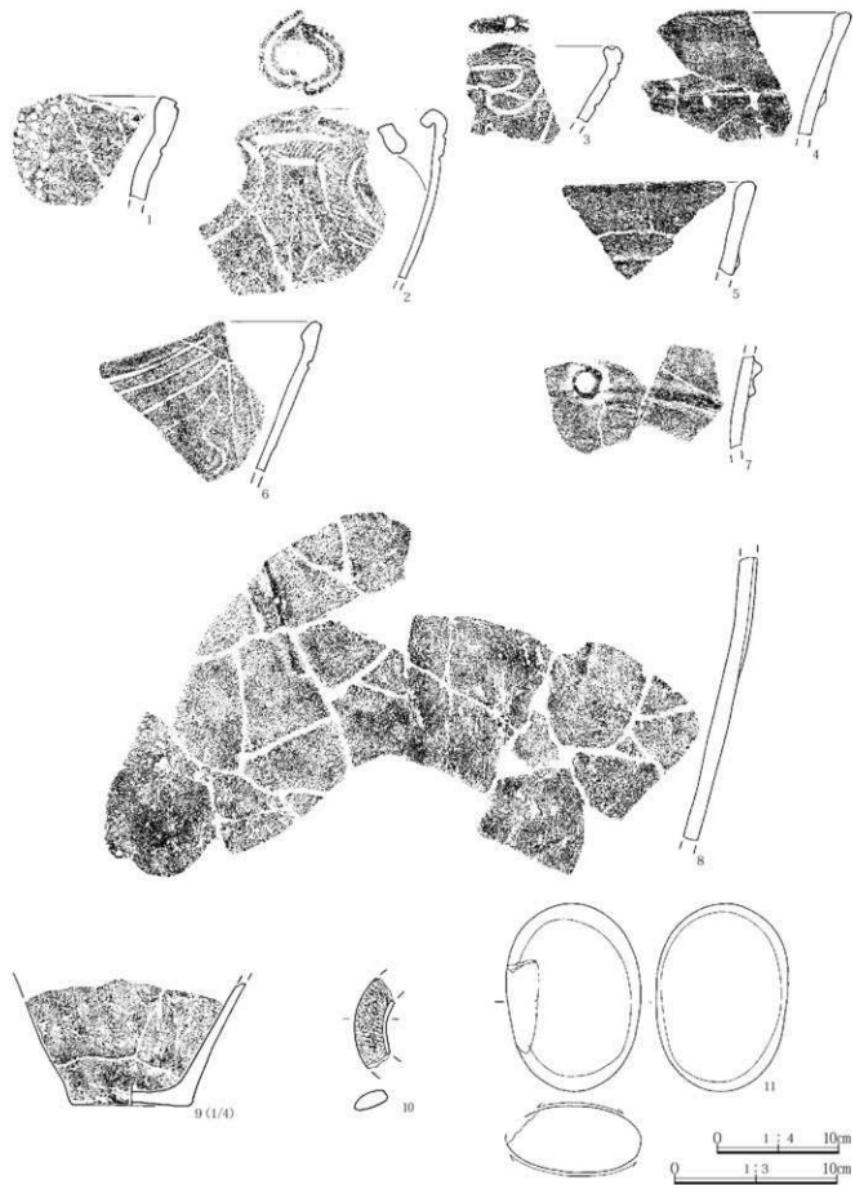
がは炉体土器を持つ地床炉で、不定形な広がりを見せている。焼土層の厚さもかなり見られ、土器の小破片なども含んでおり、比較的長期の使用が考えられる。

出土土器は後期初頭を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

9号竪穴建物（第52~54図、PL.12・145）

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物





第51図 V区8号竪穴建物出土遺物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物

位置 V区41S・T-11・12グリッドに位置する。2面調査時の遺構確認トレーニにて確認した。僅かな焼土と土器を確認、竪穴建物と想定し、拡張調査を行った。

重複 南東部分に10号竪穴建物が重複、明確な切り合い状況は確認できなかったが、本遺構を切るものと考えられる。

平面形状 楕円形ないしは開丸長方形か、立ち上がりラインは明瞭ではない。

主軸方位 N-48°-W。

規模 挖り上がりの規模は、長軸4.80m、短軸4.08m、深さ0.36m。

埋没土層 暗黄褐色土主体、地山礫を極めて多く含む砂礫質土壤で2層が確認された。土器も多く混入した状況で、投げ込まれたというよりは、流れ込んだような状況であった。

床面 磨を多く含んだ土質で凹凸が見られ、明確な床面としては確認できなかった。やや高低差も見られ、北西側がやや高くなっている。床面と想定した面には、地山礫が多く露出している。中央部についてはトレーニによる掘削を受けている。

炉 トレーニ掘削時に失われている、炉石と思われるような礫は確認されていないことから、地床炉の可能性もある。

ある。出土した土器に関しては灰土器であったかどうかは不明である。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 確認されなかった。礫の入り込んだ層が堆積、土色の違いが極めて不明瞭であった。

周溝 確認されなかった。

掘方 確認できなかった。

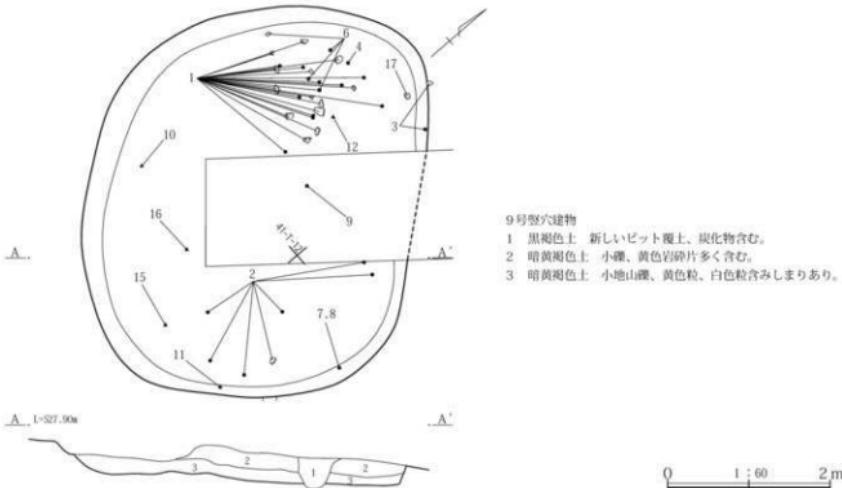
遺物 土器は竪穴建物内ほぼ全面から、総数1000点以上が出土している。遺物は多量の礫に混在するような状態で出土している。土器の多くは小片で、また摩耗しているものがほとんどであった。

時期は中期後半を主体とする。石器は石鏃、打製石斧、凹石、磨石が出土している。

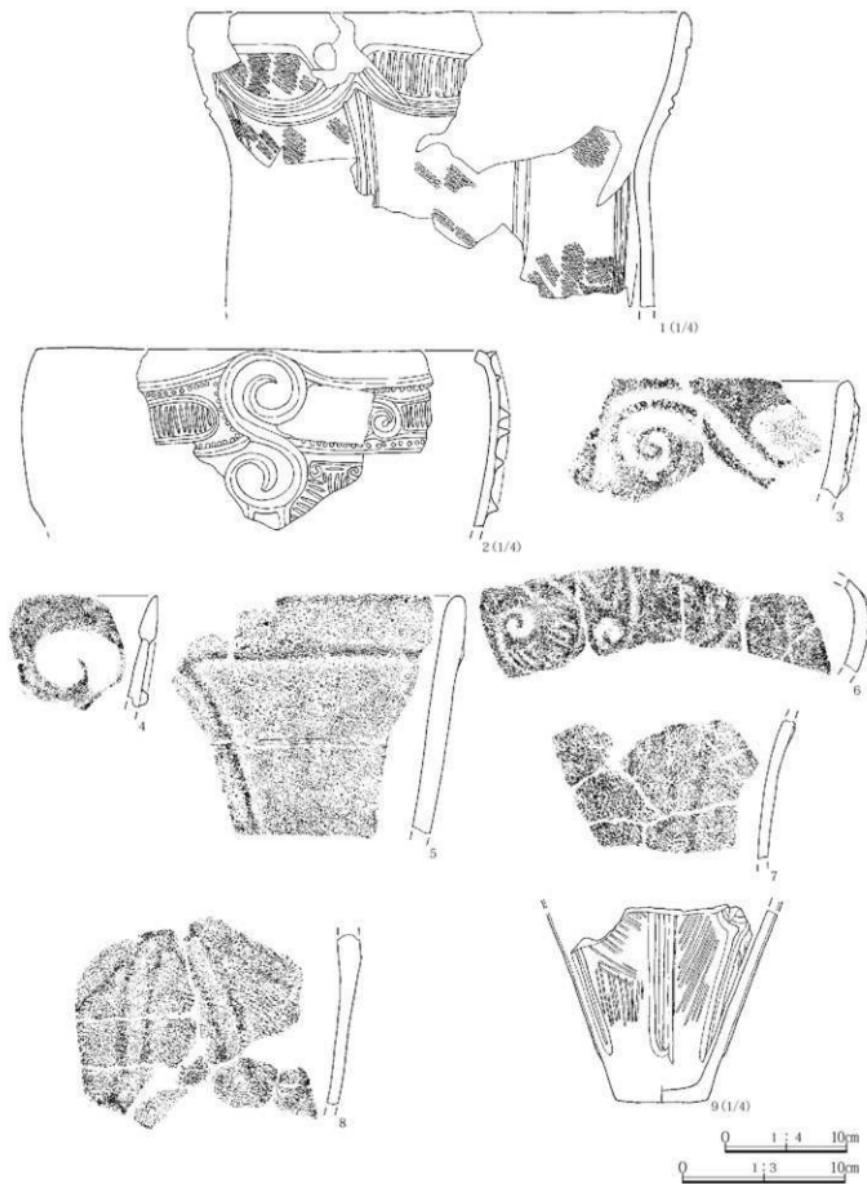
所見 確認トレーニ掘削時に土器の出土が見られたことから、範囲を広げ、確認した竪穴建物である。覆土に多量の地山礫を含み、荒れた堆積土中に掘り込まれている。床面は確認できず、断面の精査においても確定できなかった。

出土土器は中期後半期を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

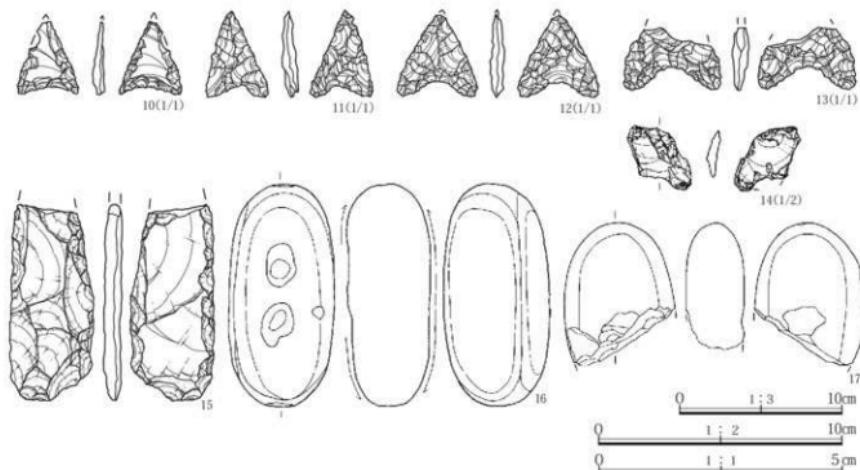
10号竪穴建物（第55・56図、PL.12・145）



第52図 V区 9号竪穴建物



第53図 V区 9号竪穴建物出土遺物（1）



第54図 V区9号竪穴建物出土遺物（2）

位置 V区41S・T-10・11グリッドに在る。1号竪穴建物と17号竪穴建物との間である。

重複 北側で9号・南側で17号竪穴建物と重複、本遺構が新しい。いずれの遺構とも範囲および形状が不明確な部分が多く、特に17号竪穴建物との関連については、明確な切り合ひ状況はつかめなかった。

平面形状 全体的に著しく削平を受けており、明確な形状および規模は不明であるがおよそ円形を想定した。中央に掘り込みを有す焼土が確認されており、炉の痕跡と判断した。

主軸方位 N-74°-W。

規模 長軸（5.2）m、短軸（5.2）m。深さ0.05m。

埋没土層 ほとんど掘り込みらしきものは確認できなかった。このため、埋没土に関しては断面からの観察では把握できなかった。

床面 削平されており、全体に緩やかな凹凸面として認められた状況で、平坦な床面としては確認できず。

所々に平石も残るが、本址に伴うものは不明である。

炉 全体に上部構造が削平されてしまったものと考えられる。底部の焼土部分のみが残ったものと考えられる。

確認した焼土の規模は、長さ約0.9m、幅0.65mである。

中央に径約40cm、深さ60cmのピットが検出されているが、覆土の観察から新しい掘り込みであろうと考えられる。焼土周囲に炉石や、炉内埋設土器は確認されなかった。

埋甕 なし。

柱穴 明確なものは確認できなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 削平されており不明。

遺物 削平された部分が多く出土遺物は200点程が出土しているがいずれも小破片である。

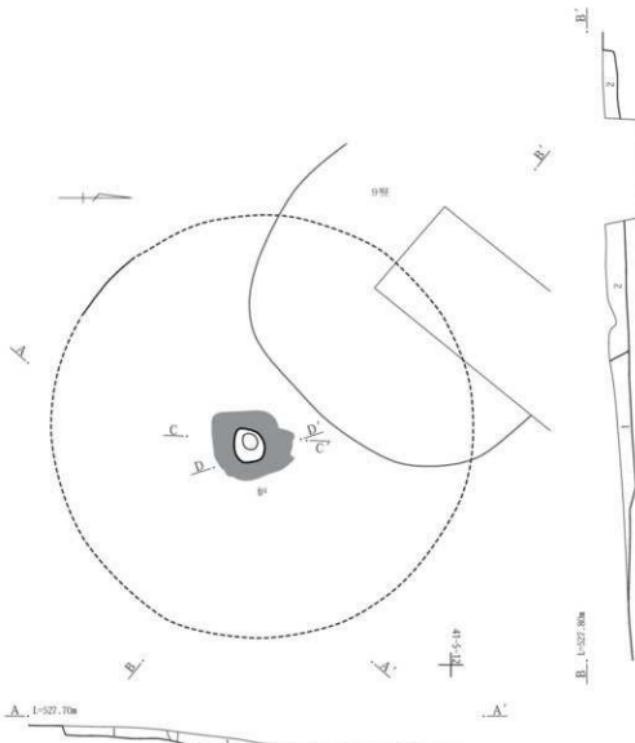
僅かに竪穴建物において出土したものを図示した、本址に伴う確証はないが、時期は後期初頭か。土製円盤2点が見られる。

石器については出土していない。

所見 削平が著しく、一部、南西部のみ立ち上がりと思われる段差を確認したものの、全体の形状は不明である。

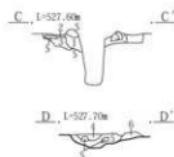
当初9号焼土としたものを炉と想定して竪穴建物とした。僅かに出土した土器から、時期は後期初頭に比定されるか。

11号竪穴建物（第57～65図、PL.12・13・146～149）



10号豊穴建物

- 1 に赤い黄褐色土 $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ の灰白・褐色バミス、 $\phi 10\text{mm}$ の砂岩質のもろい小礫を多く含む。少量の明褐色バミス ($\phi 5 \sim 10\text{mm}$) を含む。固くしまる。
2 に赤い黄褐色土 $\phi 2 \sim 15\text{mm}$ の灰白・褐色・赤褐色バミスを多く含む。 $\phi 40 \sim 70\text{mm}$ の角礫が点在。かたくしまり、炭化物の混入あり。

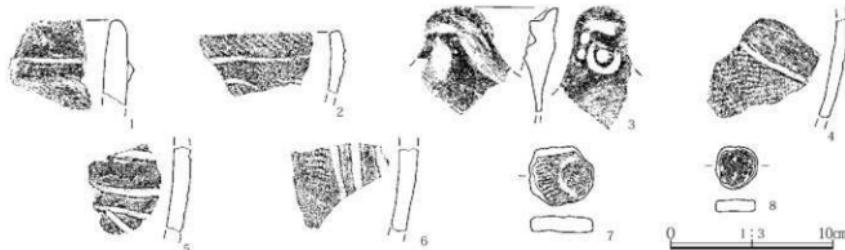


10号豊穴建物

- 1 黒褐色土 若干の燒土含みしまりあり、雜を含む。
2 暗赤褐色土 燃土含むが焼け方は弱い、黄色粒含み均質。
3 赤茶褐色土 強く焼けた燒土。
4 黑褐色土 $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ の灰白・褐色バミスを多く含む粘質土。固くしまる。炭化物の混入あり。
5 灰黃褐色土 $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ の灰白・褐色バミスを多く含む。粘性あり。固くしまる。
6 灰黃褐色土 $\phi 2 \sim 7\text{mm}$ の灰白・褐色バミスを含む。固くしまる。炉体部。

0 1 : 60 2 m

第55図 V区10号豊穴建物



第56図 V区10号竪穴建物出土遺物

位置 V区41S～U-13・14グリッド。3号竪穴建物の外縁部が範囲となる。

重複 3・29号竪穴建物と重複している。29号が最も古い。3号竪穴建物は本址を縮小した形で内側に作り直されたものと考えられる。

平面形状 柱穴配置から東方向に3号列石に接する部分に出入入口を有すると推測される。敷石竪穴建物跡と想定される。西側の外周部には大きな礫が廻り、奥壁中心部には長さ1m近い礫が内側に倒れこんだ状態で検出された。おそらく立石と考えられる。

柱穴が直径6.52m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直径7.4m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-76°-W。

規模 長軸7.36m、短軸(7.32)m、深さ0.5mを測る大型竪穴建物である。

埋没土層 中央部分は3号竪穴建物が重複、礫を多く含む黒褐色土で埋まる、周囲の礫が落ち込んだ状況で、手前側についてはかなり削平が見られ、遺存状況が悪い。
床面 周囲は弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。敷石として、丸石、川原石、鉄平石が確認された。それぞれの礫は水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、本来の位置からそれほど移動していないものと考えられる。

炉 長さ0.68m、幅0.70m、深さ0.30mの掘り込みを伴う不定形な長方形を呈す。竪穴建物中央に位置する炉である。底部につぶれた状態で炉内埋設土器が出土している。炉石等は確認されなかった。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 8基が確認された。その配置から、東側3号列石

に接する場所が張り出し部に相当する。P1～7の7本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。またP8および、3号竪穴建物のP11も本址に帰属する可能性がある。形状および規模は以下のとおりである。(柱穴名: 平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P1: 円形-0.50-0.48-0.60。

P2: 円形-0.56-0.52-0.63。

P3: 楕丸長方形-0.68-0.52-0.65。

P4: 楕円形-0.80-0.62-0.60。

P5: 楕円形-0.60-0.46-0.45。

P6: 円形-0.58-0.58-0.55。

P7: 楕円形-0.72-0.58-0.40。

P8: 楕円形-0.60-0.45-0.60。

周溝 確認されなかった。

掘方 敷石等を除去して精査を行ったが土坑等の掘り込みは確認されなかったが、29号竪穴建物が東側部分において検出された。

遺物 土器は总数700点以上が出土している。3号竪穴建物が重複していることから帰属の判断が難しいが、総体的には後期前葉を中心とする。

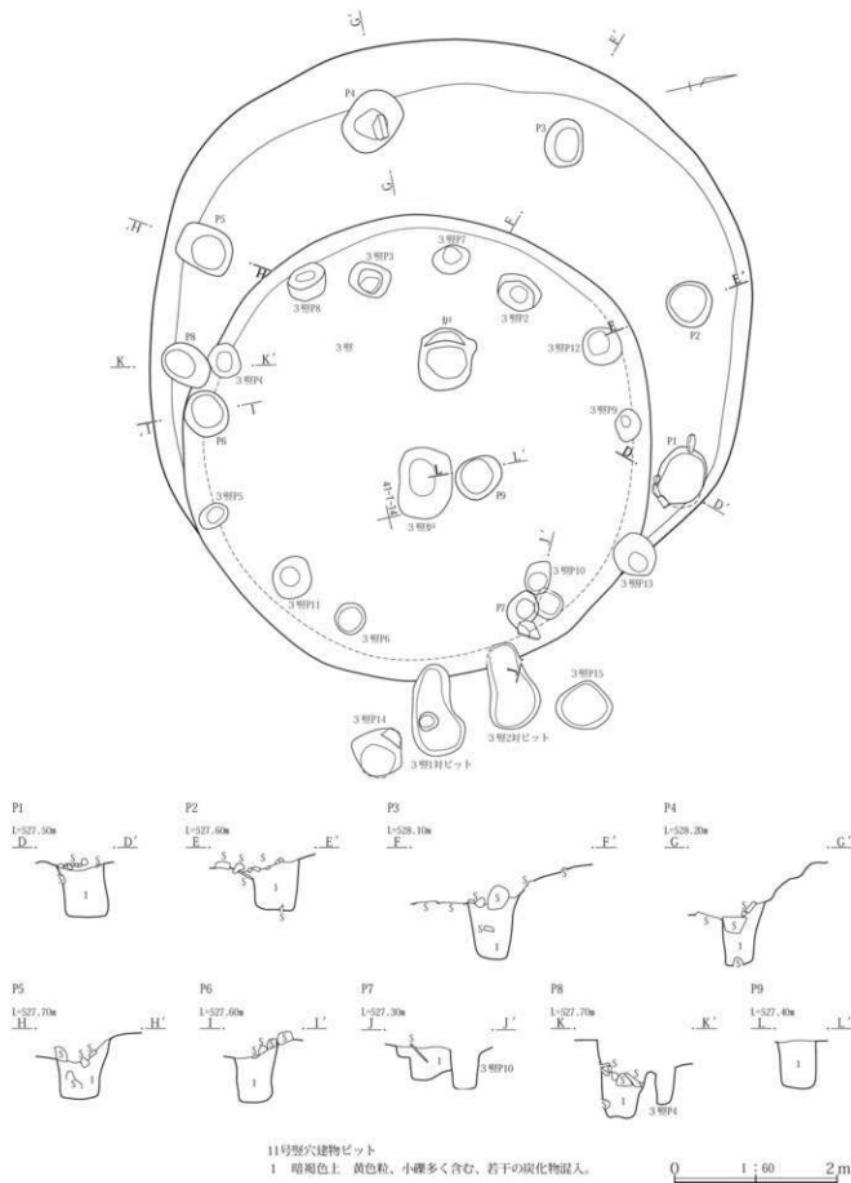
石器に関しては少数で、複数の石錐、石錐、凹石が見られる。

所見 東側に3号列石が位置、その西側上段部に作られている。大型の竪穴建物で、列石構築時に並行して築かれたものと考えられる。その後内側に縮小する形で3号竪穴建物が作られている。敷石については再利用している部分があることから応急的に建て直されたことも考えられよう。出土土器から時期は後期前葉と思われる。

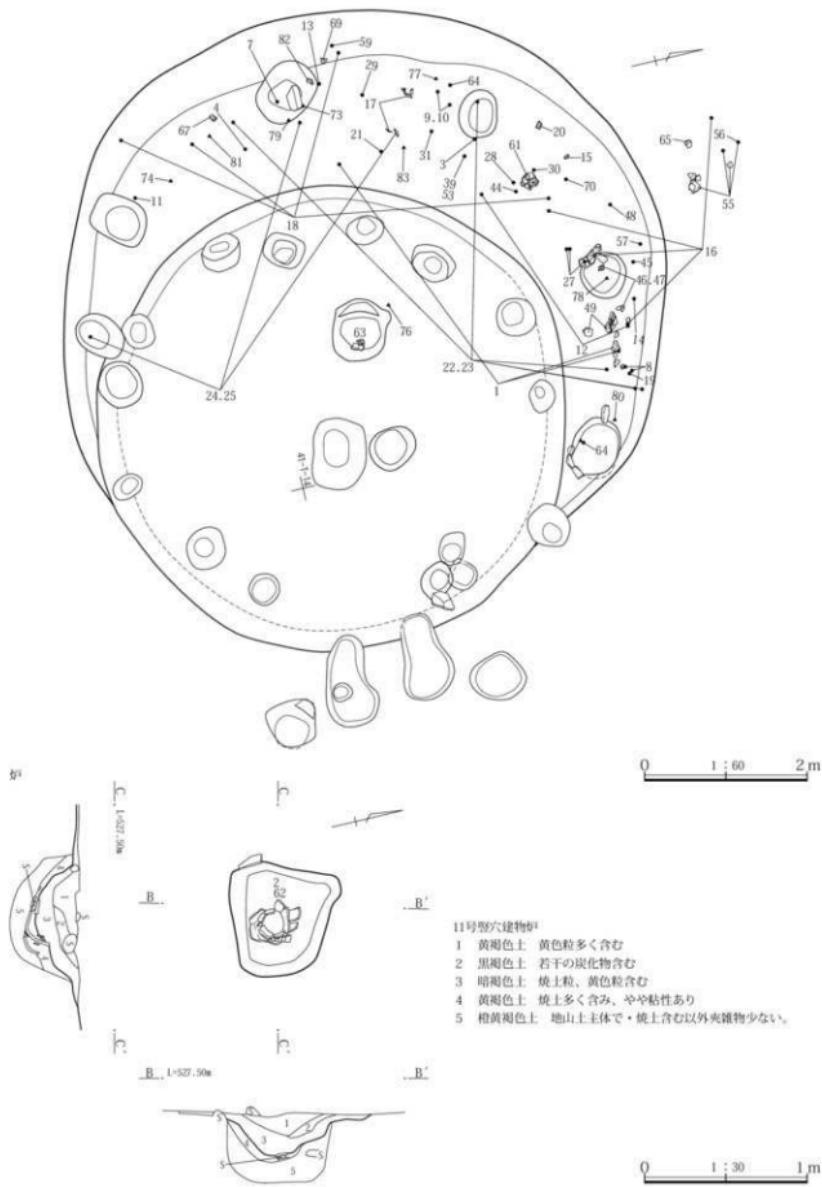
12号竪穴建物 (第66～69図, PL.13・150)



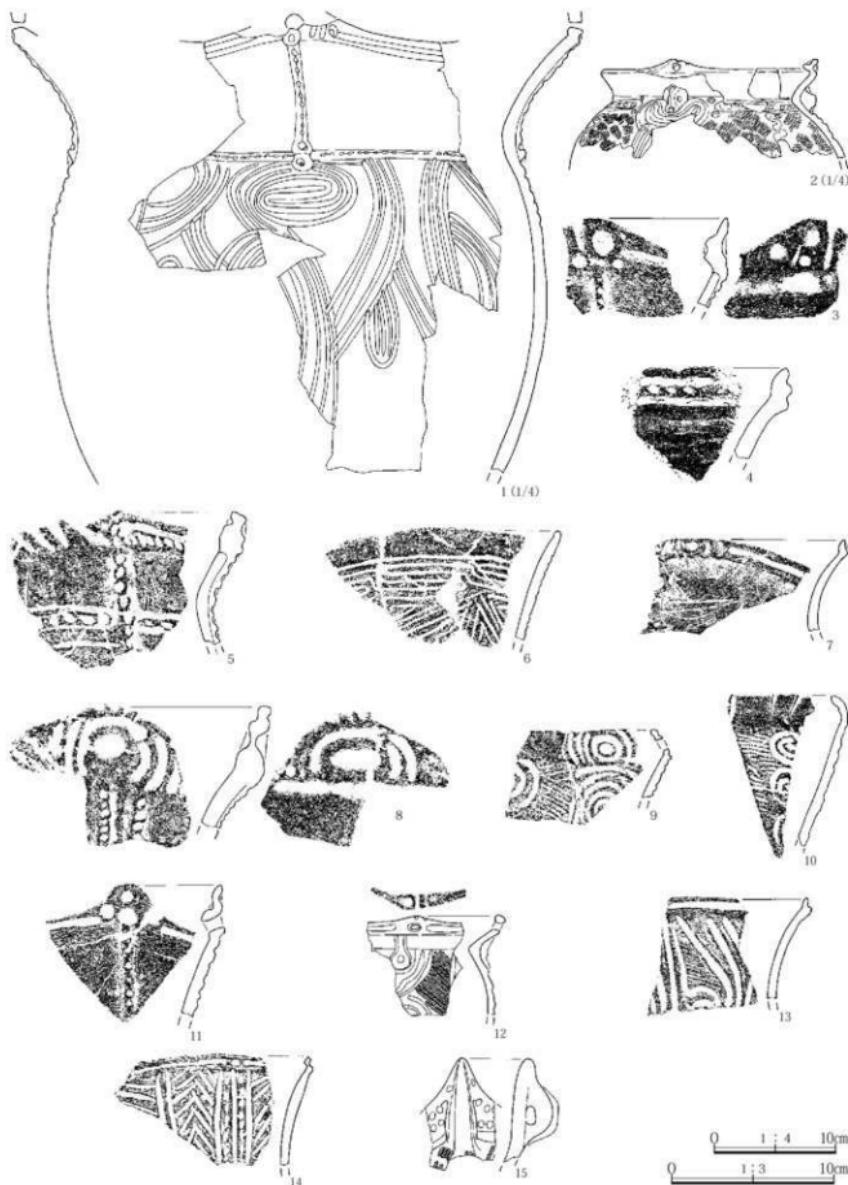
第57図 V区11号竖穴建物（1）



第58図 V区11号豊穴建物（2）



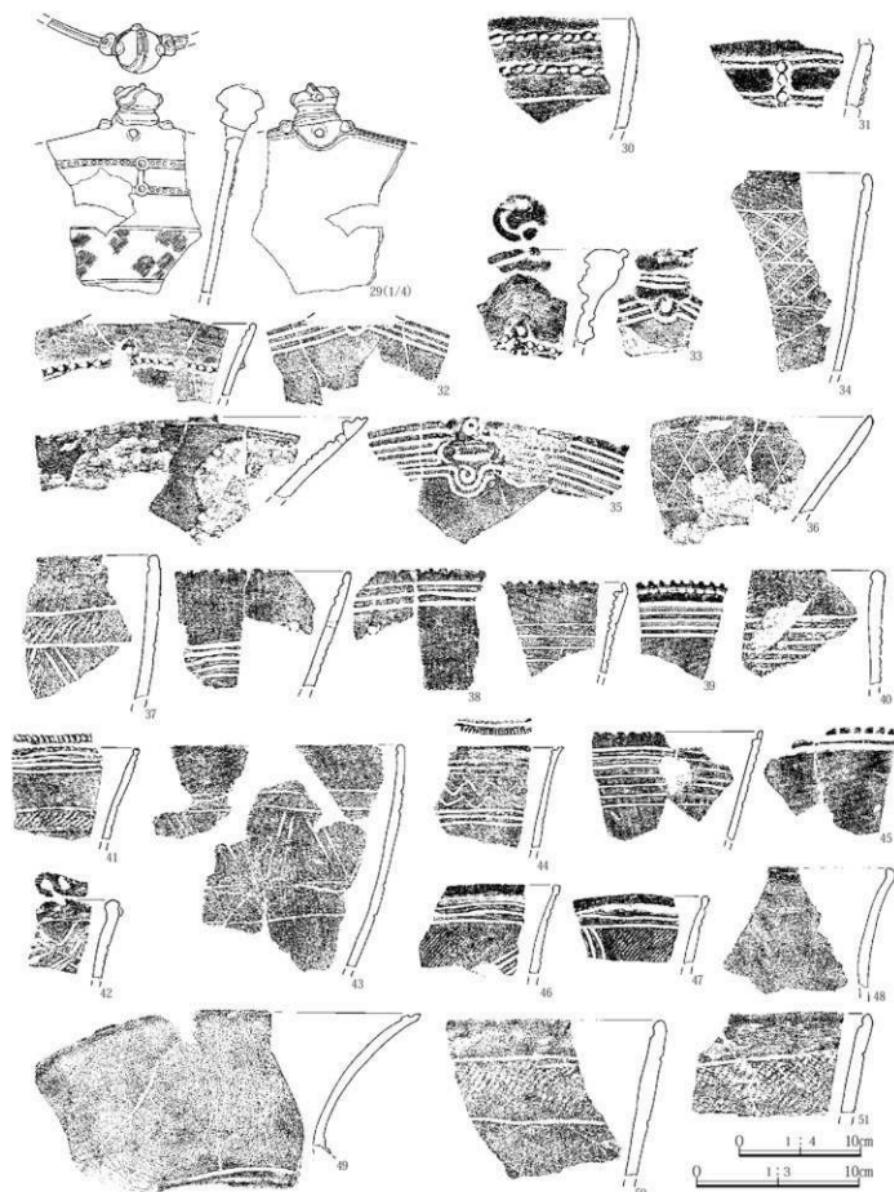
第59図 V区11号竪穴建物 (3)



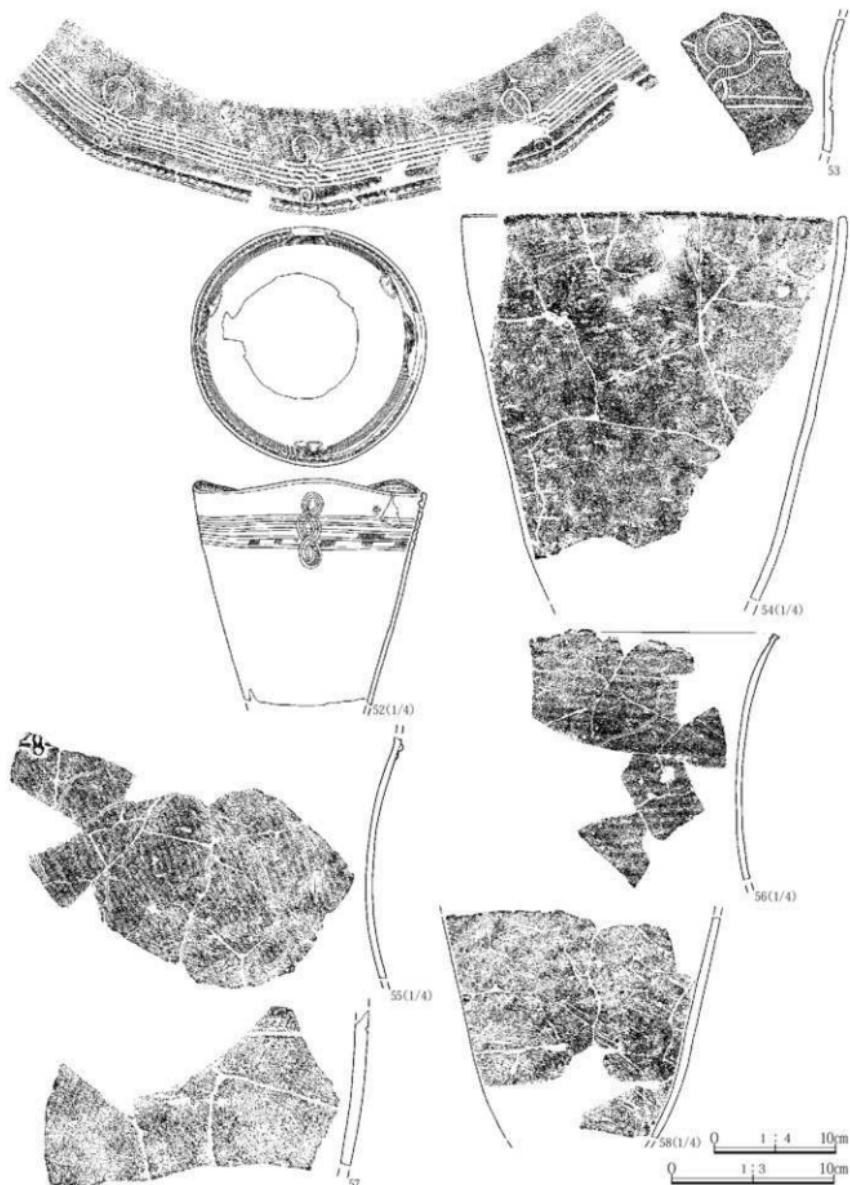
第60図 V区11号竪穴建物出土遺物（1）



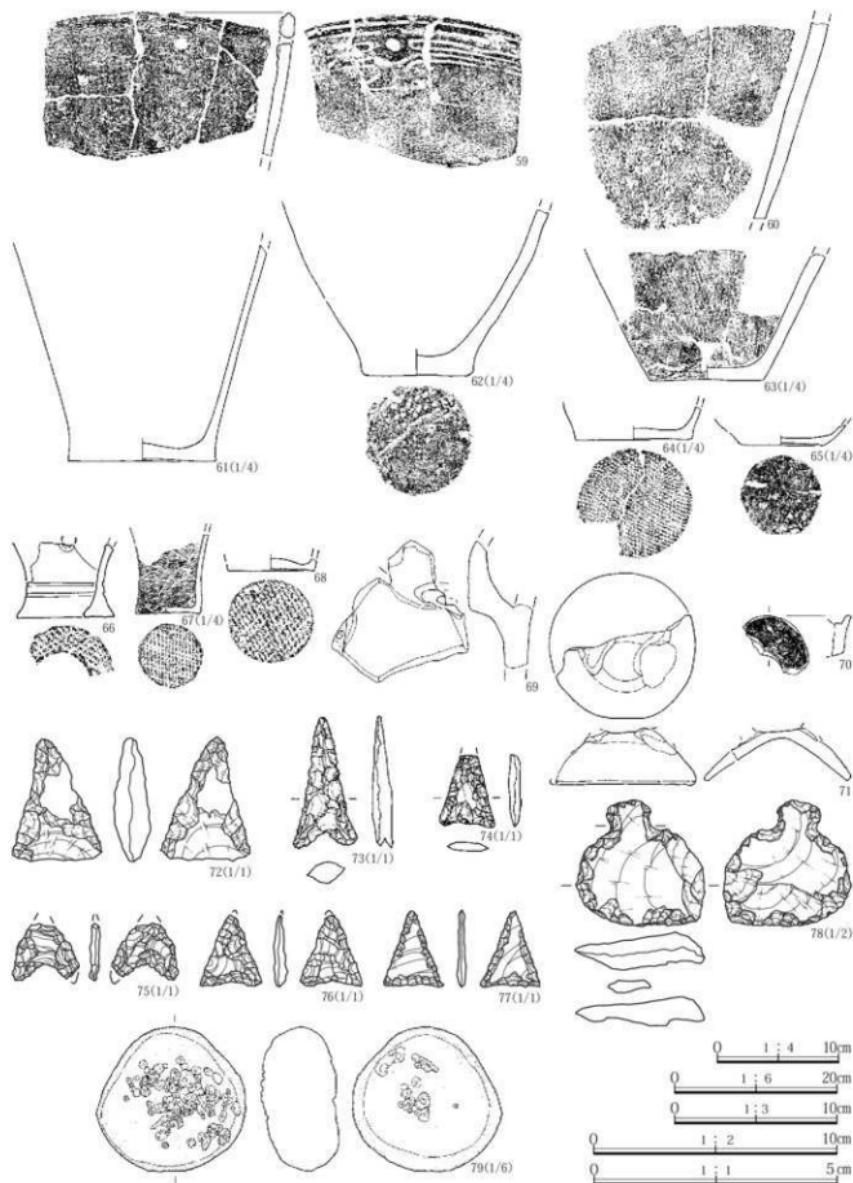
第61図 V区11号竪穴建物出土遺物（2）



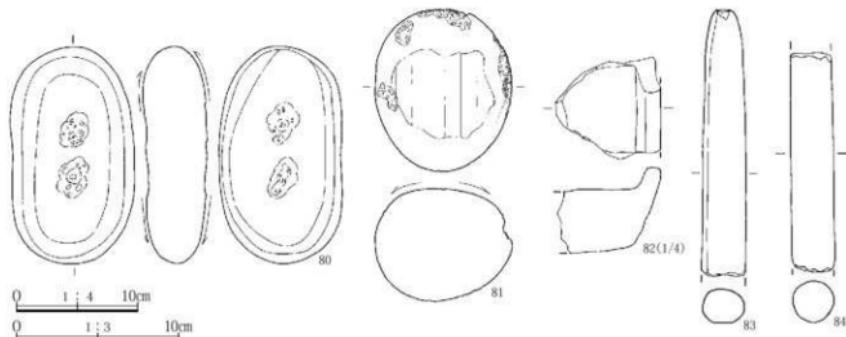
第62図 V区11号竪穴建物出土遺物（3）



第63図 V区11号竪穴建物出土遺物（4）



第64図 V区11号竪穴建物出土遺物（5）



第65図 V区11号竪穴建物出土遺物（6）

位置 V区41Q・R-15・16グリッド。

重複 36号竪穴建物と重複。36号竪穴建物より新しい。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入り口を有する円形の竪穴建物と想定される。柱穴が長軸3.96m短軸3.12m程の楕円形に配置される。竪穴建物の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから、南北に長軸を有す楕円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-89°-W。

規模 長軸5.92m、短軸4.32m、深さ0.24m。

埋没土層 挖り込みについてはほとんど確認できなかつた、いわゆる覆土のような堆積状況は見られない。周囲の礫の配置などから想定されたものである。

床面 周礫は弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。敷石として使用されたものと思われる丸石、川原石、鉄平石が南部列石との接合部に検出された。それぞれの礫は水平の状態に保たれてはいるが、その高さについては高低差が見られ、やや動いている状況であった。

炉 長さ0.92m、幅0.72m、深さ0.18m。（掘方）竪穴建物中央やや東に位置する。小ぶりの礫はほぼ方形に配す石囲い炉である。炉内埋設土器は伴わない。炉石はいずれも被熱している。炉の内部には焼土、炭化物が確認された。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 12基が確認された。その配置から、P 4・5が出入口部の対ビットであり、P 1～3、8～12の8本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。形状および規模は

以下のとおり（柱穴名：平面形状一長軸一短軸一深さ（単位m））。

P 1：円形-0.24-0.24-0.32。

P 2：不定形-0.26-0.24-0.26。

P 3：円形-0.26-0.24-0.36。

P 4：円形-0.36-0.36-0.24。

P 5：楕円形-0.46-0.34-0.26。

P 6：楕円形-0.54-0.40-0.30。

P 7：楕円形-0.72-0.50-0.34。

P 8：円形-0.44-0.44-0.36。

P 9：円形-0.28-0.28-0.28。

P 10：円形-0.24-0.24-0.28。

P 11：円形-0.28-0.28-0.32。

P 12：円形-0.30-0.28-0.30。

周溝 検出されなかった。

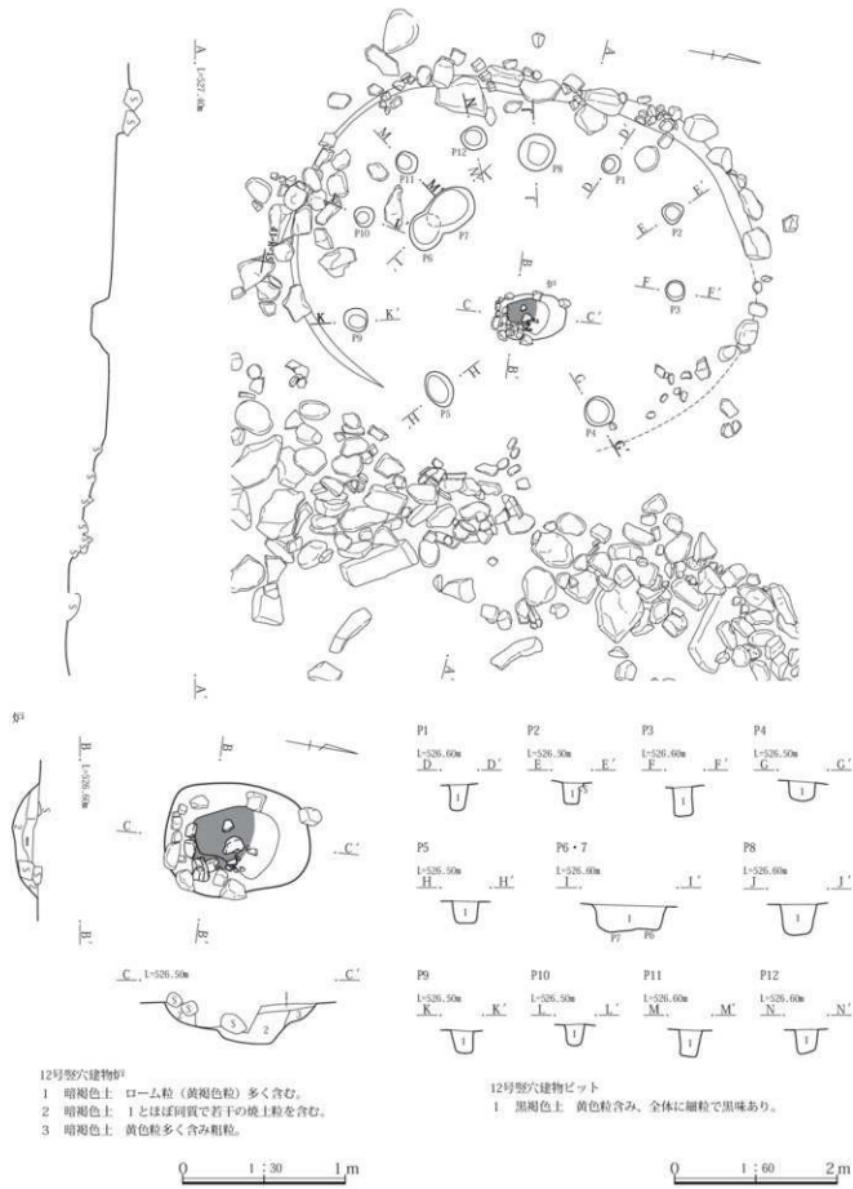
掘方 明確なものは見られず、ほぼ平らに掘り下げられていた。

遺物 土器は総数230点程が出土している。石器は石匙2点が出土している他、磨石が複数出土している。

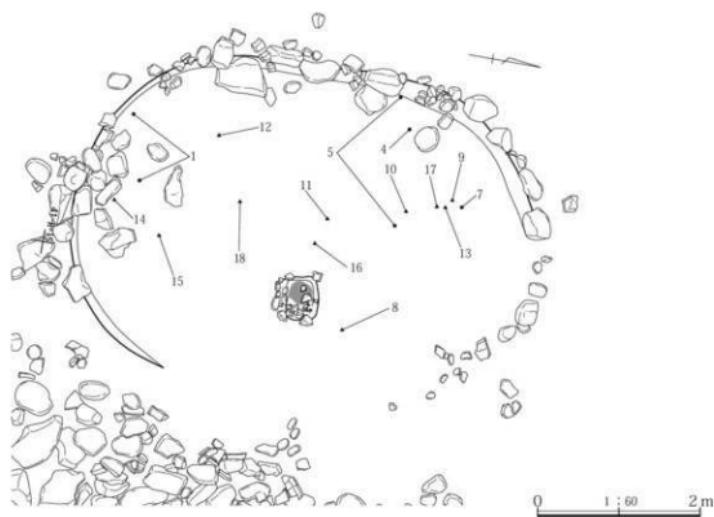
所見 張り出し部が5号列石に接した構造である。周囲に礫を配し主体部がやや東西につぶれた楕円形を呈している。

出土土器は後期前葉期を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

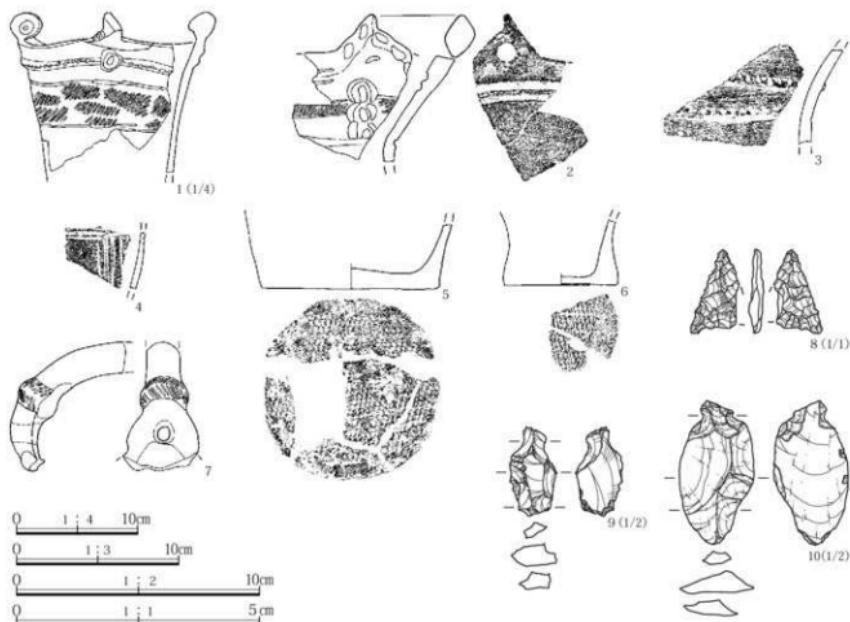
13号竪穴建物（第70・71図、PL.14・150）



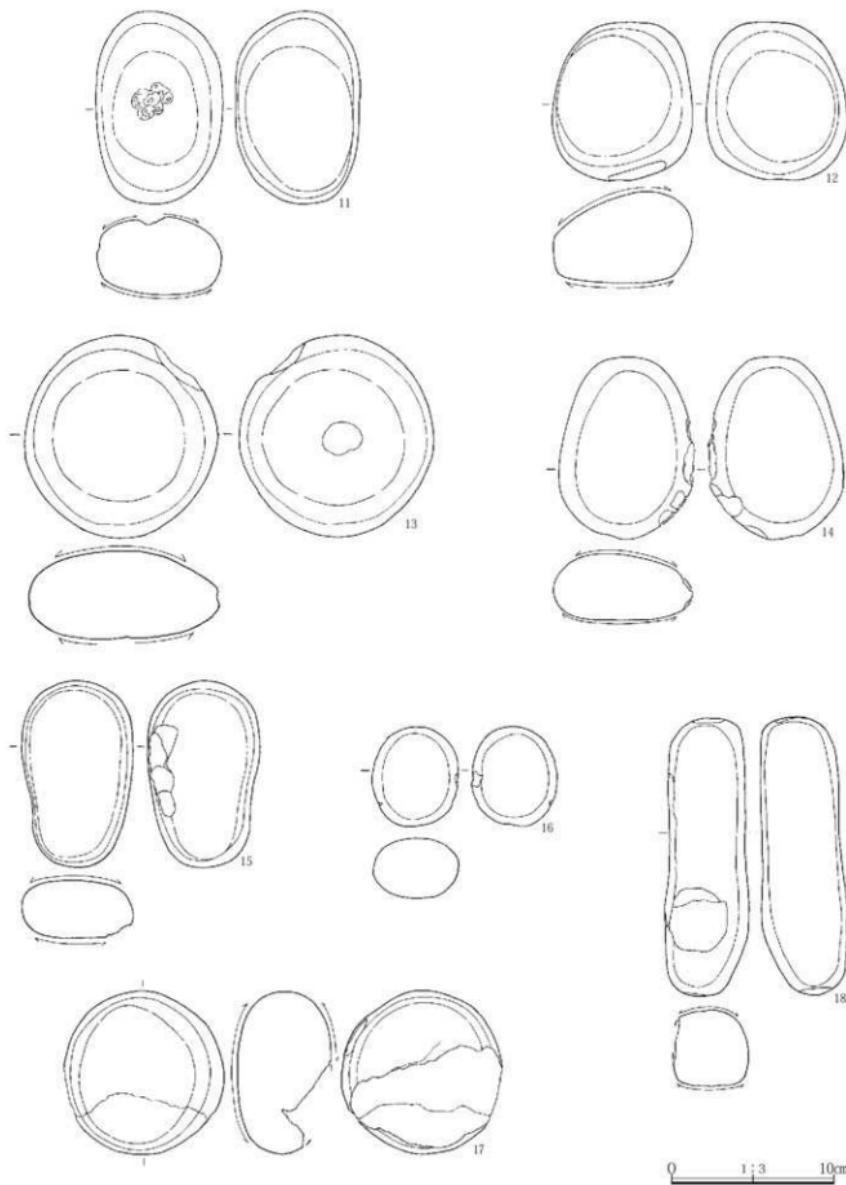
第66図 V区12号堅穴建物（1）



第67図 V区12号竪穴建物（2）



第68図 V区12号竪穴建物出土遺物（1）



第69図 V区12号竪穴建物出土遺物（2）

位置 V区調査区の南東端、国道寄りの41Q-5グリッドに位置する。半分以上は調査区外にある。

重複 なし。

平面形状 円形と想定される。壁内縁に崩れた状態で、角礫主体の周縁が廻る。

主軸方位 不明。

規模 推定径(3.4)m。

埋没土層 黒褐色土主体であるが、上層部及び南東側については擾乱を受けている。

床面 周縁は弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。部分的な調査であったため、面としては不確定であったが、ほぼ水平な面が確認された。

炉 検出されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 検出されなかった。

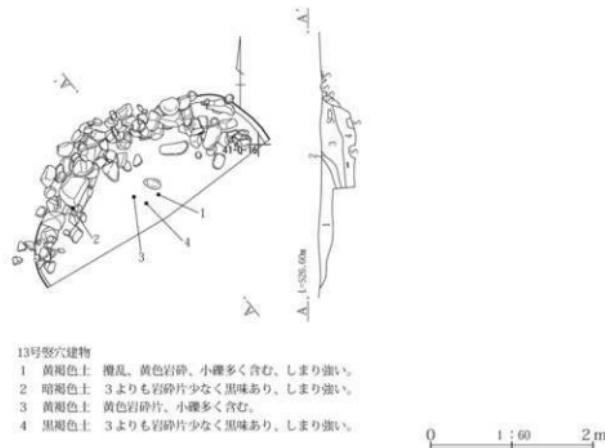
掘方 不明。

遺物 土器是比较的少ないが、190点程出土している。

石器の出土は無かった。

所見 周囲に廻る縁は大小の礫を弧状に配しており、内側に落ち込んだ状況を示す。小型の竪穴建物で、半分以上が未調査である。時期は、僅かに出土した土器から中期後半に比定される。

14号竪穴建物 (第72~76図、PL.14・150・151)



第70図 V区13号竪穴建物



第71図 V区13号竪穴建物出土遺物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物

位置 調査区の北西側に位置、V区41Q・R-20・21グリッドに在る。

重複 6・42・57・61号竪穴建物と重複している。57・61号竪穴建物より本遺構が新しい。北西側が一部未調査であったが、翌年度に追加調査を行った。

平面形状 柄鏡形か。3号列石の上段北西に作られている。柱穴配置から列石方向に出入口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。主体部はほぼ円形と想定される。

主軸方位 N-63°-W。

規模 長軸(6.50)m、短軸6.5m、深さ0.20m。

埋没土層 暗灰褐色土で埋まる、黄色粒を多く含む1層が確認された。

床面 南側一部に礫が弧状に並んでいる。小円礫と地山礫で構成されている。敷石は確認されなかった。ほぼ平坦で、若干の傾斜を有す。硬化面は特に見られなかった。

炉 ほぼ中央に位置する、楕円形の掘方を有す、規模は長さ1.1m、幅0.9m、深さ0.3m。

壁面はよく焼けしており、炉内埋設土器を作う、炉石は確認されていない。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 12基が確認された。P1～10・12が主体部主柱穴に相当すると考えられる。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P1：楕円形-0.60-0.43-0.52。

P2：楕円形-0.25-0.2-0.23。

P3：楕円形-0.4-0.3-0.28。

P4：楕円形-0.5-0.45-0.45。

P5：楕円形-0.9-0.6-0.4。

P6：円形-0.55-0.55-0.6。

P7：楕円形-0.5-0.45-0.6。

P8：楕円形-0.9-0.6-0.4。

P9：楕円形-0.3-0.25-0.52。

P10：楕円形-0.75-0.6-0.7。

P12：円形-0.60-0.55-0.30。

周溝 検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦な面で掘方底面となる。

遺物 土器は総数1300点程出土している。主体は後期前葉と考えられる。

石器は石礫、打製石斧、磨製石斧、凹石、磨石が出土

している。

所見 中央に炉を持つ竪穴建物である。3号列石と同時に構築されたものと思われる。竪穴建物内に複数の土坑が重複して掘り込まれている。

出土土器から後期前葉期に比定される。

15号竪穴建物（第77～79図、PL.15・152）

位置 V区41R-13・14グリッド。3号列石の下段部に接して構築されている。

重複 8号配石が北側に重複。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する柄鏡形竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径3.00m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が一部確認されていることから直径4.0m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-88°-W。

規模 長軸(4.16)m、短軸(3.96)m、深さ0.30m。

埋没土層 僅かな黒褐色土層が確認された。

床面 ほぼ平坦で、硬化面は認められなかった。ほぼ中央に炉が作られる。

炉 長さ0.76m、幅0.64m、深さ0.30m。（掘方）竪穴建物中央に位置する炉である。複数の礫をほぼ方形に配した石囲い炉であるが一部壊れている。内部は暗褐色土主体の土で炭化物や焼土を含んでいる。礫は被熱している。

埋甕 竪穴建物の西奥に鉢型土器が伏せられた状態で検出された。位置的には竪穴建物の西端で、3号列石の直下にあたる、掘方は長軸0.68m、短軸0.60m、深さ0.24mである。暗褐色土主体の土で埋没している。炭化物、焼土を含んでいる。

柱穴 P1～8の8本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。暗褐色土主体の土で埋没している。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P1：楕円形-0.36-0.32-0.36。

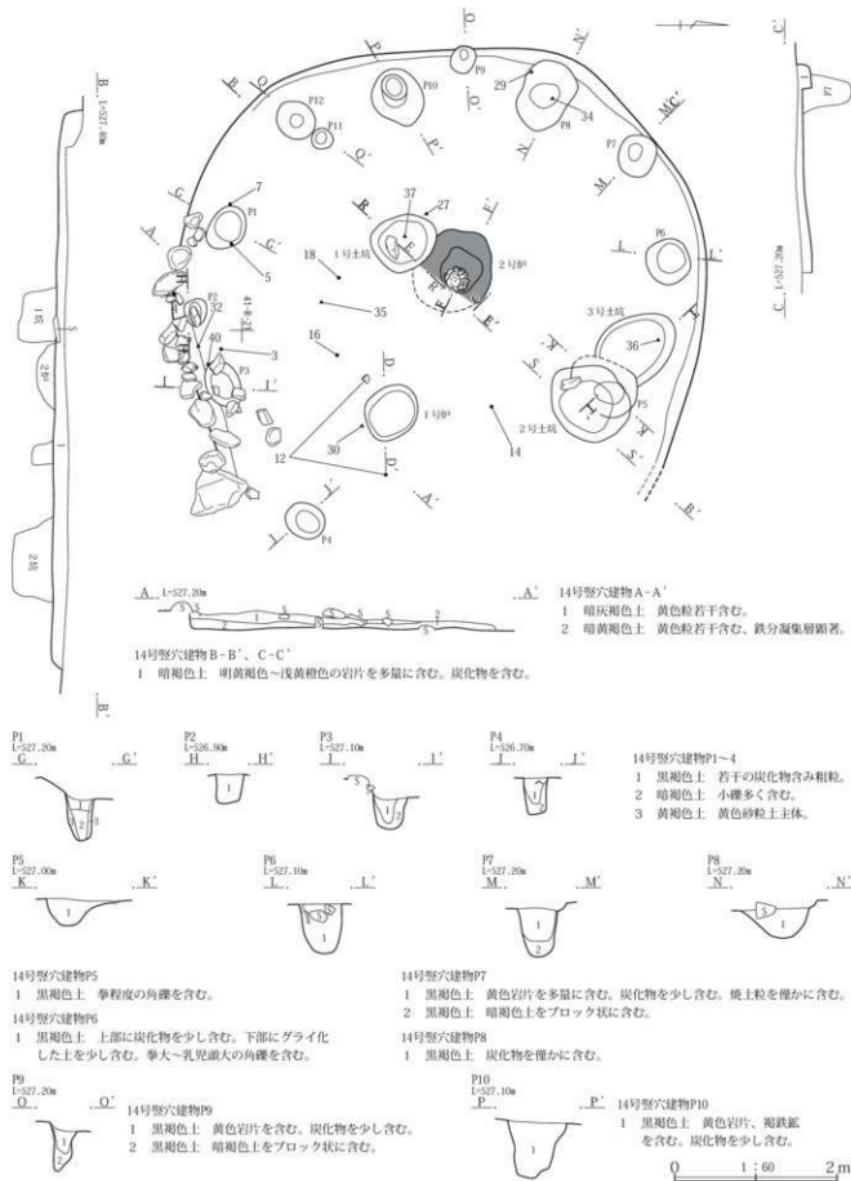
P2：円形-0.28-0.24-0.30。

P3：円形-0.32-0.30-0.36。

P4：円形-0.28-0.28-0.26。

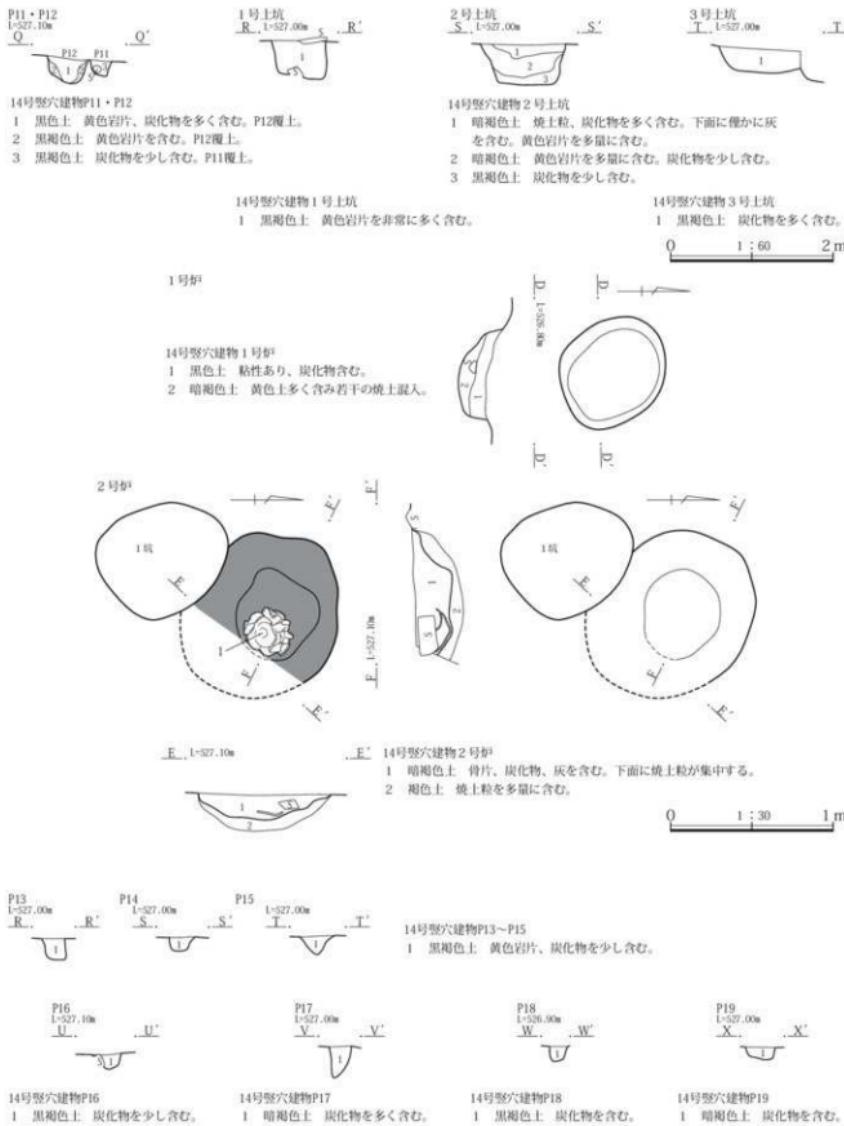
P5：円形-0.28-0.26-0.52。

P6：楕円形-0.28-0.24-0.32。

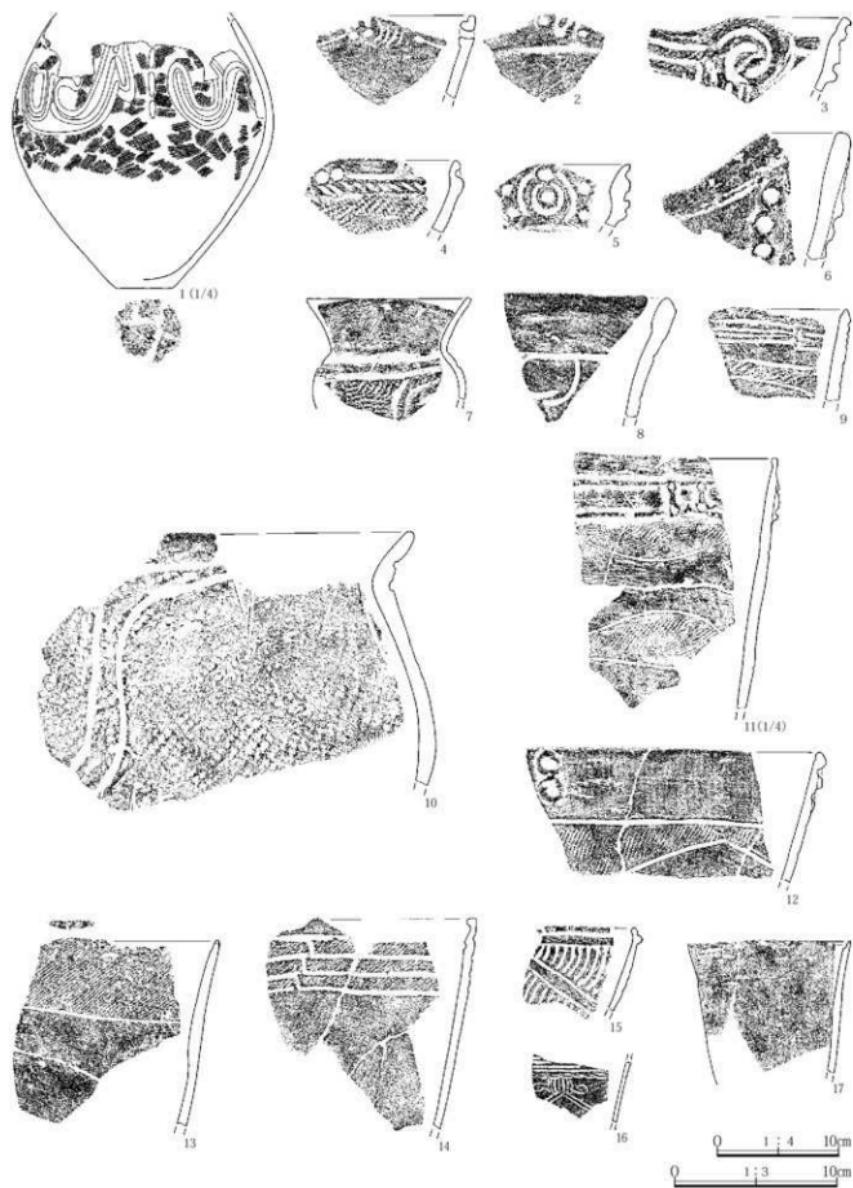


第72図 V区14号竖穴建物 (1)

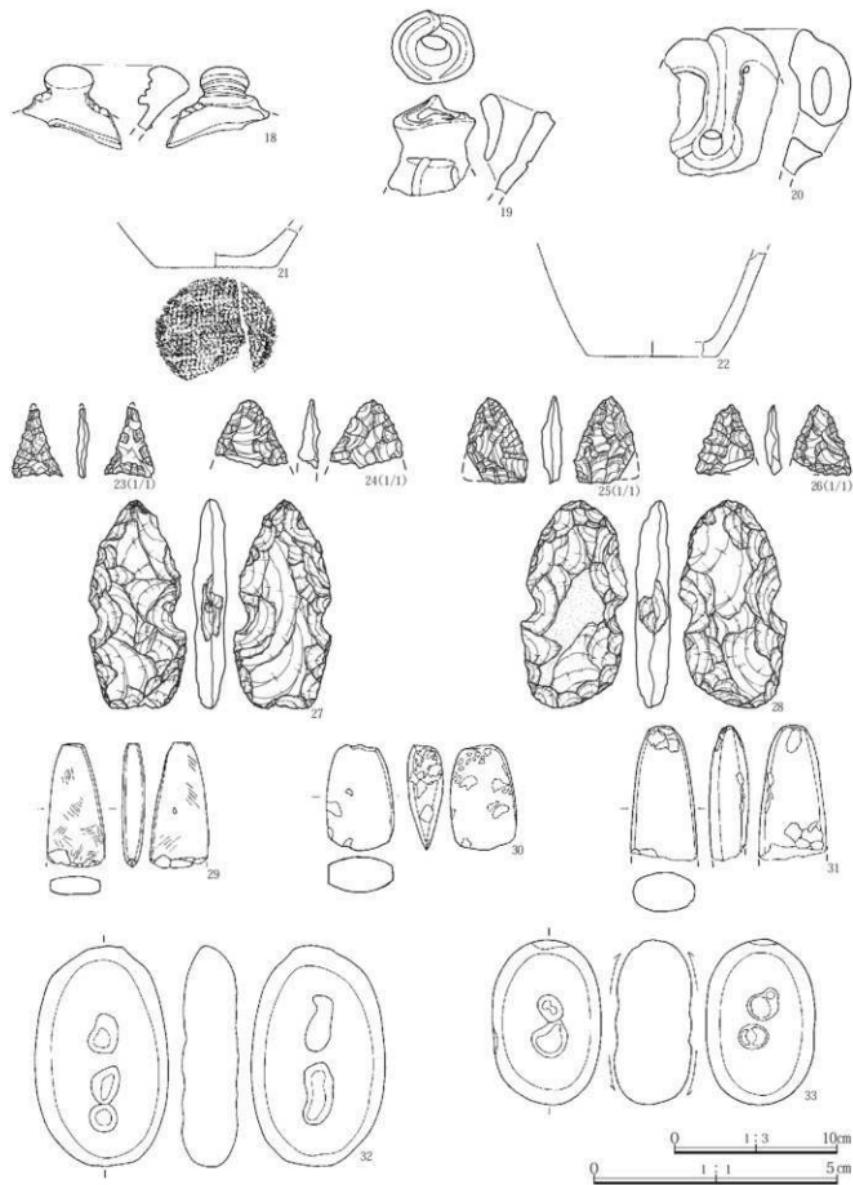
第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



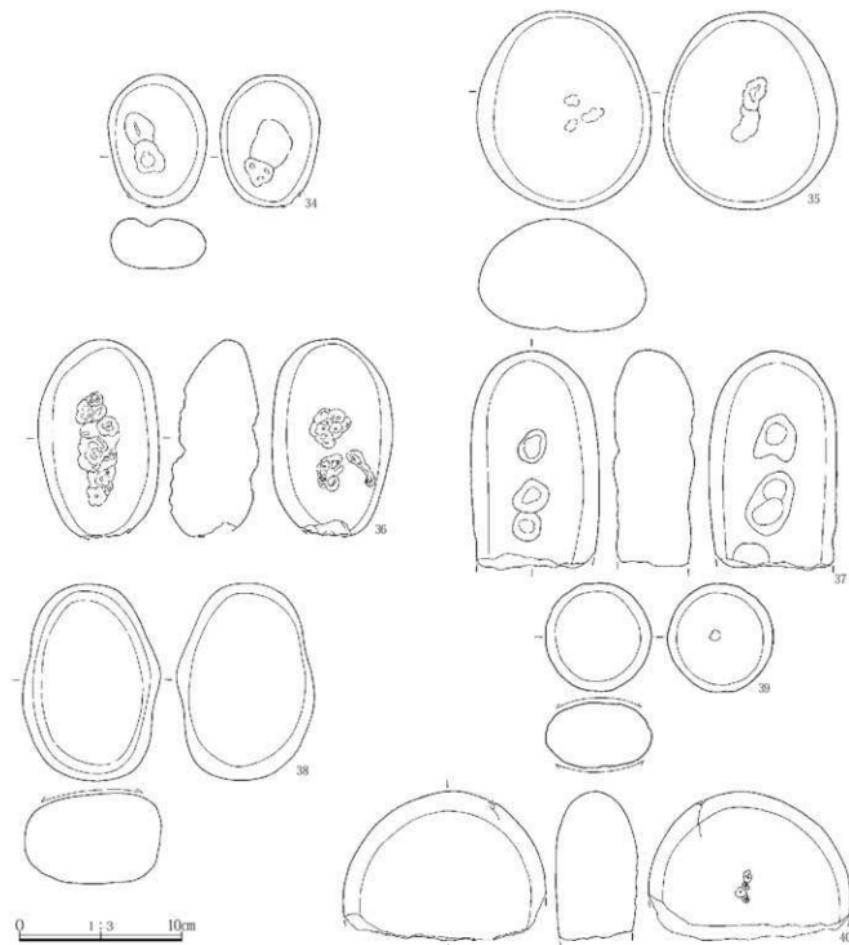
第73図 V区14号窓穴建物（2）



第74図 V区14号竪穴建物出土遺物（1）



第75図 V区14号竪穴建物出土遺物（2）



第76図 V区14号竪穴建物出土遺物（3）

P 7 : 楕円形—0.20—0.16—0.16。

P 8 : 円形—0.32—0.30—0.30。

周溝 検出されなかった。

掘方 明確な面としての掘方は確認できない。

遺物 土器は埋甌以外には60点程である、いずれも小片

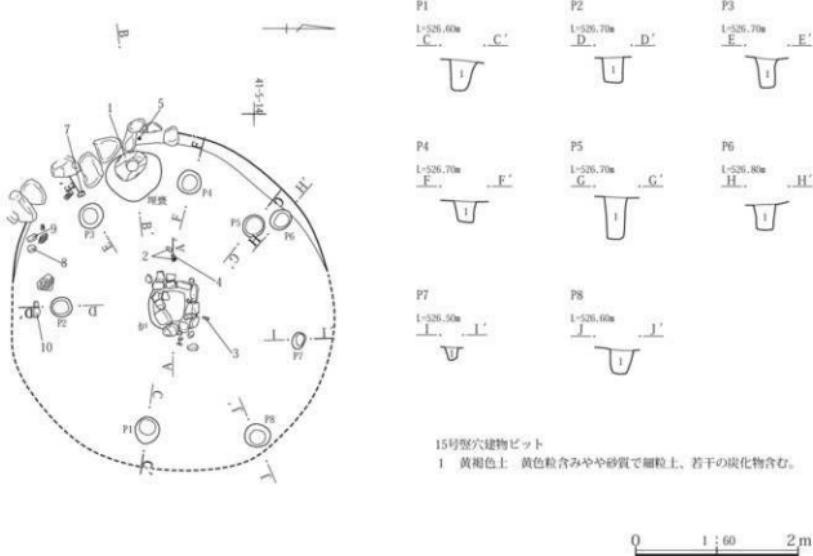
であったが、注口土器2点が出土している。

石器は凹石、磨石が出土している。

所見 竪穴建物奥に検出された鉢を伏せた埋甌について
は、本址に帰属するとしたが、3号列石との関連も考
える必要があるかもしれない。本址の時期は出土土器から
後期前葉に比定される。

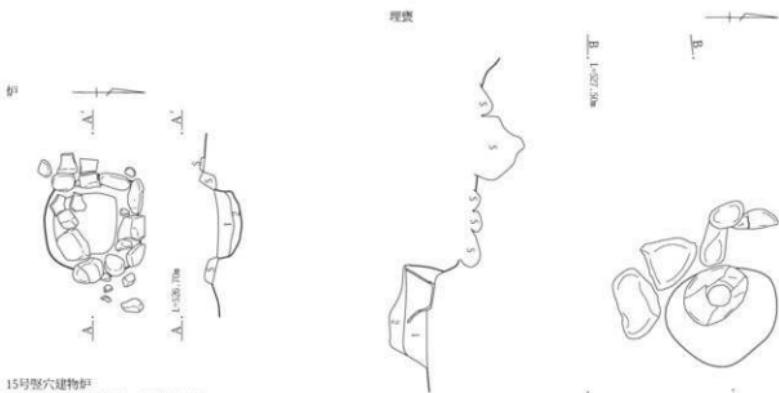
16号竪穴建物（第80・81図、PL.16・152）

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



15号竪穴建物ピット

1 黄褐色土：黄色粒含みや砂質で細粒土上、若干の炭化物含む。



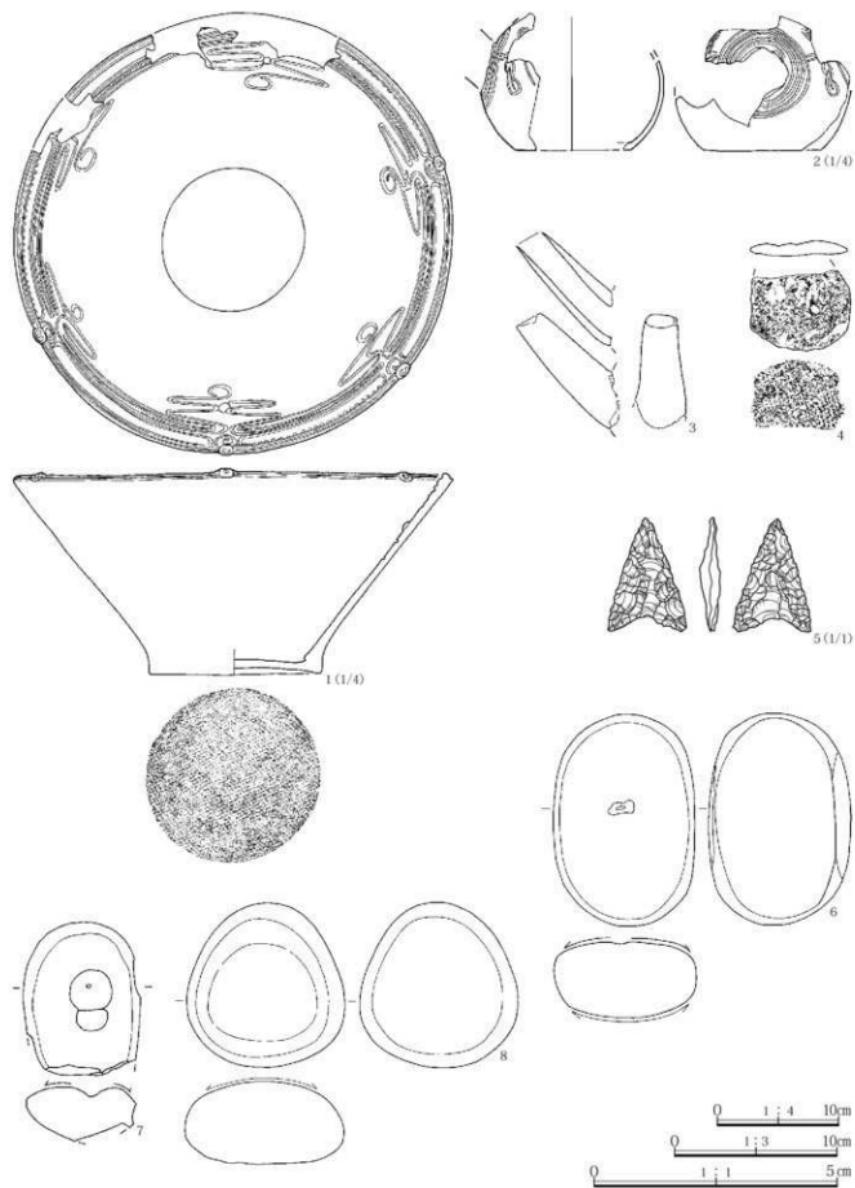
15号竪穴建物鉢

1 暗褐色土：炭化物、小礫多く含む。
2 暗褐色土：小礫、炭化物、若干の焼土混入。

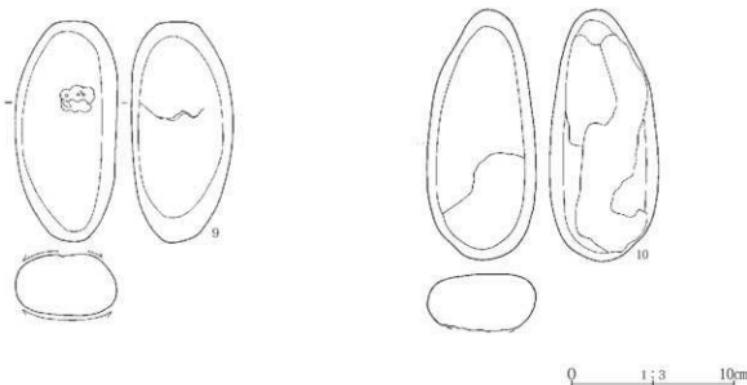
15号竪穴建物理縁

1 暗褐色土：黄色粒主体とする粗粒土上
2 暗黄褐色土：若干の焼土、炭化物混入、やや粘性あり。

第77図 V区15号竪穴建物



第78図 V区15号竪穴建物出土遺物（1）



第79図 V区15号竪穴建物出土遺物（2）

位置 V区41S-17グリッド。

重複 39・54号竪穴建物と重複している。本遺構が新しい。

平面形状 炉と想定される掘り込みを中心に、ほぼ円形の形状を想定。

主軸方位 N-99°-W。

規模 長軸3.8m、短軸3.7m、深さ0.15m。

埋没土層 磨く多く含む黒褐色土で土器及び炭化物多く含む層が確認された。

床面 複数の遺構が重複し炉部分にも土坑が掘りこまれていた。やや凹凸が見られ、本来の使用面は確認できなかった。

炉 不定形状で、長さ(1.1)m、幅0.9m、深さ0.1m。(掘方) 竪穴建物中央に位置する炉である。南側に148号土坑が重複。炉の底部には焼土が見られる、炉石は確認されていない。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 壁際に3基が検出された。

形状および規模は以下のとおり(柱穴名: 平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1 : 円形-0.4-0.4-0.3。

P 2 : 円形-0.55-0.5。

P 3 : 不定長円形-1.0-0.5-0.35。

周溝 確認されなかった。

掘方 確認できなかった。

遺物 土器は总数300点が出土している。後期前葉を中心とする。石器については少なく、石礫2点が出土している。

所見 西側の一部が未調査である。上面が削平されさらに重複遺構も多く、遺存状況は良くない。炉が確認されたことから、竪穴建物と認定した。時期は出土土器から後期前葉と考えられる。

17号竪穴建物(第82・83図、PL.16・152)

位置 V区41S-T-10・11グリッド。

重複 1・10号竪穴建物と重複している。本遺構が古く位置づけられる。

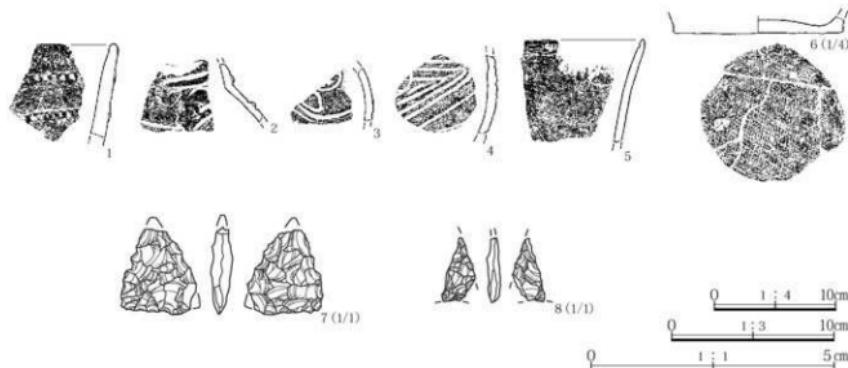
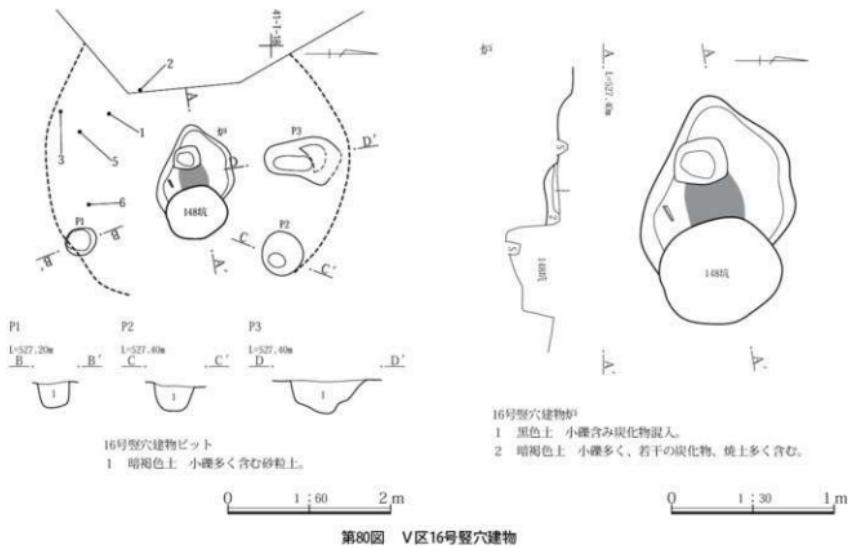
平面形状 南側を1号、北側を10号竪穴建物により大きく壊されているため、明確な形状は不明である。おそらく円形と想定される。炉と想定される不定型な焼土範囲が認められる。炉石は確認されず。地床炉と想定される。

主軸方位 不明。

規模 長軸(5.35)m、短軸(5.30)m、深さ0m。

埋没土層 確認されなかった、地山疊の混入層で覆われているが、明確な床面は確認できない。

床面 生活面は不明、若干の土器片、および疊が散布す



る面を床面とした。凹凸が見られ比較的硬化した部分も見られた。

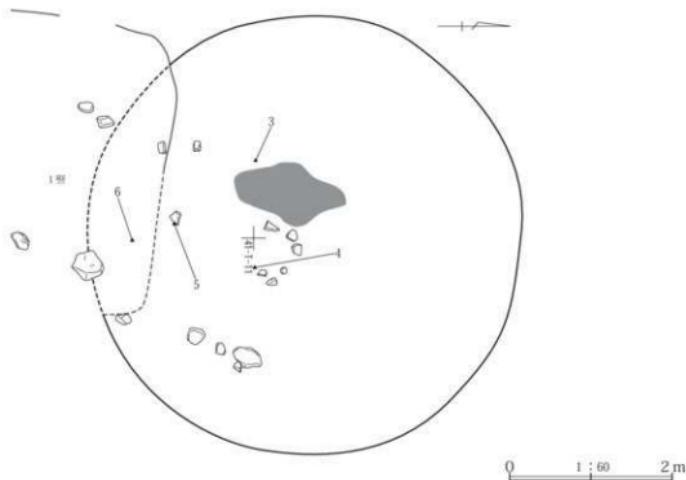
炉 長さ1.35m、幅0.9mの不定形に広がる焼土を確認、炉と判断した、いわゆる地床炉と考えられ、炉石・炉体土器等は見られない。

柱穴 主柱穴の検出には至らず、1号豊穴建物の北側周辺に検出されたピットが、本址に帰属する可能性もある。

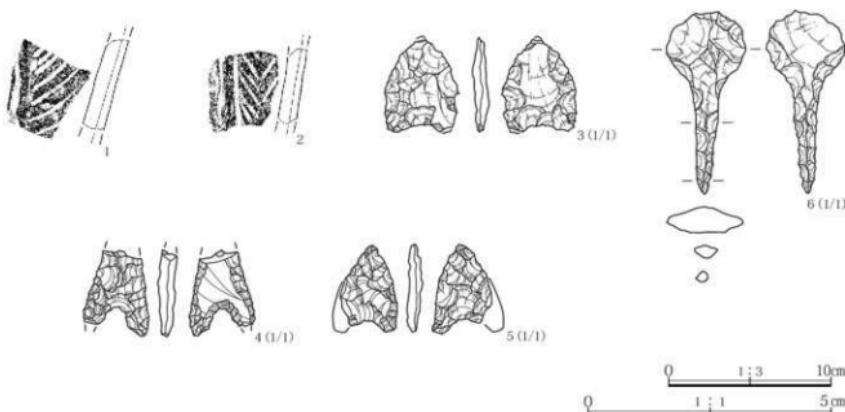
周溝 確認されなかった。

掘方 不明である。

遺物 出土土器は100点弱が焼土周辺に検出されている。



第82図 V区17号竪穴建物



第83図 V区17号竪穴建物出土遺物

時期は中期後半とみられる。石器は少ないながら石鏃および石錐が出土している。

所見 ほとんど削平された状況で、竪穴建物としての要素はほとんど確認できなかったが、焼土の存在から竪穴

建物と想定した。

出土土器は僅かであるが、時期は中期後半期に比定される。

18号竪穴建物（第84・85図、PL.16・17・153）

第3章 東宮遺跡の調査

位置 V区41L・M-16・17グリッドに位置する。6号列石の西側に作られ、張り出し部が列石に接した作りになっている。

重複 不定形で大型の133号土坑が重複し、本遺構を切っている。

平面形状 敷石の配置から東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。柱穴は5基検出された。竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから、当初は円形の主体部を想定したが、最終的にはほぼ方形の主体部が考えられた。

主軸方位 N-81°-W。

規模 長軸2.64m、短軸2.60m、深さ0.08m。

埋没土層 黄褐色土主体、覆土は層としては薄く、1層が確認された。

床面 周縁と見られる小礫が点在していた、敷石はほとんど見られなかった。床面としての硬化面は見られず、若干の凹凸が確認されている。

炉 東側に石組遺構が検出されている。

炉 長さ0.72m、幅0.94m、深さ0.36m。（掘方）竪穴建物中央にやや東に位置する炉である。炉内埋設土器を伴い、礫はほとんど確認できなかったが、石圓い炉の可能性がある。暗褐色主体の土で埋没している。炭化物、焼土を含む。

埋甕 確認されなかった。

柱穴 方形の壁際に計6基が確認された。P3と4は重複しており作り替えの可能性がある。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P1：円形—0.45—0.4—0.45。

P2：円形—0.35—0.35—0.4。

P3：円形—0.35—0.3—0.4。

P4：円形—0.3—0.3—0.3。

P5：円形—0.3—0.25—0.3。

P6：梢円形—0.33—0.26—0.32。

周溝 検出されなかった。

掘方 明確な掘方は確認できなかった。

遺物 出土土器は約300点が出土している。小破片が主であった。炉体土器は被熱しかなり脆弱であった。

石器は石鏃、石錐、磨製石斧、軽石製品などが見られる。

所見 本址は、6号列石の西側上段部に位置しており、

張り出し部は礫を帯状に配し方形の石組遺構を伴っている。この石組遺構は川原石を方形に組み、底部にも石を置いてある。本址は列石と同時に存在していたことが想定され、列石との接合部には大きな川原石を横にした、樞石状の施設が作られている。

また、軸線上の6号列石下段部分には大きな礫が据えられた24号配石が位置する。さらに、列石中の張り出し部両側に検出された、立石と考えられる石の存在も注目される。そして何よりも、本址が6号列石の弧状中央部に在り、その延長上西を望むと、5号6号列石を通し、さらに遠方の天狗山と呼ばれる山の山頂を望むことができる。

本址の時期は出土土器から後期前葉と考えらる。

19号竪穴建物（第86～88図、PL.18・153・154）

位置 V区41K・L-21・22グリッド。6号列石西側に付帯して構築されている。

重複 南側に23号竪穴建物が重複している。本遺構が新しい。

平面形状 敷石の配置から東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。張り出し部は、6号列石がV字に屈曲した部分の段差を利用して設置されている。柱穴が直径2.60m程のほぼ円形に配置される。

竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから、直径4m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-104°-W。

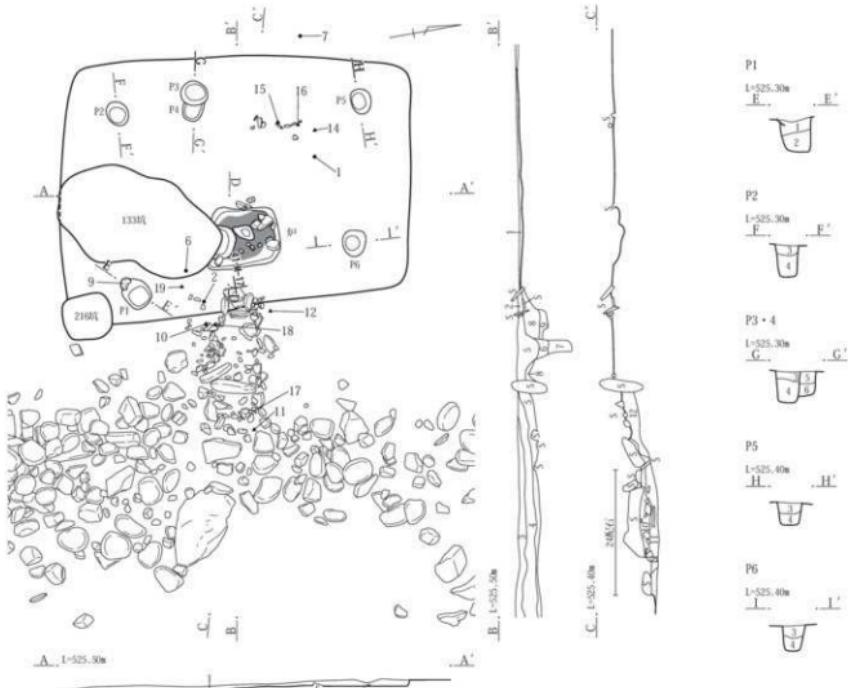
規模 長軸（3.96）m、短軸（3.64）m、深さ0.28m。

埋没土層 暗褐色土主体、砂礫層含む4層が第2面確認面以下に確認された。

床面 敷石は炉からつながる張り出し部分に幅70cm程度で、中央に大きな平石を据え、両側にやや小ぶりな石を配しており、敷石は一旦途切れ、さらに前方部分は扇状に平石を敷いている。

炉 ほぼ中央に位置、礫を四角に配した石圓い炉である。炉から張り出し部に向かって敷石が続いている。比較的小型で、長さ0.58m、幅0.54m、深さ0.15m。（掘方）黒褐色土主体で炭化物、焼土を含む土で埋没している。炉石の内側は煤の付着が顕著であった。

埋甕 検出されなかった。



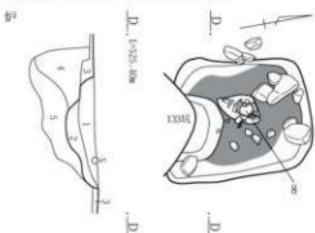
18号竪穴建物

- 黄褐色土 炭化物、若干の焼土。褐色粒含みやしもあり。
- 黄褐色土 細粒で砂質。
- 黄褐色土 炭化物粒、若干含む。
- 暗褐色土 3と似るがやや黒味あり。
- 暗褐色土 4と似るがさらに黒味あり。
- 褐色土 砂粒・黄色粒子・黄色軽石中量混。粘性・しまりやや弱い。
- 暗褐色土 砂粒・小礫微量混。粘性・しまりやや弱い。
- 褐色土 砂粒・黄色粒子・黄色軽石中量混。粘性弱。しまり強い。
- にぶい黄褐色土 砂粒・黄色粒子・黄色軽石中量混。粘性・しまりやや弱い。
- 黒色土 多量の炭化物含み軟質土上。
- 暗褐色土 細粒で、黄色粒を多く含む。
- 黄褐色土 黄色粒、白色粒、岩碎片を含みしまる。

18号竪穴建物ピット

- にぶい黄褐色土 黄色粒子・黄色軽石・砂粒中量混。粘性弱。しまり強い。
- 褐色土 細砂中量混。粘性やや強。しまりやや弱い。
- にぶい黄褐色土 砂粒・黄色粒子・黄色軽石中量混。粘性やや弱。しまり強い。
- 褐色土 砂粒少量混。粘性やや強。しまりやや弱い。
- 褐色土 砂粒・礫・黄色粒子少量混。粘性やや弱。しまりやや強い。
- 褐色土 砂粒少量混。粘性やや強。しまりやや弱い。

0 1 : 60 2 m

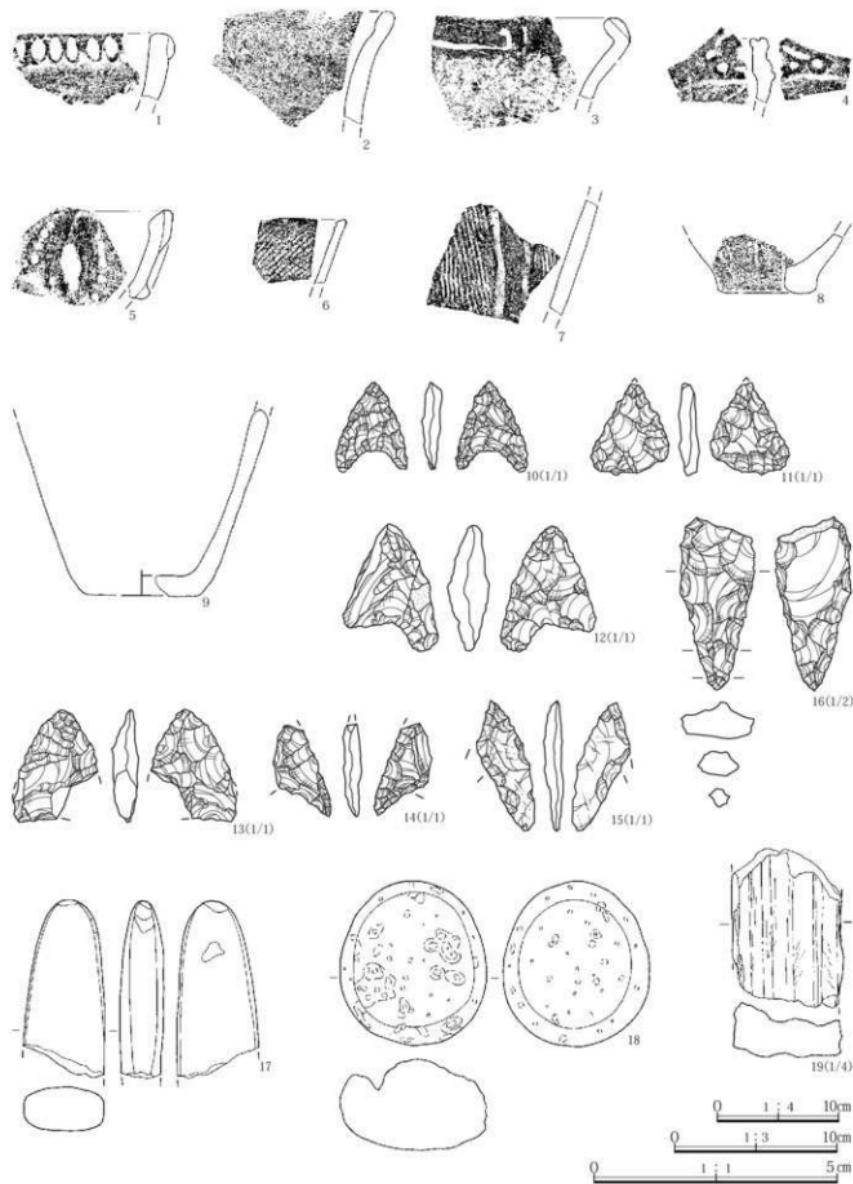


18号竪穴建物

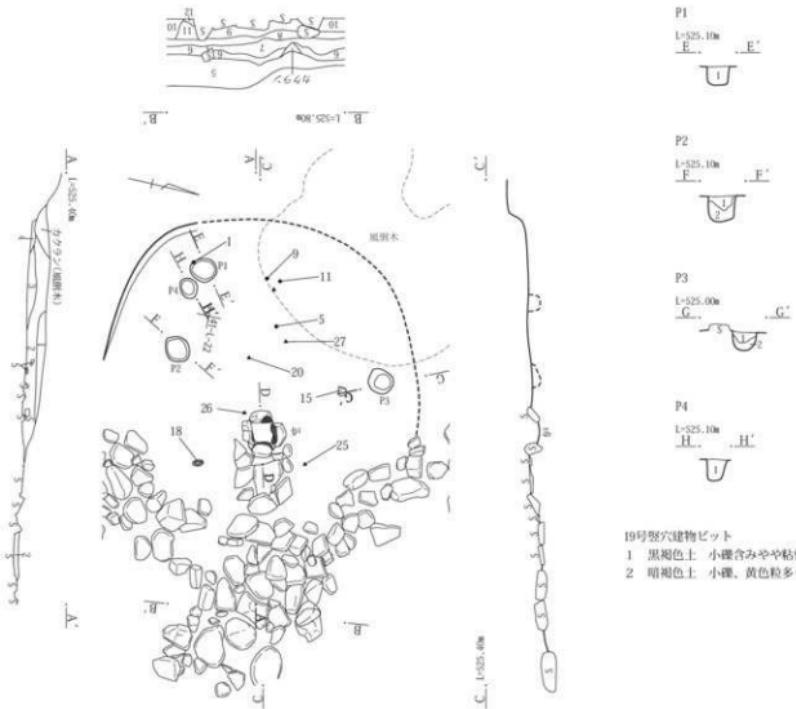
- 暗褐色土 褐色土。
- 暗褐色土 炭化物粒、若干の焼土含む。
- 黄褐色土 炭化物含みやしもあり。
- 褐色土 砂粒・黄色粒子中量混。粘性弱。しまり強い。
- 暗褐色土 砂粒・黄色粒子・炭化粒子少量混。粘性やや弱。しまりやや強い。

0 1 : 30 1 m

第84図 V区18号竪穴建物



第85図 V区18号竪穴建物出土遺物



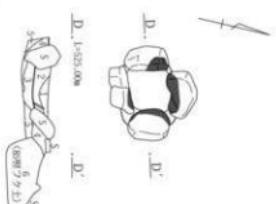
19号竪穴建物

- 1 暗褐色土 若干の地山礫含み粘性あり。
- 2 暗褐色土 1よりも粗粒で小礫やや多く含む、軟質。
- 3 暗褐色土 2と似るがやや黒味を増す、若干の炭化物混入。
- 4 黑褐色土 黒味は2・3よりも強く、礫の混入は少ない。
- 5 灰褐色土 砂粒主体土。
- 6 黄褐色土 5と同質、鉄分凝集層。

- 7 灰褐色土 砂質土。
- 8 黑褐色土 炭化物含みやや粘性あり。
- 9 黑褐色土 黄色粒多く含む、やや粘性あり。
- 10 黑褐色土 砂粒土しまりあり。
- 11 灰黑褐色土 9と近似するが、黄色粒やや多く含む。
- 12 黄褐色土 砂質土。

0 1 : 60 2m

概

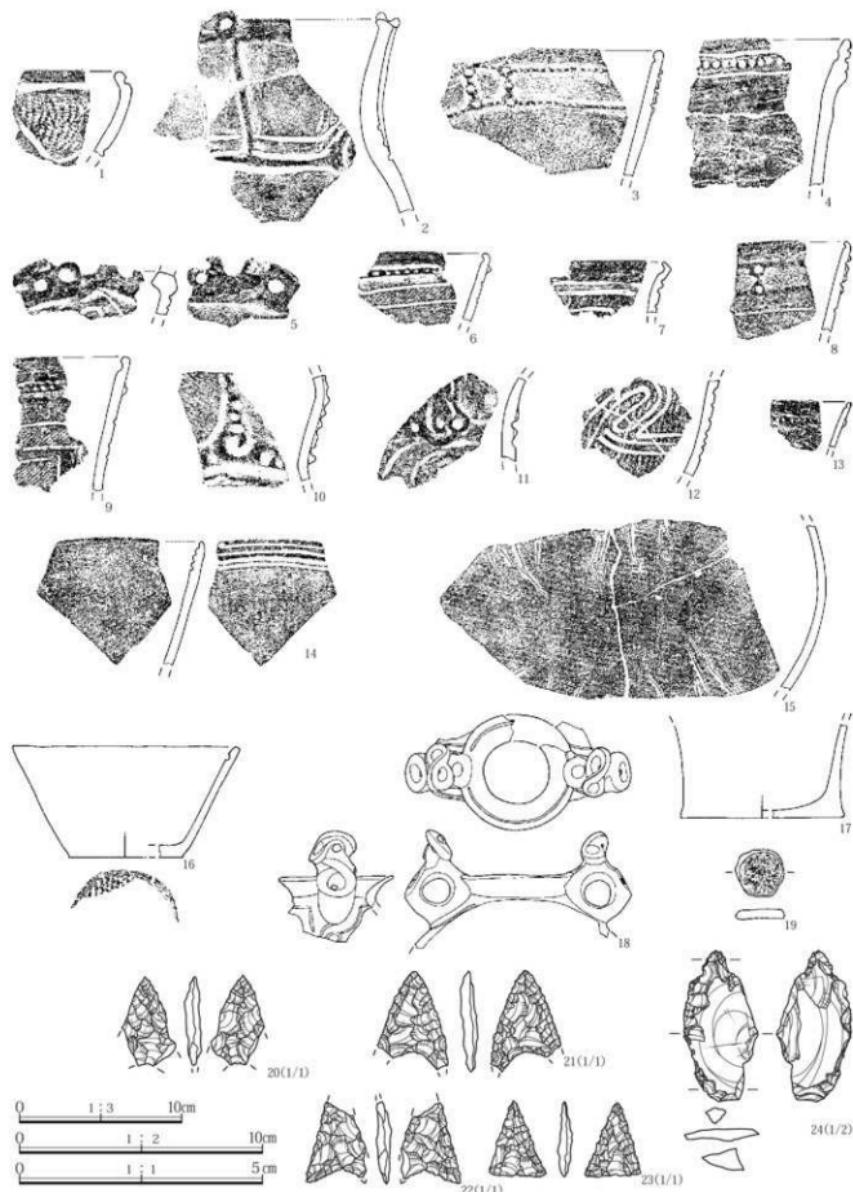


19号竪穴建物

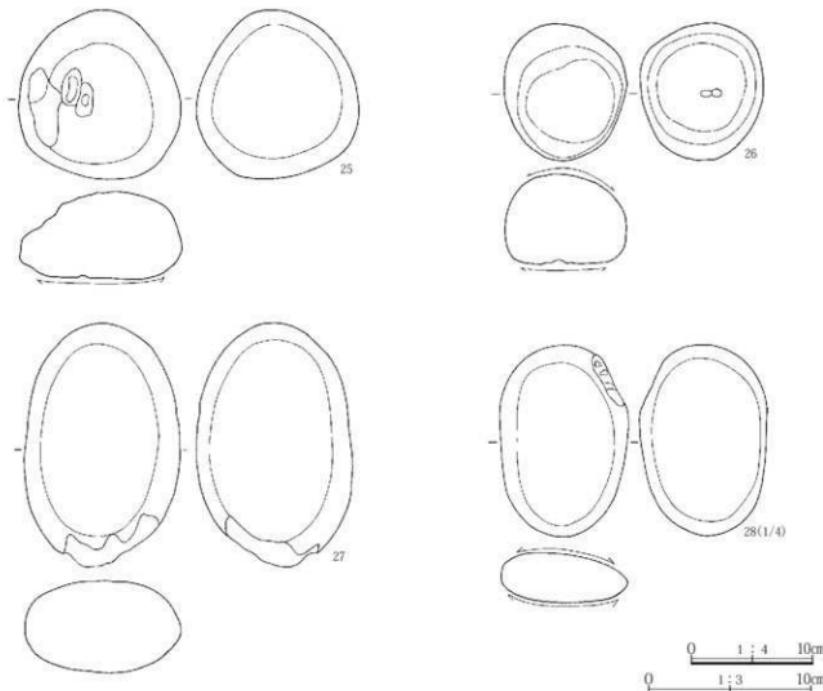
- 1 黒褐色土 若干の炭化物粒(材)含む、軟質。
- 2 黒褐色土 やや砂粒を含み若干の焼土上、炭化物を混入する軟質土。
- 3 黒褐色土 黄色粒、炭化物含み若干の焼土粒混入。
- 4 黒褐色土 黄色粒、若干の炭化物含み僅かに焼土粒混入、ややしまりあり。
- 5 黄褐色土 しまりあり、黄色粒多く含む僅かに焼土粒混入。
- 6 黄褐色土 地山黄色、褐色粒を多く含み角礫混在に混入。

0 1 : 30 1m

第86図 V区19号竪穴建物



第87図 V区19号竪穴建物出土遺物（1）



第88図 V区19号竪穴建物出土遺物（2）

柱穴 4基が確認されたが配置が不規則で、一部を除き明確な柱穴と判断できなかった。P 1～4の4本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：楕円形—0.32—0.28—0.24。

P 2：楕円形—0.32—0.30—0.32。

P 3：円形—0.32—0.30—0.22。

P 4：楕円形—0.28—0.22—0.26。

周溝 検出されなかった。

掘方 敷石下の調査では、下部に軟質土が見られたが、張り出し部下については、別の竪穴建物が後日検出された。

遺物 出土土器は総数860点程である、深鉢類の破片を

中心に、小型の鉢、注口土器が出土している。

石器は石鐵類、磨石が見られる。

所見 その構造から6号列石に付帯する竪穴建物であることは確実である。しかしながら、6号列石の構築時期については、本址とやや時期差が認められることから、列石の南と北側部分では時間において構築された可能性が高い。

列石がV字状屈曲した部分に、組み入れたように配されている。張り出し部は広がりを有し平石、川原石の平らな面を上に揃えて配置する。

出土土器は後期前葉を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

20号竪穴建物（第89・90図、PL.19・154）

第3章 東宮遺跡の調査

位置 V区の南東側41O・P-7・8グリッドに位置。2・22号竪穴建物にまたがって位置する。

重複 2・22号竪穴建物、135号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する円形竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径～m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから直径5.6m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-90°-W。

規模 長軸5.64m、短軸5.56m、深さ0.24m。

埋没土層 黄褐色土主体、試掘トレンチ掘削時に、壁面に炉石の一部がかかったことから存在が確認された。トレンチにかかった部分、南側のはぼ4分の1は失われている。

床面 残った部分は平坦で炉の周囲については比較的綺りも見られた。

炉 長さ0.78m、幅0.86m、深さ0.24m。(掘方) 竪穴建物中央やや西に位置する炉である。10個ほどの礫をほぼ円形に配した石廻い炉である。用いられている石は鉄平石、丸みを持った川原石、地山の角礫等統一性は見られない。

暗黒褐色土主体の土で埋没している。炭化物、焼土を含む。埋設土器は見られず、内部はなべ底状で、下部に焼土が残る。炉石はあまり被熱している様子は見られなかった。

埋甕 竪穴建物の東側に検出された。口縁部、底部を欠いた深鉢が正位状態で埋められていた。掘方の規模は、長軸0.44m、短軸0.38m、深さ0.24mの円形で、暗黒褐色土主体の土で埋没している。炭化物、焼土を含む。埋甕の下部には礫3個が据えられていた。

柱穴 明確なものは確認できなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 土坑等の遺構は見られず。

遺物 出土土器は総数284点である、器形がわかる埋甕を除き破片類が主である。注口土器は炉の付近で出土しているが、床面より浮いた状態で出土しており、混入品である。

石器についても少なく、石礫、打製石斧がそれぞれ1点のみである。

所見 時期は重複する2号、22号とほぼ同時期に比定されるが、掘り込みは他の遺構に比べ浅い。

時期は他の2棟の竪穴建物よりは先行すると思われる。中期後半に位置付けられる。

21号竪穴建物 (第91～97図、PL.20・21・155・156)

位置 V区41L～N-22・23グリッド。調査区の北より、遺構密集地に位置する。

重複 33・37・45・55・59・64号竪穴建物と重複。本遺構が新しい。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径4.6m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから直径6m前後の円形の主体部が想定される。張り出し部は東に延び主に川原石の平坦面を抑え敷き詰めた構造である。

主軸方位 N-92°-W。

規模 長軸8.90m、短軸5.48m、深さ0.4m。

埋没土層 黄褐色土に黒褐色土ブロック含む粘性土で、炭化物多く含む。

床面 壁周礫は西側のおよそ半分に弧状に分布している。小円礫と地山角礫で構成されている。一部は竪穴建物内に崩落していた。主体部内には敷石は見られず、張り出し部に敷石として、丸石、川原石、鉄平石が敷かれていた。

炉 楕円形の掘り込み有り、長さ1.10m、幅0.86m、深さ0.38m。(掘方) 竪穴建物中央に位置する炉である。炉内埋設土器は見られず、炉石も確認されなかった。

暗黄褐色土主体の土で埋没している。焼土、炭化物を含む。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 9基が確認された。その配置から、P 8・9が出入口部の対ピットであり、P 1～7の7本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。形状および規模は以下のとおり(柱穴名:平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

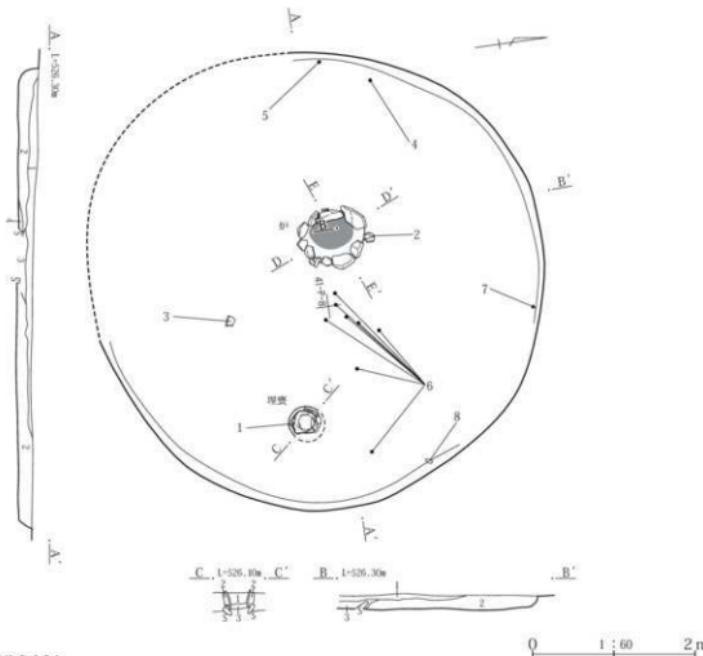
P 1 : 不定形-0.72-0.44-0.40,

P 2 : 楕円形-0.56-0.44-0.20,

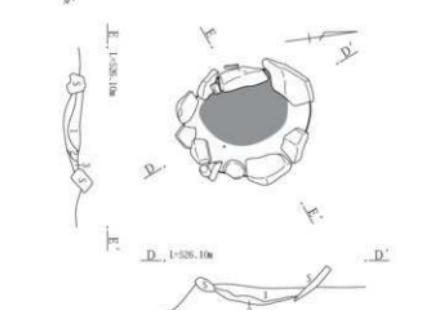
P 3 : 円形-0.80-0.76-0.37,

P 4 : 楕円形-0.60-0.52-0.30,

P 5 : 円形-0.68-0.64-0.40。

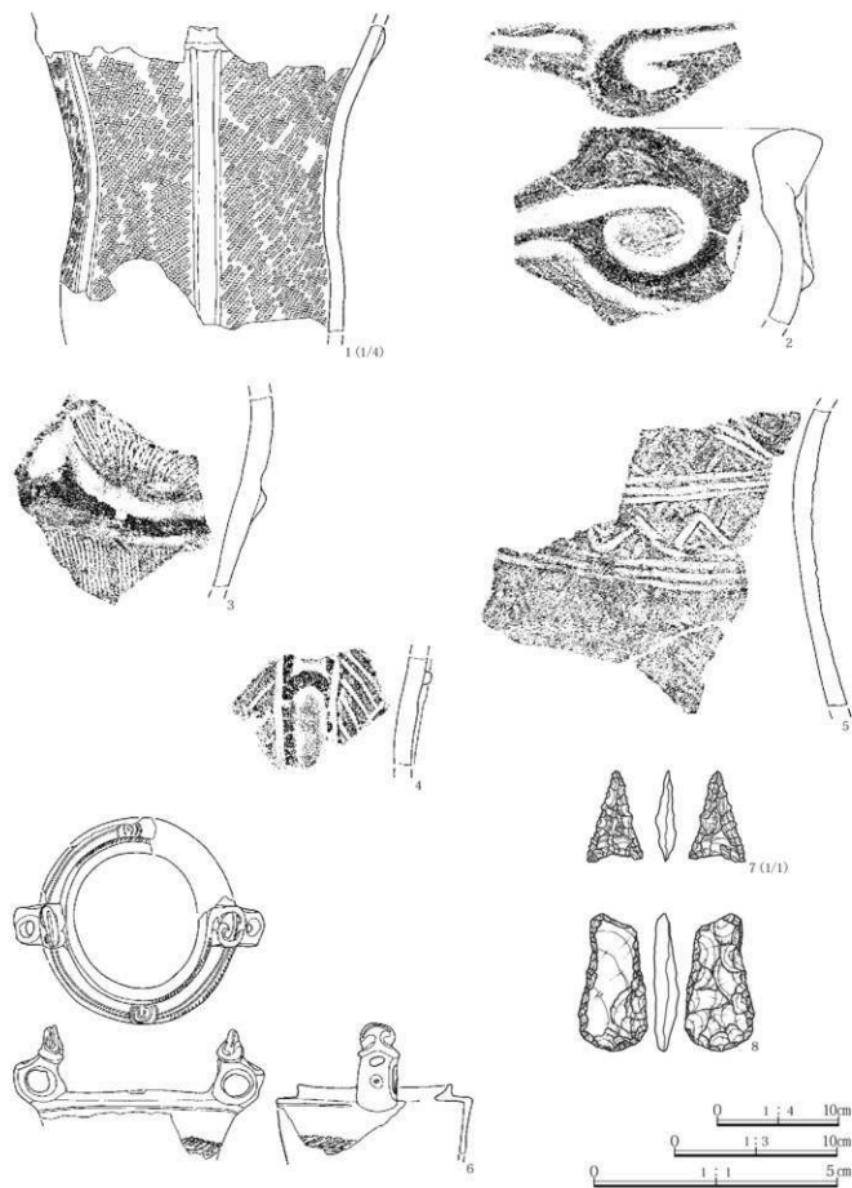


- 20号竪穴建物C-C' 理據
- 1 暗黒褐色土 炭化物。若干の焼土含、黄褐色粒含む。
 2 暗黒褐色土 1とはほぼ同質だが、若干の焼土骨片含む。
 3 暗黒褐色土 砂粒土。焼土ほとんど含まず。

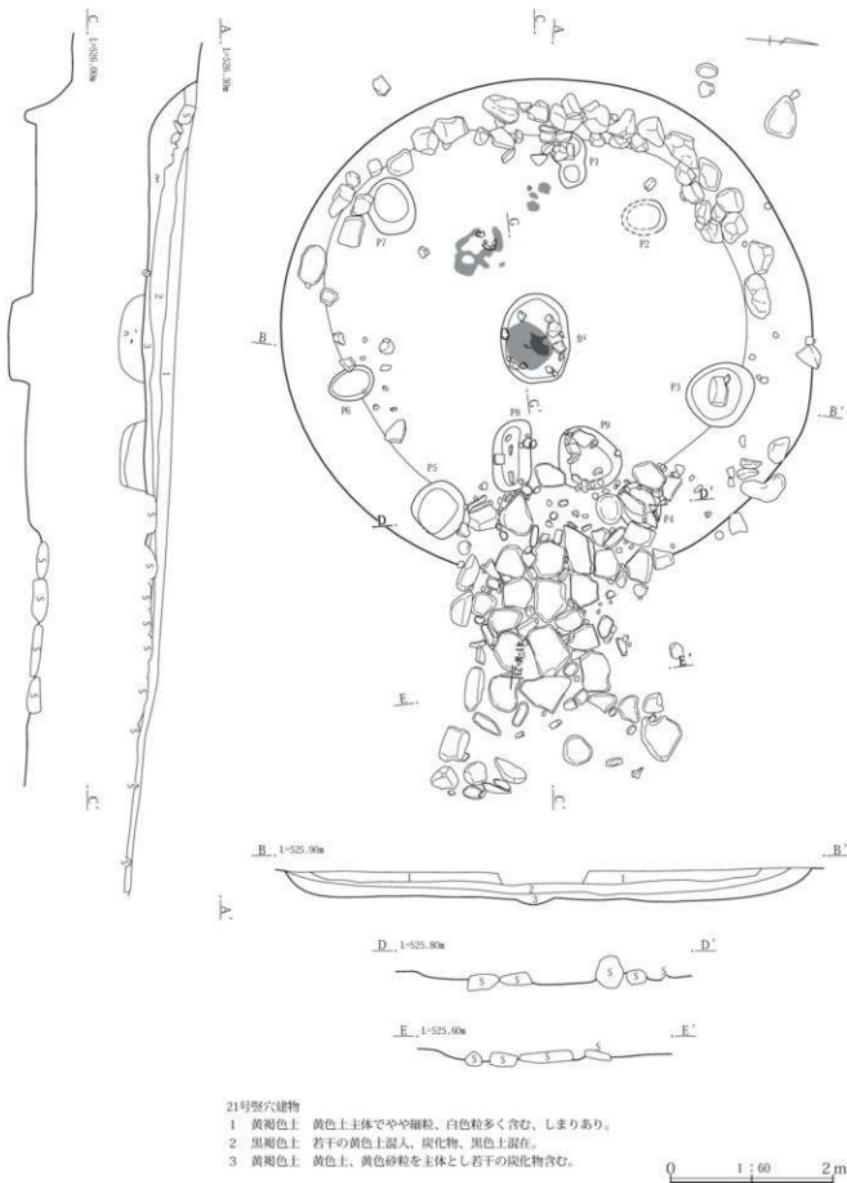


- 20号竪穴建物
- 1 黒褐色土 若干の炭化物粒（材）含む。軟質。
 2 黑褐色土 やや砂粒を含み若干の焼土。炭化物を混入する軟質土。
 3 黑褐色土 黄色土。炭化物含み僅かに焼土粒混入。
 4 黑褐色土 黄色土。若干の炭化物含み僅かに焼土粒混入。ややしまりあり。
 5 黑褐色土 しまりあり、黄色粒多く含む僅かに焼土粒混入。
 6 黄褐色土 地山黄色。褐色粒を多く含み角礫混在に混入。

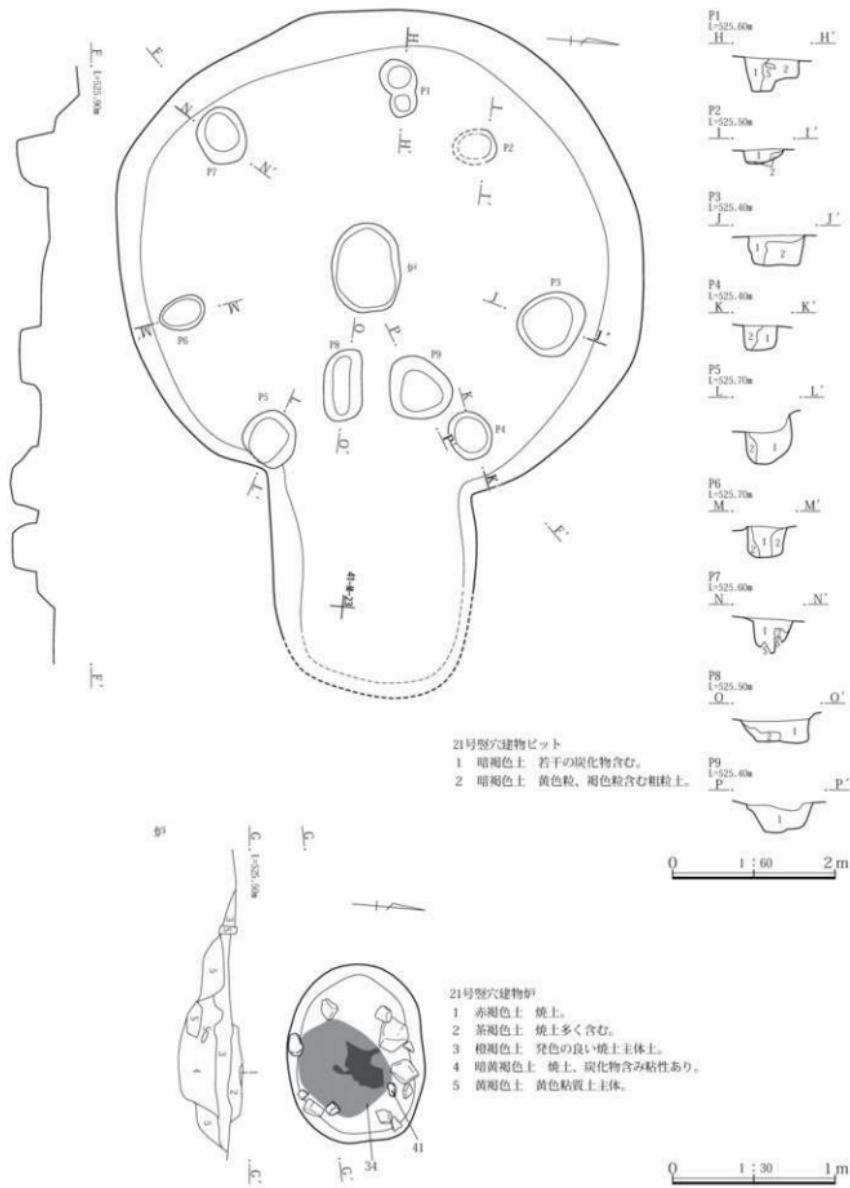
第89図 V区20号竪穴建物



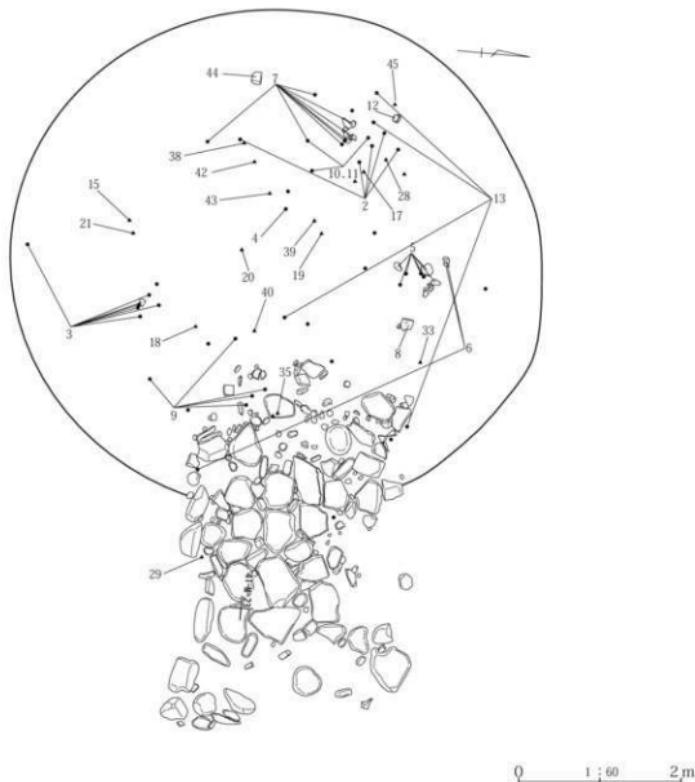
第90図 V区20号竪穴建物出土遺物



第91図 V区21号竖穴建物（1）



第92図 V区21号堅穴建物（2）



第93図 V区21号竪穴建物（3）

P 6 : 楕円形-0.58-0.40-0.40。

P 7 : 楕円形-0.70-0.58-0.40。

P 8 : 楕丸長方形-0.88-0.46-0.28。

P 9 : 不定形-0.82-0.78-0.32。

周講 検出されなかった。

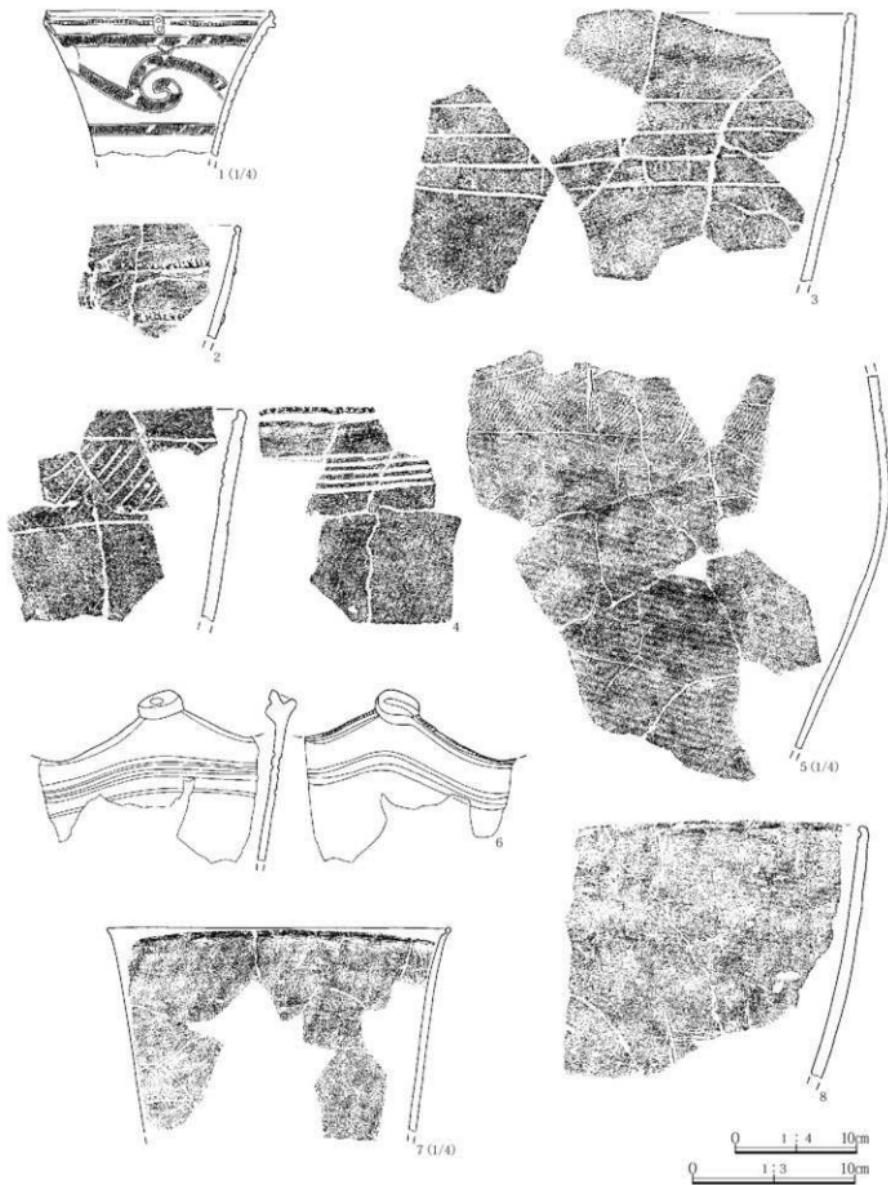
掘方 対ビットに関しては掘方調査時に検出、また張り出し部についてもほぼ平坦な掘方面であった。

遺物 土器は総数2500点以上が出土している。後期前葉が主体である。注口土器も出土している。

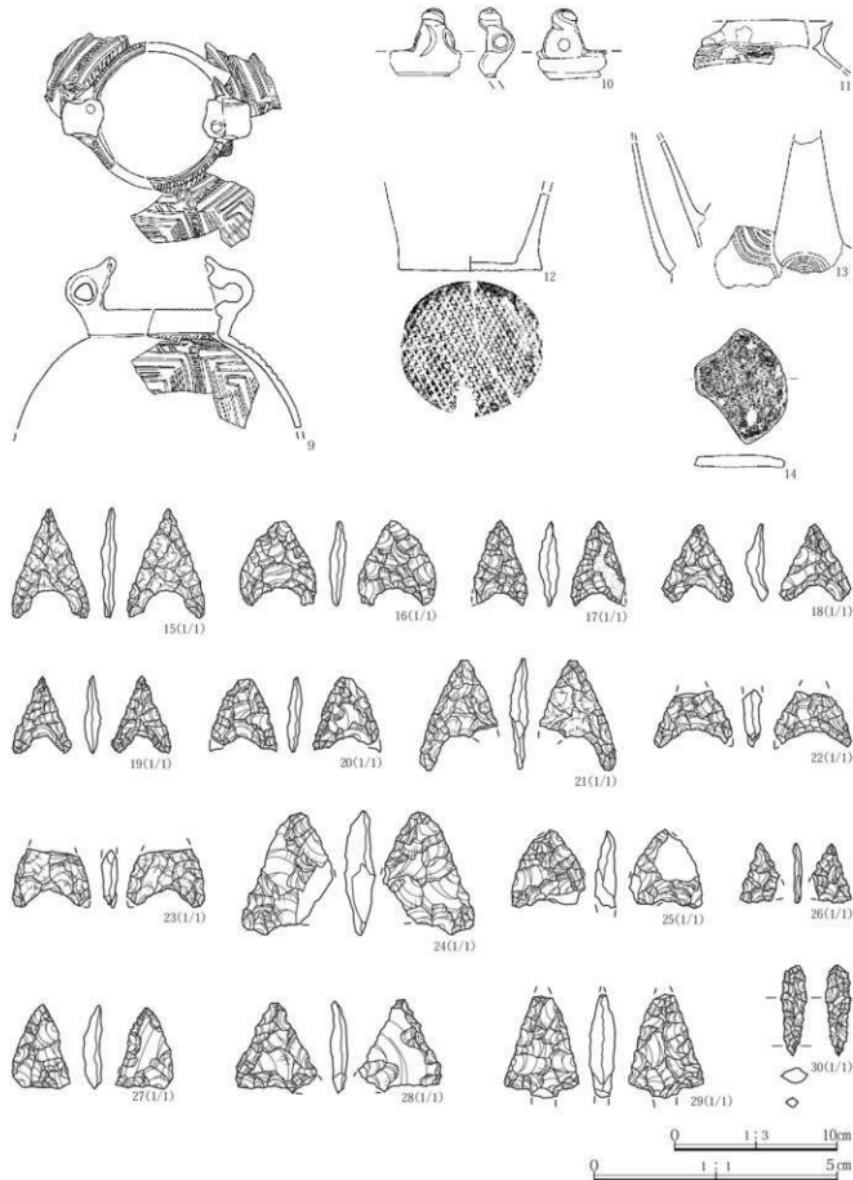
石器石錐類、石錐、打製石斧の他凹石、磨石が多く、多孔石、石皿も見られる。

所見 本竪穴建物については、比較的大型で、列石とはやや離れた位置にあり、形状などから他の列石に付帯して作られた他の敷石竪穴建物とは様相を異にする。

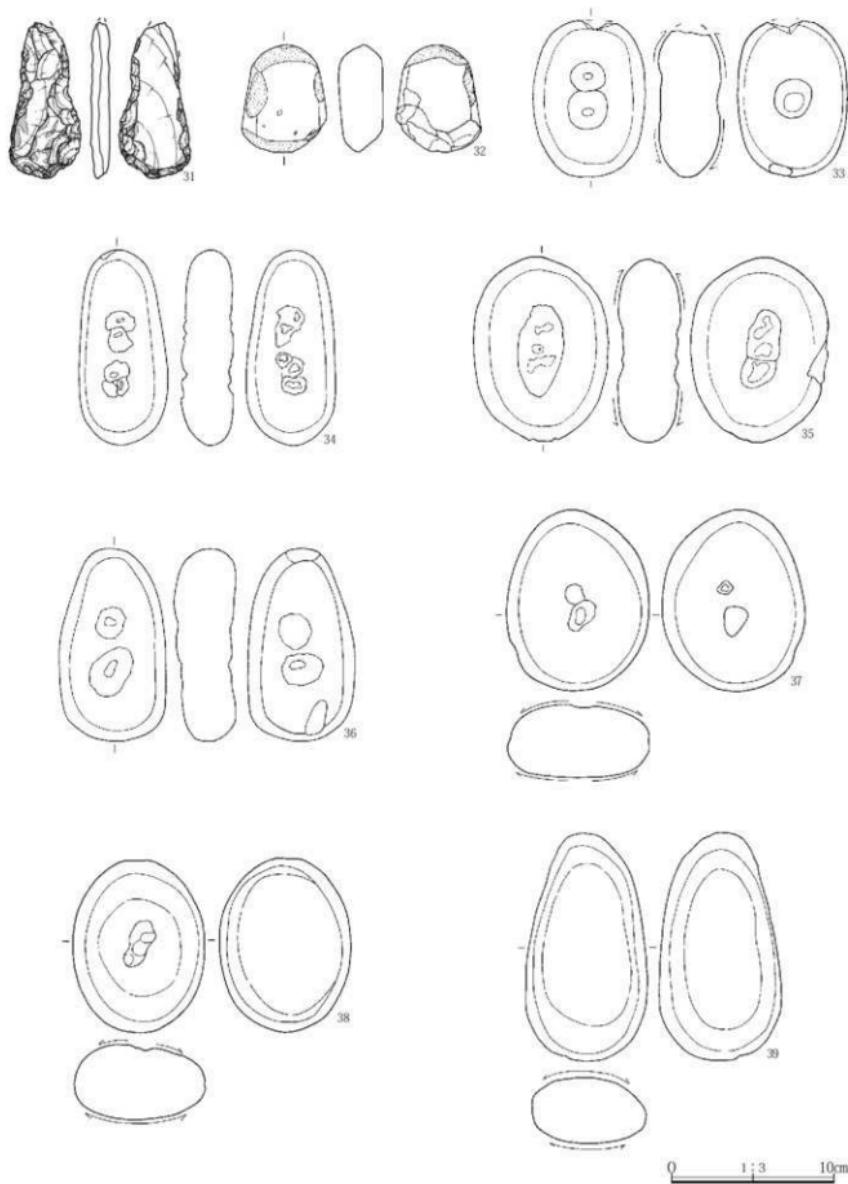
時期は出土土器から後期前葉と考えられる。



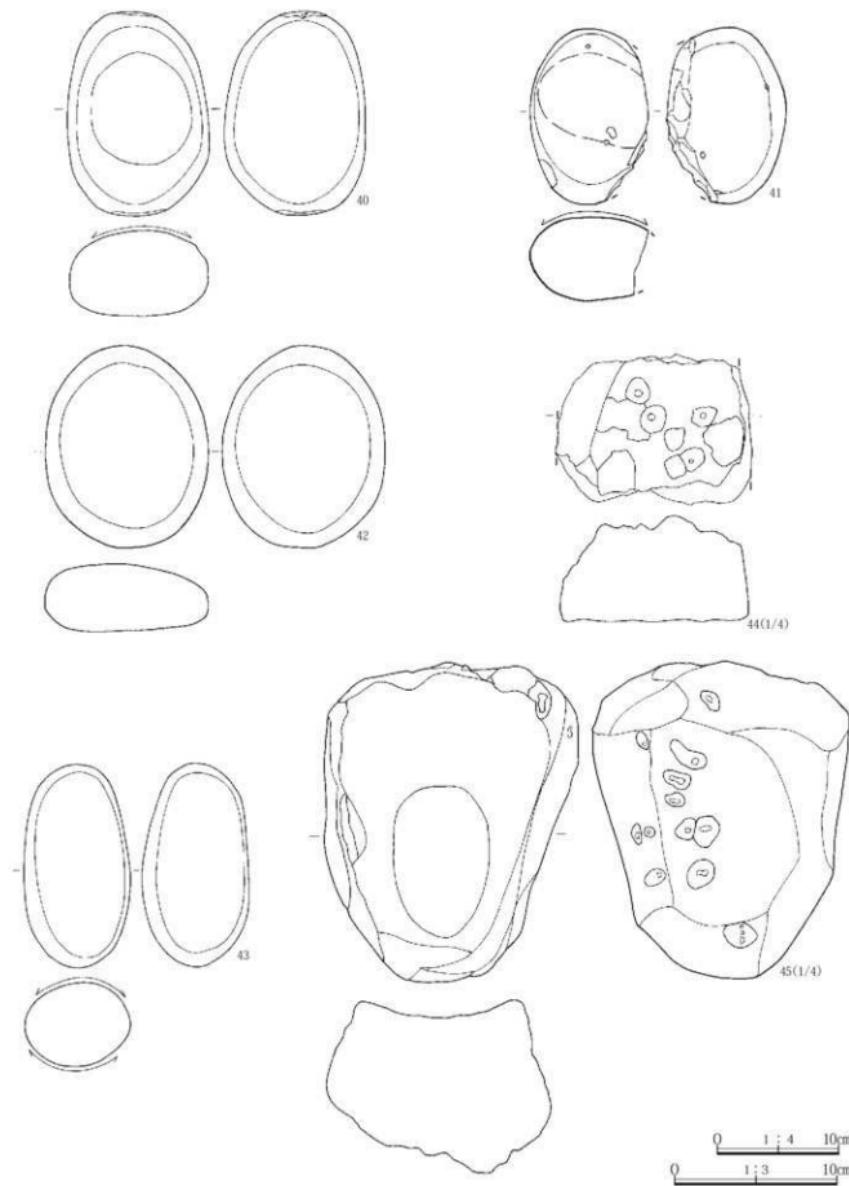
第94図 V区21号竪穴建物出土遺物（1）



第95図 V区21号竪穴建物出土遺物（2）



第96図 V区21号竪穴建物出土遺物（3）



第97図 V区21号竪穴建物出土遺物（4）

22号竪穴建物（第98～106図、PL.22・23・157～161）

位置 V区の南東端、410・P-8・9グリッドに位置する。

重複 20号竪穴建物と重複。本遺構が新しいと思われる。また、5号列石の南端部が本址の西側に接しており、列石構築前の遺構である。

平面形状 電柱敷部分にかかっていたために、平成29年度に南側の一部を調査し、多量の土器と炉の存在を確認した。翌平成30年度に残りの北側部分の調査を実施した結果、ほぼ円形の掘り込みを確認した。

壁の立ち上がりは約35cmである。

主軸方位 N-81°-W。

規模 長軸4.35m、短軸4.20m、深さ0.35m。

埋没土層 小礫と白色粒含む灰褐色土が中央部に落ち込み、その下に多量の土器、炭化物を多く含んだやや軟質の土層が堆積していた。遺物はその下層部より出土している。

床面 土器を含む炭化物層下に生活面と思われる平坦面を検出した、それほど硬化してはいなかったが、均質な様子である。柱穴は壁際にやや小振りな4本を確認した。

炉 長さ0.54m、幅0.60m、深さ0.30mの石囲い炉である。竪穴建物中央やや西に寄っている。炉石は4個の川原石を用いており、手前側に長さ55cmの細長い礫を置き、左右奥にはやや小振りな礫を据えており、その間に小礫を差し込んでいる。炉の中央部に深鉢を転用した埋設土器を伴う。

炉石は火を受けた状況で煤が付着、炉の底面はよく焼けていた。

埋甕 南東部の入り口部に検出された、手前に礫が置かれ、埋甕内部にも平石が落ち込んだ状況で出土している、本来は蓋状になっていたものと考えられる。

土器は底部、口縁部を欠いた深鉢が倒置の状態で据えられていた。

柱穴 4基が確認された。いずれも壁際に在り、やや小さく掘り込みも浅い。北東部の想定位置には確認されなかつた。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：円形—0.30—0.30—0.18。

P 2：円形—0.30—0.28—0.18。

P 3：円形—0.24—0.22—0.20。

周溝 検出されなかった。

掘方 特に掘り込み等は見られず、明確な掘方面としてはとらえられなかった。

遺物 大型の土器を中心に多く出土している、総数は2000点を超える。遺物は中央部分に投げ込まれた状況でレンズ上の堆積状況を呈す。ほぼ完形に近い土器も見られることから、一度に廃棄されたものと思われる。

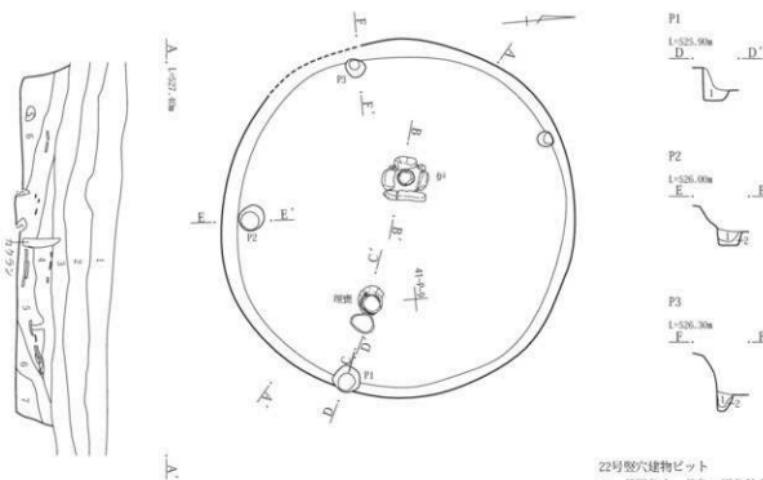
また、炭化物も多く含まれ、土器の中には被熱により変形、発泡状態のものがかなり見られた。

土器は大型品を中心に、総数200点以上見られ、時期は中期後半である。

石器は多くはなかったが、石錐、打製石斧、磨石、石皿が見られ、一部被熱したものが見られる。

所見 2年度にわたってほぼ半分ずつ調査を行っている。比較的残りの良い竪穴建物である。規模はさほど大きはないが、石囲い炉、埋甕が検出されている。

遺物に関しては一度に廃棄された様子がうかがえ、炭化物も多く、被熱状態の土器も多く見受けられることから、土器の焼成に関連した可能性が高い。出土土器から本竪穴建物は中期後半期に比定される。



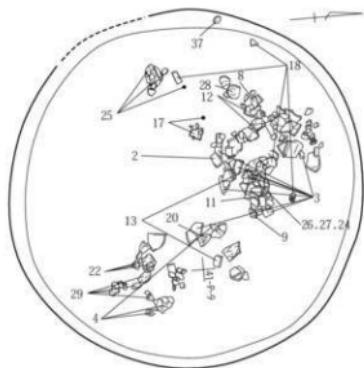
22号竪穴建物

- 1 黒色土 天明烟耕上。
- 2 灰褐色土 黄色粒を含む細粒土。
- 3 灰褐色土 2と似るもしまりあり、鉄分凝集目立つ。
- 4 灰褐色土 若干の小礫、白色粒を含み上盤片、やや大きな礫を含む。
- 5 黒色土 土器片（大）を多く含む層、炭化物、若干の櫻含む。
- 6 暗褐色土 地山褐色土を主体とする。礫若干の土器片含む。
- 7 明褐色土 6と似るが礫半土器片はほとんど含まず、比較的均質で粘性あり。

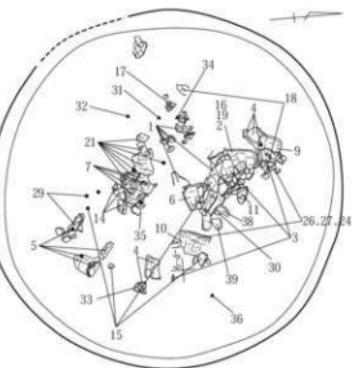
22号竪穴建物ピット

- 1 黄褐色土 上 黄色、褐色粒含む、やや黒味あり。
- 2 黄褐色土 下 黄色粒多く含みしまりあり。

1面図

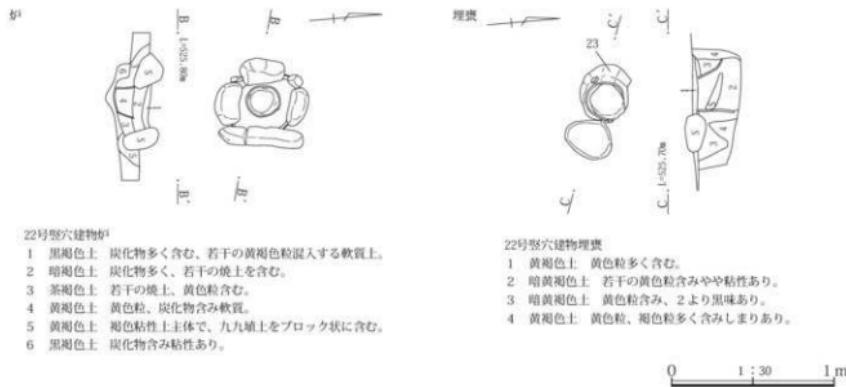


2面図

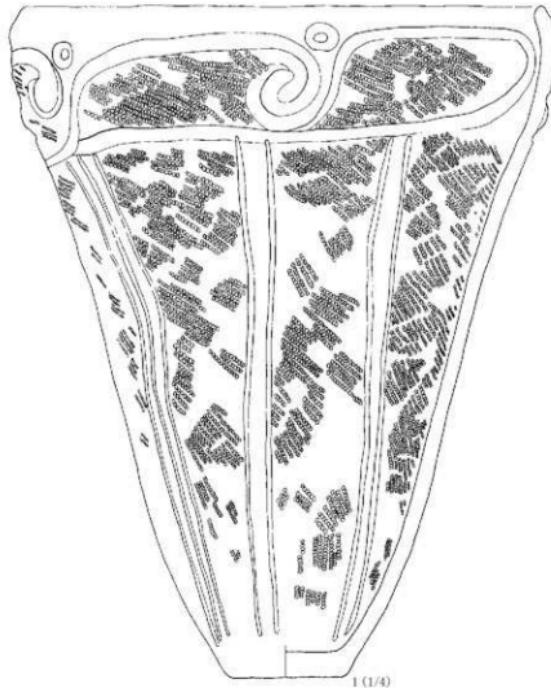


0 1 : 60 2 m

第98図 V区22号竪穴建物 (1)



第99図 V区22号竖穴建物（2）



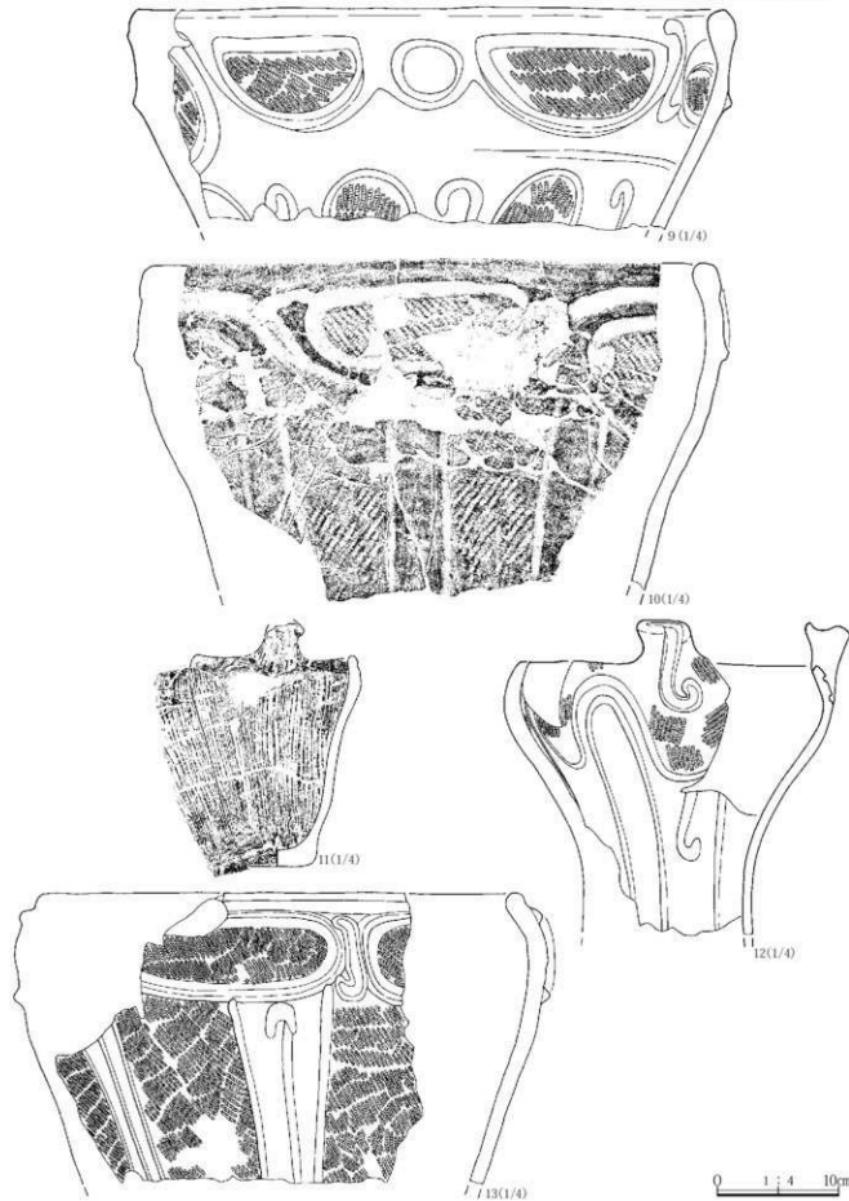
第100図 V区22号竖穴建物出土遺物（1）



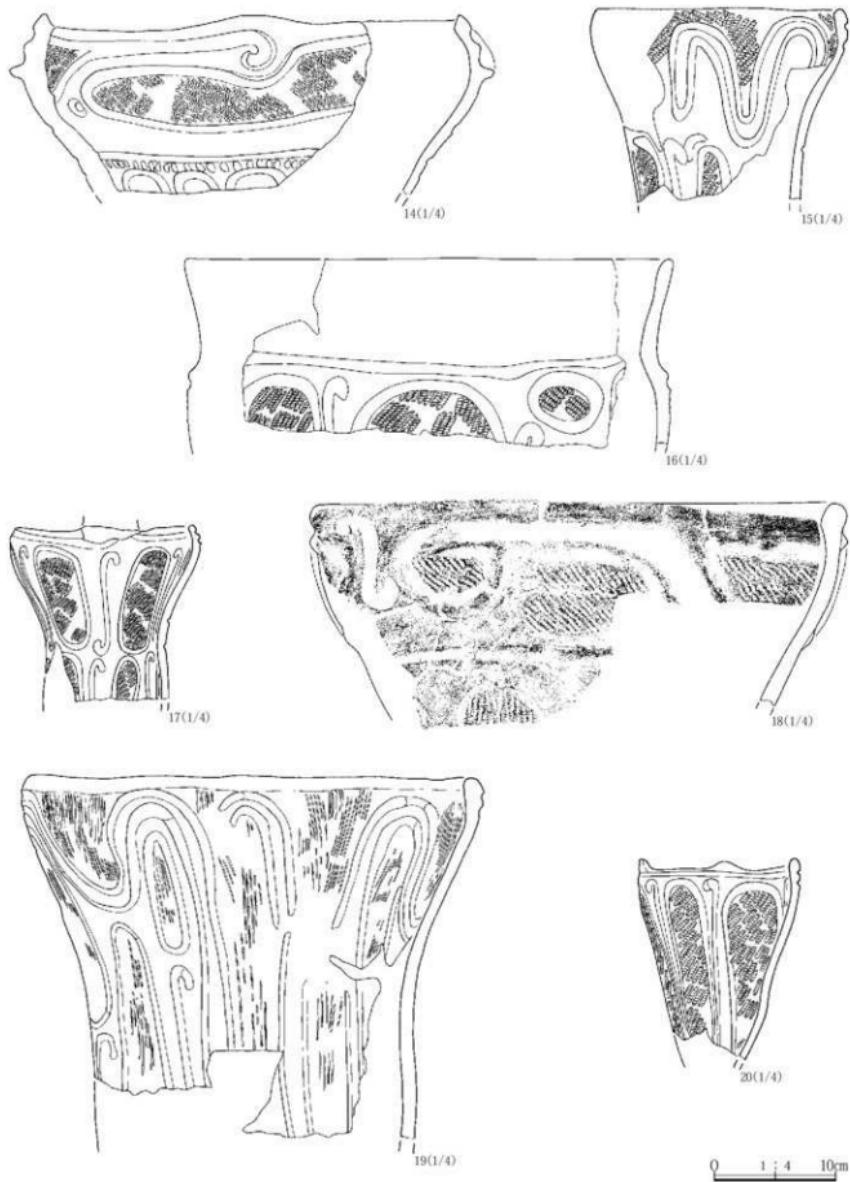
第101図 V区22号竪穴建物出土遺物（2）



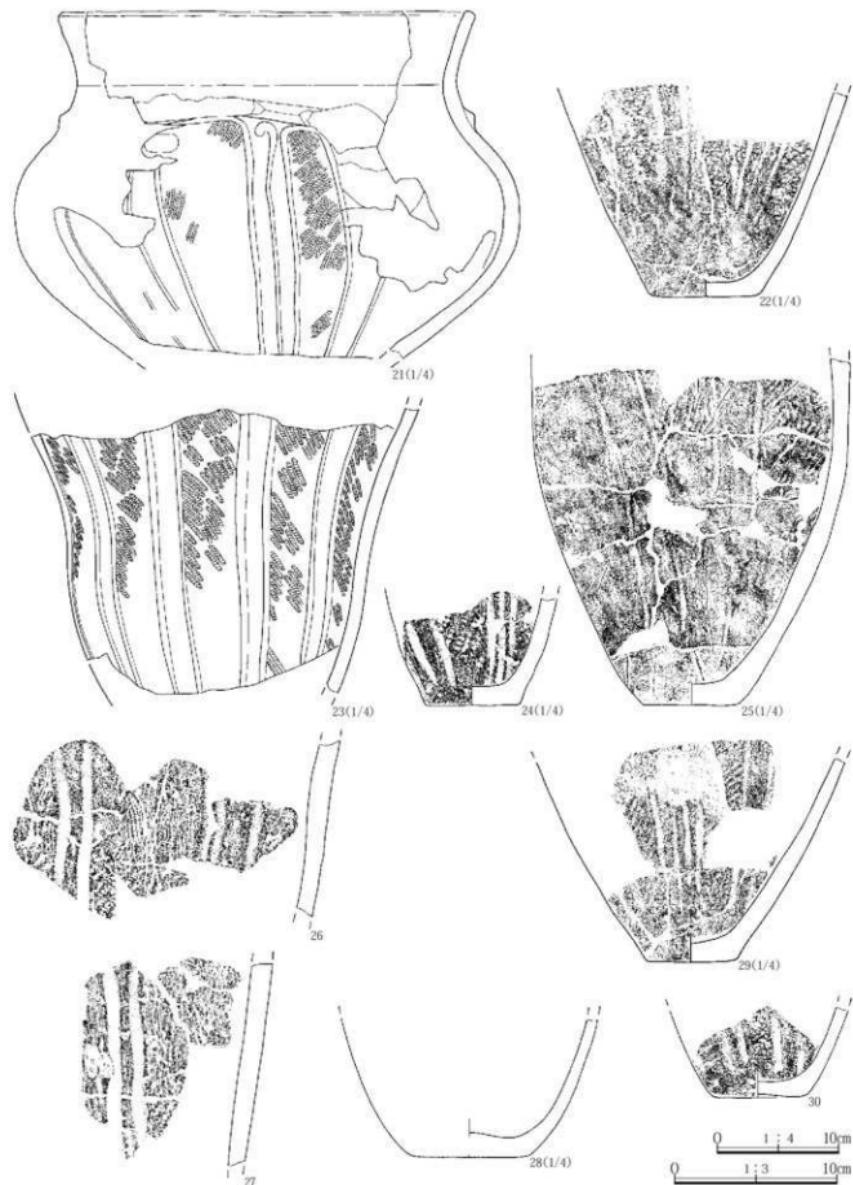
第102図 V区22号竖穴建物出土遺物（3）



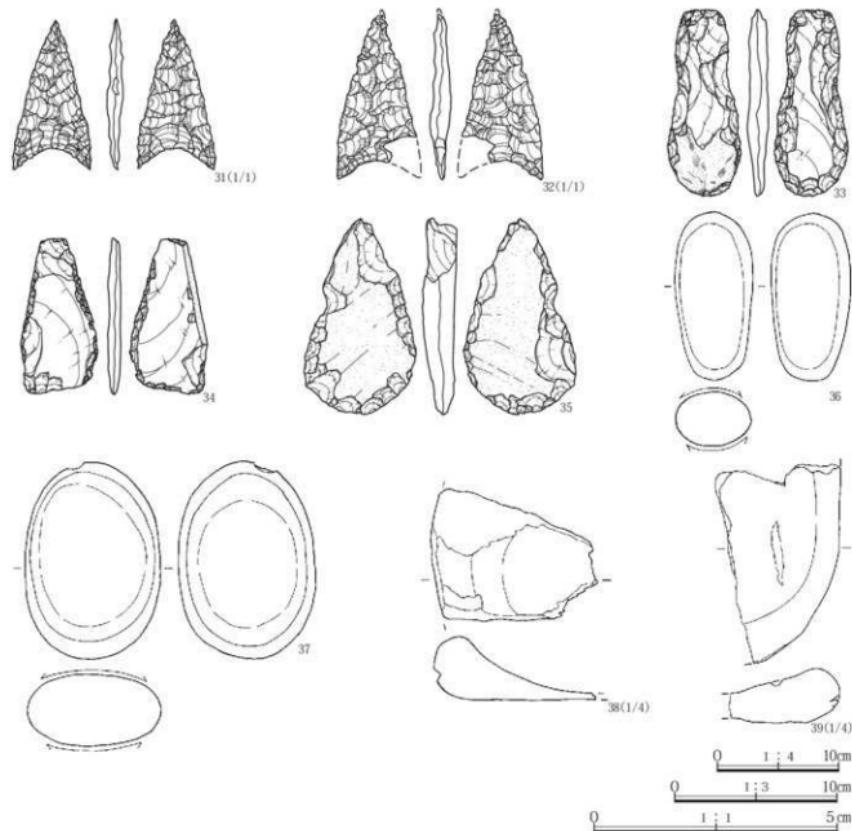
第103図 V区22号竪穴建物出土遺物 (4)



第104図 V区22号竪穴建物出土遺物（5）



第105図 V区22号竪穴建物出土遺物（6）



第106図 V区22号竪穴建物出土遺物（7）

23号竪穴建物（第107～109図、PL.24・161・162）

位置 6号列石の西側に接した、V区41K・L-21グリッドに位置する。

重複 19・53号竪穴建物と重複。53号竪穴建物より本遺構が新しく、19号竪穴建物より古い。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入入口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径3m程度のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直径4.42m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-110°-W。

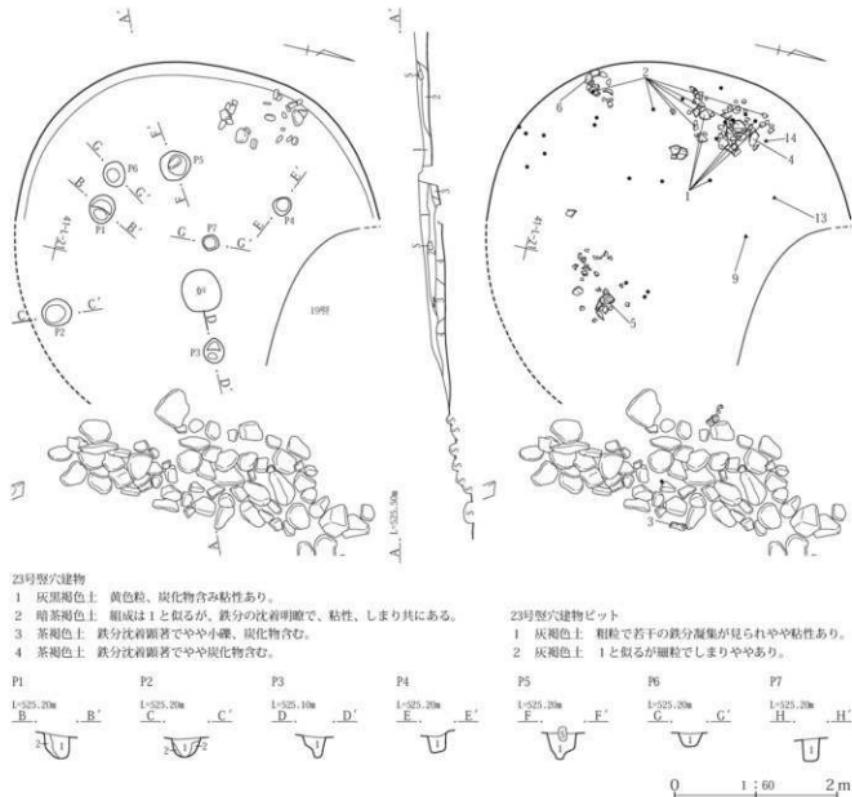
規模 列石に接する部分については不明瞭であるが、主体部は長軸4.48m、短軸4.40m、深さ0.2m程である。

埋没土層 当初上面部分については、包含層として掘り下げた経緯がある、粘性的茶褐色土主体で炭化物、土器類が含まれる。

床面 本来の床面は明確にし得なかった、時に列石側については、一部掘りすぎている。また19号が重複しており北側の一部は失われていた。

敷石等は確認されなかった。また列石との関係は把握できなかった。

炉 中央やや東に検出したが、上部については削平され



第107図 V区23号竪穴建物

た状態であった。下部の掘方のみの検出である。径約0.50mの円形を呈し深さは0.1m程度である。若干の焼土、炭化物を確認、灰石、炉体土器等については確認されなかった。

埋蔵 検出されなかった。

柱穴 7基が確認された。その配置から、P3が出入口部のピットであり、P1・2、4～7の6本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。配置はやや不規則で、かなり内側に廻る。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P1：楕円形—0.36—0.32—0.28。

P2：円形—0.36—0.34—0.22。

P3：不定形—0.32—0.26—0.26。

P4：円形—0.24—0.22—0.20。

P5：円形—0.38—0.36—0.32。

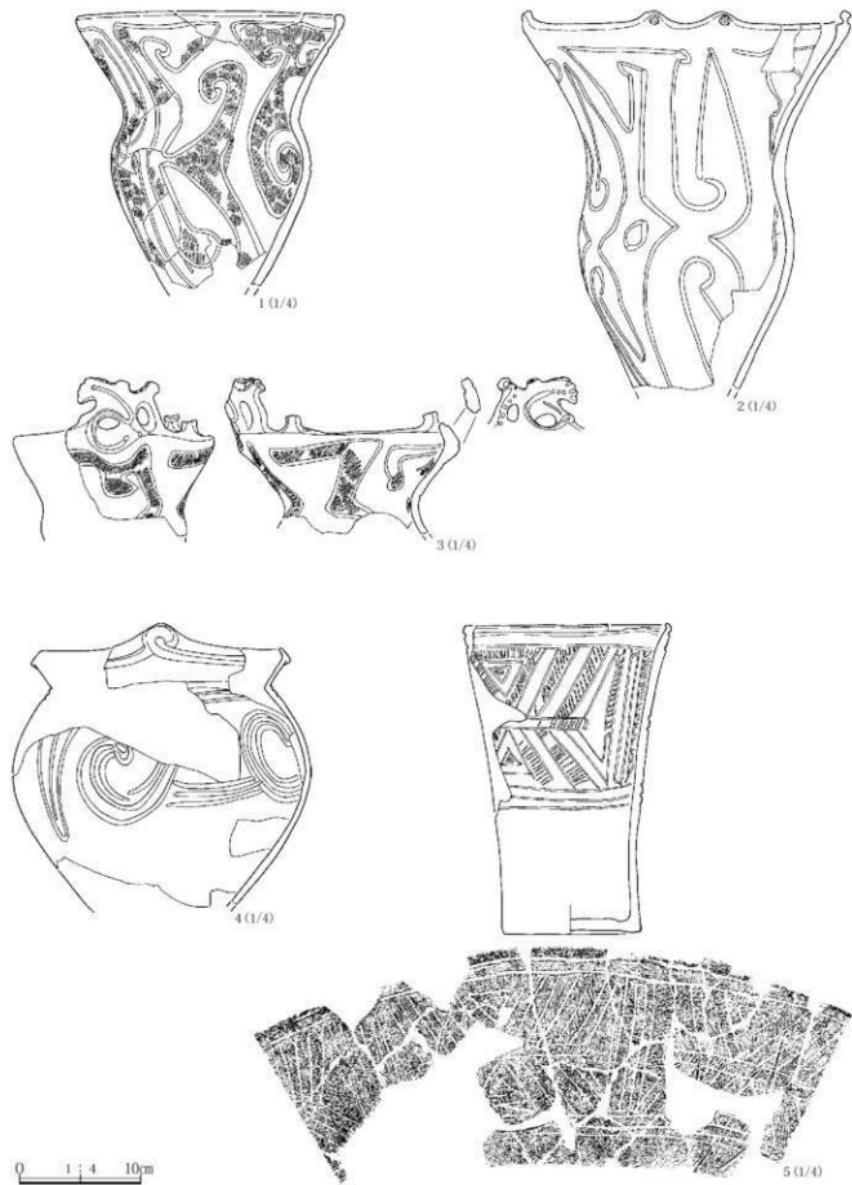
P6：楕円形—0.32—0.28—0.16。

P7：円形—0.20—0.20—0.28。

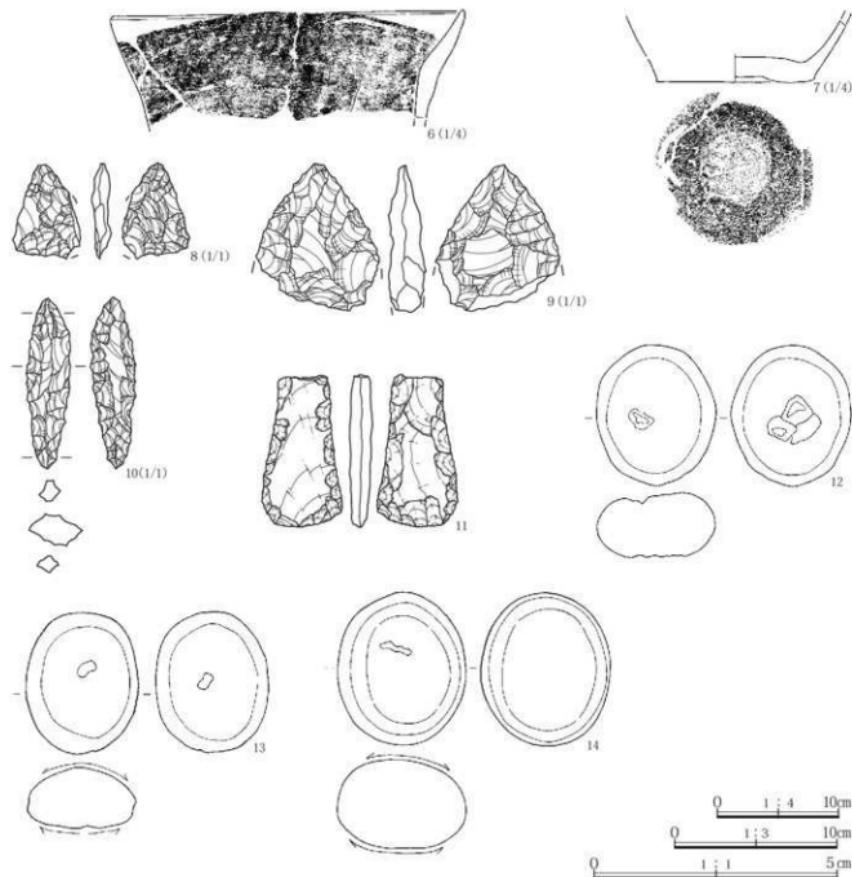
周溝 検出されなかった。

掘方 床面の確認ができず、明瞭な掘方面も不明である。調査過程で、下位に重複する、53号竪穴建物の埋蔵が検出された。

遺物 竪穴建物の西側に多くの土器が出土、約1000点が出土した。主体は後期初頭から前葉期のものである。石



第108図 V区23号竪穴建物出土遺物（1）



第109図 V区23号竪穴建物出土遺物（2）

器は石鏃、石錐、打製石斧、磨石などが見られる。

所見 本址については6号列石周辺の精査中に遺物の出土状態から遺構として確認されたものである。床面については部分的にしか検出できなかった。

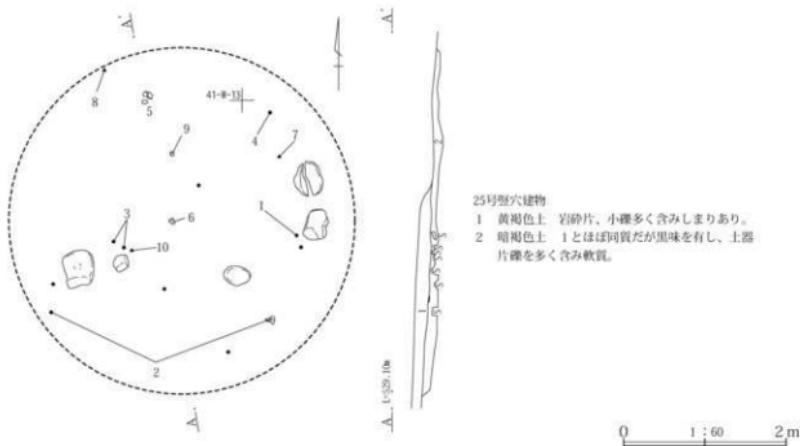
6号列石の西に作られているが、一部重複する19号竪穴建物の存在を考えると、同時に存在していた可能性は少ない。

出土土器から帰属時期については、後期初頭から前葉期に比定される。

24号竪穴建物（欠番）

位置 V区41L・M-19グリッド。

所見 黒色土中に多くの遺物が集中した状況から、竪穴建物として調査を行ったが、遺構としての掘り込みや、炉、柱穴などが検出されなかつたことから欠番とした。遺物に関しては、その後検出された土坑内のものは、土坑に帰属させた。また、それ以外のものは遺構外遺物とした。



第110図 V区25号竪穴建物

25号竪穴建物（第110・111図、PL.25・162）

位置 調査区西寄りの高い位置、V区41W-12グリッドに在る。

重複 なし。

平面形状 明確な立ち上がりは確認できなかった、黒色土中に遺物及び礫の集中が認められたことから、遺構を想定し調査を行い、中央に炭化物の広がりが検出されたことから竪穴建物とした。

ほぼ円形と考えられるが、確定するには至っていない。

主軸方位 不明。

規模 推定径4.25mの円形を想定した。深さは約0.20m。

埋没土層 黄褐色で、小角礫、岩片を多く含み、粗粒で炭化物、黒色土ブロックを含む層で埋没。大きな礫や平石片も点在する。

床面 多くの地山礫が含まれ、凹凸が顕著なため、床面としての面的な確定には至らなかった。また、土器片も多く点在し、礫とともに流れ込んだような状況も想定される。

炉 竪穴建物の中央部に炭化物を検出、炉と想定したが未確定な点が多く、炉石は見られず、焼土もほとんど検出されなかった。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 確認できなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 不明である。床面下部の土には多くの地山礫が入り込んだ状況を示す。

遺物 450点以上が出土、多くの礫の中に点在する状況で、いずれも破片である。

石器は石礫、凹石が出土、扁平な川原石を利用した石鍾1点が出土している。

所見 矽および土器が多く確認され、覆土も黒味を帯びていたことから、竪穴建物を想定し、調査を行ったが、最終的に、明確な炉は検出されず、柱穴も見られなかつたことから、自然の落ち込みであった可能性も否定できない。土器は後期前半を中心とする。

26号竪穴建物（第112・113図、PL.25・163）

位置 V区41U・V-13・14グリッド。4号竪穴建物の東側下位に位置する。

重複 4・11号竪穴建物、2号列石と重複。4号竪穴建物より本遺構が古い。

平面形状 上面部分は4号竪穴建物に削平され、東側も11号竪穴建物に切られている。

壁の立ち上がりはほとんど見られなかった。

柱穴 が徑3m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていること



第111図 V区25号竪穴建物出土遺物

から直径4m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-95°-W。

規模 長軸4.12m、短軸3.88m、深さ0.12m。

埋没土層 僅かに見られた埋没土については礫を含み、炭化物含む粗粒土で暗褐色土主体であった。

床面 全体に凹凸が顕著で、覆土中、地山に礫の混入目立つ、中央部に炭化物層を主体とする焼土が広がり、炉と考えられる。

炉 長さ1.08m、幅1.20m、深さ0.12m。(掘方深さ

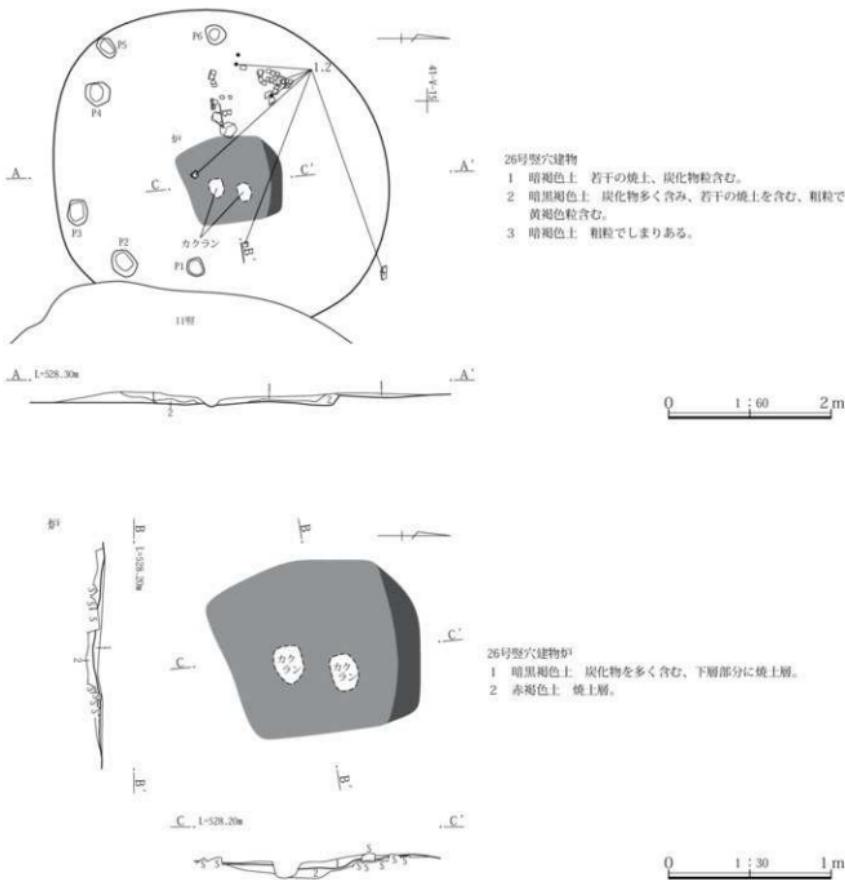
0.08m) 竪穴建物ほぼ中央に位置する炉である。炉内埋設土器を伴わない。炉石等は確認されなかった。

炭化物含む暗黒褐色土で埋没している。掘方が確認され、中央にピットが確認されており、埋設土器の掘方か、焼土層で埋没している。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 壁の南側内側に弧状に並ぶ6基を確認した、北側には検出されなかった。いずれも、掘り込みは浅い。

周溝 検出されなかった。



第112図 V区26号竪穴建物

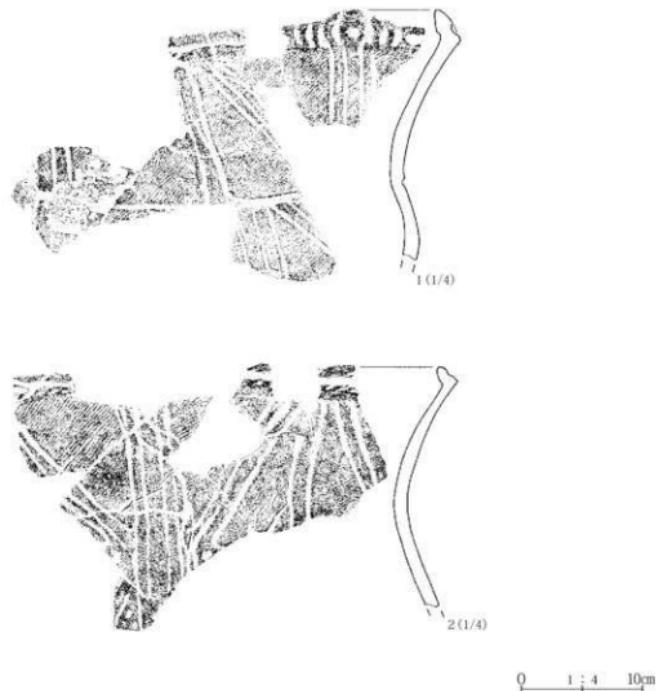
掘方 竪穴建物と認定した時点で、掘削面はほぼ掘方まで達していたと思われる。炉については方形の石囲い炉であった可能性もある。凹凸が顕著である。

遺物 破片類を中心に約100点が出土、石器は出土していない。

所見 上部を削平されており、遺存状況は悪かった。や

や落ち込んだ場所のほぼ中央に焼土が検出されたことから、竪穴建物と考えた。

炉を中心外側に2段の落ち込みが見られる。出土土器類は少ないが、後期前半期を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。



第113図 V区26号竪穴建物出土遺物

27号竪穴建物（第114・115図、PL.25・26・163）

位置 5号列石の北端近くの、V区41N・M-18・19グリッドに位置する。

重複 51号竪穴建物、136号土坑と重複。本遺構が136号土坑より古く、51号竪穴建物より新しい。主体部の西側部分を1号風倒木により壊されている。

平面形状 主体部が多角形に近い円形を呈す、張り出し部を南東に持つと思われる柄鏡型竪穴建物である。

張り出し部と見られる範囲については、部分的に平石が検出されている。掘り込みは見られず、主体部と張り出し部との接合部分に136号土坑が重複し、本址を大きく切っている。

主軸方位 N-57°-W。

規模 推定張り出し部を含め、長軸(5.20)m、短軸3.90m、深さ0.20mである。

埋没土層 黄褐色で地山岩片を多く含む層と、黒色土ブロック土を混入したやや黒みを帯びた比較的軟質の層に分層される。

床面 ほぼ平坦で敷石は張り出し部に点在して見られた程度である。全体に緩やかな凹凸が見られ、中央部に長方形のがが検出されている。周囲がやや高まっている状況が観察された。

北東部の周溝際には、板状礫を横に立て並べ、やや内側に傾いた面に沿って、小礫をめぐらした状況が観察されている。

さらに、周溝と見られる礫が弧状に点在分布、これらは小円礫と地山礫で構成されている。

炉 長さ0.88m、幅0.78m、深さ0.15m。（掘方）竪穴建物中央に位置するがである。炉内埋設土器を伴うが被熱でかなり潰れた状態であった。焼土は東側に集中して

検出された。かなり壊れた状況であった、不定形な矩形の掘方を有すことなどから石圓い寺^{イサガ}であった可能性がある。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 周溝に沿って、8基が確認された。その配置から、P 3・4が出入り口部の対ビットであり、P 1・2・5・6の4本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。風倒木に壊された場所にも存在していたと考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：円形—0.28—0.24—0.24。

P 2：不定形—0.24—0.20—0.19。

P 3：円形—0.30—0.28—0.28。

P 4：梢円形—0.26—0.20—0.25。

P 5：円形—0.28—0.28—0.24。

P 6：円形—0.22—0.22—0.38。

周溝 幅0.22m。深さ10～15cm、1号風倒木に壊された部分および張り出し接合部を除いた、北部半周及び南部に確認された。

掘方 不明である、やや凹凸が見られ、下位に遺構が存在するためか硬化面は認められず、全体に軟質面であった。掘方調査途中に、下位に重複する51号竪穴建物の炉石の検出を見た。

遺物 磁器に混じり土器片が、ほぼ全面において330点程度散在する状況で出土した。時期は中期末葉か。

石器の出土は僅かで、石鐵および凹石が出土している。

所見 出土土器は中期末葉を主体としており、本竪穴建物は当該期に比定される。

28号竪穴建物（第116～121図、PL.27・28・163・164）

位置 調査区の西寄り、V区41S・T-16・17グリッド。

5号竪穴建物の下位に検出された。南側は3号列石に接する。

重複 5・38・39・49号竪穴建物と重複。本遺構が5号竪穴建物より古く、38・39・49号竪穴建物より新しいと判断される。

平面形状 柄鏡形を呈すか、外周部に敷石が見られ、翌年追加調査を行った西側部分でも外周に礫を作うことを確認した。

主軸方位 N-85°-W。

規模 長軸6.80m、短軸6.80m、深さ0.45m。

埋没土層 内部に5号竪穴建物が収まる形で重複し、さらに複数の遺構が存在することから、埋没土については擾乱状態であった。礫や土器などが混入し特に上層部分はその傾向が顕著であった。下層部分は小岩片を含むものの、比較的細粒で織りのある土が見られた。

床面 周縁は弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。敷石として、丸石、川原石、鉄平石が確認された。壁下部分に沿って敷かれた平石は比較的水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、本来の位置からそれほど移動していないものと考えられる。西側部分の敷石は全体的に大きく厚みを有す。

炉 径0.9mの円形の掘方を有す。深さは0.3m。（掘方）竪穴建物中央に位置する炉である。底部に炉内埋設土器の底部が出土、炉石等は検出されなかつた。内面はよく焼けており硬化した状態であった。炉体土器も被熱が顕著である。

埋甕 検出されなかつた。

柱穴 壁内に沿って12基が確認された。その配置から、P 8・9が出入り口部の対ビットであり、P 1～7・10～12が主体部主柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：円形—0.46—0.39—0.38。

P 2：円形—0.41—0.35—0.44。

P 3：円形—0.37—0.33—0.53。

P 4：円形—0.44—0.44—0.56。

P 5：円形：0.32—0.30—0.42。

P 6：円形—0.44—0.40—0.42。

P 7：円形—0.40—0.39—0.24。

P 8：長円形—1.00—0.51—0.52。

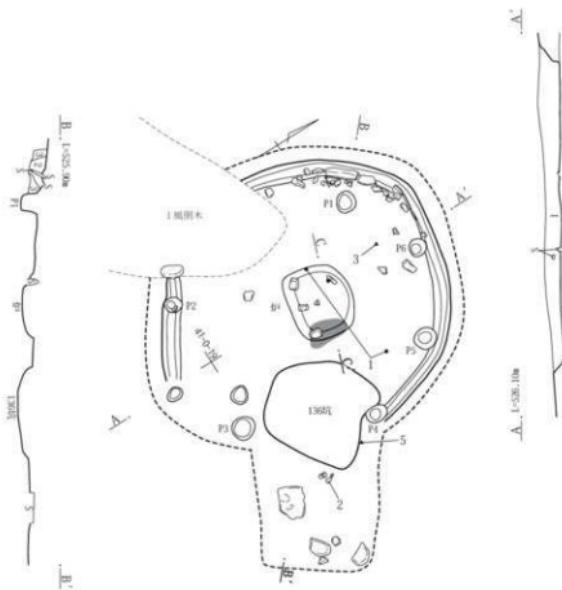
P 9：長円形—1.24—0.68—0.45。

周溝 確認されなかつた。

掘方 下部にも遺構が重複していたために明確な掘方面は確認されなかつた。東側に長円形の対ビットが検出された。

遺物 出土土器は総数3000点を超えるが、複数の重複が見られたことから、本址に歸属すると思われる遺物はあまり多くはなかつた。

時期は後期前葉から中葉にかけてである。石器につい



27号竪穴建物

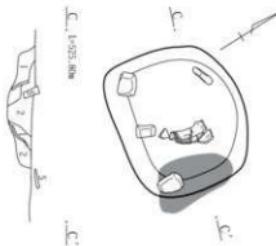
- 1 暗褐色土 黄色岩碎、小砾多く含む、黄色土、黒色土の混土。
- 2 暗褐色土 若干の黄色土ブロック含みやや軟質。
- 3 暗褐色土 黄色土ブロック多く含みしまりあり。

0 1 : 60 2 m

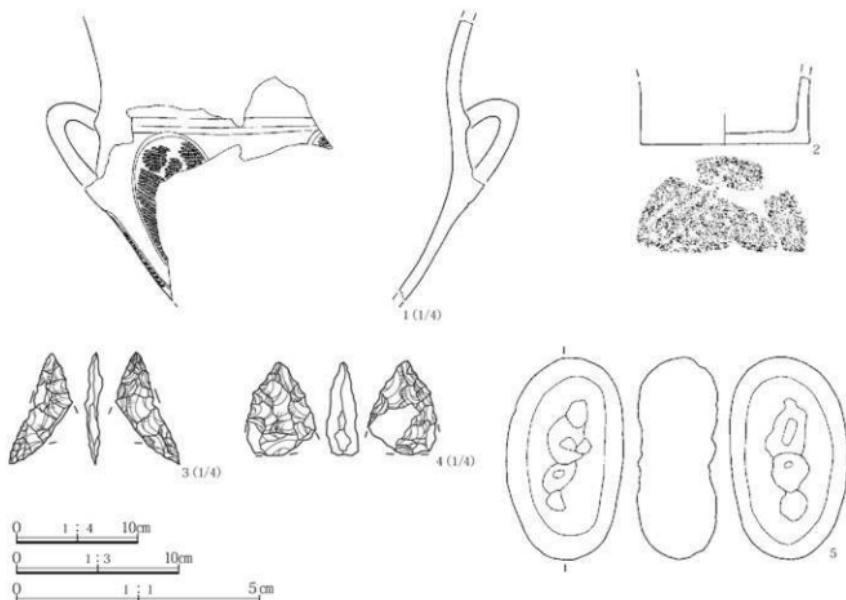
解説

27号竪穴建物

- 1 茶褐色土 少量の焼土粒および炭化物含む。
- 2 黄褐色土 黄褐色土小ブロックを多く含む。



第114図 V区27号竪穴建物



第115図 V区27号竪穴建物出土遺物

ては遺構への帰属を判断しかねるが、石鎌、石錐が多く出土している。さらに磨製石斧、打製石斧、凹石、磨石、石棒、石皿などが見られる。炉内より石錐が1点出土している。中でも直方体形の凹石は注意される遺物である。

所見 前述したように、複数の重複が見られることから遺物等の帰属は判断しがたい部分があるものの、遺構に関しては比較的よく残っている。炉を中心とした円形の主体部を有し、3号列石に付帯して作られたと考えられる。時期は出土土器から後期前葉と見られる。

29号竪穴建物（第122・123図、PL.29・165）

位置 V区41S・T-13・14グリッド。

重複 3・11号竪穴建物と重複。本遺構が古い。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する柄鏡形散石竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径3.2m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから直径4m前後の円形の主体部が想定される。3号竪穴建物の掘方調査時

に炉及び、柱穴が確認された。

主軸方位 N-91°-W。

規模 長軸(4.40)m、短軸(3.70)m、深さ0.1m。

埋没土層 覆土自体はほとんど残っておらず、上に重複した3・11号竪穴建物によって著しく削平を受けていた。遺構面は、ほぼ掘方面と同面と考えられる。

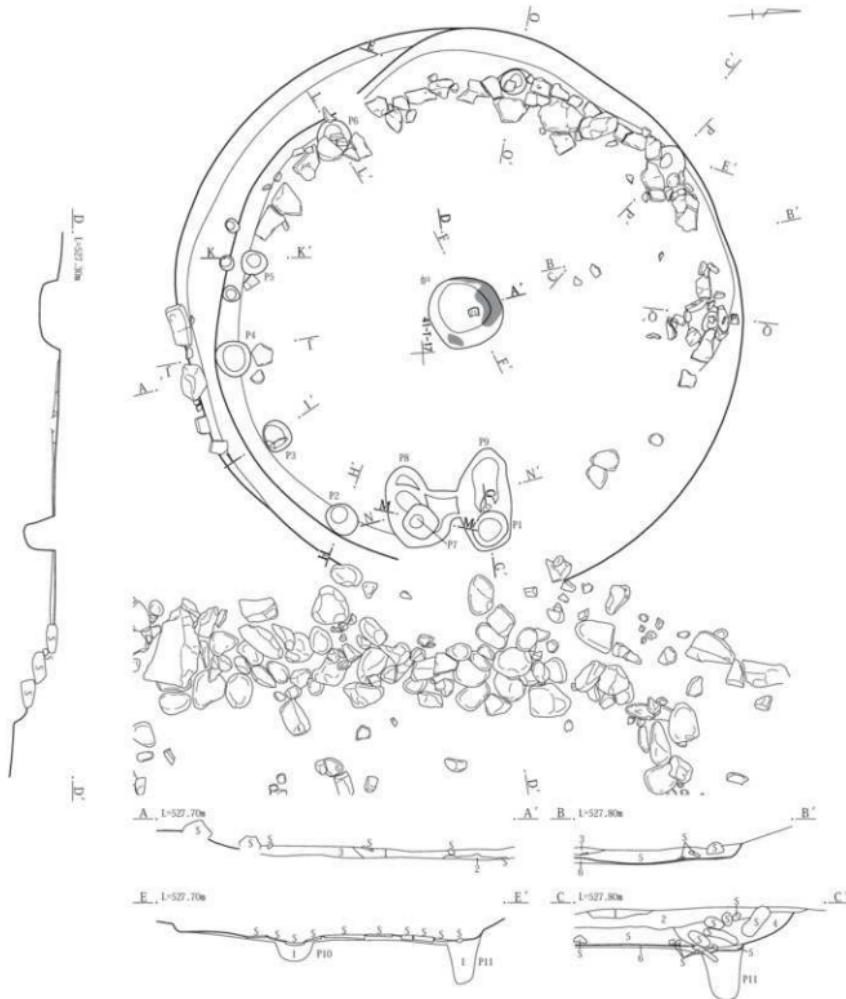
床面 凹凸が顕著である。本来の生活面は確認できなかった。

炉 長さ0.88m、幅0.72m、深さ0.24m。（掘方）竪穴建物中央やや東に位置する炉である。炉内埋設土器を伴い、一部角礫が残っていることから、石圓い炉と考えられる。黄褐色土、暗褐色土で埋没、若干の焼土を伴う。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 8基が確認された。その配置から、P 8が出入口部のピットであり、P 1～7の7本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形-0.40-0.32-0.38。



28号竖穴建物 A-A', D-D'

- 1 黒褐色土 磚、岩碎片（黄色）多く含む。
- 2 黒褐色土 黒味あり地山砂礫多く含む。
- 3 黒褐色土 黒味強く炭化物やや含む。
- 4 黒褐色土 小礫、黄褐色粒多く含みやや粘性あり。
- 5 黑褐色土 粗粒で不均一、攪拌を受けている。
- 6 黑褐色土 小礫多く含む、粗粒で炭化物含む。

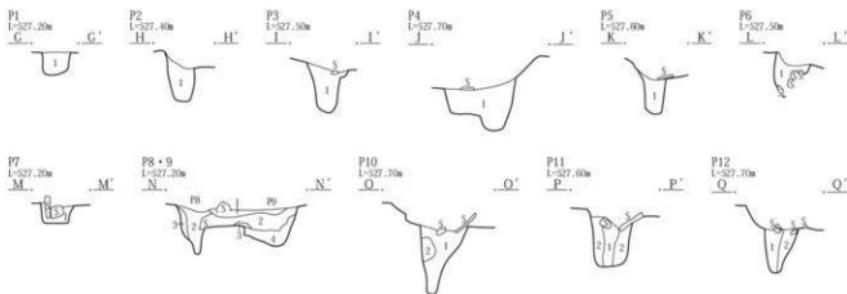
28号竖穴建物 E-E'

- 1 喷褐色土 黄~褐褐色少含。黒褐色土粒少含。磚少含。

28号竖穴建物 B-B', C-C'

- 1 褐灰色土 炭化物を少量、径5mm程度の風化岩片を多く含む。
- 2 褐灰色土 炭化物をやや多く、径5mm程度の風化岩片を多く、遺物をやや多く含む。
- 3 にふい黄褐色土 炭化物を少量、径5mm程度の風化岩片を多く含む、径5~10cm程度に亜角礫を多く含む（V区5号竖穴建物壁上相当）。
- 4 喷褐色土 炭化物を少量、径5mm程度の風化岩片を多く含む（9号配石）。
- 5 にふい黄褐色土 3よりはやや黒色味強い。径5mm程度の風化岩片を多く含む（28号竖穴建物埋土）。
- 6 にふい黄褐色土 黄褐色土を含む（28号竖穴建物掘方）。

第116図 V区28号竖穴建物（1）



28号竖穴建物P1~7

1 暗黄褐色土 小礫、黄色岩片および若干の炭化物含む。

28号竖穴建物P8・9

1 黄褐色土 黄色岩片多く含む。

2 暗褐色土 烧骨片及び炭化物多く含む。

3 暗黄褐色土 黄色岩片多く含みやや粘性あり。

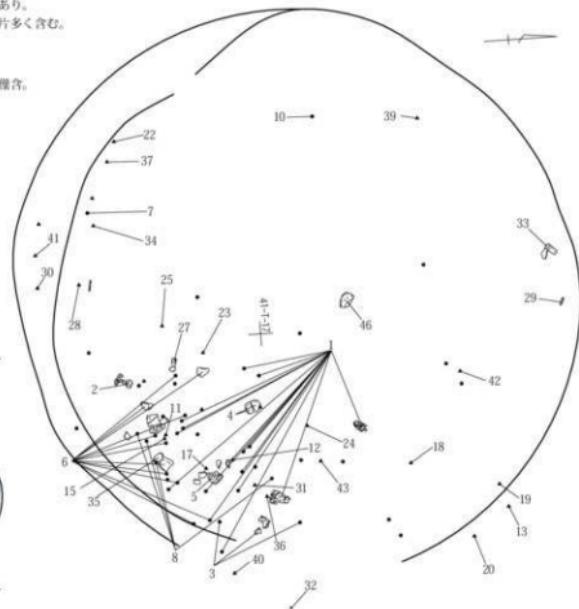
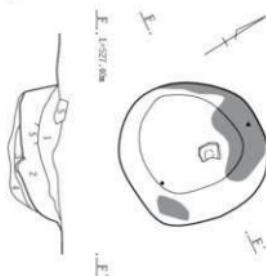
4 暗褐色土 3と似るがやや黒味あり、岩片多く含む。

28号竖穴建物P10~12

1 黑褐色土 黄~褐色粒僅含。柱の痕跡。

2 暗褐色土 黄~褐色土粒少含。黒褐色土粒僅含。

左



28号竖穴建物炉

1 暗褐色土 黄色粒、炭化物含む。

2 暗黑褐色土 炭化物および若干の焼土混入。

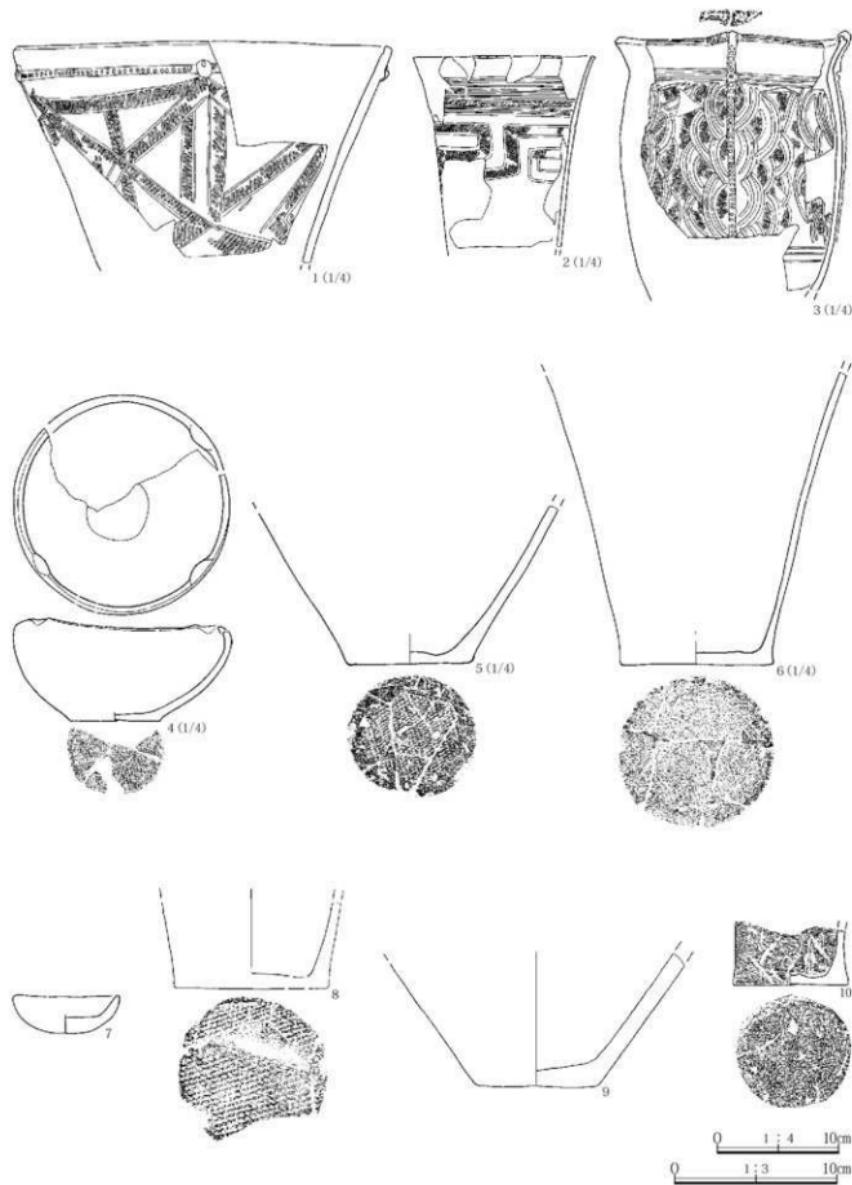
3 暗赤褐色土 若干の炭化物含む燒土層。

4 暗赤褐色土 若干の炭化物、燒土僅かに含む。

0 1 : 30 1 m

0 1 : 60 2 m

第117図 V区28号竖穴建物 (2)

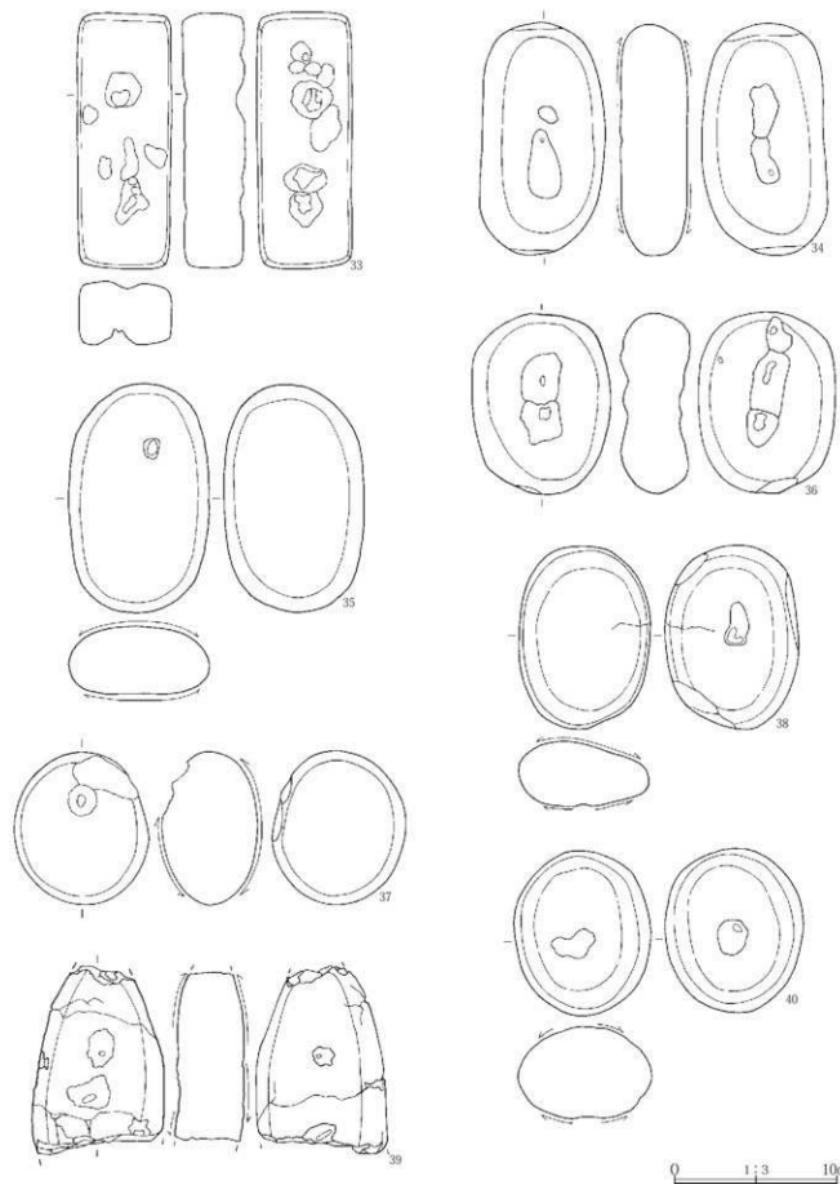


第118図 V区28号竪穴建物出土遺物（1）



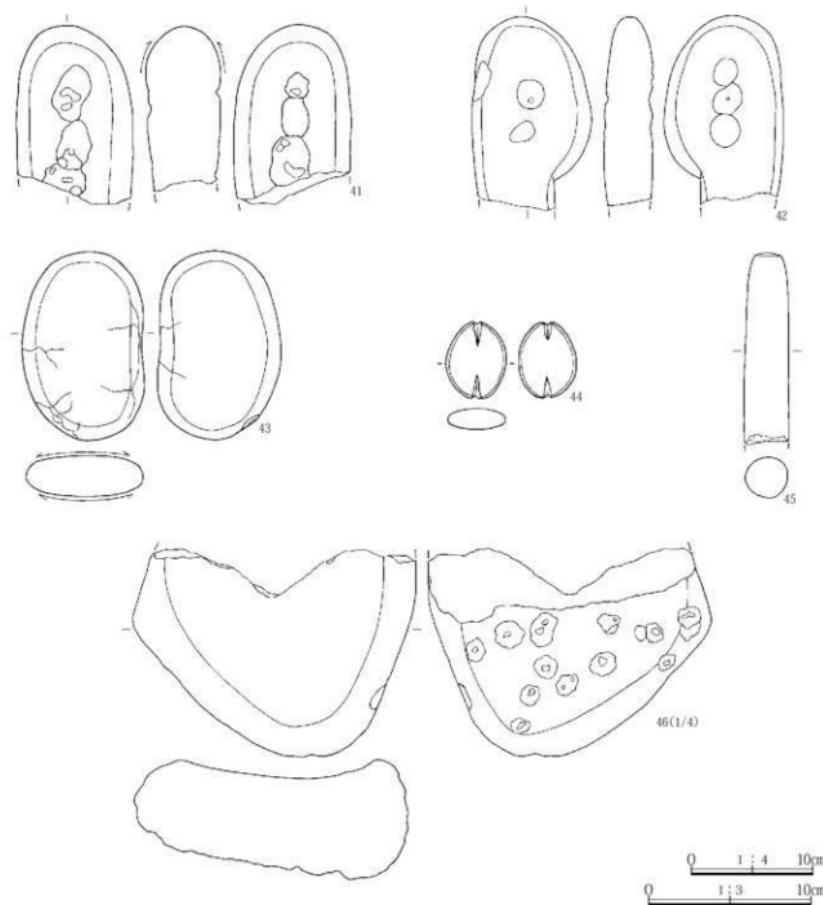
第119図 V区28号竪穴建物出土遺物（2）

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第120図 V区28号竪穴建物出土遺物（3）

0 1:3 10cm



第121図 V区28号竪穴建物出土遺物（4）

P 2 : 楕円形-0.36-0.32-0.42。

P 3 : 不定形-0.40-0.32-0.32。

P 4 : 楕円形-0.42-0.34-0.40。

P 5 : 円形-0.32-0.32-0.43。

P 6 : 楕円形-0.40-0.38-0.26。

P 7 : 円形-0.36-0.32-0.64。

P 8 : 円形-0.36-0.34-0.51。

周溝 検出されなかった。

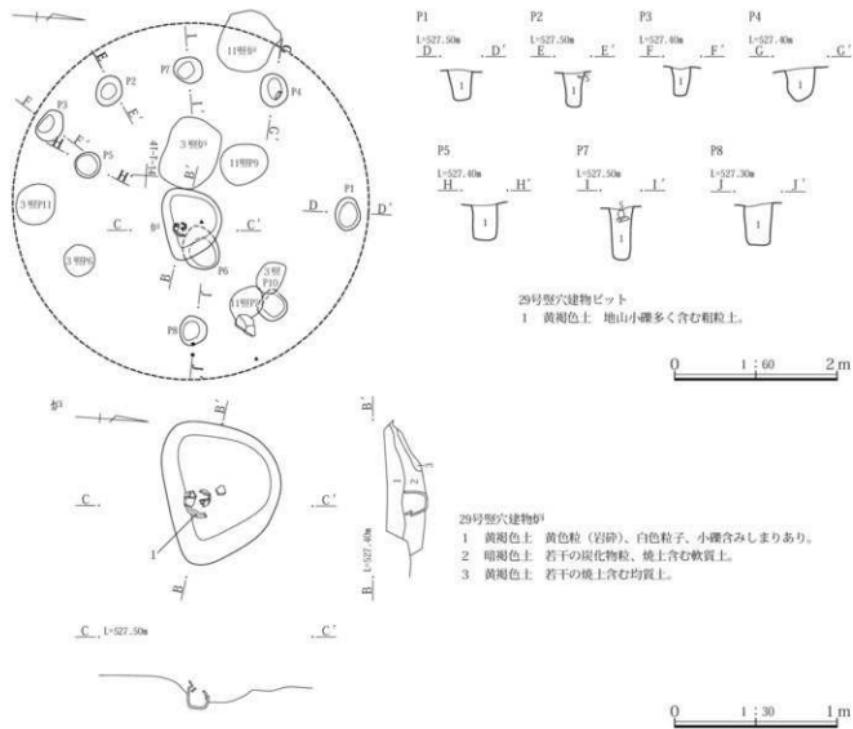
掘方 検出面とほぼ一致する。

遺物 炉に埋設された土器以外には、約100点が出土している。石器は凹石1点のみである。

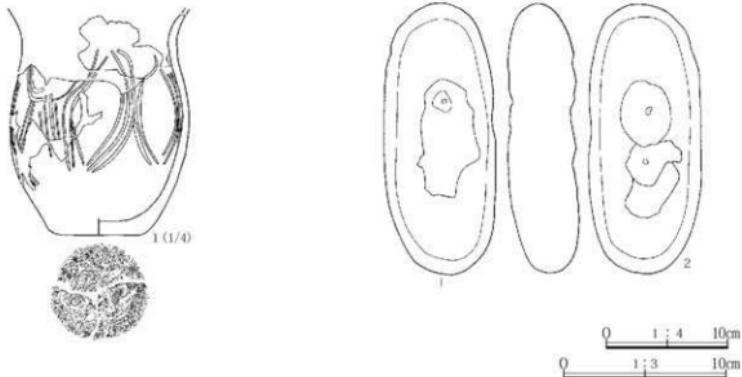
所見 3・11号と軸を同じくしており、3号列石の西側上段位に作られている。列石との同時性が考えられ、29号→11号→3号の順に建て替えが行われたと思われる。

本址の時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第122図 V区29号竪穴建物



第123図 V区29号竪穴建物出土遺物

30号竪穴建物 (第124~129図、PL.29・30・165・166)

位置 調査区の南西側、V区41M・N-11グリッドに位置する。

重複 東に71号竪穴建物が一部重複する。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する長方形の竪穴建物と考えられる。礫を東側が開いたコの字状に並べ、中央にはほぼ円形のが検出されている。

壁を有すような掘り込みは確認されなかった。各石列からは中央部に向かって緩やかな傾斜が見られる。長方形の主体部が想定される。

主軸方位 N-95°-W。

規模 長軸(4.10)m、短軸(3.40)m、深さ0.15m。

埋没土層 長方形の石列内は細粒土で埋まる、炭化物多く含み粘性あり。

床面 矽は東側の短辺部を除く、コの字形に配置されている。川原石と地山矽で構成されている。床面は中央部が僅かに凹み、特に硬化面は認められなかった。炭化物、焼土が広く認められる。

炉 長さ1.06m、幅1.02m、深さ0.26m。(掘方深さ0.27m) 竪穴建物中央に位置する炉である。地床炉で、底面に平石が置かれていた。

炭化物を含む黒褐色土で埋没している。掘方が確認でき、黒褐色土で埋没している。炭化物、焼土を含む。炉内埋設土器を作わない。炉の周囲にも焼土の広がりが認められる。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 14基が確認された。その配置から、P2・4が出入口部の対ビットであり、P1・3・5~10の8本が主体部柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり(柱穴名: 平面形状ー長軸ー短軸ー深さ(単位m))。

P1: 楕円形-0.88-0.52-0.20,

P2: 円形-0.28-0.24-0.21,

P3: 円形: 0.58-0.50-0.10

P4: 円形-0.22-0.20-0.16,

P5: 円形-0.32-0.30-0.12,

P6: 楕円形-0.28-0.22-0.14,

P7: 楕円形-0.52-0.38-0.16,

P8: 楕円形-0.36-0.30-0.22,

P9: 円形-0.30-0.28-0.22,

P10: 円形-0.38-0.36-0.24,

P11: 楕円形-0.72-0.42-0.36,

P12: 楕円形-1.12-0.52-0.19,

P13: 不定形-0.64-0.52-0.11,

P14: 円形-0.32-0.32-0.30,

P15: 円形: 0.42-0.42-0.47,

P16: 円形-0.39-0.31-0.32,

P17: 円形-0.50-0.46-0.57,

P18: 円形-0.31-0.28-0.32,

周溝 見られない。

掘方 明確なものは確認できなかった、並べられた矽下についても、深く掘り下げた状況を示すような掘方は見られなかった。

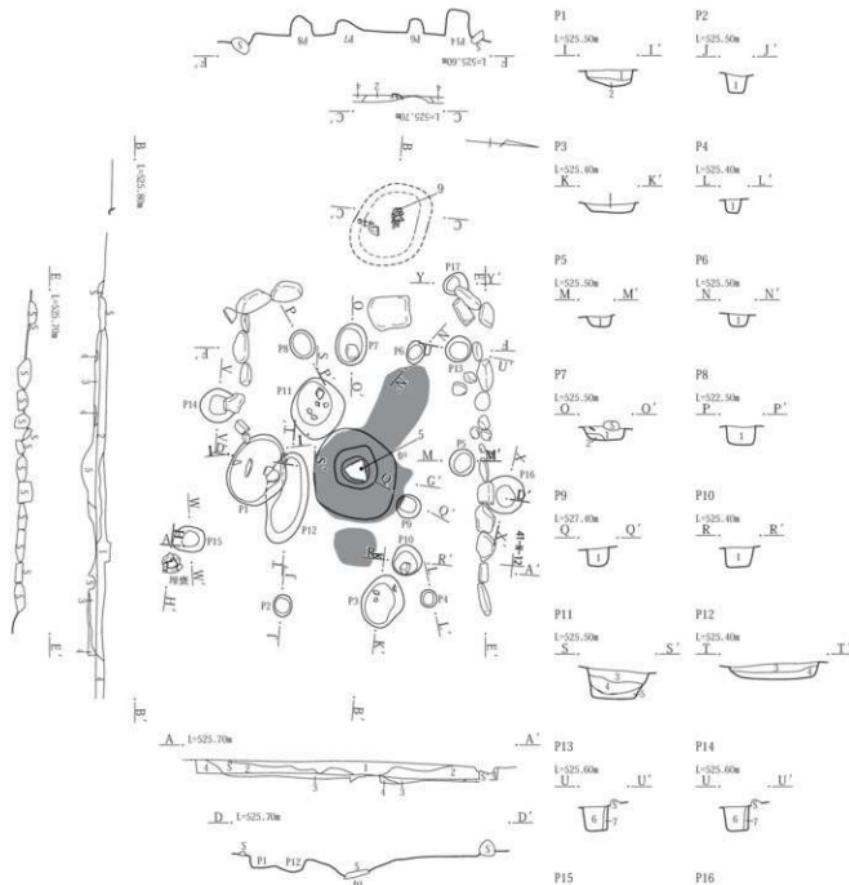
遺物 出土遺物は確認当時から竪穴建物内、および周辺部から多くの土器片等が出土、総数は800点程である。また、矽も大小のものが点在、一部は建物構造に関連したものである可能性がある。

石器は石礫、磨製石斧、四石等が見られる。なお、北側石列中央部外側に、角柱矽が直立状態で検出されており、何らかの意味を持つと思われる。

所見 初回検出された矽の並びから、配石遺構または敷石竪穴建物の張り出し部を想定し、調査を進めてが、長方形に配された矽の内部に敷石等は無く、炉が確認されたことから竪穴建物と判断した。

矽を長方形に配す構造で、東側部分の矽は確認されなかった。こうした形状の竪穴建物は、本遺跡では唯一のものである。時期は後期前半~中葉とみられる。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



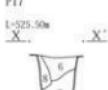
30号竖穴建物

- 1 黄褐色土 砂粒上、若干の炭化物含む。
- 2 暗褐色土 炭化物多く含み、やや粘性あり。
- 3 暗褐色土 炭化物、燒土を多く含む。
- 4 暗褐色土 若干の黄色粒含み粘性あり。
- 5 黑褐色土 炭化物非常に多く含み軟質。

30号竖穴建物 ピット

- 1 黄褐色土 細粒で炭化物僅かに含む。
- 2 黄褐色土 1と似るが炭化物含まずややしまりあり。
- 3 黒色土 炭化物、燒土多く含む。
- 4 黑色土 若干の炭化物含み、黄色粒混入。
- 5 黄褐色土 粘性黄褐色土、夾雜物少ない。
- 6 增黄褐色土 黄色粒混入する粗粒土。
- 7 黄褐色土 黄色砂粒土主体とする。
- 8 黄褐色土 黄色粒多く含み、ブロック状を呈す。

P17

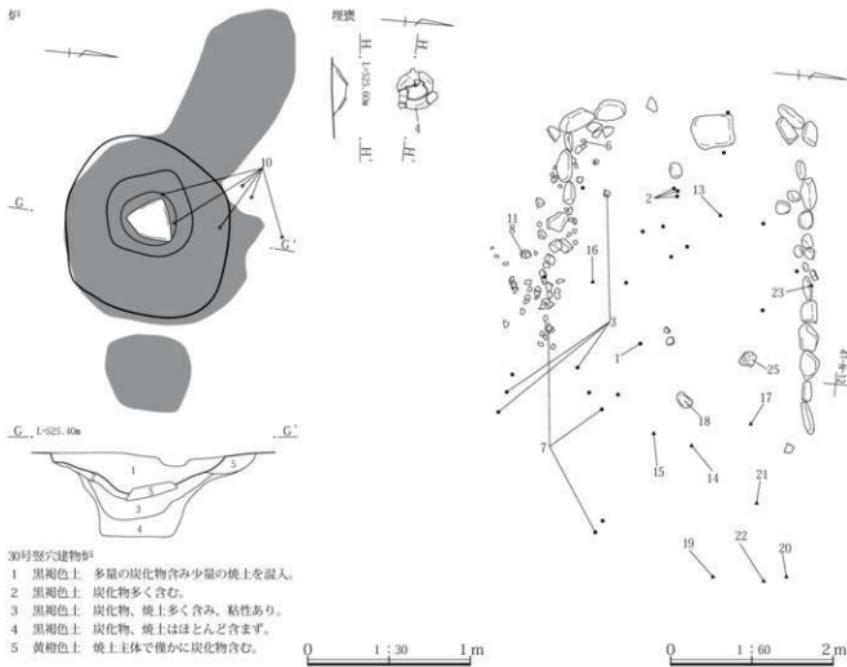


P18

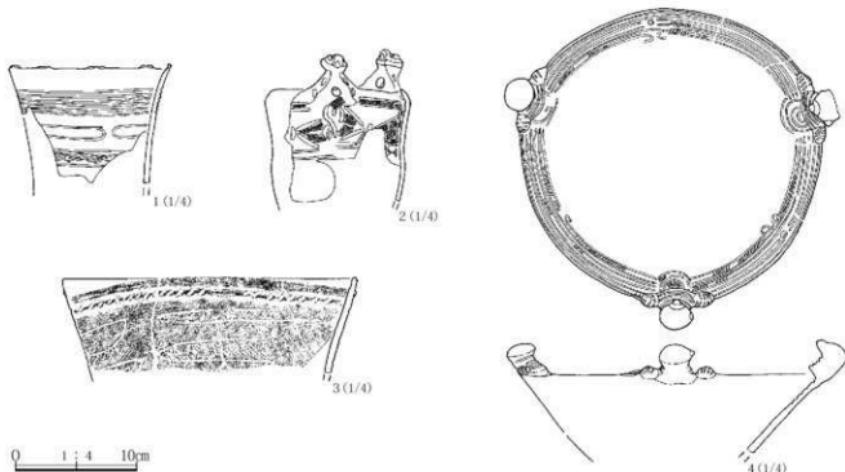


0 1 : 60 2 m

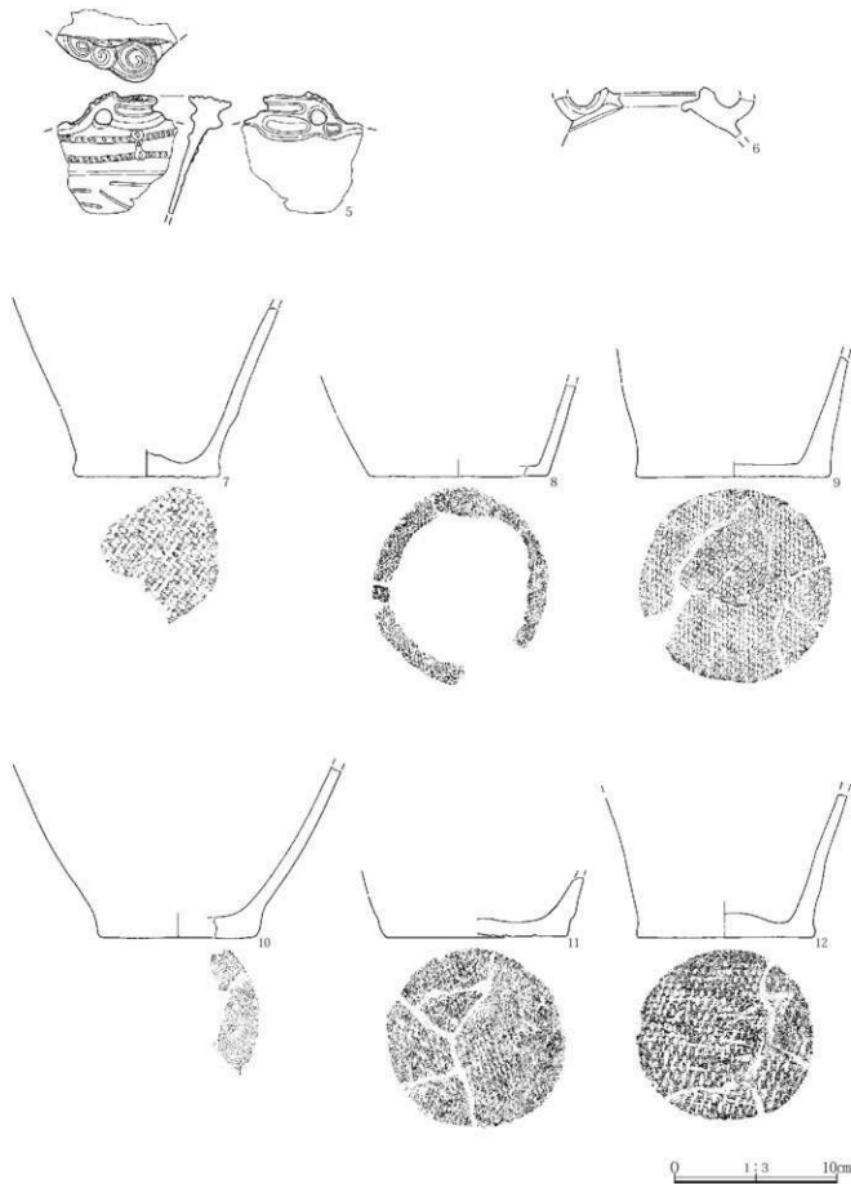
第124図 V区30号竖穴建物 (1)



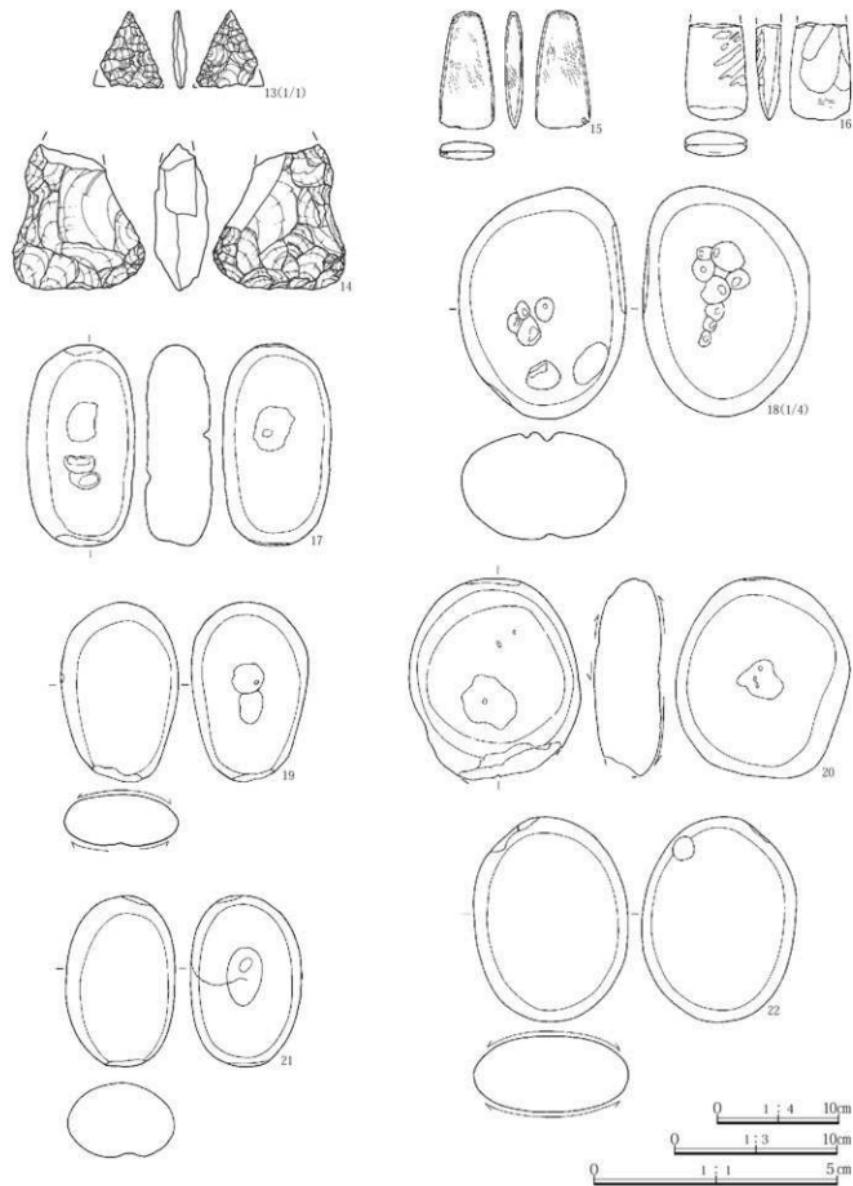
第125図 V区30号竪穴建物（2）



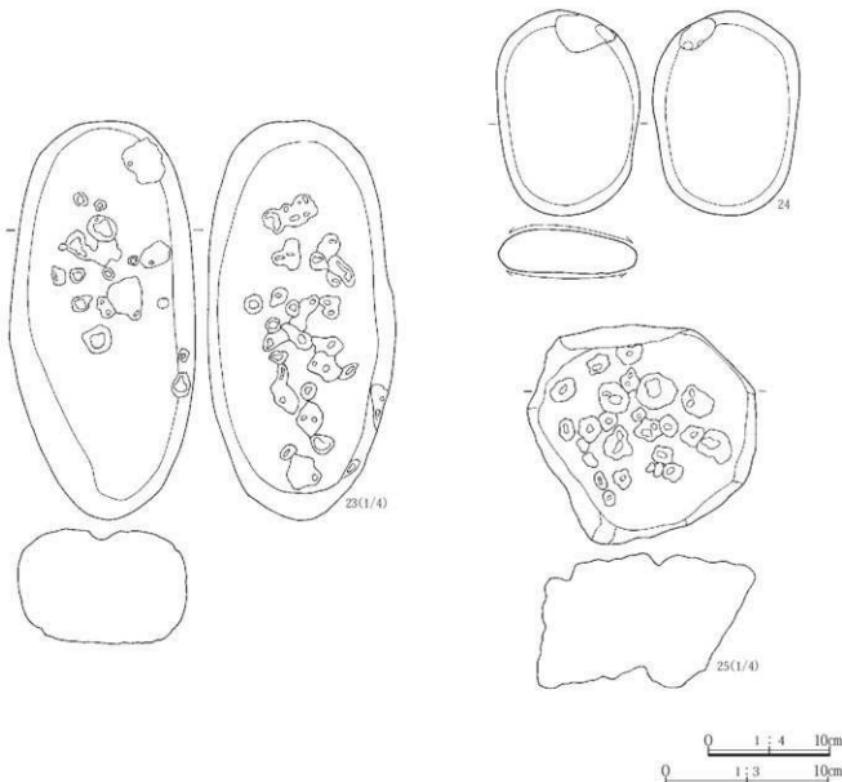
第126図 V区30号竪穴建物出土遺物（1）



第127図 V区30号竪穴建物出土遺物（2）



第128図 V区30号竪穴建物出土遺物（3）



第129図 V区30号竪穴建物出土遺物（4）

31号竪穴建物（第130・131図、PL.31・32・166）

位置 調査区の南東、8号竪穴建物の北東、V区41U・V-4・5グリッドに位置する。

重複 張り出し部に近世の、礫を多く含んだ130号土坑が重複。

平面形状 敷石配置から東方向に出入口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡である。主体部はほぼ円形を呈し、壁西側部分の壁の立ち上がりは、50cm以上を確認した。径3.8m前後の円形の主体部と敷石の張り出し部を持つ竪穴建物である。

主軸方位 N-90°-W。

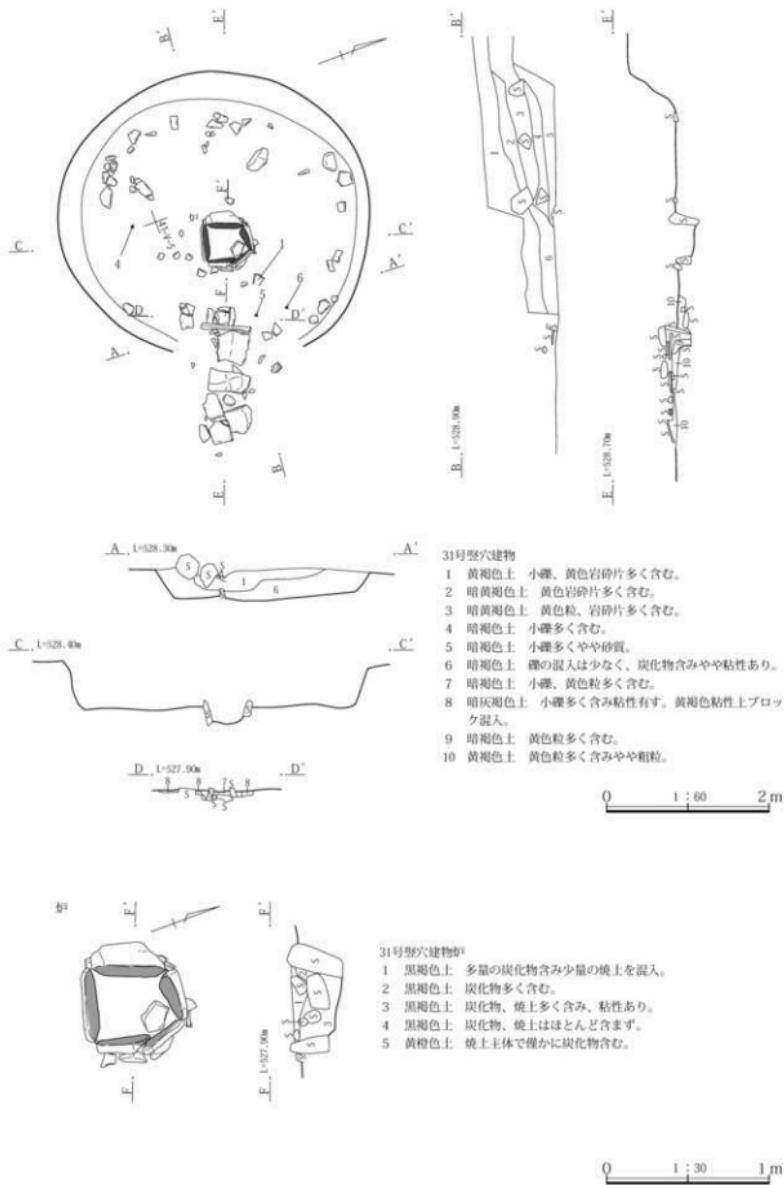
規模 長軸4.55m、短軸3.56m、深さ0.50m。

埋没土層 暗褐色土主体、黄色粒、岩片多く含む層で埋没し、下層部には炭化物が含まれる。

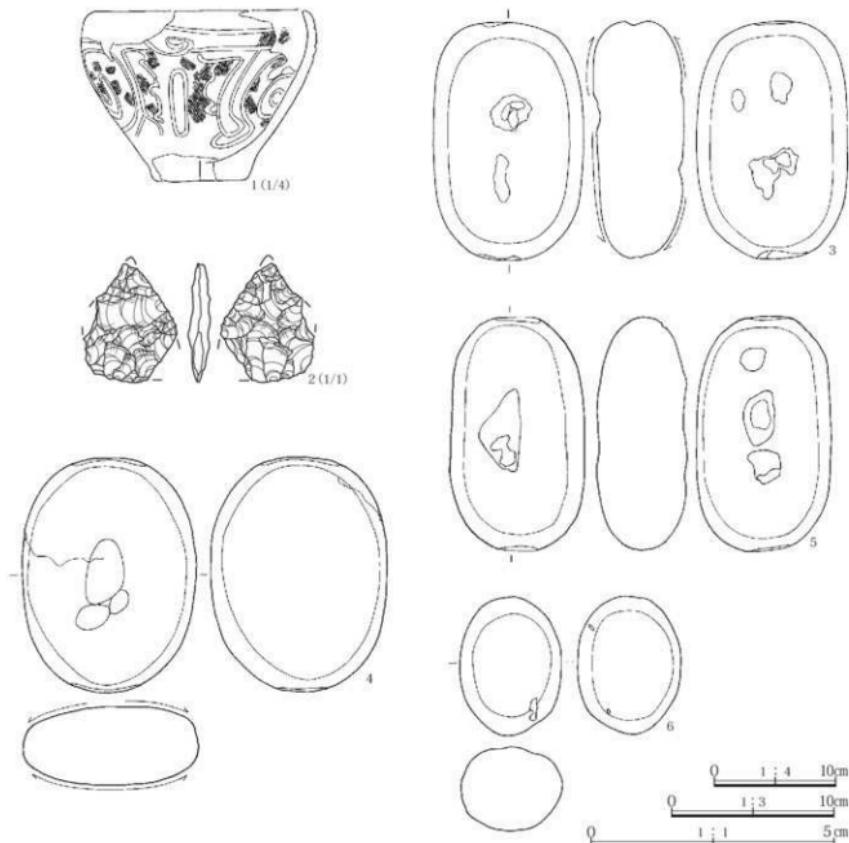
床面 周縁が弧状に点在分布している。小円礫と地山礫で構成されている。敷石として、丸石、川原石、鉄平石が確認された。それぞれの礫は水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、本来の位置からそれほど移動していないものと考えられる。入り口部に扁平な長方形の礫を横にして埋め込んだ框石状の遺構と、その前面に角礫を組んだ方形の石囲いの遺構が検出されている。

埋め込まれた板状の礫は、主体部と張り出し部を仕切るように高く飛び出した状況を呈す。

炉 長さ0.74m、幅0.64m、深さ0.30m。竪穴建物中央



第130図 V区31号竖穴建物



第131図 V区31号竪穴建物出土遺物

やや東に位置する炉である。炉内埋設土器を伴わない。

やや扁平な石で囲う石囲い炉である、手前側については2石が一部重なった状態で埋め込まれている。

赤茶褐色土主体の土で埋没し、炭化物、焼土を含む。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 明確なものは検出されなかった。

周溝 壁下の一部に僅かなへこみを認めたが、周溝としては確認できなかった。

掘方 主体部内は平坦な面、明確な掘方は確認できなかった。

遺物 出土土器はあまり多くは無かったが130点程である。石器は石鏃1点の他、凹石、磨石が出土。

所見 敷石を有す張り出し部に続き、掘り込みを持つ主体部を確認検出した。主体部は壁の立ち上がりが明確に認められ、円形の掘り込みと中央に石囲い炉が検出された。張り出し部との境を仕切るよう板状の石が立てられ、主体部側には方形の石組み遺構を伴う。

石組は当初並行する左右の角礫が見え、下駄の歯のようであった。掘り上げたところ方形に組まれており、下面部には礫が敷かれていた。遺物の出土はなかった。

張り出し部の平石はいわゆる鉄平石をやや間隔を持って敷いている。

竪穴建物の時期は出土遺物から後期初頭と見られる。

32号竪穴建物（第132・133図、PL.33・167）

位置 調査区西側中央のV区41U-15グリッドに位置する。

重複 49号竪穴建物、17号焼土と重複。2号列石の下位に検出された。

平面形状 明確な形状は不明であるが、一部北西側のコーナー部分と思われる落ち込みが見られることから、隅丸方形を呈すか。17号焼土が東側に重複する。

ほぼ中央に落ち込みが見られ炉と判断した。

主軸方位 N-90°-W。

規模 長軸(5.0)m、短軸(5.0)m、深さ0.1m。

埋没土層 黄褐色土主体、地山角礫、岩片多く含み、炭化物混入。

床面 凹凸が顕著で、地山の礫が点在する。いわゆる生活面は確認できなかった。

炉 長さ1.1m、幅1.0m、深さ0.15m。（掘方）竪穴建物中央に位置する炉である。炉の掘方と思われる、不定形で焼土が僅かにみられる。埋設土器、炉石等は見られない。

埋甕 検出されなかった。

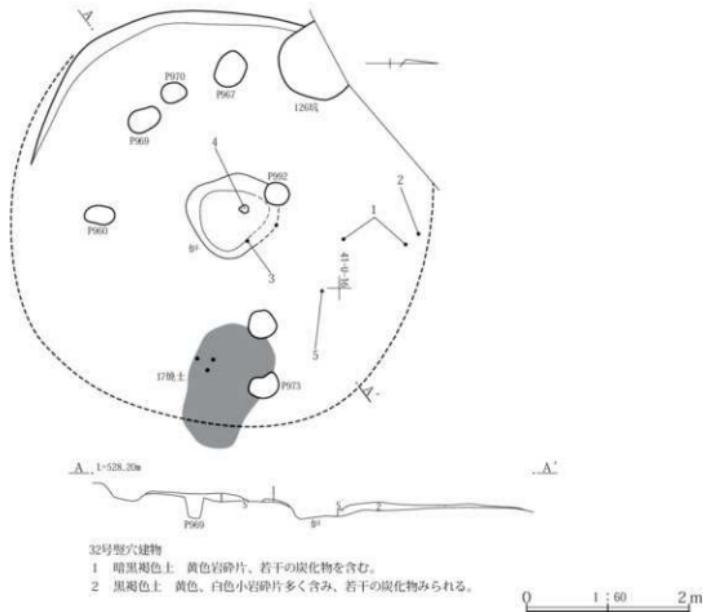
柱穴 6基が確認された。いずれも2面調査時のピットとして調査を行ったものである。位置的に本址の柱穴と考えられるものもあるが、確証は得られなかった。

周溝 検出されなかった。

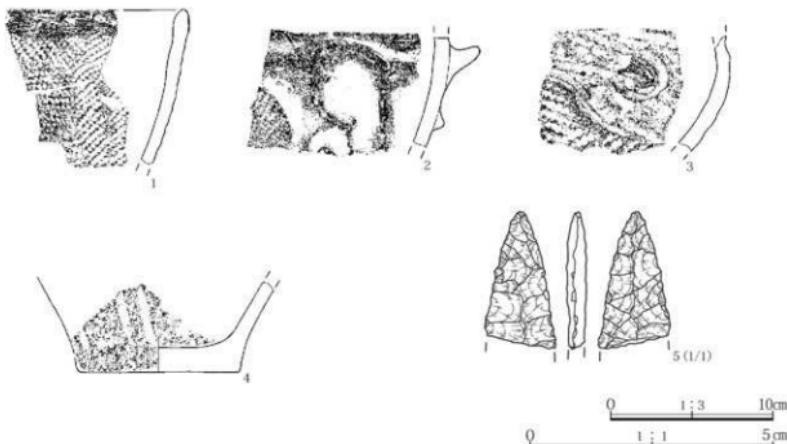
掘方 調査面が掘方面と考えられる。

遺物 土器は200点弱の破片類が出土しているものの、時期にばらつきが見られる。石器は石鏃1点のみである。

所見 上部をほとんど削平されている。炉の存在から竪穴建物と認定した経緯がある。出土遺物から時期は中期末葉と見られる。



第132図 V区32号竪穴建物



第133図 V区32号竪穴建物出土遺物

33号竪穴建物（第134～136図、PL.33・167）

位置 調査区北西部、V区41N-122-23グリッドに位置する。

重複 21・45・88号竪穴建物と重複。21・45号竪穴建物より本遺構が古く88号よりも新しい。

平面形状 東側に大きく21号竪穴建物が重複し本址を大きく壊した状況である。このため重複外の西側三日月部分および、東側の掘方面が残っていた。

円形で、立ち上がりは約45cmを測る。

主軸方位 N-38°-W。

規模 長軸(5.40)m、短軸5.20m、深さ0.45m。

埋没土層 暗黒褐色土主体、3層が確認された。本来の覆土は僅かに残るのみであった。細粒の褐色粒子多く含み、炭化物の混入目立つ。

床面 前述したように大部分を壊された状況で僅かに残った部分については、平坦であるが硬化した面は見られなかった。21号竪穴建物が重複した部分については、床面部分は失われており、炉の下面部分および埋甃が検出された。

また、壁周溝が幅20cm深さ15cmで検出されている。

炉 長さ1.20m、幅0.76m、深さ0.44m。（掘方）竪穴建物中央やや北に寄って位置するが、上部構造を失っており、不定形楕円形の掘方が確認されたのみであ

る。

若干の焼土、炭化物が見られる。炉内埋設土器は伴わない。石匂い炉の可能性があるが、石は見られなかった。

埋甃 南東の入り口近くに検出された。当初21号竪穴建物の床面精査中に検出されたものである。底部を欠いた深鉢が倒置の状態で埋められていた。

柱穴 7基が確認された。P 1～4、7・8の6本が主体部柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1：楕円形—0.42—0.32—0.32。

P 2：不定形—0.28—0.26—0.36。

P 3：円形—0.28—0.28—0.42。

P 4：不定形—0.48—0.42—0.46。

P 5：円形—0.38—0.36—0.42。

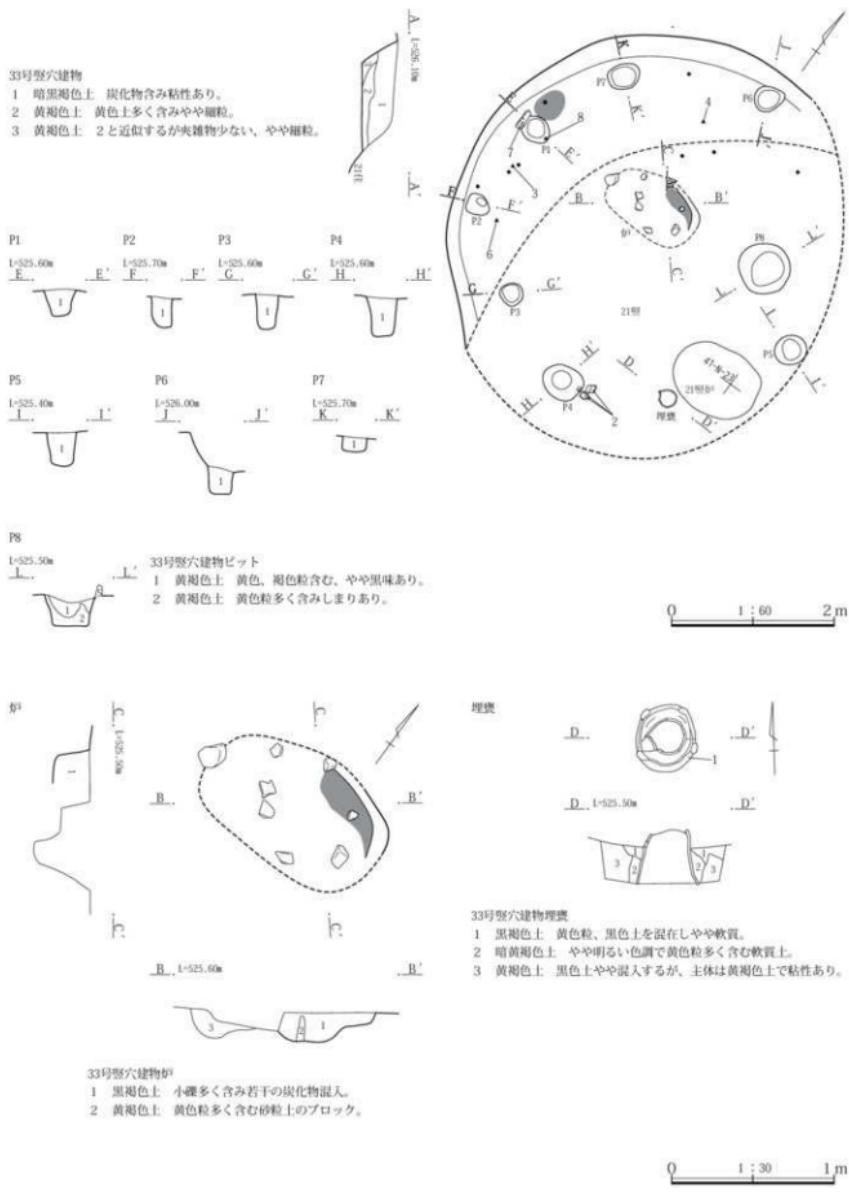
P 6：不定形—0.38—0.32—0.28。

P 7：楕円形—0.40—0.32—0.18。

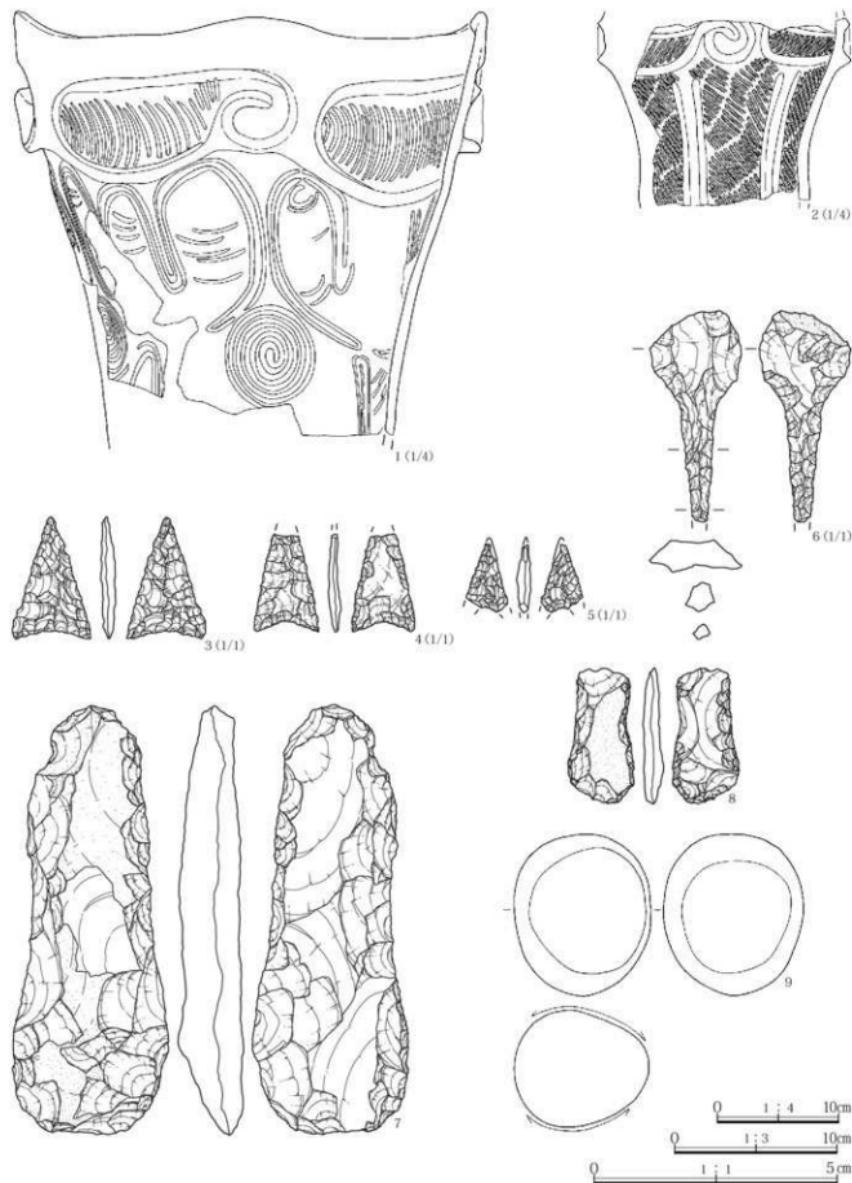
P 8：円形—0.62—0.62—0.32。

周溝 幅0.20～0.25m。深さは0.10～0.15m。柱穴を繋ぐように作られている。

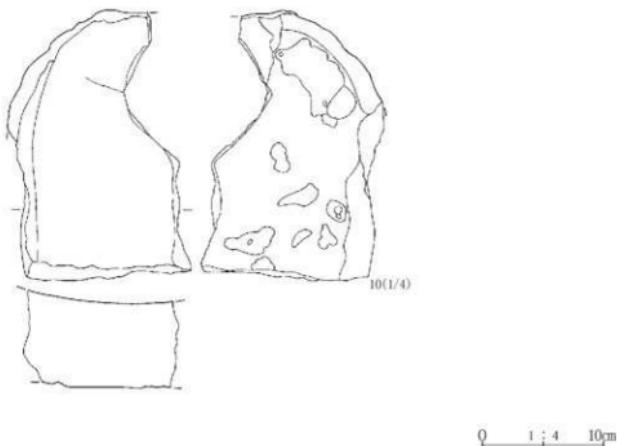
掘方 21号下面是掘方面であるが、明瞭ではない。西側の残った部分については、床面より僅かに下がる面が掘方面と考えられる。貼床等は確認されなかった。



第134図 V区33号竪穴建物



第135図 V区33号竪穴建物出土遺物（1）



第136図 V区33号竪穴建物出土遺物（2）

遺物 土器は総数500点程が出土しているものの、破片が多い。遺存部分が少なく埋壊の他には器形復元可能なものの1点である。

石器は石鎚、石錐、打製石斧がみられ、7は長さ26cmを測る大型の打製石斧である。

所見 本竪穴建物は重複により大きく壊されていたが、炉の存在、埋壊が残されていたことからほぼ形状が推定された。さらに本地に切られた一時期古い88号竪穴建物も検出された。本地の時期は出土土器から中期後葉である。

34号竪穴建物（第137・138図、PL.34・167）

位置 3号と5号列石の間、V区41Q・R-16・17グリッドに位置する。

重複 35号竪穴建物が南側に大きく重複。本遺構が古い。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する円形竪穴建物と想定される。柱穴がほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当するとと思われる段差が確認されていることから直径5m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-44°-W。

規模 長軸5.0、短軸4.9m、深さ0.05m。

埋没土層 粗粒土主体で縁りのない、黄褐色土主体の1

層が確認された。

床面 南側については35号竪穴建物が作られ、削平を受けている。重複部以外の、北側半分は比較的平坦で、炉の周囲、特に手前側の焼土周辺部分についてはよく継まっている。

炉 長さ0.98m、幅0.9m、深さ0.40m。竪穴建物のほぼ中央に位置する炉である。方形の石囲い炉であると思われる、左側及び手前側の炉石については、重複する35号竪穴建物により壊されている。炉内の手前側に埋設土器が検出された。炉の掘方は暗褐色土で埋没している。埋設土器や石組みの礫は被熱している。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 6基が確認された。その配置から、P4・5が出入口部のピットと想定され、これらを含めた6本が主体部主柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P1：楕円形—0.44—0.38—0.30。

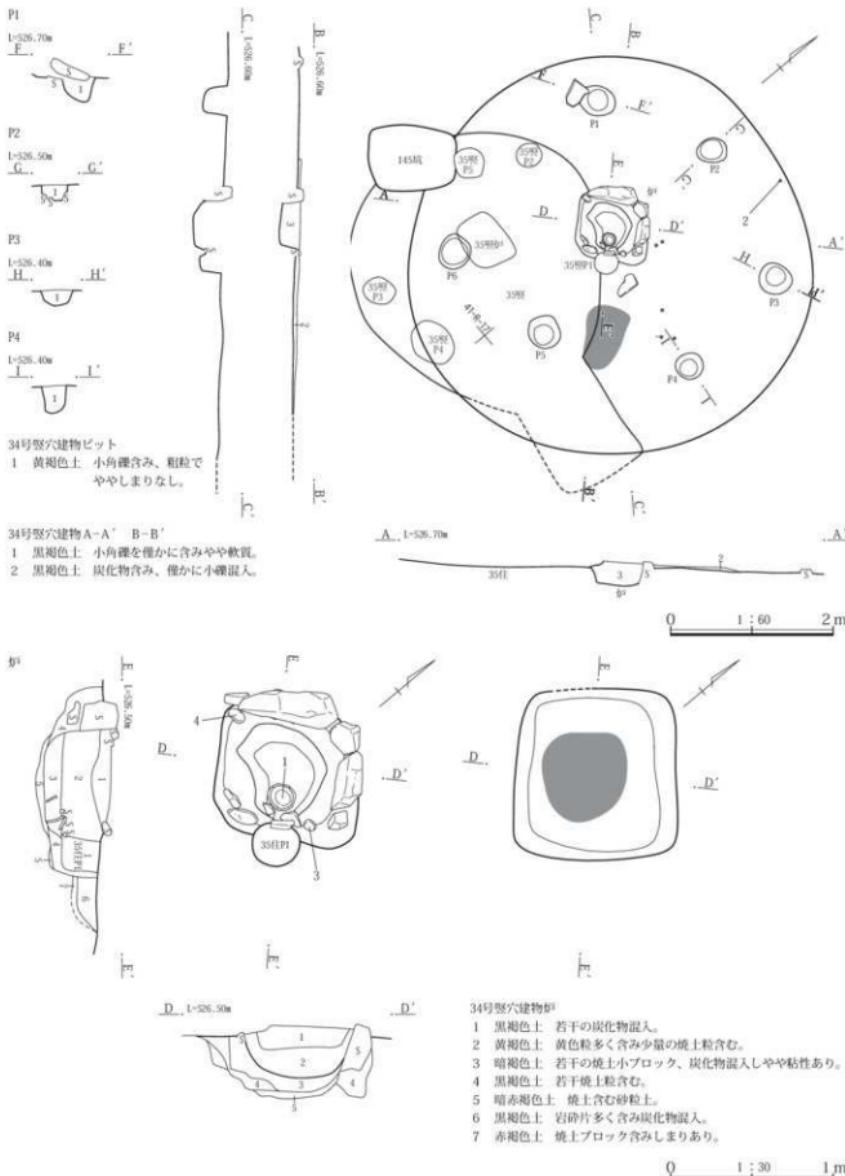
P2：楕円形—0.36—0.30—0.19。

P3：円形—0.40—0.38—0.20。

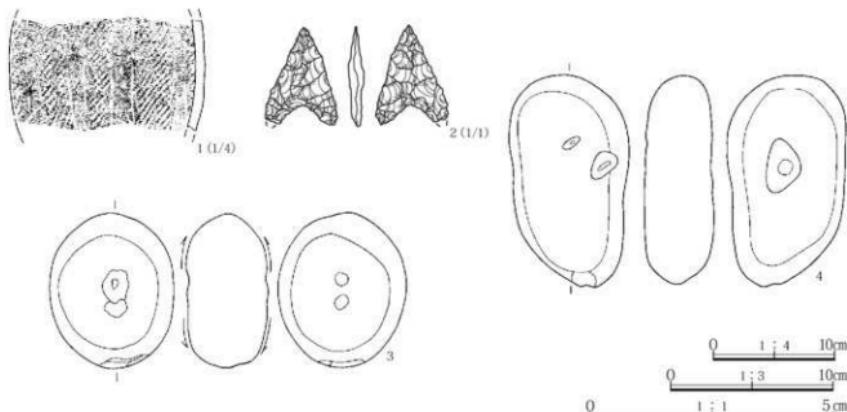
P4：円形—0.32—0.32—0.34。

P5：円形—0.40—0.38—0.31。

P6：円形—0.40—0.38—0.25。



第137図 V区34号竖穴建物



第138図 V区34号竪穴建物出土遺物

周溝 明確なものは確認されなかった。

掘方 不明である。ほぼ平坦な面として確認した。

遺物 出土土器は総数約100点であった。遺構は全体に削平されており、半分を他の竪穴建物により壊されていたことから、炉体土器以外、本址に帰属すると考えられる土器は少ない。

石器は石鏃1点と凹石が出土している。

所見 削平が顕著で、炉が検出されたことから竪穴建物と確認したが、重複する35号竪穴建物との重複部分については不明瞭な部分が多い。

炉の手前側に焼土が広がっており、一部硬化面も確認した。出土土器は極めて少なかった。炉体土器から時期は中期後半と考えられる。

35号竪穴建物（第139・140図、PL.35・167）

位置 V区41Q・R-17・18グリッド。

重複 34号竪穴建物の南側半分に重複しており、本遺構が新しい。また、西側に145号土坑が重複し、本址を切っている。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入入口部を有する柄鏡形竪穴建物跡と想定される。柱穴が直径2.8m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直径3.2m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-82°-W。

規模 長軸3.36m、短軸3.20m、深さ0.10m。

埋没土層 黒色土主体で炭化物を多く含み、やや軟質である。

床面 中央部がやや下がった状況がうかがえ、全体に凹凸が見られる、上部を削平されており、また34号竪穴建物に重なることから明確な床面は確認できなかった。

炉 やや大きな川原石が中央に検出され、炉はその下位に検出された。川原石自体は炉とは直接関係がないことが判明した。規模は、長さ0.68m、幅0.54m、深さ0.20m。（掘方）主体部ほぼ中央に作られた炉である。

隅丸長方形の掘方を有す。炉石は見られず、炉体土器等も検出されなかった。石圓い炉の可能性は低い。黄褐色土で埋没している、内部には僅かな焼土、炭化物が見られた。

埋蔵 検出されなかった。

柱穴 主体部に5基が確認された。配置は不規則で不定的な部分もある。

形状および規模は以下のとおりである。（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

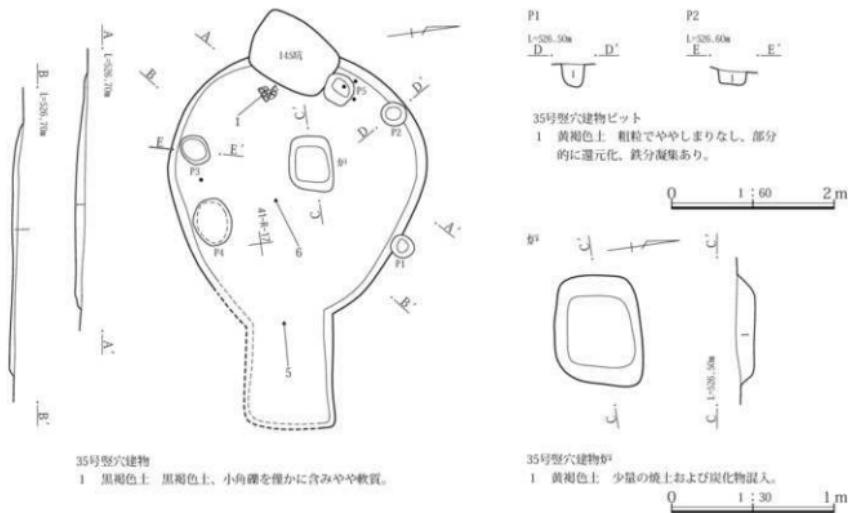
P 1 : 円形-0.28-0.28-0.29。

P 2 : 円形-0.30-0.30-0.28。

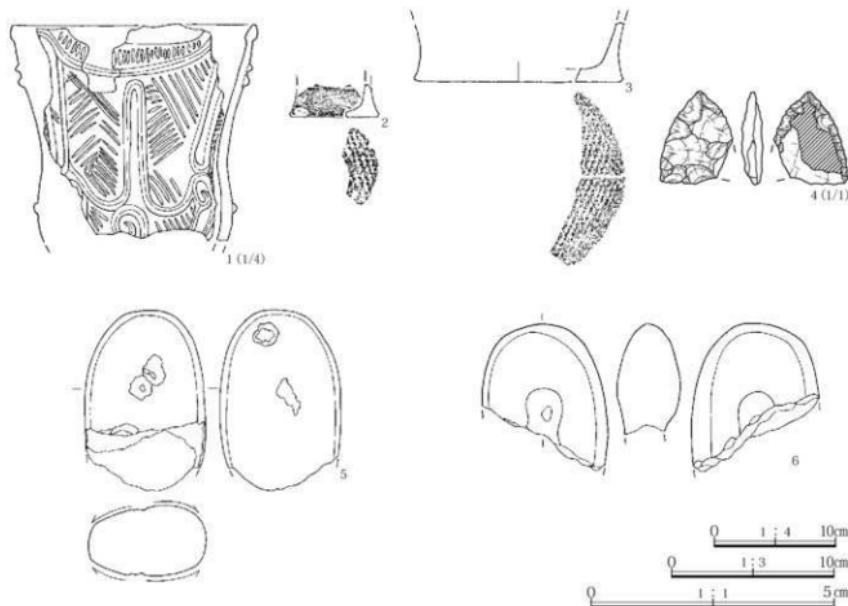
P 3 : 楕円形-0.40-0.32-0.16。

P 4 : 楕円形-0.58-0.46-0.17。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第139図 V区35号竪穴建物



第140図 V区35号竪穴建物出土遺物

P 5 : 不定形-0.36-0.36-0.35。

周溝 検出されなかった。

掘方 遺構確認面より約10cmで掘方底面となる。凹凸見られる。

遺物 土器は総数250点程である。深鉢の大型片が西奥に出土しているが、時期的には34号の時期に比定されるものである。他には土器の底部が出土している。

石器は石鏃と凹石である。

所見 出土土器は中期後半から後期前半期のものである。1は34号からの混入と見られる。

本址の時期は後期前葉と思われる。

36号竪穴建物（第141・142図、PL.35・168）

位置 V区41Q・R-15・16グリッド。12号竪穴建物により大きく上部を削平された状況で、遺構としては西側部分が、三日月形に残った形状となる。

重複 12号竪穴建物と重複。12号竪穴建物より本遺構が古い。

平面形状 遺構のほとんどを12号竪穴建物により壊されており、全容は不確定である、検出された残存部の遺構状況から、径5.8m程の円形を想定する。

主軸方位 N-90°-W。

規模 長軸(6.0)m、短軸(5.6)m、深さ0.08m。

埋没土層 僅かに検出された部分には、黒褐色土で黄褐色粒を含む層が確認された。

床面 検出した残存部については、床面として確定できる面は見られなかった。

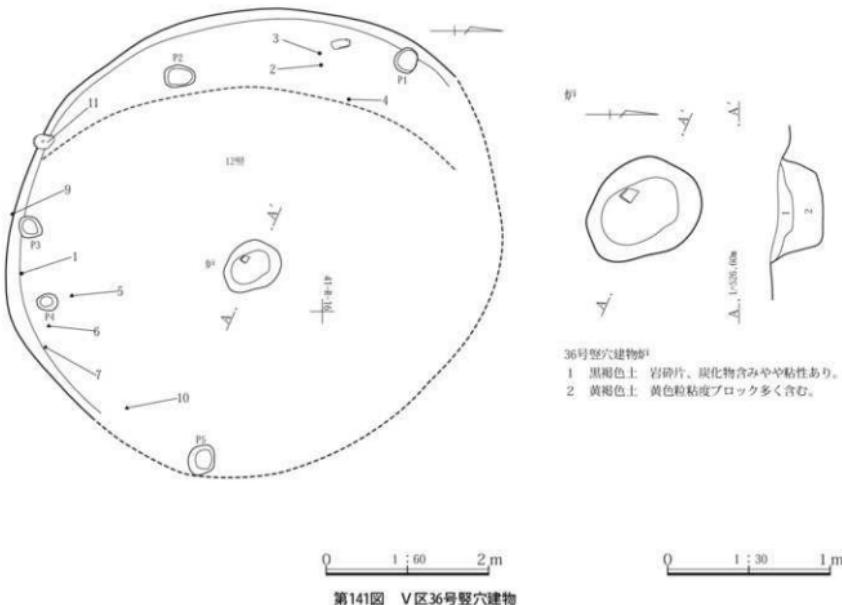
炉 ほぼ中央に炉の掘方と思われる掘り込みが検出されている。長さ0.75m、幅0.60m、深さ0.23m。（掘方）焼土はほとんど確認されず、埋土中に僅かに炭化物が含まれる。

埋甕 検出されなかった。

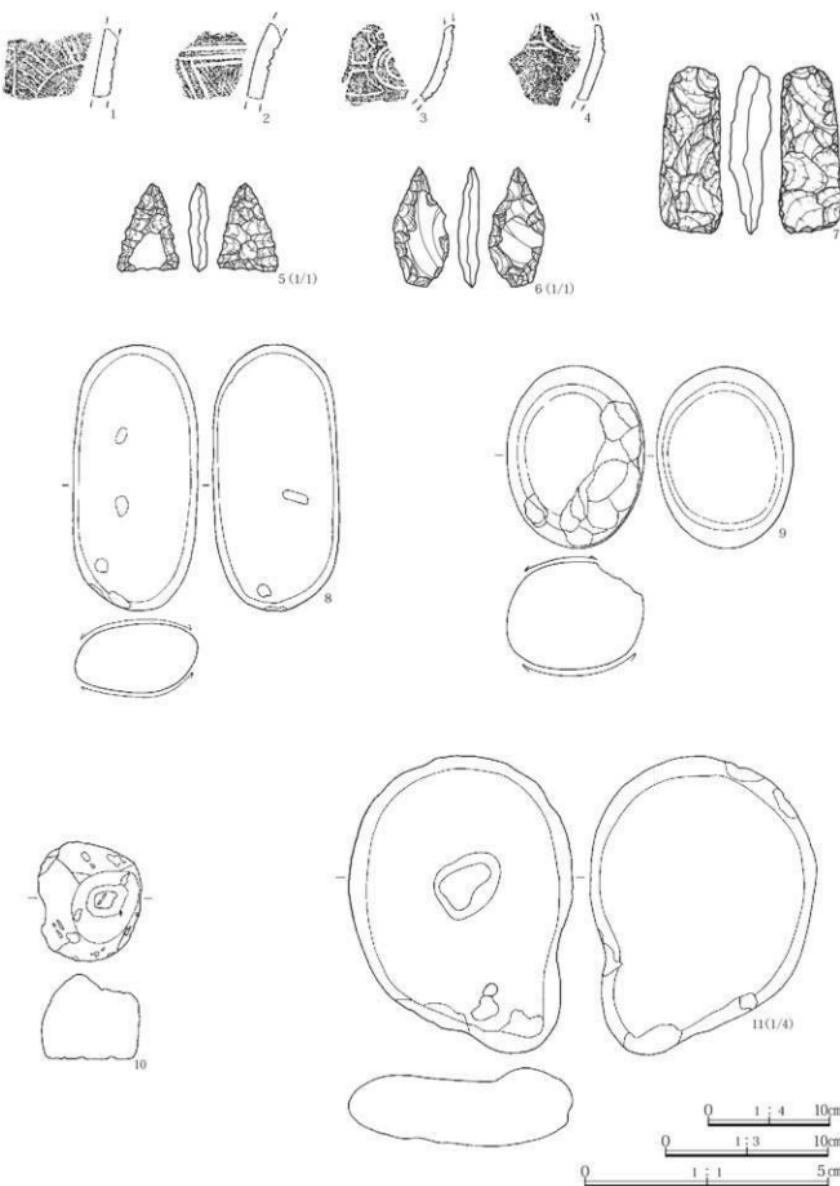
柱穴 壁内に沿って、6基が確認された。柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m）。

P 1 : 楕円形-0.32-0.28-0.32。

P 2 : 楕円形-0.38-0.26-0.23。



第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第142図 V区36号竪穴建物出土遺物

P 3 : 楕円形-0.36-0.32-0.21。

P 4 : 楕円形-0.25-0.20-0.18。

P 5 : 楕円形-0.40-0.33-0.25。

周溝 確認されなかった。

掘方 不明である。

遺物 土器は小破片を中心に160点が出土している。

石器は石礫、打製石斧、磨石、石皿が出土している。

所見 12号竪穴建物の下位に作られており、ほとんどを壊されていたため、前述したように全容は不明である。

炉についても焼土も見られず、炉と認定するにはやや疑問も残る。僅かに掘削を免れた、周辺部より出土した土器から、時期は後期前葉か。

37号竪穴建物（第143・144図、PL.36・168）

位置 調査区北よりのV区41L・M-23グリッドに位置する。

重複 21号竪穴建物の敷石張り出し部の下に重複。本遺構が古く、北東側で66号竪穴建物と重複、本址が新しい。さらに、東側で86号竪穴建物上に重複、やはり本址が新しい。

平面形状 21号の張り出し部の敷石を除去後掘方面的の調査時に検出した、このため、掘り込み面については不明である。

平面形についても、炉を確認したことから、ほぼ円形を想定、一部掘方部を確認するも、規模等については推定の域を出ない。

主軸方位 N-14°-W。

規模 長軸（3.80）m、短軸（3.70）m、深さ0.20m。

埋没土層 灰褐色土主体、炭化物を含み、かなりの軟質土層が確認された。

床面 炉を中心によく凹凸を有す面を確認した。全体的には外側に向かって緩やかに高まっている。硬化面は認められず、東側については削平された部分もあり、本来

の面は確認できなかった。

炉 長さ0.52m、幅0.60m、深さ0.22mである。竪穴建物ほぼ中央に位置する。角礫を含む7個をやや崩れた方形に配す石匂い炉である。

炉内埋設土器は検出されなかった。若干の焼土、炭化物を含む粗粒暗茶褐色土で埋没している。炉石には被熱痕はほとんど認められず、煤等もほとんど見られなかつた。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 7基が確認された。炉を囲んで円形に配されるが、やや東に偏って位置する。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形-0.44-0.32-0.27。

P 2 : 楕円形-0.40-0.32-0.16。

P 3 : 円形-0.34-0.32-0.12。

P 4 : 楕円形-0.36-0.30-0.19。

P 5 : 円形-0.34-0.34-0.18。

P 6 : 円形-0.44-0.44-0.16。

P 7 : 円形-0.44-0.44-0.18。

周溝 確認されなかった。

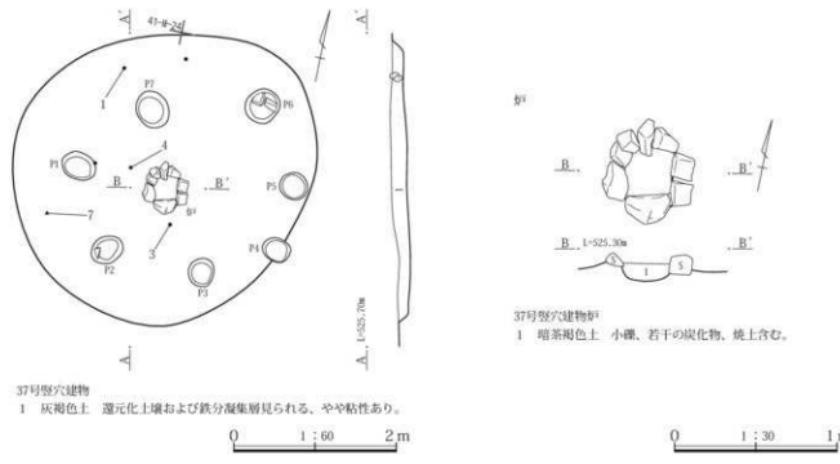
掘方 明確な面は確認できなかった。

遺物 破片を中心に約300点が出土、複数遺構との重複もあり、出土した土器は時期差が認められる。

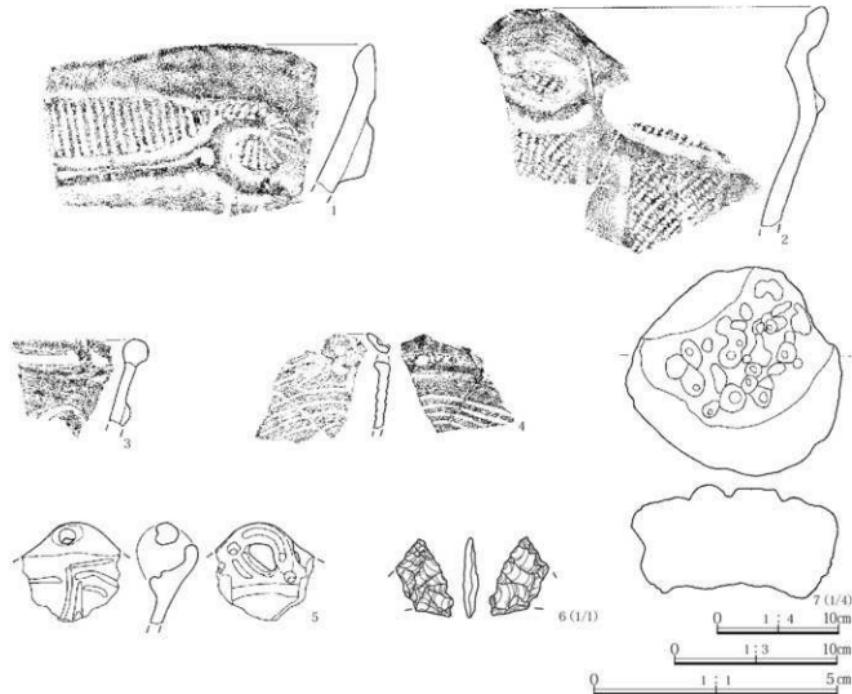
石器は自然礫等に混在して石礫、多孔石が見られる。

所見 南側には21号竪穴建物の張り出し部である石敷きを始め、複数の遺構の重複があることから、本遺構の残存状況は悪く明確な掘り込み、壁の立ち上がりは確認できなかつた。ただし炉については比較的の残存状況は良かった。

出土土器は中期から後期が含まれるが、本址の帰属時期は中期後半と想定される。



第143図 V区37号竪穴建物



第144図 V区37号竪穴建物出土遺物

38号竪穴建物（第145・146図、PL.37・168）

位置 調査区西側中央部の西端、V区41S・T-16・17グリッドに位置する、28号竪穴建物の下位、3号列石の西側上段部に位置。

重複 5・28・39号竪穴建物と重複。28号の床面精査時に確認されており、本遺構が28号竪穴建物より古く、39号竪穴建物より新しい。

平成29年度の調査では、北西側部分が未調査であった。令和元年度に未調査部分の調査を行い、一部ではあるが壁の立ち上がりを確認した。

平面形状 主体部は円形を想定するが、僅かに長軸が長い椭円形を呈すか。28号竪穴建物の床面調査時に埋め戻炉を検出、僅かではあるが、ほぼ円形に廻る立ち上がりを確認したことから、竪穴建物と認定。

張り出し部については、確認できなかったが、主軸が3号列石に直行することから、3号列石に付帯する柄鏡型であった可能性もある。

主軸方位 N-92°-W。

規模 長軸(4.30)m、短軸4.0m、深さ0.2m。

埋没土層 上部に5号、28号竪穴建物が重複しており、いわゆる覆土としては、確認されなかつたが、床面近くは炭化物が比較的多く見られた。

床面 床面と想定し、検出した面については、やや凹凸が見られたが、埋戻炉周辺はほぼ平坦で焼土、炭化物の広がりを認めた。東側の半分程については、さらに古い39号竪穴建物があるために、全体に落ち込んだ状況を呈す。

炉 ほぼ中央に検出された、埋戻炉である。底部を欠いた朝顔型の深鉢を床に埋め込んでいる。埋戻の底には椭円形の土器片が散かれた状態で出土している。

周囲が良く焼けており若干窪んでいることから、炉体土器の可能性がある。

埋戻炉の内部には炭化物を多く含み、焼土粒も多く含まれる。土器はかなり被熱し割れている。

炉の周囲には焼土粒、炭化物が広がる。

埋戻 検出されなかつた。

柱穴 計8基を検出、壁内にほぼ円形に配置される。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 圓丸長方形 : 0.27-0.17-0.30。

P 2 : 楕円形 -0.32-0.24-0.22。

P 3 : 楕円形 -0.25-0.16-0.23。

P 4 : 円形 -0.25-0.21-0.24。

P 5 : 楕円形 -0.32-0.28-0.28。

P 6 : 楕円形 -0.33-0.26-0.24。

P 7 : 楕円形 -0.22-0.17-0.17。

P 8 : 円形 -0.25-0.24-0.18。

P 9 : 円形 -0.20-0.20-0.18。

P 10 : 楕円形 -0.35-0.25-0.21。

周溝 検出されなかつた。

掘方 明確な面は確認できなかつた、掘方調査中に下位に作られている、39号竪穴建物の埋戻の一部が検出されている。

遺物 重複により、削平が顕著なことから、出土土器は総数70点と比較的少ない、上部覆土中には極めて少なく、床面にもほとんど見られなかつた。

図示した土器は埋戻炉に転用された深鉢1点のみである。

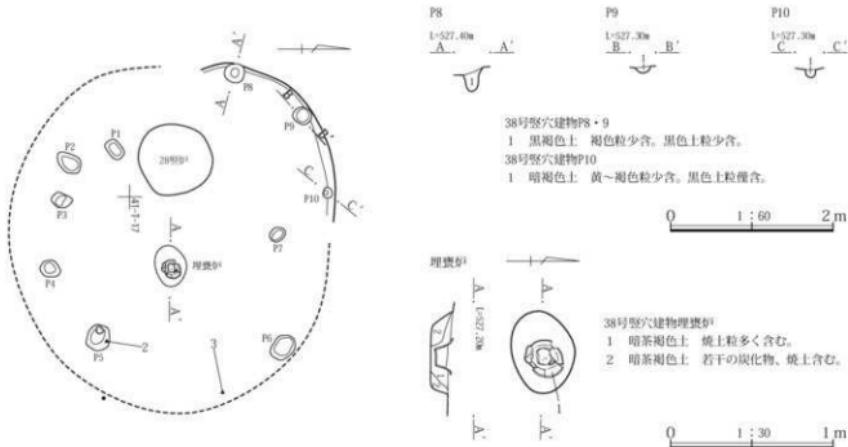
石器については、磨製石斧、凹石の他には両端を欠損した、直方体型の輕石製品が出土している。

所見 28号竪穴建物の床面精査中に埋め戻が検出されたことから、本址の検出に至つたものである。

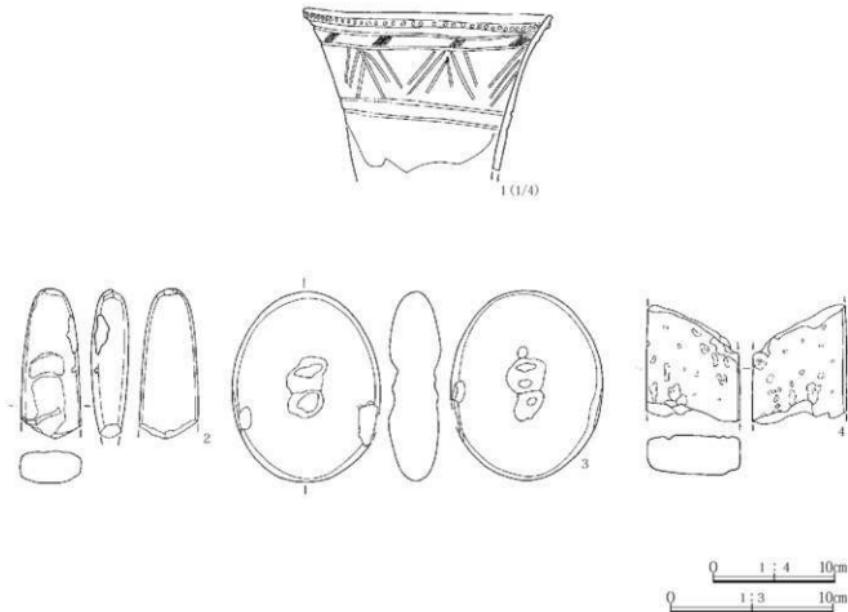
当初、28号竪穴建物に伴うものと考え調査を進めていたが、円形の掘方、柱穴の確認により新規の竪穴建物と認定した経緯がある。

28号竪穴建物の中にほぼ同心円状に收まり、主軸方向も同じくすることなどから、拡張前の竪穴建物の可能性がある。時期は埋戻炉に転用された土器から後期前葉と考えられる。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第145図 V区38号竪穴建物



第146図 V区38号竪穴建物出土遺物

39号竪穴建物（第147・148図、PL.38・168）

位置 調査区西側中央部、V区41S-16・17グリッド、3号列石下に位置する。

重複 5・16・28・38号竪穴建物と重複し、3号列石下に掛かる。遺構の東側3分の1は列石構築時の切土によって大きく削られている。いずれの遺構よりも本址が古い。中央部の奥に28号竪穴建物の対ビットと考えられる掘り込みが重複する。

平面形状 ほぼ円形を呈すと考えられるが、東側については3号列石によって壊されている。

主軸方位 N-90°-W。

規模 長軸(4.50)m、短軸4.3m、深さ0.1m。

埋没土層 上部は重複により残っていない、列石下部には炭化物含む粗粒土が見られる。

床面 重複する遺構により壊された部分が多く、床面として検出した部分はほとんどなかった。中央部に向かって緩やかに下がる。

炉 中央からやや東に寄った位置に、焼土が検出されたことから炉とした。上部構造はほとんど残っていない状況である。

3号列石構築時に上部構造が削平されたものと考えられ、残存する焼土の径は0.15m程と小範囲であった。おそらく最下部分が僅かに残ったものと想定される。

埋甕 竪穴建物の西奥に検出された。当初38号竪穴建物の床面調査時に上部の一部が検出され、本址の存在が想定された経緯がある。

土器は底部を欠いた深鉢が倒置の状態で埋められていた。本遺跡における同時期の竪穴建物において検出されている埋甕は、南東部または東側の入り口部と想定される場所に位置しており、本址のみ竪穴建物西奥に検出された特異な例である。

柱穴 計6基が確認された。壁に沿って検出されているが、他の遺構に帰属するものもあり、本址に伴うものはP1～3の3本と想定される。東側の削平部分遺も存在していたと考えられる。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P1：不定形-0.32-0.32-0.33。

P2：楕円形-0.48-0.36-0.83。

P3：楕円形-0.48-0.38-0.56。

周溝 検出されなかった。

掘方 明確な掘方面は確認されなかった。

遺物 削平、重複が顕著で、覆土中からの出土土器は80点程と少ない、僅かな土器小片と埋甕である。石器も少なく石鏃と磨石である。

所見 上位に作られた28・38号竪穴建物3号列により上部は大きく削平されている、さらに3号列石により東半分を大きく削平されている、炉の一部が僅かに確認されている。

検出された埋甕が西奥の壁寄りに位置する。本址の西側には同時期の遺構の重複は確認されておらず、また入り口部を西側に想定するには無理があり、本遺跡においては稀有な例として注目される。

本址の時期は中期後半である。

40号竪穴建物（第149・150図、PL.39・169）

位置 調査区の北西壁に一部掛かる、V区41O・P-22・23グリッドに位置。

重複 北側に89号竪穴建物、142・150土坑と重複している。89号竪穴建物よりは新しく、土坑よりは古いと考えられる。

平面形状 壁の立ち上がりについては、南側部分に一部確認されており、ほぼ円形と考えられる。北西の未調査部を翌年度に調査を行ったが、壁の立ち上がりについては明確にできなかった。

主軸方位 N-64°-W。

規模 径5.9m、深さ0.3m。

埋没土層 やや粘性有し、地山の岩片含み若干の炭化物を混入する暗褐色土主体とする層が確認された。また床面直上には小礫が多く含まれ、床面と想定した部分にも、小礫の広がりが確認されている。

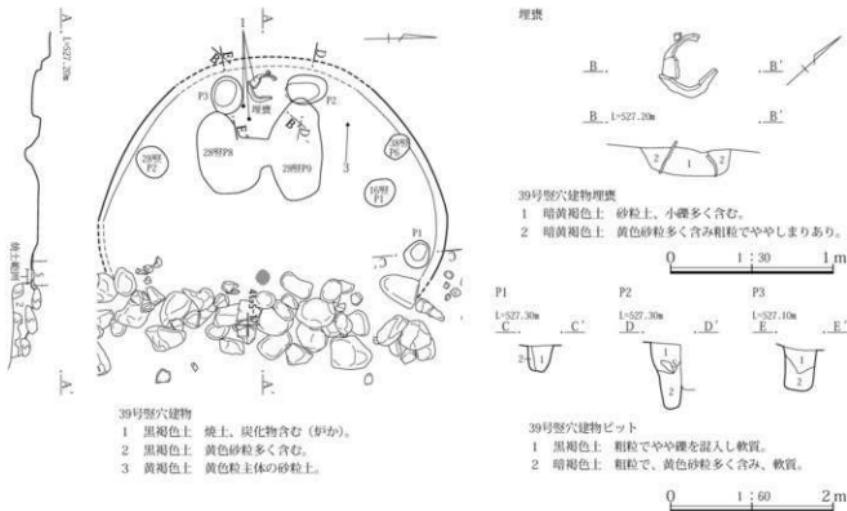
床面 ほぼ平坦である、炉の周囲、特に西側、東側部分に、小礫が敷かれたような部分が見られる。硬化面の広がりは無い。

炉 方形の石囲い炉であるが、150号土坑により炉の北側部分が壊されている。西側と東側の炉石が残る。

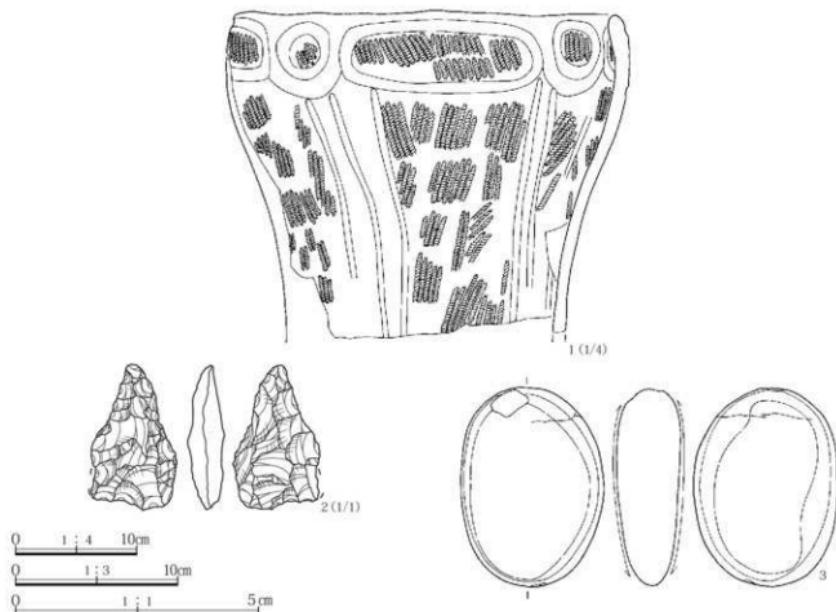
炉の規模は、長さ(0.8)m、幅0.74m、深さ0.26mを測る。

竪穴建物のほぼ中央に位置する炉である。炉体土器は無く、下面に焼土が残る。残存する炉石は被熱し、内面に煤が残る。

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第147図 V区39号竪穴建物



第148図 V区39号竪穴建物出土遺物

埋蔵 積穴建物の南東部に検出された。口縁部を欠いた深鉢が正位状態で埋められていた。

柱穴 壁の内側やや不規則な位置に、7基が確認された。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 円形—0.31—0.31—0.10。

P 2 : 円形—0.31—0.30—0.17。

P 3 : 円形—0.31—0.28—0.56。

P 4 : 円形—0.50—0.42—0.25。

P 5 : 円形—0.31—0.31—0.50。

P 6 : 楕円形—0.35—0.26—0.54。

P 7 : 楕円形—0.60—0.44—0.20。

周溝 検出されなかった。

掘方 明確にはできなかった。

遺物 覆土中から破片を中心に約700点が出土、時期は複数期にわたる。

ほぼ完形復元された1は床面で潰れた状態で出土している。

石器は石鏃、破損後再利用されたと思われる磨製石斧、凹石が出土している。

所見 未調査部分を翌年度に調査したが、明確な壁の立ち上がりは確認できなかった。

土坑により炉が壊される、炉の周囲に小礫が敷かれている。埋甕が南東部に位置している。

出土土器から時期は中期後半である。

41号積穴建物（欠番）

位置 V区41Q—21・22グリッド、西壁際の3号列石の北端部に位置。

所見 調査区西寄りの壁近く、3号列石の切れる北端部において、炭化物を多く含む粘質土層中に、遺物の集中および礫が検出された。そうした礫の一部が配置的に炉石を思わせる位置にあったため、附番し調査を進めたが、最終的に、炉ではないことが判明。また、床面も不明で積穴建物としての施設が見られなかったため欠番扱いとした。出土した遺物に関しては、下部に位置している、重複遺構に帰属させた。判断できなかったものについては、遺構外として報告した。

42号積穴建物（第151・152図、PL.40・169）

位置 調査区の西より中央、V区41Q—21・22グリッドに位置。

重複 西側半分未調査部分は翌年度に調査を行った、14・57号積穴建物と重複が見られ、14号より古く、57号よりは本址が新しい。

さらに136号土坑をはじめとし、複数の土坑の重複が見られる。

平面形状 ほぼ円形を呈す、平成29年度調査部分では削平もあり、掘り込みは不明瞭であった。令和元年度に調査を行った、西側半分については、壁の立ち上がりも明瞭に確認された。

主軸方位 N—71°—W。

規模 長軸5.90m、短軸4.85m、深さ0.30m。

埋没土層 やや粗粒で、黄色岩片、白色粒を多く混入、若干の炭化物を含む層が確認された。

床面 比較的平坦面を検出したものの、明瞭な生活面とは確認できなかった。特に東側については削平が顕著である。

本址の上面には14号積穴建物が重複しているため、炉も含め上部構造については、ほとんどが壊された状況であった。

炉 長さ0.80m、幅0.60m、深さ0.25m。（掘方）積穴建物中央に位置する炉である、かなり壊れた状況を呈す。西側部分に土坑が重複、一部を壊している。礫が落ち込んだ状況で検出されており、石囲い^{ガフ}の可能性がある。若干の炭化物、焼土が見られる。

埋蔵 検出されなかった。

柱穴 7基が確認された。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形—0.50—0.45—0.20。

P 2 : 楕円形—0.17—0.14—0.11。

P 3 : 円形—0.15—0.15—0.08。

P 4 : 楕円形—0.25—0.22—0.15。

P 5 : 円形—0.26—0.25—0.11。

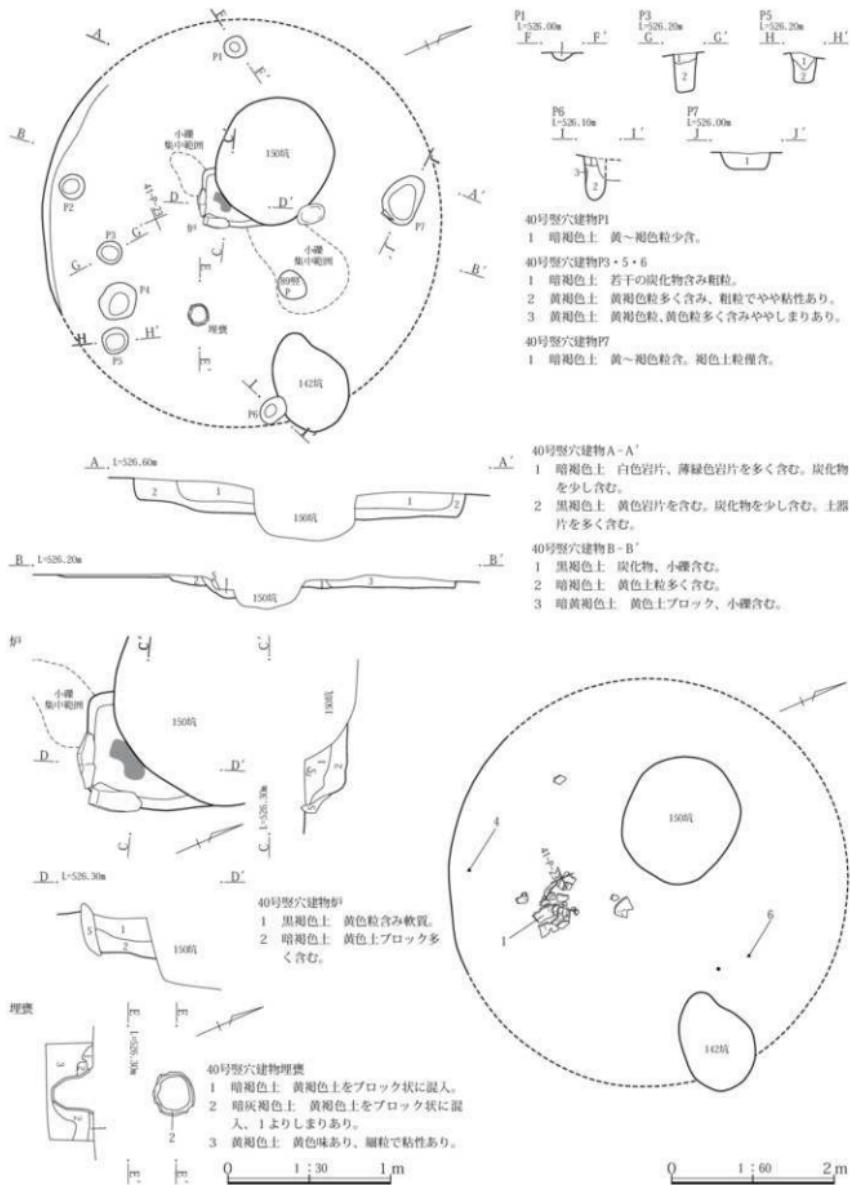
P 6 : 圓丸方形—0.35—0.33—0.20。

P 7 : 楕円形—0.40—0.30—0.50。

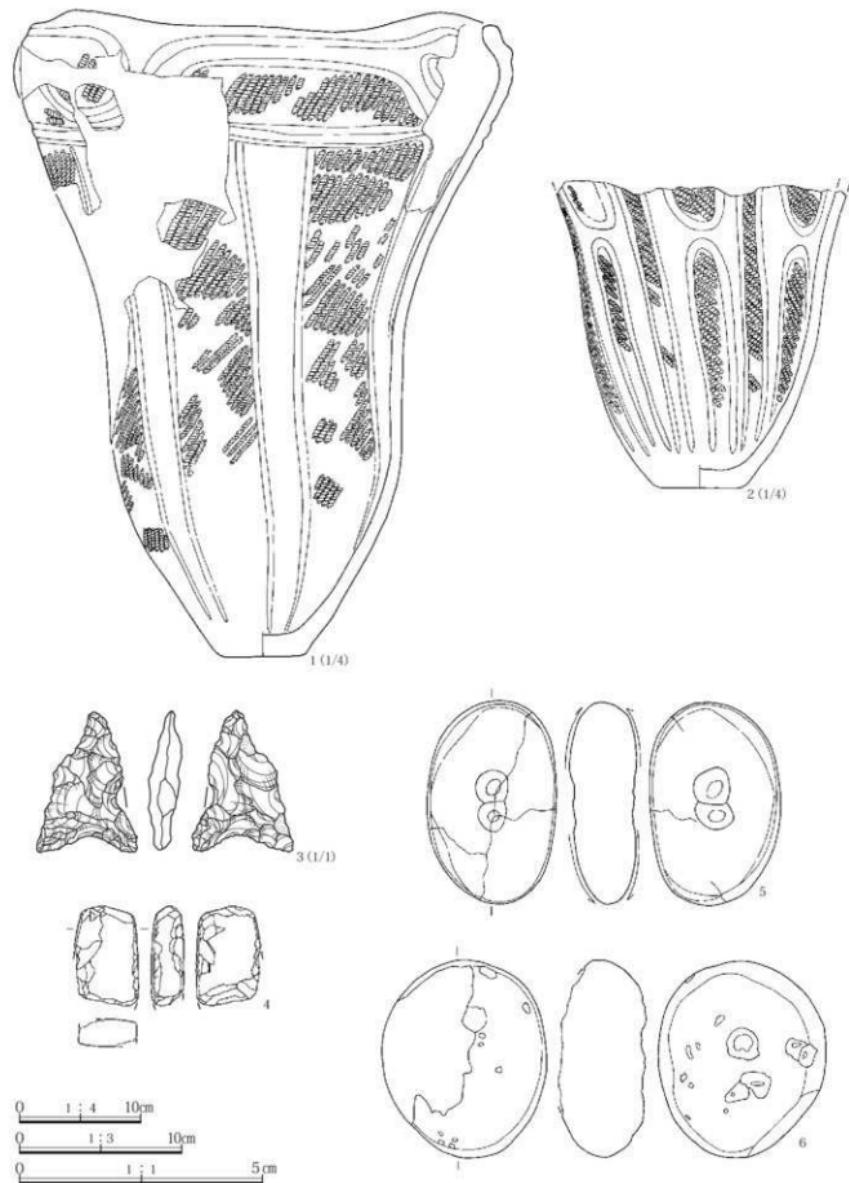
周溝 検出されなかった。

掘方 明確な面は確認できなかった。

遺物 重複等による削平を受けた部分が多く、出土土器

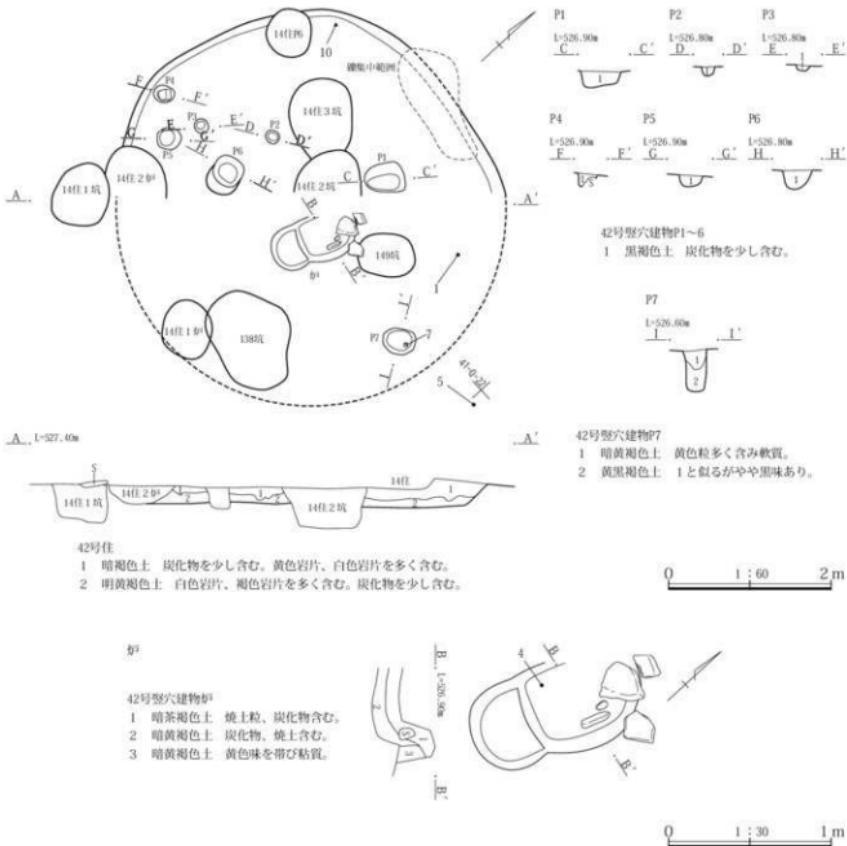


第149図 V区40号竪穴建物



第150図 V区40号竪穴建物出土遺物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第151図 V区42号竪穴建物

は破片が主で60点程と少ない。ピット内から注口土器型ミニチュア土器が出土している。

石器は石鏨2点と打製石斧1点が出土している。

所見 重複遺構が多く遺存状況は良くなかった。半分ずつを2か年にわたりて調査を行った。

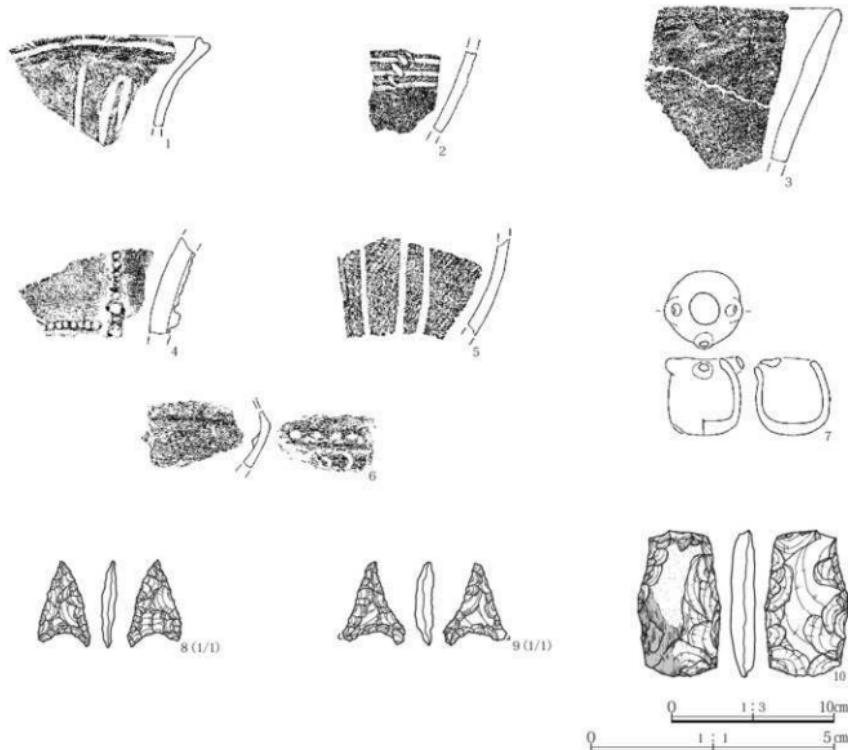
出土土器は少なかったが、ミニチュア土器は注口土器を模しており注目される。時期は後期前半と考えられる。

43号竪穴建物（欠番）

位置 V区41R-16グリッド。

所見 初回、板状の石を含む角礫が乱雑に出土、若干の焼土も見られ、土器片が出土していたことから、炉を想定して調査を進めた。

調査を行う中で、掘方が不定形に広がり、礫の混入も乱雑であること、周囲の調査においても、竪穴建物に帰属するような施設が確認されなかったことから、竪穴建物としては欠番とし、最終的には144号土坑として報告。掘方自体は不定形に広がり、立ち上がりも不明瞭である。



第152図 V区42号竪穴建物出土遺物

44号竪穴建物（第153・154図、PL.41・169・170）

位置 調査区の中央より、V区41.0-13グリッドに位置する。5号と6号列石の間、付近には同時期の遺構が見られない場所にある。

重複 なし。

平面形状 敷石の配置から東方向に出入入口部を有する柄鏡形敷石竪穴建物跡と想定される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから一辺が2.6m前後の方形の主体部が想定される。張り出し部に敷かれていたと思われる、平石が残るが、形状は判然としない。

主軸方位 N-105°-W。

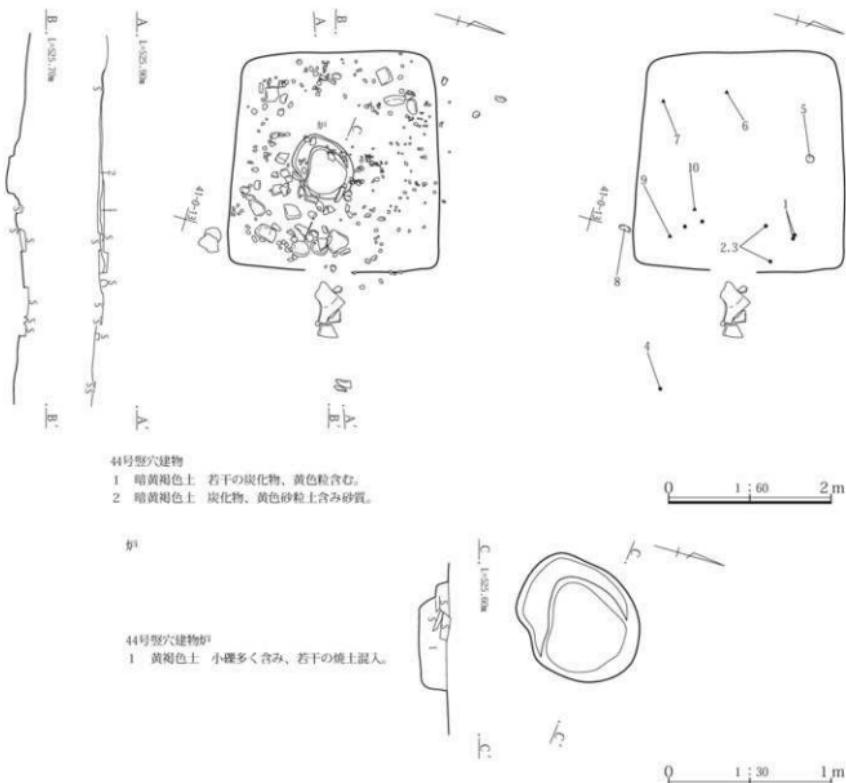
規模 長軸(3.50)m、短軸2.56m、深さ0.08m。

埋没土層 暗黄褐色土主体、礫を多く含む黒色土を主体とする層が確認された。

床面 点在する周礫は小円礫、小角礫でおよそ方形に分布している。残存敷石として、丸石、川原石、鉄平石が確認された。出土した礫は混在しており、かなり動いた状況を呈す。手前側に大きな石が集中して検出されている。

炉 長さ0.84m、幅0.68m、深さ0.17m。（掘方）竪穴建物中央やや南に位置する炉である。炉内埋設土器を伴わない。炉石は見られず、不定形でかなり壊れた状況である。石圓いがの可能性もある。黄褐色土主体の土で埋没している。焼土を含む。

埋甕 検出されなかった。



第153図 V区44号型穴建物

柱穴 明確なものは確認できていない。

周溝 確認されなかった。

掘方 明確な面としてはつかめないが、全体に炉に向かって緩やかな傾斜の掘方となっているようであった。

遺物 土器は総数80点程であったが、破片が多い。

石器は自然礫に混在し石礫、凹石、磨石、多孔石が出土している。

所見 主体部が方形を呈す柄鏡型の竪穴建物と見られる。5号と6号列石の間の平坦部に作られている。

時期は出土土器から、後期初頭であろう。

45号竪穴建物 (第155・156図、PL.42・170)

位置 調査区の北寄り、V区41M・N-23グリッドに位置する。

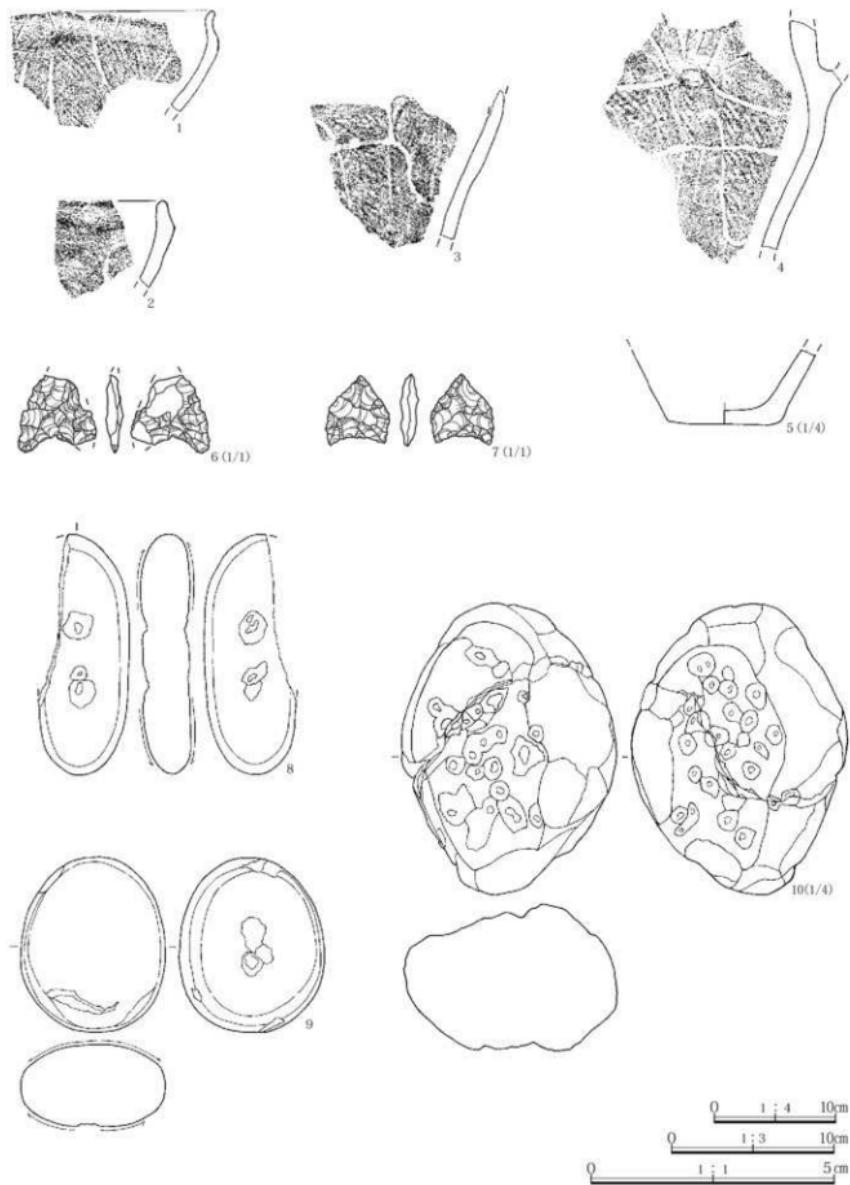
重複 21・33号竪穴建物と重複している。21号に切られ、33号竪穴建物よりは新しい。

平面形状 南側を大きく

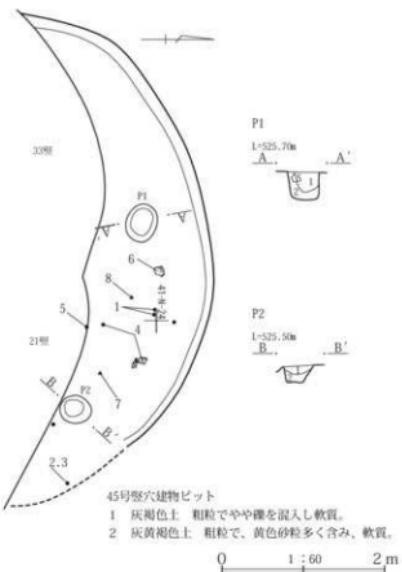
21号竪穴建物によって壊されており、残存するのは北側の三日月状の範囲である。礫や土器片が多く弧状に見られることがから竪穴建物と想定した。

検出された範囲の形からほぼ円形の竪穴建物と想定される。

竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が一部確認



第154図 V区44号竪穴建物出土遺物



第155図 V区45号竪穴建物

されているものの、東側は確認できなかった。

主軸方位 不明。

規模 推定径 (6.0) m、深さ0.1m。

埋没土層 確認できた掘り込みはほとんど無く、黒褐色土主体層が確認された。

床面 明確には確認できなかった。東に緩やかな傾斜も見られ、中心部分は失われている。

炉 検出されなかった。21号竪穴建物により壊されている。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 壁に沿って2基が確認された。2本はいずれも主柱穴に相当すると考えられる。灰褐色土主体の土で埋没している。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形—0.48—0.36—0.32。

P 2 : 円形—0.36—0.34—0.20。

周溝 検出されなかった。

掘方 不明である。

遺物 土器は総数100点程が出土している。薄手土器が

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物

多い。石器は磨石および多孔石のみである。

所見 繩文時代後期前葉期の竪穴建物と考えられるが、重複により遺構の大部分を壊されている。残存部は少ないが、比較的多くの土器片、礫が集中して検出されている。

46号竪穴建物（第157～159図、PL.42・43・171）

位置 調査区北側の最奥部、V区41L・M-24グリッドに位置する。

重複 66・91号竪穴建物と重複、66号より古く、91号より新しい。

平面形状 東側が一部調査区外にある、平面形状は円形である。

主軸方位 N-22°-E。

規模 長軸 (3.92) m、短軸3.76m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、岩片多く含みやや粘性有す層が確認された。下層部には炭化物が多く含まれる。

床面 周辺は北西部に弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。当初床面とした面は軟質で、礫が多く出土している。さらに下げた床面も平坦であるが最初の面に比較しきりとしている。やはり小礫の出土が多く見られた。張り替えがなされた可能性がある。部分的に地山中の礫が露出。

炉 長さ0.75m、幅0.71m、深さ0.17m。（掘方）竪穴建物中央に位置する炉である。炉内埋設土器は伴わない。やや大きな礫を方形に配した石囲い炉である。暗褐色土主体還元色の土で埋没している。焼土の混入は少なく、底部に焼土面が確認された。

埋甕 確認されなかった。

柱穴 8基が確認された。壁下に廻る。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形—0.56—0.41—0.49。

P 2 : 円形—0.39—0.37—0.40。

P 3 : 円形—0.40—0.35—0.19。

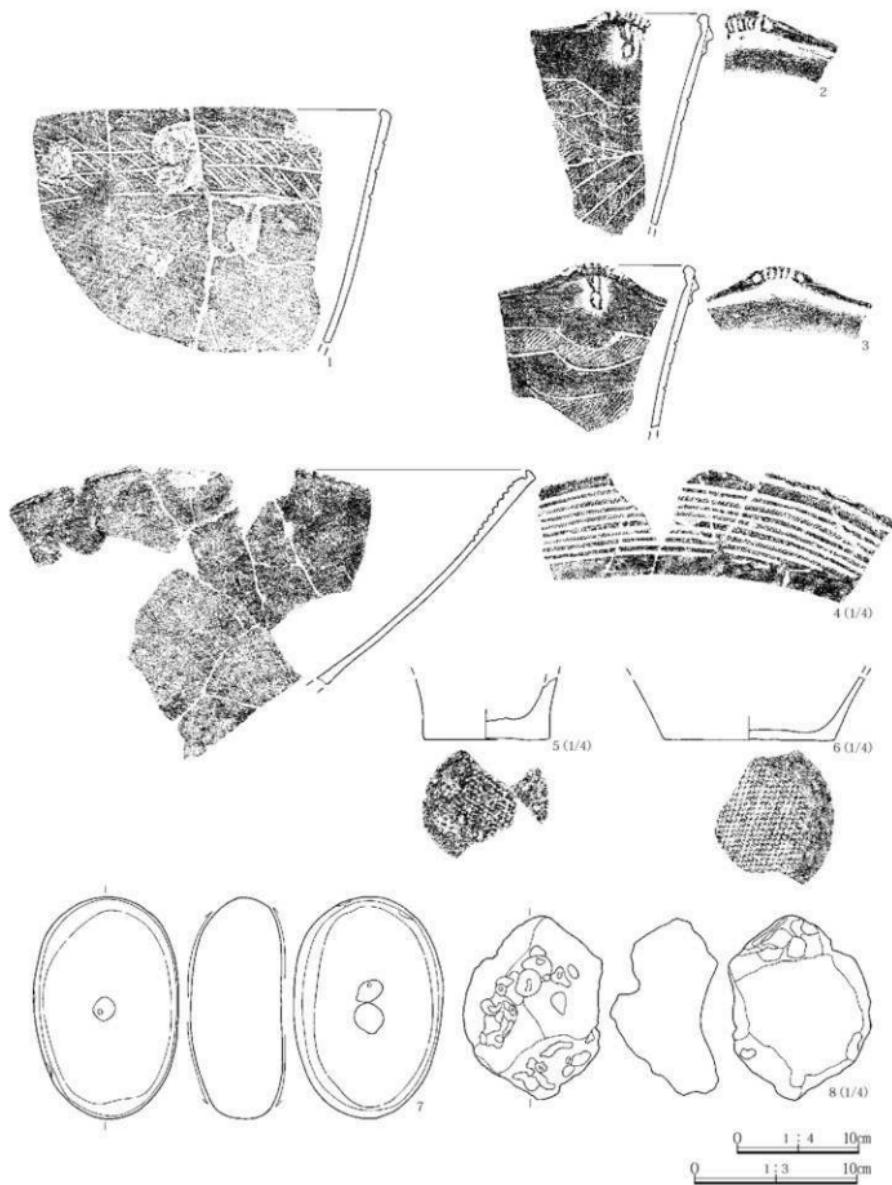
P 4 : 円形—0.44—0.42—0.40。

P 5 : 円形—0.44—(0.26)—0.29。

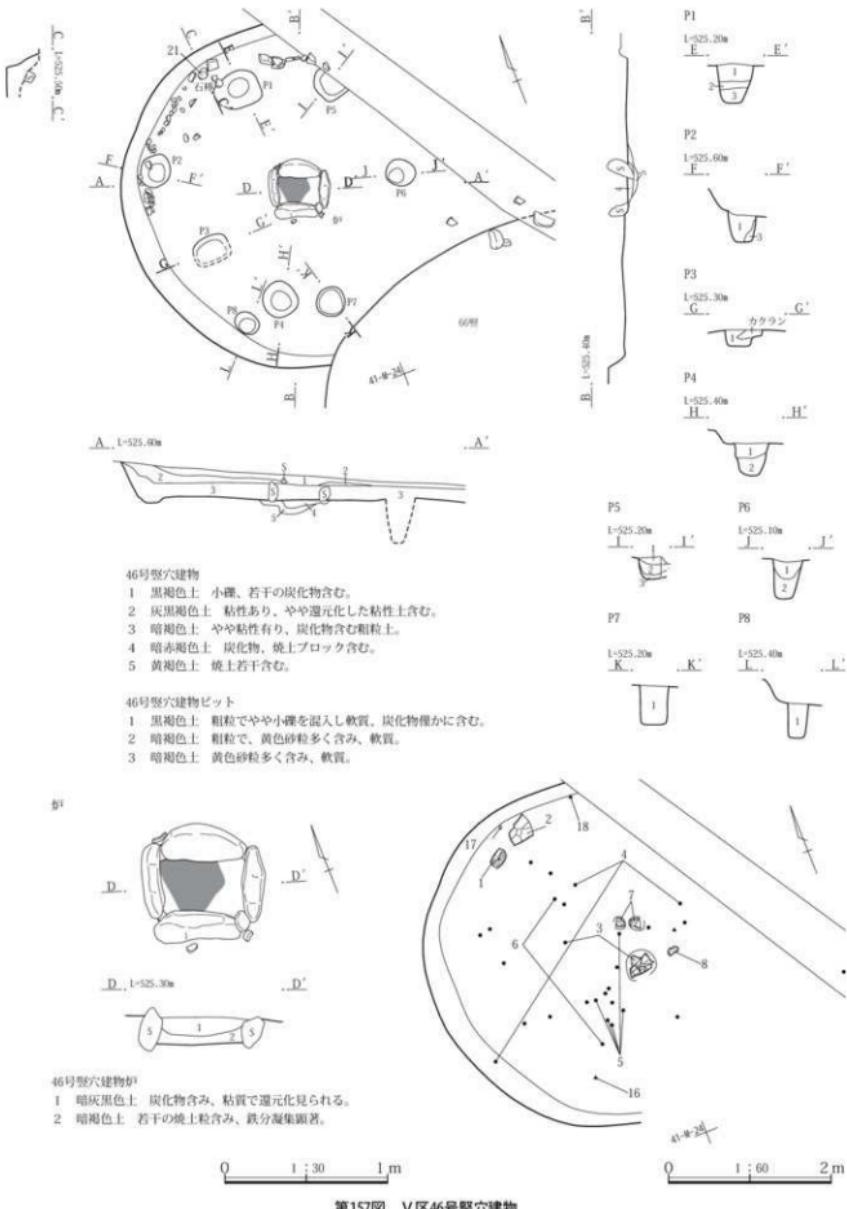
P 6 : 円形—0.35—0.33—0.50。

P 7 : 円形—0.37—0.36—0.48。

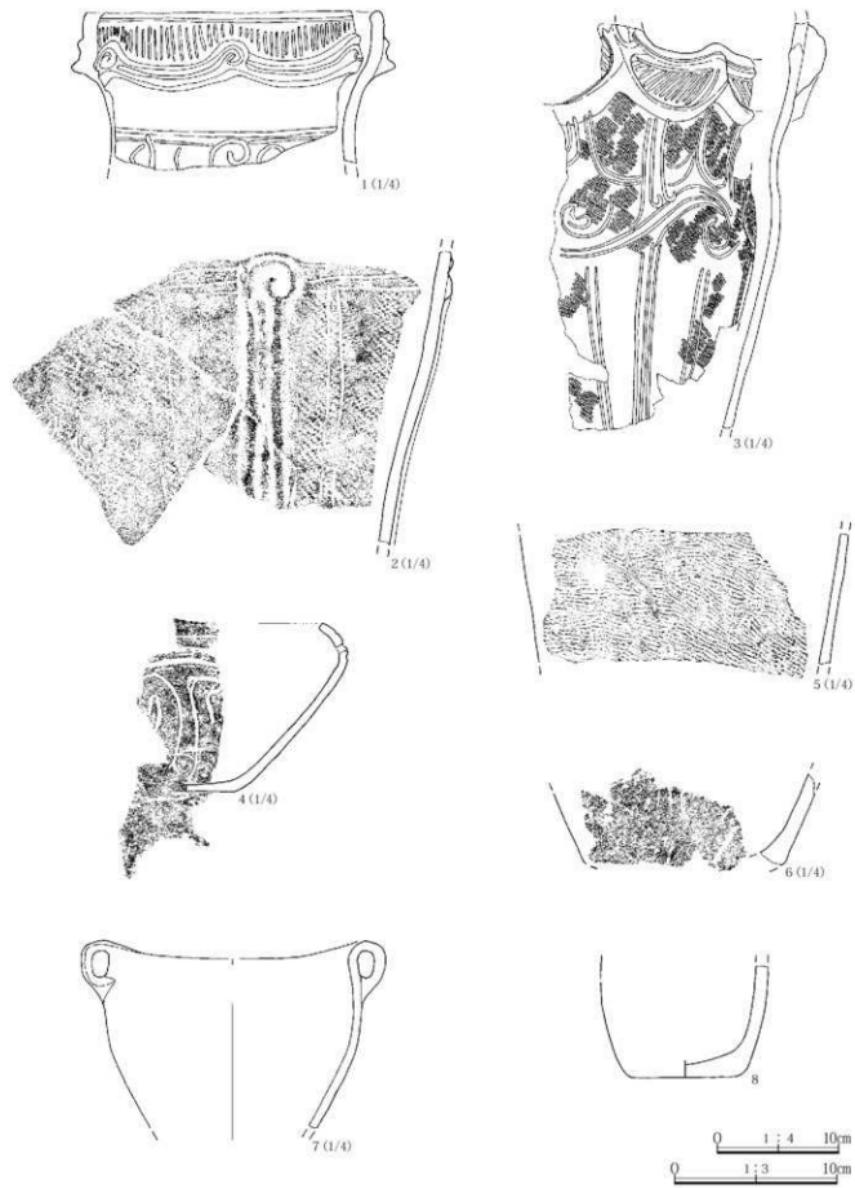
P 8 : 円形—0.31—0.27—0.44。



第156図 V区45号竪穴建物出土遺物

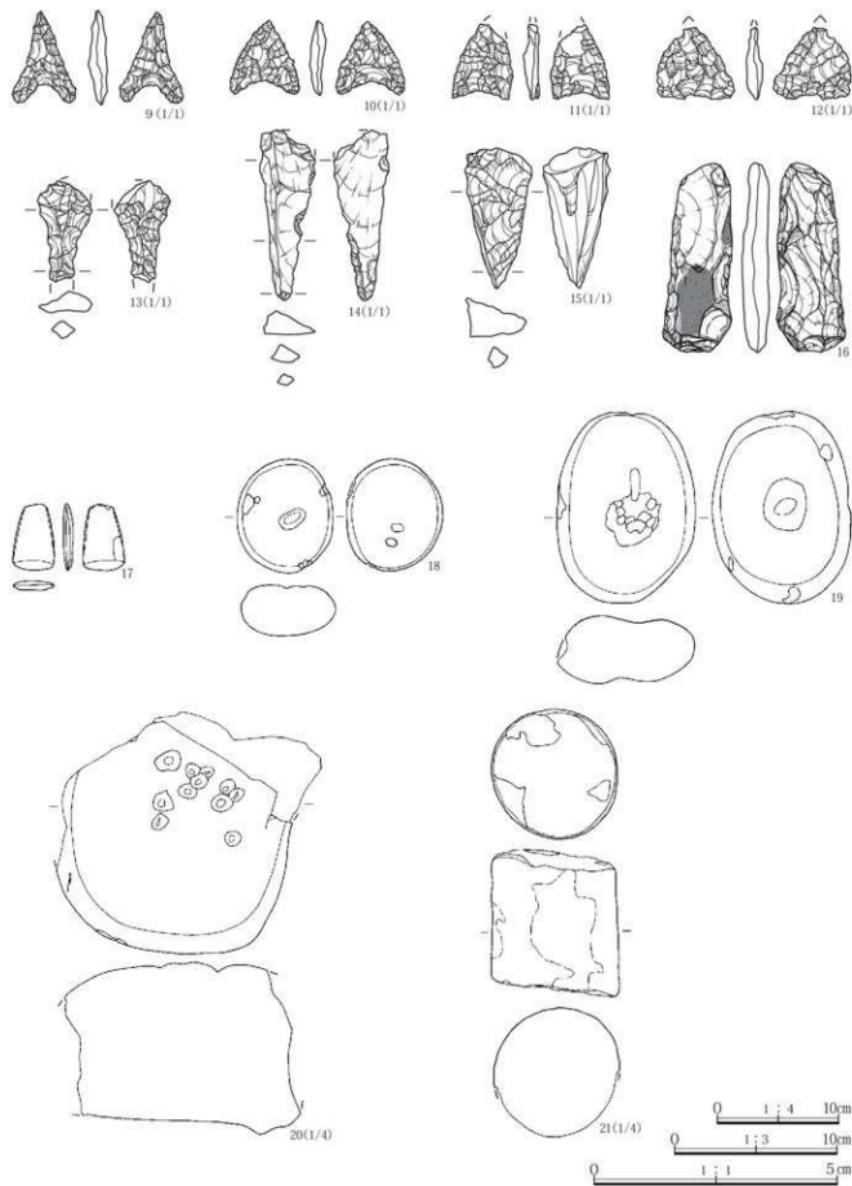


第157図 V区46号竖穴建物



第158図 V区46号竪穴建物出土遺物（1）

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第159図 V区46号竪穴建物出土遺物（2）

周溝 検出されなかった。

掘方 床面下10cm程で比較的平坦な面と複数のピットを検出、調査の結果下位に重複する91号竪穴建物の検出となつた。

遺物 出土土器は多く総数800点以上出土している、比較的大きな破片も見られ、床面出土も多い。

石器は石礫、石錐、磨製石斧、打製石斧の他凹円、多孔石、欠損後再利用したとみられる石棒片が出土している。

所見 初回覆土上面については還元化した灰青緑色の粘土質が覆っていた。この層を掘り下げて確認した。円形で比較的掘り込みもしっかりしており、中央に検出された灰もしっかりととした石圓い炉である。

時期は出土遺物から中期後半と見られる。

47号竪穴建物（第160・161図、PL.44・171）

位置 調査区西壁際の北側、V区41N-24グリッドに位置する。

重複 西側は令和元年度に追加調査を行った。

平面形状 やや楕円形を呈す。

主軸方位 不明。

規模 長軸3.50m、短軸3.00m、深さ0.24m。

埋没土層 黒褐色土主体で炭化物を含む。中央部の下面近くで焼土、灰が僅かに確認された。

床面 平坦であるが、あまり縦りは見られない。壁の立ち上がりも確認されている。初年度の調査では、東側半分が検出され、翌年度に残りの西側の調査を行い、床面検出を行つた。床面に据えられた砾が出土。

炉 明確なものは確認できなかつた、中央部覆土下層に若干の焼土、灰を認めたが、面としては確認できなかつた。掘り込みなども見られない。

埋甕 検出されなかつた。

柱穴 西側に複数検出された、規則的な並びは見られないものの、壁際のものが主柱穴か。南側については下げすぎた可能性がある。いずれも掘り込みが浅い。

形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状—長軸—短軸—深さ（単位m））。

P 1 : 円形—0.27—0.25—0.11。

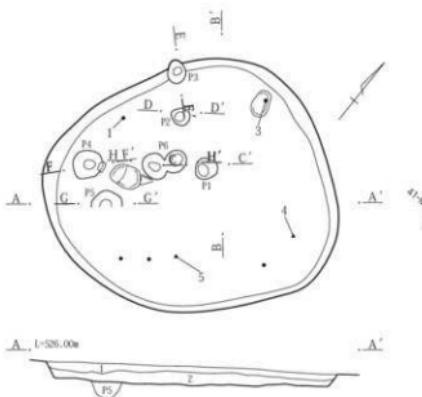
P 2 : 円形—0.21—0.21—0.15。

P 3 : 楕円形—0.30—0.24—0.23。

P 4 : 円形—0.34—0.35—0.14。

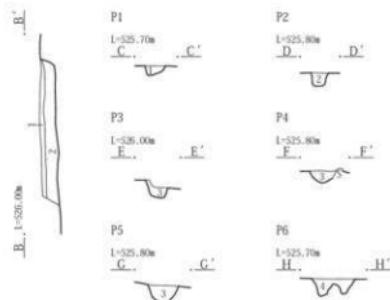
P 5 : 円形—0.35—(0.35)—0.21。

P 6 : 楕円形—0.55—0.30—0.20。



47号竪穴建物

- 1 黒褐色土 白色岩片が多く含む。本層下面から土器片が大量に出土する。
- 2 黒褐色土 白色粒、炭化物を含む。竪穴建物中心になるにつれて、灰が多く含まれるようになる。下面が竪穴建物床面と推定される。

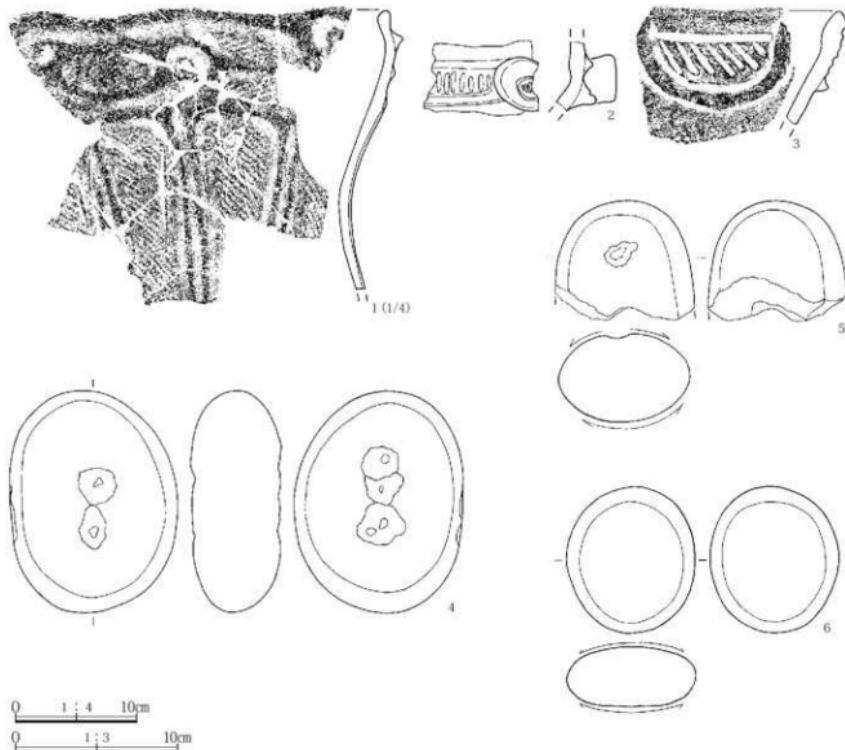


47号竪穴建物ピット

- 1 黒色土 炭化物を少し含む。
- 2 黒褐色土 炭化物、土器片を含む。
- 3 黒褐色土 炭化物を少し含む。
- 4 黒褐色土 炭化物を多く含み、焼土粒・灰が僅かに含まれるため、本土坑は炉の可能性も考えられる。

0 1:60 2m

第160図 V区47号竪穴建物



第161図 V区47号竪穴建物出土遺物

周溝 検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦な面として検出、複数の柱穴以外のピッとも確認されている、性格は不明。

遺物 出土土器は総数400点程が出土している。比較的大型の土器片が壁際に落ち込むように出土。

石器は凹石、磨石である。

所見 平面形がやや楕円形で小型の竪穴建物である。

炉に関しては若干の焼土を確認したものの、明確な遺構としては検出されなかった。このため、竪穴建物とするにはやや不確定な要素も見られる。

出土遺物から時期は中期後半と考えられる。

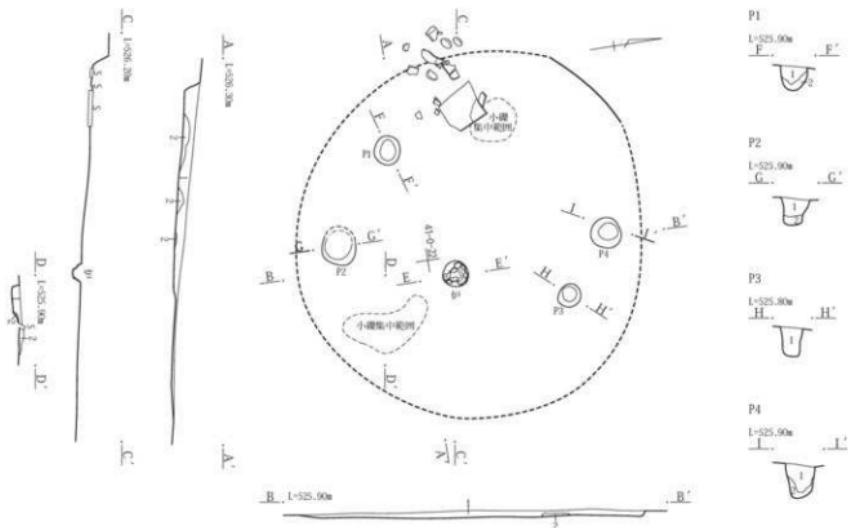
48号竪穴建物 (第162・163図、PL.45・172)

位置 V区41N・O-21・22グリッド。

重複 50・59号竪穴建物と重複。いずれの遺構より本址が新しい。50号竪穴建物は南側に大きく重なり、59号は東側に重複する。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する柄鏡形竪穴建物跡と想定されるが、張り出し部については形状不明である。柱穴が直径3.4m程のほぼ円形に配置される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直径4.0m前後の円形の主体部が想定される。掘り込みについては僅かに認められたにすぎない。

主軸方位 N-82°-W。



48号竪穴建物

- 1 灰褐色土 小砂粒、若干の炭化物含み、やや黒味を呈す、部分的に鉄分凝集あり。
- 2 黄褐色土 黄色味を帯びしまりあり。

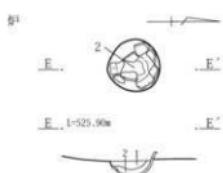
48号竪穴建物ピット

- 1 黄褐色土 黄色粒多く含み軟質。
- 2 暗褐色土 1と似るがやや黒味あり。

48号竪穴建物坑道D-D'

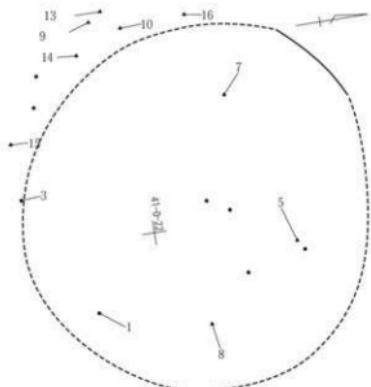
- 1 暗黄褐色土 若干の燒土、黄色粒（大）多く、炭化物片立つ。
- 2 黄褐色土 黄色砂粒多く含み若干の炭化物混入。

0 1 : 60 2 m



48号竪穴建物坑

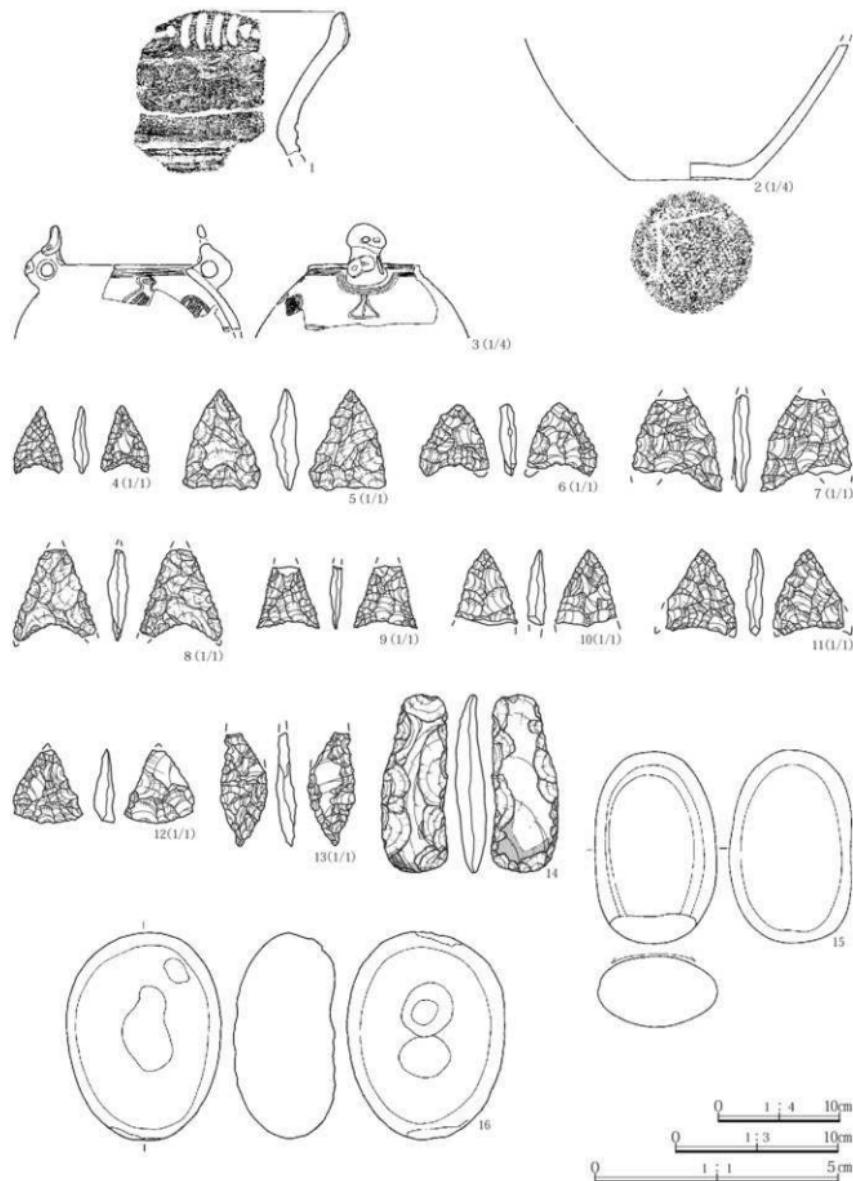
- 1 黒色土 黒味強く若干の炭化物含む。
- 2 暗褐色土 若干の燒土、炭化物含む。



0 1 : 30 1 m

0 1 : 60 2 m

第162図 V区48号竪穴建物



第163図 V区48号竪穴建物出土遺物

規模 長軸(4.50)m、短軸4.20m、深さ0.05m。

埋没土層 挖り込みは西側推定部分において僅かに認められているが、全体的に鉄分凝集が顕著に見られる、川原石含む小礫が多く点在し、覆土全体にモザイク状の異なる土層が面的に広がる状況であった。若干の炭化物が混入。

床面 小礫が一部壁寄りに検出されているが、散乱した状況である。さらに北西部に扁平な比較的大きな敷石と礫が確認されたが、本址に帰属するかは不明である、西側の50号竪穴建物との関連が想定される。

床面 不明瞭な部分があり、埋め戻し周辺部分についても顕著な硬化面は確認されなかった。

炉 中央や東寄りに埋め戻しが検出された、深鉢の胸下部が浅い落ち込み内に割れた状況で出土している。土器内部、周囲には炭化物および焼土が僅かながら確認されている。土器は被熱し煤の付着が認められる。

埋蔵 確認されなかった。

柱穴 4基が確認された。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P 1 : 円形-0.34-0.34-0.32。

P 2 : 円形-(0.48)-0.42-0.34。

P 3 : 円形-0.30-0.30-0.38。

P 4 : 円形-0.36-0.36-0.44。

周溝 検出されなかった。

掘方 不明である、掘り込みや明らかな土坑などは見られなかった。

遺物 出土土器は総数500点を超える。ほぼ全面に点在している。石器は石礫が10点とまとまって出土、その他打製石斧、凹石、磨石が出土している。ただ、重複する50号に帰属するとと思われる遺物も多く見られる。

所見 50号竪穴建物の北側に大きく重複、本址が新しく、掘り込みはやや浅いと考えられる。当初、規模を大きく想定したが、最終的にやや小さな平面形になると考えられる。本址の時期は出土遺物から後期前半と考えられる。

49号竪穴建物 (第164・165図、PL. 46・172)

位置 調査区の西壁寄り、V区41U-16グリッドに位置する。

重複 5・28・32号竪穴建物と重複。28号竪穴建物より本遺構が古い。平成29年度に東側、令和元年度に西側の半分を調査。なお、P 6については礫の形状や配置などから、配石遺構の可能性がある。

平面形状 やや東西方向に長い楕円形を呈す。壁際に在る確認トレンチや重複もあって残りは悪い。

主軸方位 不明。

規模 長軸3.55m、短軸3.00m、深さ0.10m。

埋没土層 風化した岩片を含む。

床面 部分的に平坦部も見られるが、踏み固められた様子は無い。土坑等の重複もあり、全体に遺存状態は極めて悪い。

炉 明確なものは確認されなかった。

埋蔵 検出されなかった。

柱穴 3基が確認された。形状および規模は以下のとおり（柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ（単位m））。

P 1 : 楕円形-0.27-0.21-0.15。

P 2 : 楕円形-0.30-0.24-0.30。

P 3 : 楕円形-0.28-0.24-0.21。

P 4 : 楕円形-0.40-0.32-0.24。

P 5 : 円形-0.21-0.20-0.18。

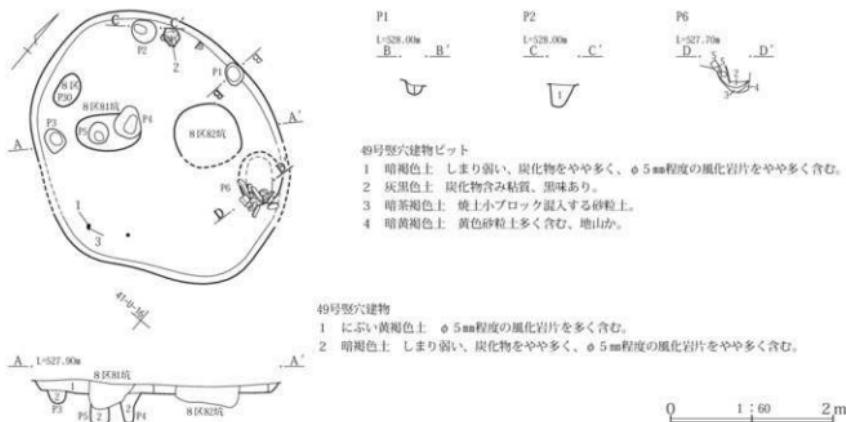
P 6 : 楕円形-(0.75)-0.52-0.31。

周溝 確認されなかった。

掘方 不明である、最終的な面として比較的平坦な面を確認した。

遺物 出土土器は70点程と少ない。石器は石礫が1点出土している。

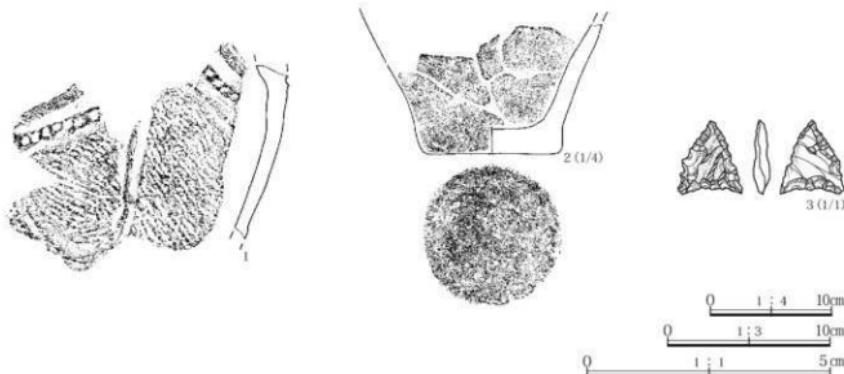
所見 平成30年度に南東側を調査し、令和元年度に北西側の調査を行った。竪穴建物遺構としては判然とせず、当初炉と想定したP 6については、板状の礫がほぼ垂直に立てられた状態で複数見られることや、焼土が殆ど見られなかったことなどから、配石土坑の可能性が高い。さらに南東部分は5号竪穴建物により壊されたとみられる。時期は後期前半か。



49号竖穴建物

- 1 にぶい黄褐色土 $\phi 5\text{ mm}$ 程度の風化岩片を多く含む。
- 2 灰黒色土 炭化物含み粘質、黒味あり。
- 3 暗茶褐色土 塚上小ブロック混入する砂粒上。
- 4 暗黄褐色土 黄色砂粒上多く含む。地山か。

第164図 V区49号竖穴建物



第165図 V区49号竖穴建物出土遺物

50号竖穴建物 (第166・167図, PL. 46・172)

位置 調査区北西部、V区41N・O-21グリッドに位置する。

重複 北東側に48号竖穴建物が重複。本遺構が古い。

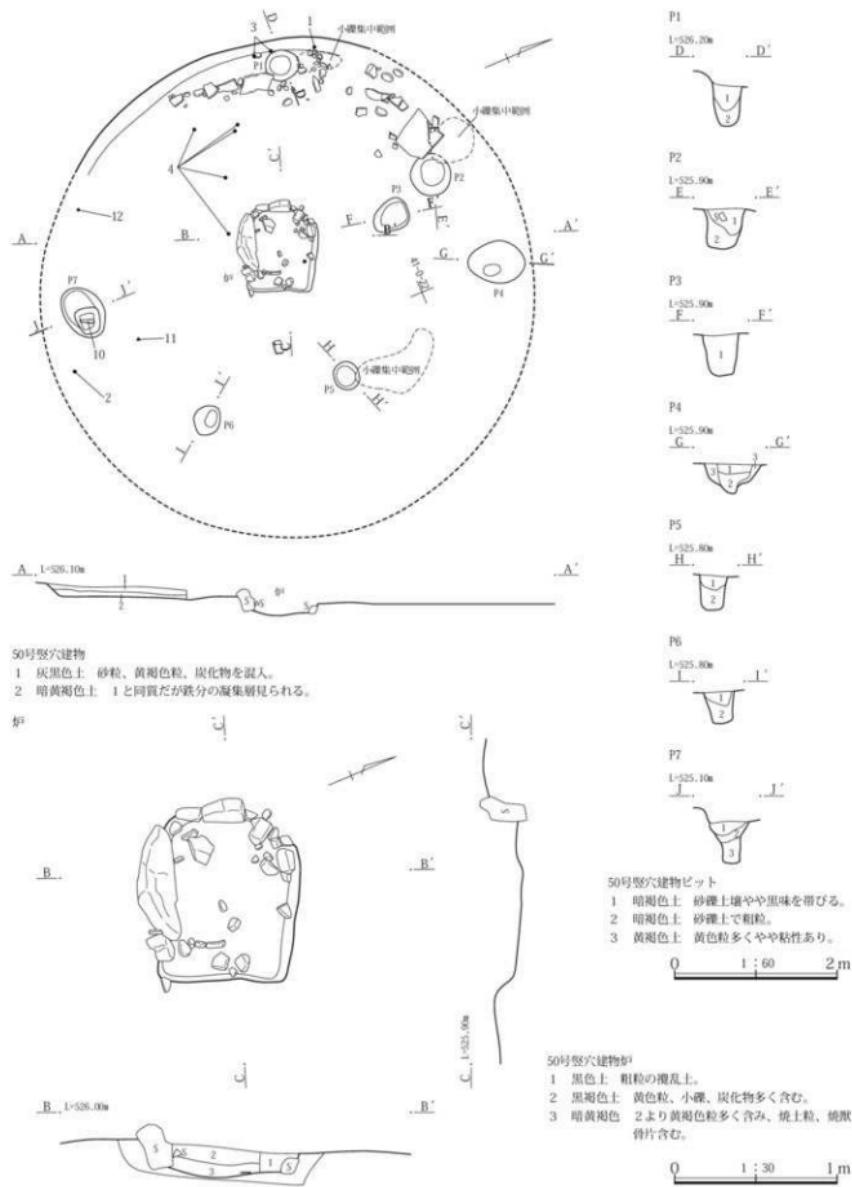
平面形状 柱穴配置から東方向に出入入口を有する円形竖穴建物と想定される。西側に外形部の立ち上がりと思われる段差を確認した。柱穴が直径4.4m程のほぼ円形に配置される。直径6.0m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-69°-W。

規模 長軸(6.0)m、短軸(5.90)m、深さ0.12m。

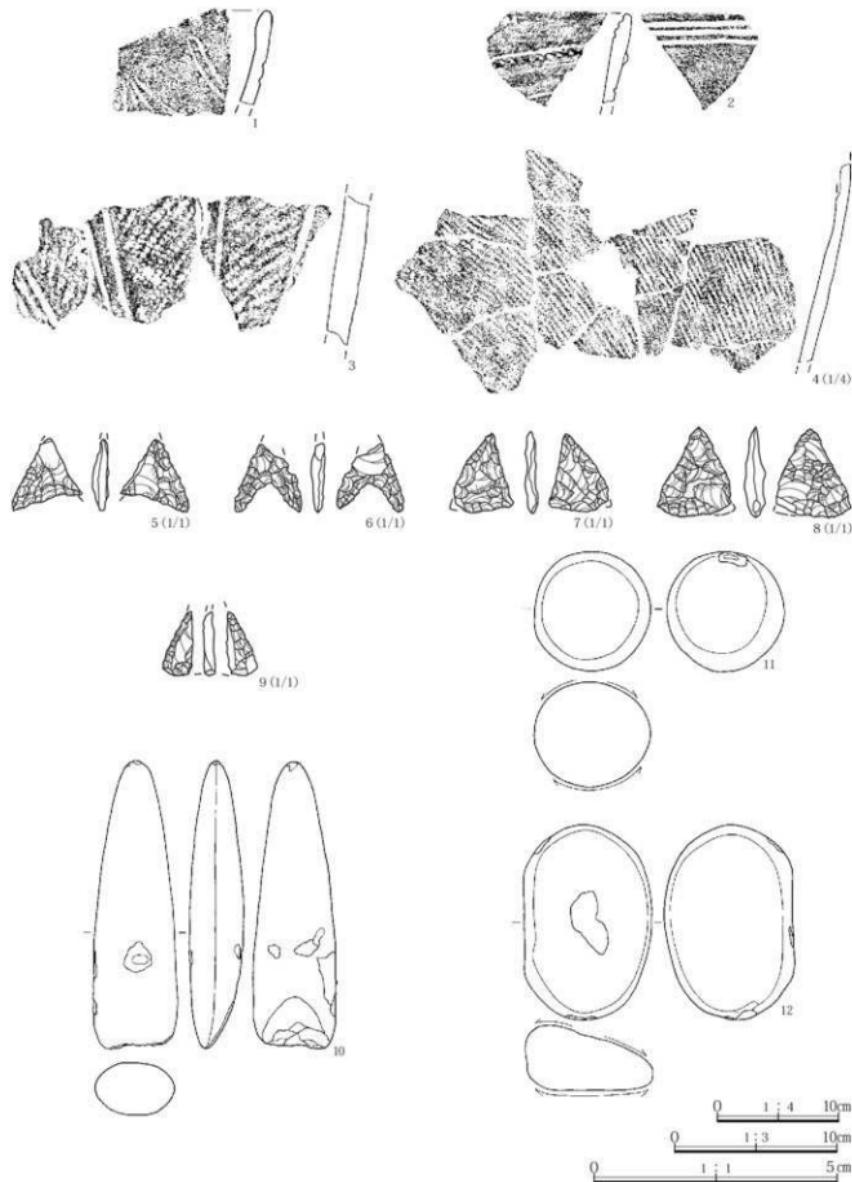
埋没土層 灰黒色土主体、砂粒、炭化物混入、下層部に鉄分凝集層が見られた。

床面 周縁は西側に弧状に分布している。小円礫と地山礫で構成されている。大型の敷石含む、丸石、川原石、鉄平石が西側部分に確認された。それぞれの礫は水平の状態に保たれ、その高さもほぼ一致しており、本来の位置からそれほど移動していないものと考えられる。



第166図 V区50号竪穴建物

第1節 V・VI区第3・4面から発見された遺構と遺物



第167図 V区50号竪穴建物出土遺物

第3章 東宮遺跡の調査

ところどころに、川原石主体の小石の集積が見られる。
炉 長さ1.12m、幅1.01m、深さ0.19m。(掘方) 竪穴建物中央やや西に位置する炉であると推察される。

炉内埋設土器は伴わない。石圓い炉である。黒褐色土主体の土で埋没している。炭化物、焼土を含む。被熱により礫のひび割れ顕著、手前側および右側の炉石を欠いているが、これは北東側に重複する48号建物構築時に失われたものと考えられる。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 7基が確認された。その配置から、P 5・6が出入口部の対ビットであり、P 1～4、7の5本が主体部柱穴に相当すると考えられる。

形状および規模は以下のとおり(柱穴名: 平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1 : 楕円形—0.40—0.36—0.53。

P 2 : 円形—0.50—0.50—0.50。

P 3 : 不定形—0.46—0.38—0.53。

P 4 : 楕円形—0.70—0.52—0.38。

P 5 : 円形—0.34—0.32—0.46。

P 6 : 不定形—0.38—0.32—0.39。

P 7 : 楕円形—0.68—0.48—0.52。

周溝 明確には検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦な部分とやや凹凸が見られる部分があった。また、途切れてはいるが周溝と思われる掘り込みも確認された。

遺物 出土土器は700点以上が出土している。破片が多く時期は中期および後期の遺物が混在して見られる。

石器は石鎚複数と磨製石斧、磨石である。

所見 重複により覆土部分は失われてはいるが、出土遺物は比較的多かった、一部に敷石が残る。炉は石圓い炉で比較的大きいつくりである。一部炉石が無くなっているが、重複する48号竪穴建物によるものであろう。

時期は出土遺物から、中期後半と見られる。

51号竪穴建物(第168・169図、PL.48・173)

位置 調査区北寄り中央、V区41N・O-19グリッドに位置する。

重複 136号土坑および27号竪穴建物と重複。27号については、東側を大きく壊す状況で重複、時期は本遺構が古い。また、5号列石の北端部分が一部載っている。さ

らに1号風倒木が南西部分に重複する。

平面形状 柱穴配置から東方向に出入口部を有する円形竪穴建物と想定される。竪穴建物跡の壁に相当すると思われる段差が確認されていることから直径4.6m前後の円形の主体部が想定される。

主軸方位 N-53°-W。

規模 長軸(4.72)m、短軸(4.60)m、深さ0.25m。

埋没土層 大きく27号竪穴建物が重複していたことから、上部構造は失われている。一部観察された部分では、多くの岩片を含む粗粒土が確認された。

床面 重複部分を除くと比較的平坦な面として検出された。地山に含まれる礫が多く露出。明確な生活面としては捉えられなかった。

炉 長さ0.70m、幅0.68m、深さ0.22m。(掘方) 竪穴建物中央やや西に位置する炉である。一部に炉石が残る状況であった。炉内埋設土器がほぼ中央に据えられていた、深鉢の脣部を利用、土器の上端部欠け口は丁寧に磨られていた。

炉石に関しては1か所しか残っておらず、上に作られた27号竪穴建物を作る際、他の石は抜かれた可能性が高い。内部には炭化物、焼土の混入見られる。

埋甕 検出されなかった。

柱穴 本来存在していたと思われるうちの2基が確認された。

形状、計測値は以下のとおり(柱穴名: 平面形状—長軸—短軸—深さ(単位m))。

P 1 : 楕円形—0.30—0.26—0.24。

P 2 : 円形—0.32—0.32—0.31。

周溝 検出されなかった。

掘方 掘方面は不明、掘り下げた部分は地山の礫が露出し、凹凸が顕著となる。

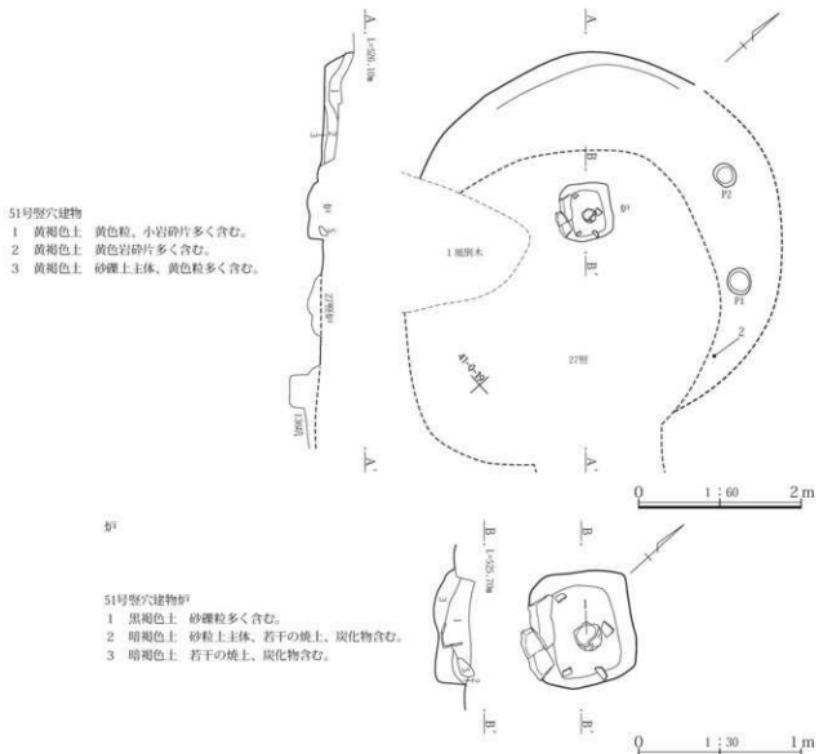
遺物 出土土器は40点程と少ない。

石器は石鎚が2点出土している。

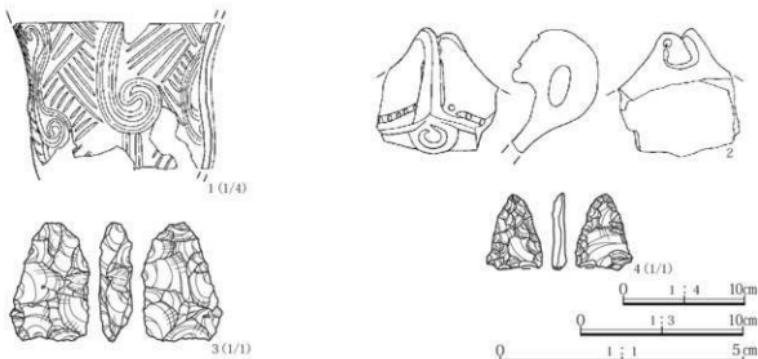
所見 南東側に大きく27号竪穴建物が重複、列石の重複も見られ、掘り込みに関しても浅かった。

炉は一部の炉石を含め比較的良好な状態で残存していた。炉以外の施設については遺存状況が悪い。

出土土器から時期は中期後半と思われる。



第168図 V区51号竪穴建物



第169図 V区51号竪穴建物出土遺物